障がい福祉の取組に関するアンケート

（第５期障がい者計画・
第８期障がい福祉計画・
第４期障がい児福祉計画の策定に向けて）

調査結果報告書

令和８年(2026年)７月

吹田市

目　次

調査の概要 …… 1

調査結果 …… 3

1　調査対象者の属性 …… 3

2　医療に関する状況 …… 24

3　支援の状況 …… 31

4　現在と将来の暮らし …… 51

5　日中活動の状況 …… 70

6　就労や交流の状況と意向 …… 92

7　療育・発達支援に関する意識 ……111

8　情報に関する状況 ……128

9　相談に関する状況 ……142

10　障がい者の人権や障がい者理解 ……166

11　災害時の対応 ……187

12　障がい福祉サービス ……195

13　障がい児通所サービス等 ……215

14　保護者の社会参加の状況 ……225

15　障がい者施策全般 ……231

16　自由回答意見のまとめ ……251

調査結果の総括 …… 257

参考：調査に用いた調査票 …… 263

調査の概要

令和９年度(2027年度)から始まる「第５期障がい者計画」「第８期障がい福祉計画」「第４期障がい児福祉計画」の策定に向けて、障がいのある方々の日頃の生活の様子、福祉サービス等のあり方に対する考えや利用意向を把握し、今後の施策立案に必要な資料を得るために、アンケート調査を実施しました。

調査の方法と回収状況、回答者の主な属性

	障がい者計画アンケート	支援プラン18歳以上 アンケート	支援プラン18歳未満 アンケート
調査対象	障がい者手帳を持つ人等の中から無作為に選んだ2,000人（令和７年(2025年）12月１日時点で吹田市民）	障がい福祉サービス利用者等の中から無作為に選んだ2,000人（令和７年(2025年）12月１日時点で吹田市民）	障がい児通所受給者証や障がい者手帳を持つ子供の中から無作為に選んだ400人（令和７年(2025年）12月１日時点で吹田市民）
調査方法	郵送による配付・回収、ＷＥＢ回答フォームによる回答を併用		
調査期間	令和７年(2025年）12月～令和８年(2026年)１月		令和８年(2026年)１月
回収状況	配　付　数：2,000件 有効回答数：　909件 （調査票用紙による回答674件、WEB回答235件） 有効回答率：45.5%	配　付　数：2,000件 有効回答数：　955件 （調査票用紙による回答771件、WEB回答184件） 有効回答率：47.8%	配　付　数：400件 有効回答数：202件 （調査票用紙による回答134件、WEB回答68件） 有効回答率：50.5%

※アンケート調査結果の各設問の母数ｎ（Number of caseの略）は、設問に対する有効回答者数を意味します。

※各選択肢の構成比(%)は、小数点第２位以下を四捨五入しています。このため、択一式の回答については構成比の合計が100%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100%を超える場合があります。

※グラフや表中の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%です。

※属性別クロス集計のグラフ・集計表には、属性が無回答であったサンプルの集計結果を割愛している場合があります。

※障がいの種類別の集計では、「精神障がい者保健福祉手帳」を選んだ人と「自立支援医療（精神通院)」を選んだ人をまとめて「精神障がい」として集計しています。
また、「身体障がい者手帳１・２級」「療育手帳Ａ」「精神障がい者保健福祉手帳１級」「強度行動障がいがある」「障がい支援区分５・６」を選んだ人を「重度障がい」として集計しています。

※属性別クロス集計におけるサンプル誤差は、50サンプルで最大13.9%、30サンプルで最大17.9%発生します。この誤差を考慮して、有効回答数が30サンプル未満の属性については基本的に分析の対象としていません。

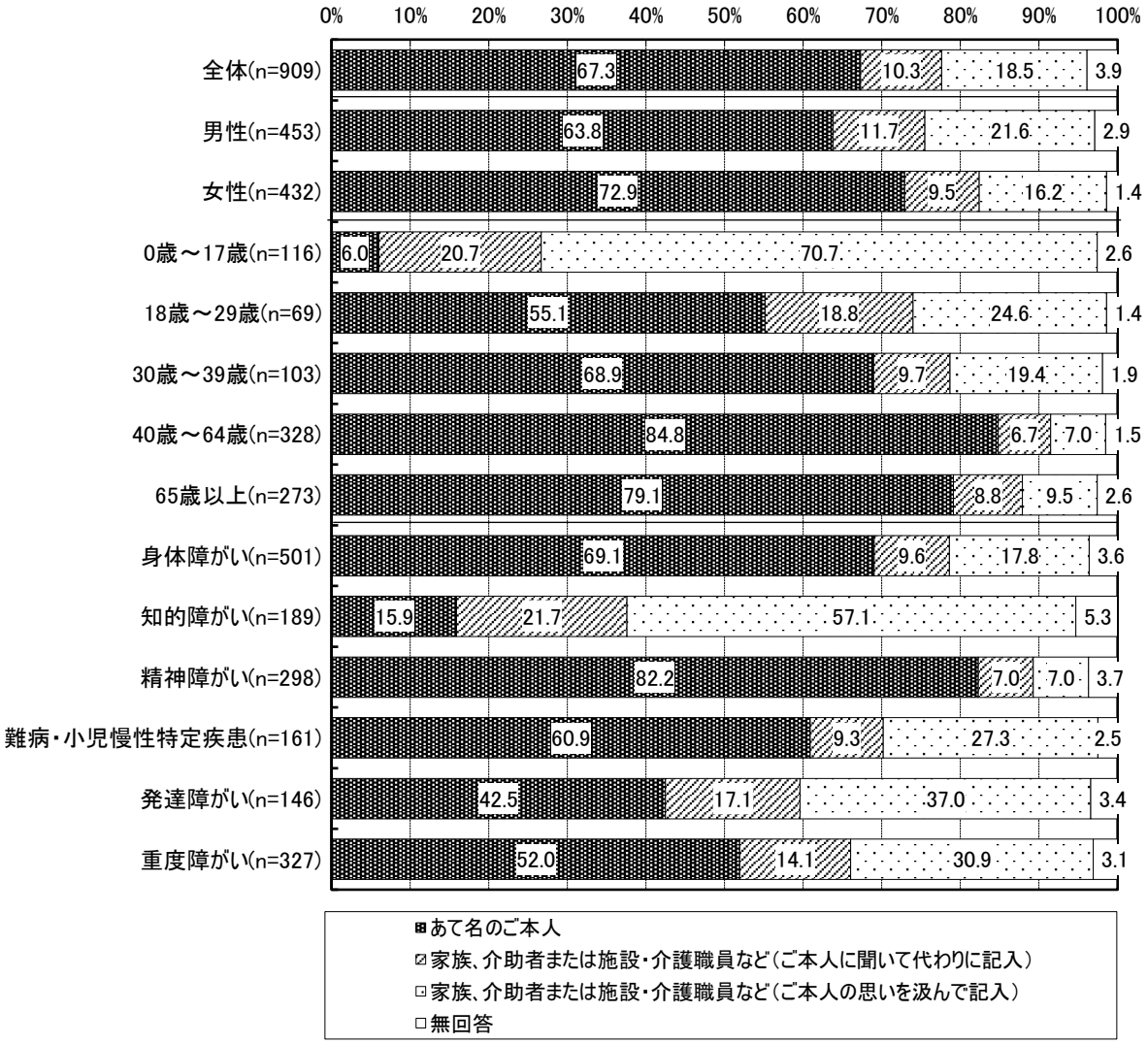
調査結果

1　調査対象者の属性

①　調査票への回答者

◆この調査票に答えるのはどなたですか。（あてはまるもの１つに○）

障がい者計画アンケート

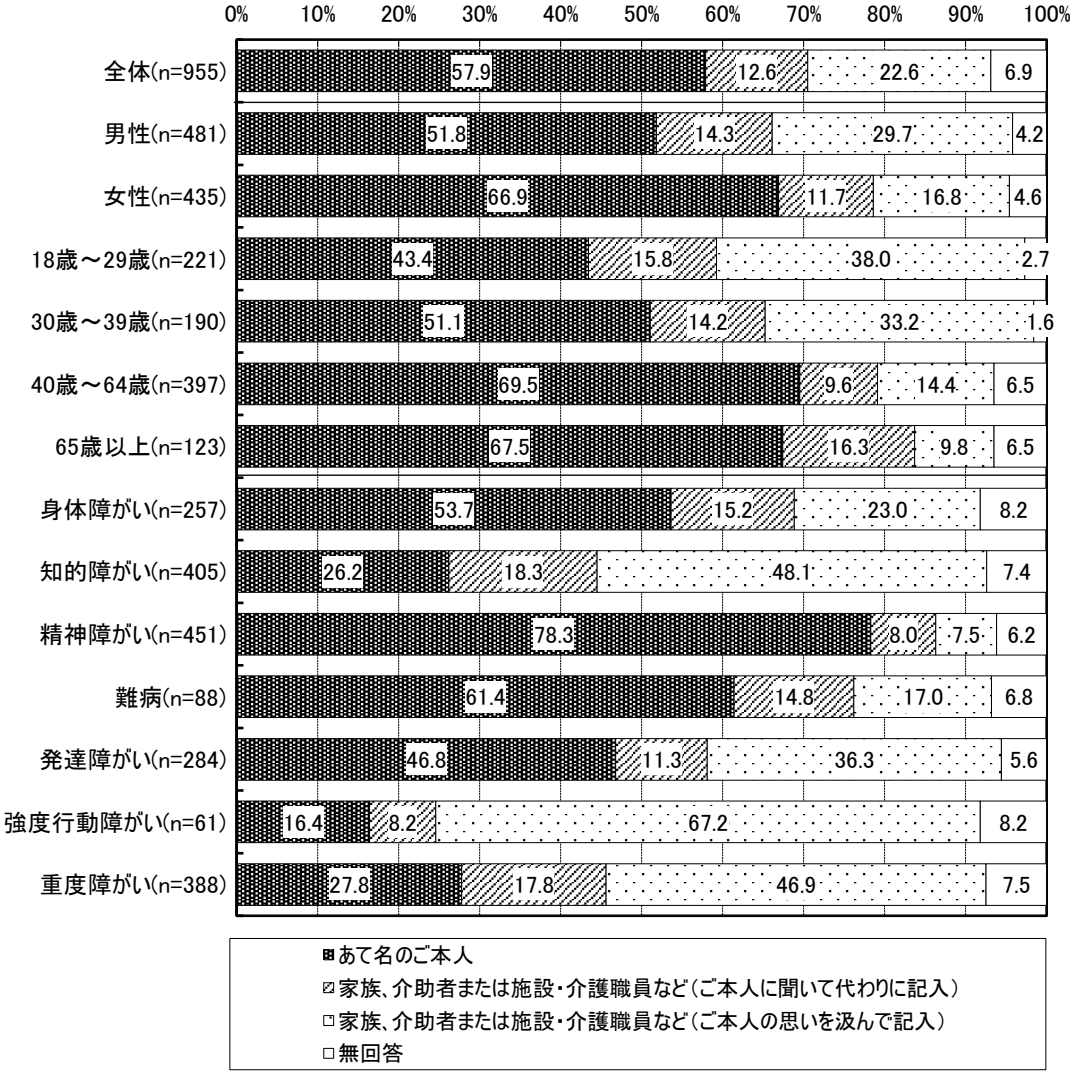


○「あて名のご本人」が67.3％と最も多く、次いで「家族、介助者または施設・介護職員など（ご本人の思いを汲んで記入）」が18.5％、「家族、介助者または施設・介護職員など（ご本人に聞いて代わりに記入）」が10.3％となっています。

○年齢別にみると、年齢が高くなるほど本人回答が多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「家族、介助者または施設・介護職員など（ご本人の思いを汲んで記入）」は知的障がいで57.1％と多くなっています。

支援プラン（18歳以上）アンケート



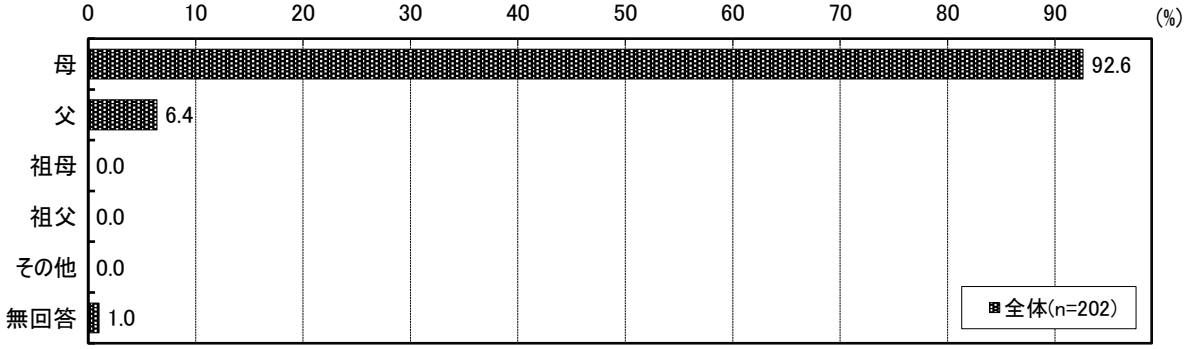
○「あて名のご本人」が57.9％と最も多く、次いで「家族､介助者または施設・介護職員など（ご本人の思いを汲んで記入)」が22.6％、「家族､介助者または施設・介護職員など（ご本人に聞いて代わりに記入)」が12.6％となっています。

○年齢別にみると、40歳以上は本人回答が多く、18歳～29歳の38.0％、30～39歳の33.2％は「家族､介助者または施設・介護職員など（ご本人の思いを汲んで記入)」と答えています。

○障がい種別ごとにみると、「家族､介助者または施設・介護職員など（ご本人の思いを汲んで記入)」は強度行動障がいで67.2％、重度障がいで46.9％、知的障がいで48.1％となっています。

◆この調査票を記入した人はお子さんからみてどなたですか。（あてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート

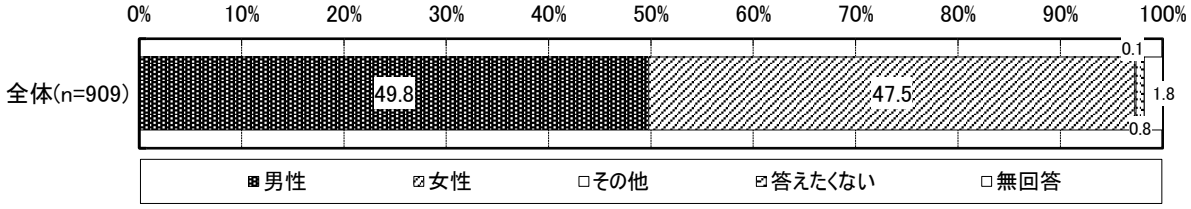


○「母」が92.6％と圧倒的多数を占めており、「父」は6.4％にとどまっています。

② 本人の性別

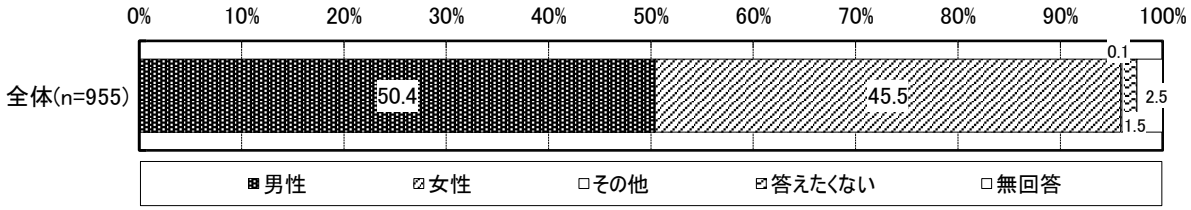
◆あなた（ご本人）の性別を教えてください。（あてはまるもの１つに○）

障がい者計画アンケート



○「男性」が49.8％、「女性」が47.5％と、ほぼ同程度となっています。

支援プラン（18歳以上）アンケート

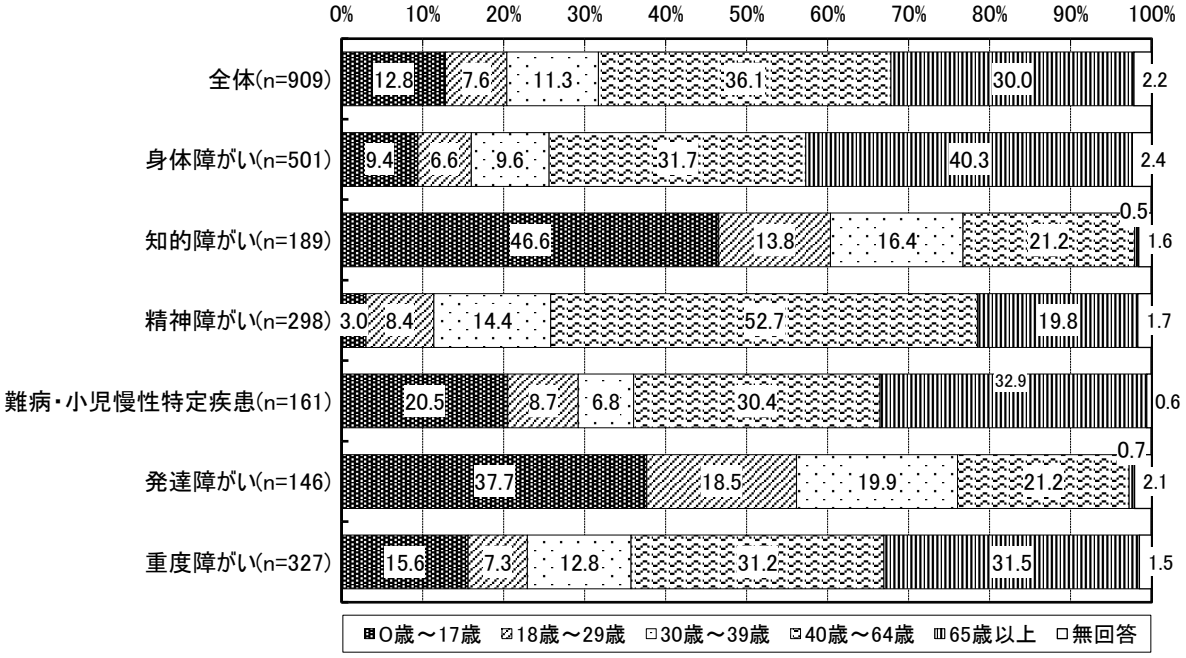


○「男性」が50.4％、「女性」が45.5％と、ほぼ同程度となっています。

③ 本人の年齢

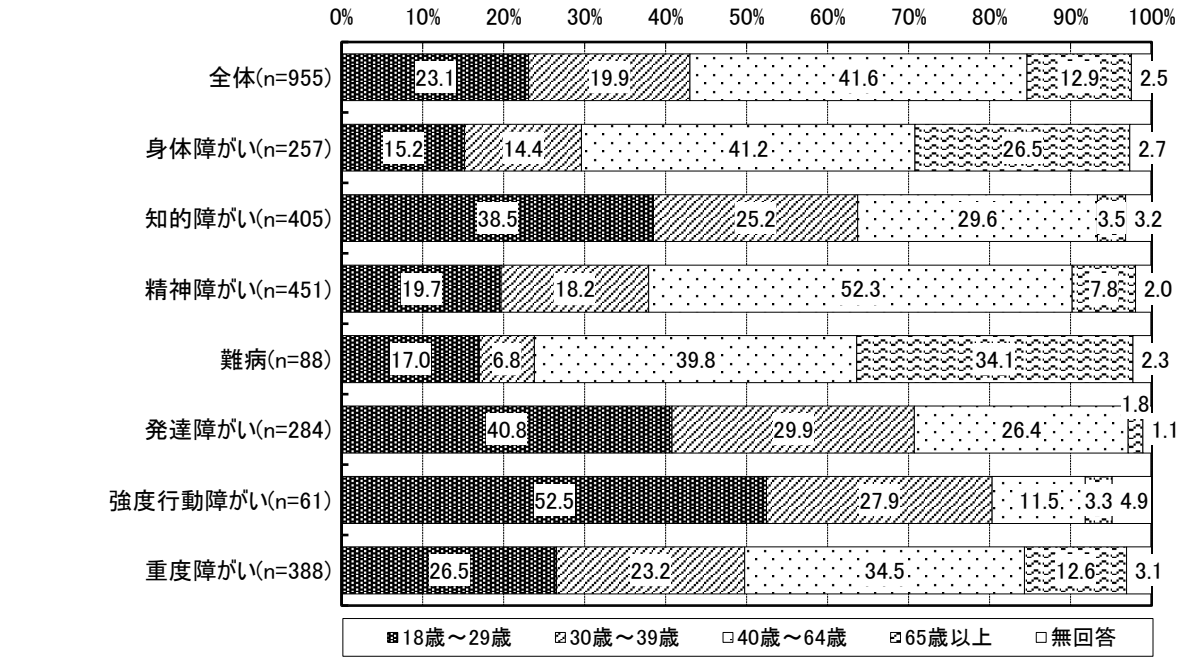
◆あなた（ご本人）の年齢を教えてください。（あてはまるもの１つに○）

障がい者計画アンケート



○「40歳～64歳」が36.1％と最も多く、次いで「65歳以上」が30.0％、「０歳～17歳」が12.8％、「30歳～39歳」が11.3％、「18歳～29歳」が7.6％となっています。

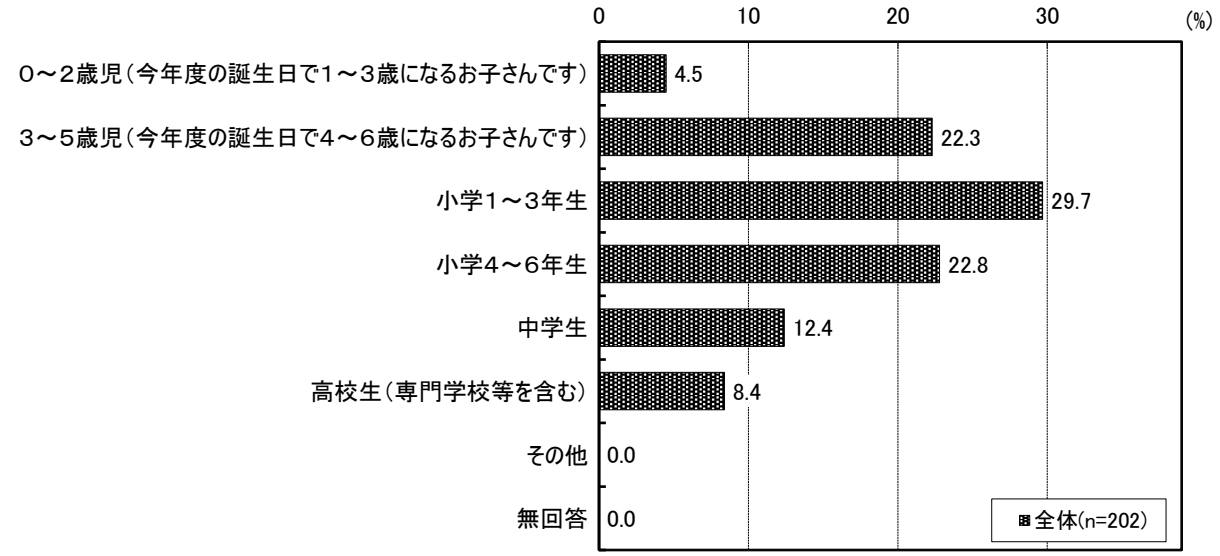
支援プラン（18歳以上）アンケート



○「40歳～64歳」が41.6％と最も多く、次いで「18歳～29歳」が23.1％、「30歳～39歳」が19.9％、「65歳以上」が12.9％となっています。

◆お子さん（ご本人）の学年（年齢）を教えてください。（あてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート

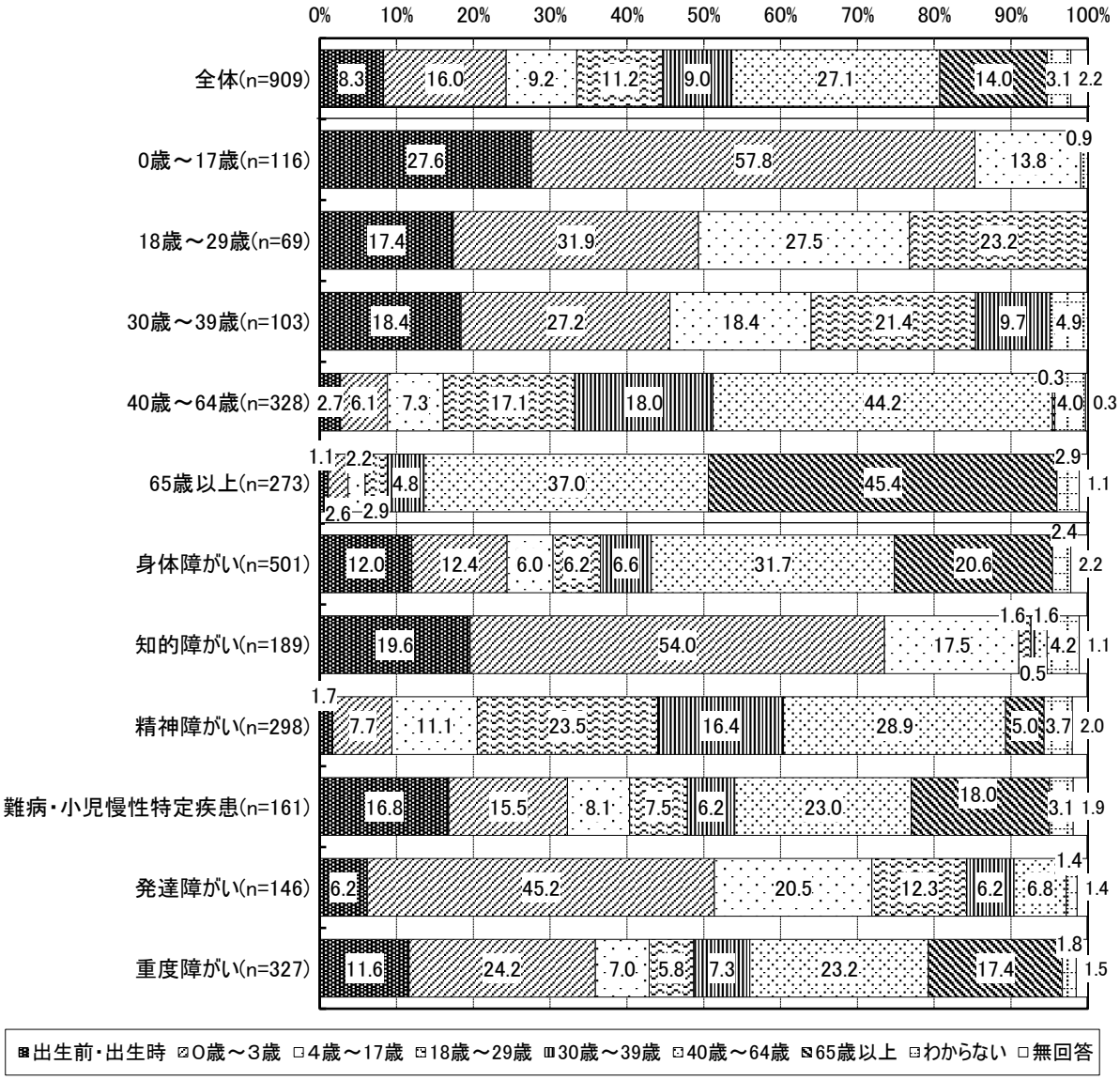


○最も多いのは「小学１～３年生」の29.7%で、次いで「小学４～６年生」が22.8%、「３～５歳児」が22.3%となっています。中学生は12.4%、高校生は8.4%であり、就学前から小学校段階の回答が全体の79.3%を占めています。

④ 障がいがあるとわかった時期

◆障がいがある、またはその疑いがあるとわかったのはいつ頃ですか。（あてはまるもの１つに○）

障がい者計画アンケート

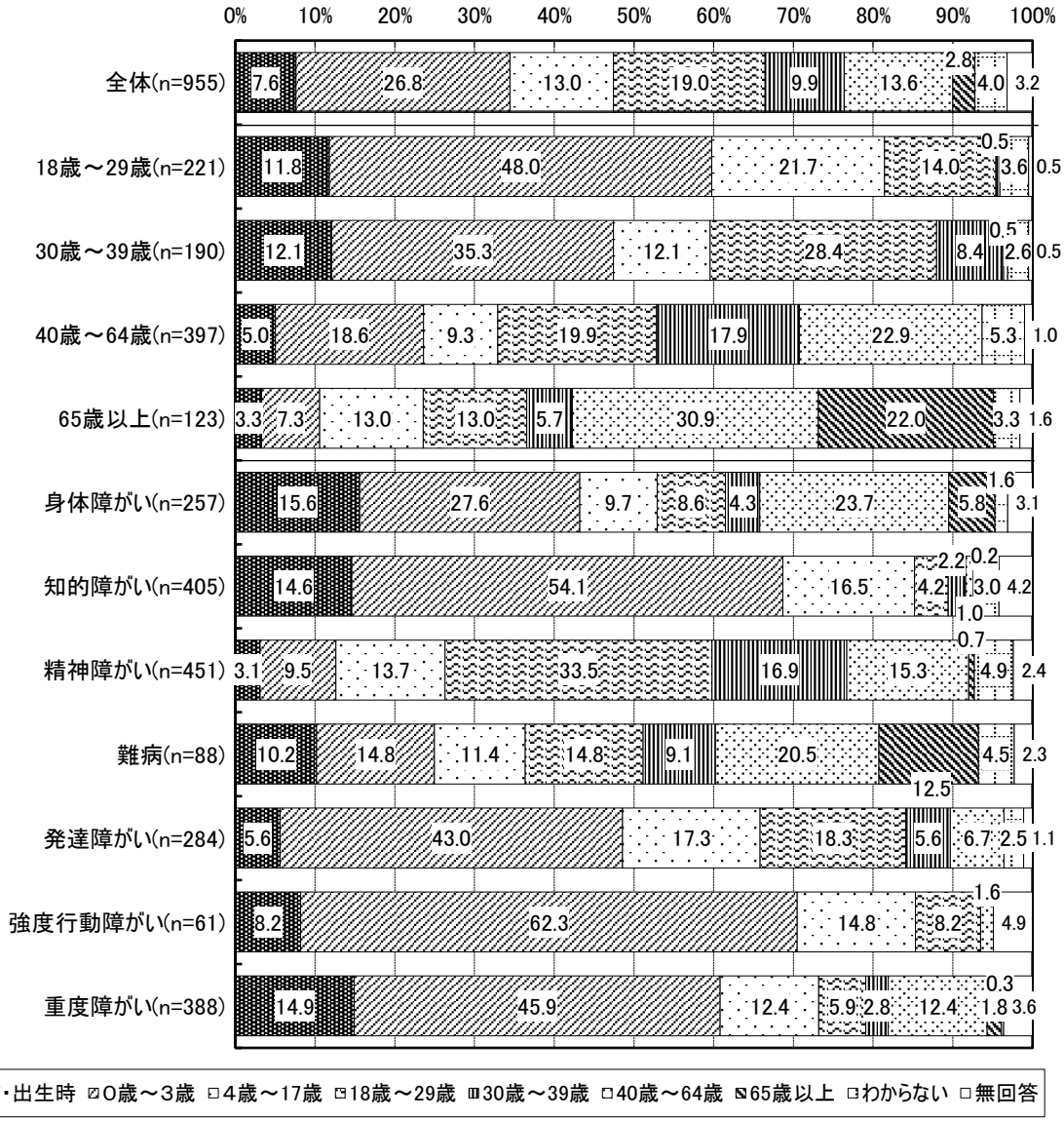


○「40歳～64歳」が27.1％、「０歳～３歳」が16.0％、「65歳以上」が14.0％と比較的多く、幼少期と成人期以降の両方に分かれています。

○年齢別にみると、０歳～17歳で「０歳～３歳」が57.8％と多く、40歳～64歳や65歳以上では40歳以降にわかった人が多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで「０歳～３歳」が54.0％、発達障がいでも45.2％と、早期にわかった人が多くなっています。身体障がいでは「40歳～64歳」が31.7％と多くみられます。

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「０歳～３歳」が26.8%、「18歳～29歳」が19.0%、「40歳～64歳」が13.6%と比較的多くみられます。

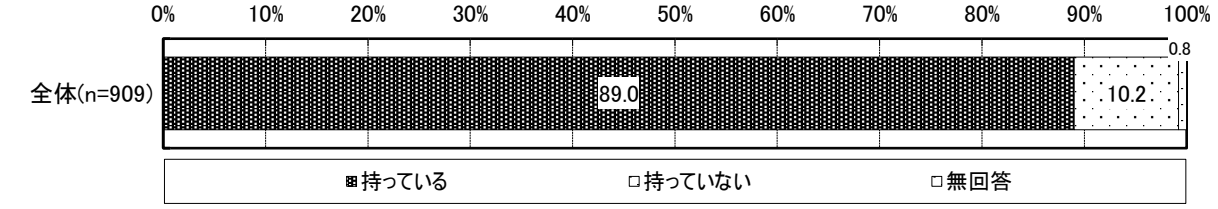
○年齢別にみると、18歳～29歳で「０歳～３歳」が48.0%と多く、65歳以上では40歳以降にわかった人が多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、強度行動障がいで「０歳～３歳」が62.3%、知的障がいで54.1%、発達障がいで43.0%と、早期にわかった人が多くなっています。

⑤ 障がい者手帳の所持状況

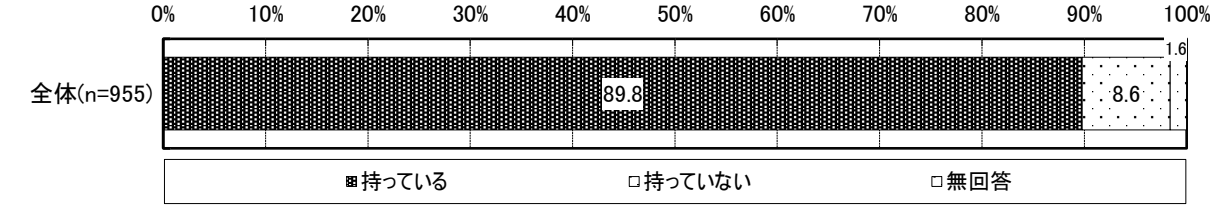
◆あなたは障がい者手帳を持っていますか。（あてはまるもの１つに○）

障がい者計画アンケート



○「持っている」が89.0%と大半を占めています。

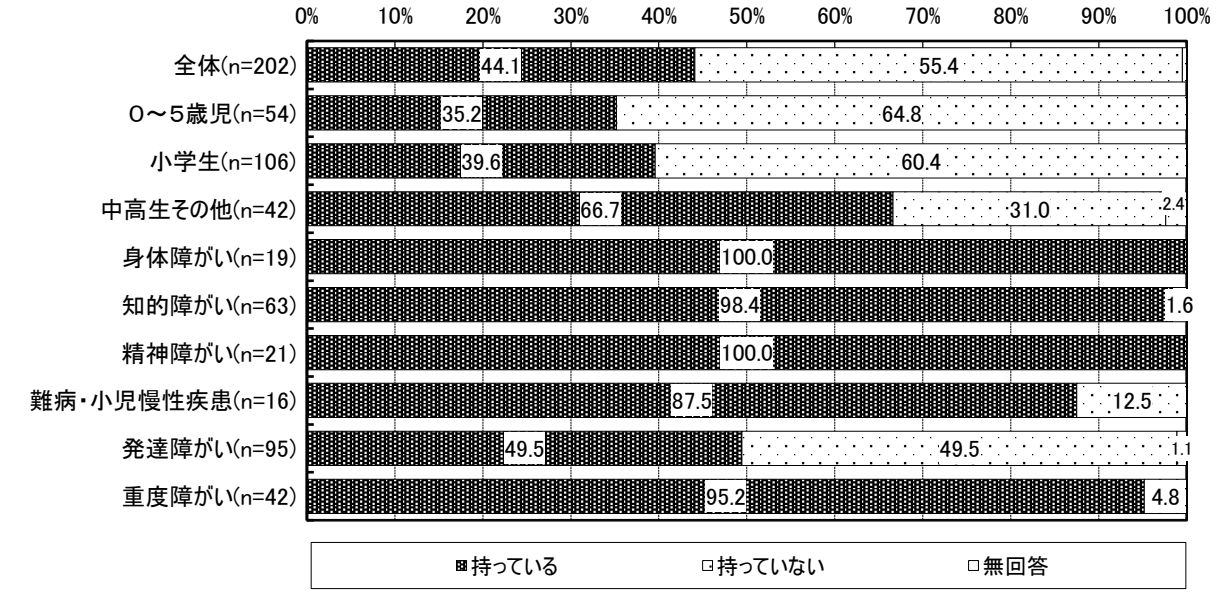
支援プラン（18歳以上）アンケート



○「持っている」が89.8%と大半を占めています。

◆お子さん（ご本人）は障がい者手帳を持っていますか。

支援プラン（18歳未満）アンケート



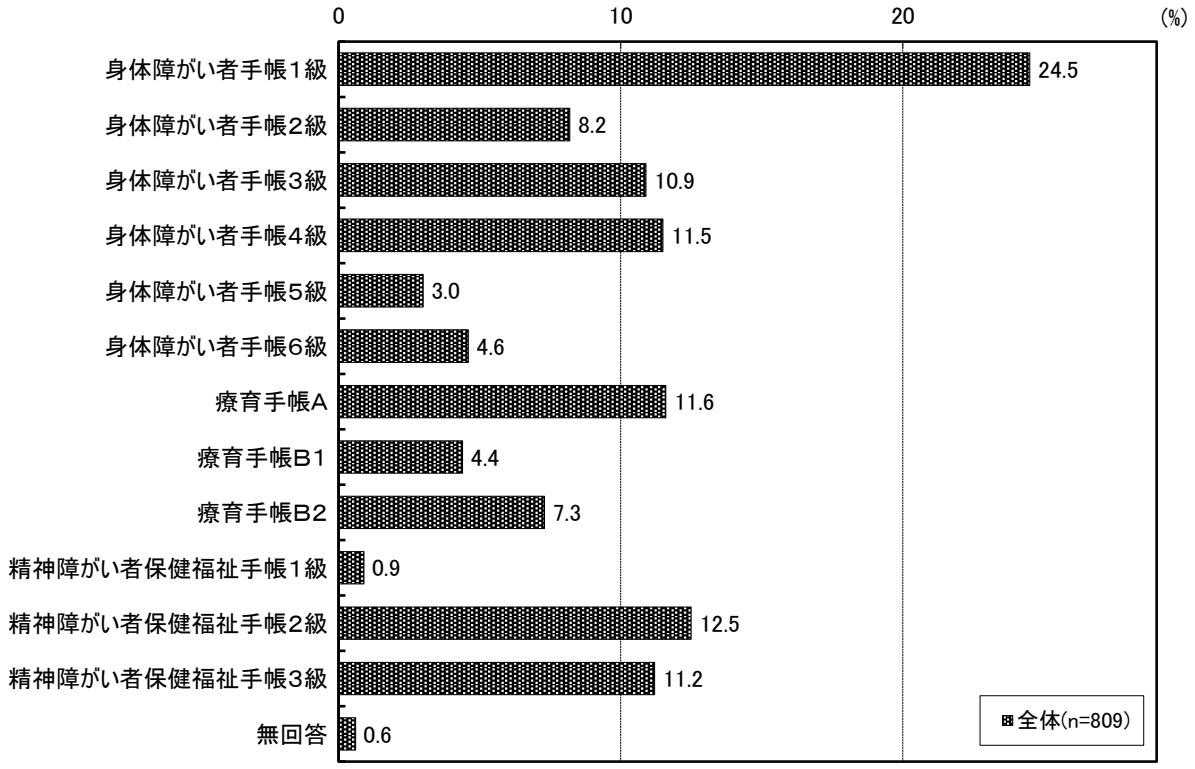
○「持っている」が44.1%、「持っていない」が55.4%となっており、手帳所持者は半数を下回っています。

○年齢別にみると、中高生その他で「持っている」が66.7%となっています。

○障がい種別ごとにみると、発達障がいでは手帳所持者と未所持者が同程度となっています。

◆障がい者手帳の等級を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

障がい者計画アンケート



※障がい者手帳を持っていると答えた人に対する設問

○「身体障がい者手帳１級」が24.5％と最も多く、次いで「精神障がい者保健福祉手帳２級」が12.5％、「療育手帳Ａ」が11.6％、「身体障がい者手帳４級」が11.5％、「精神障がい者保健福祉手帳３級」が11.2％などの順となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

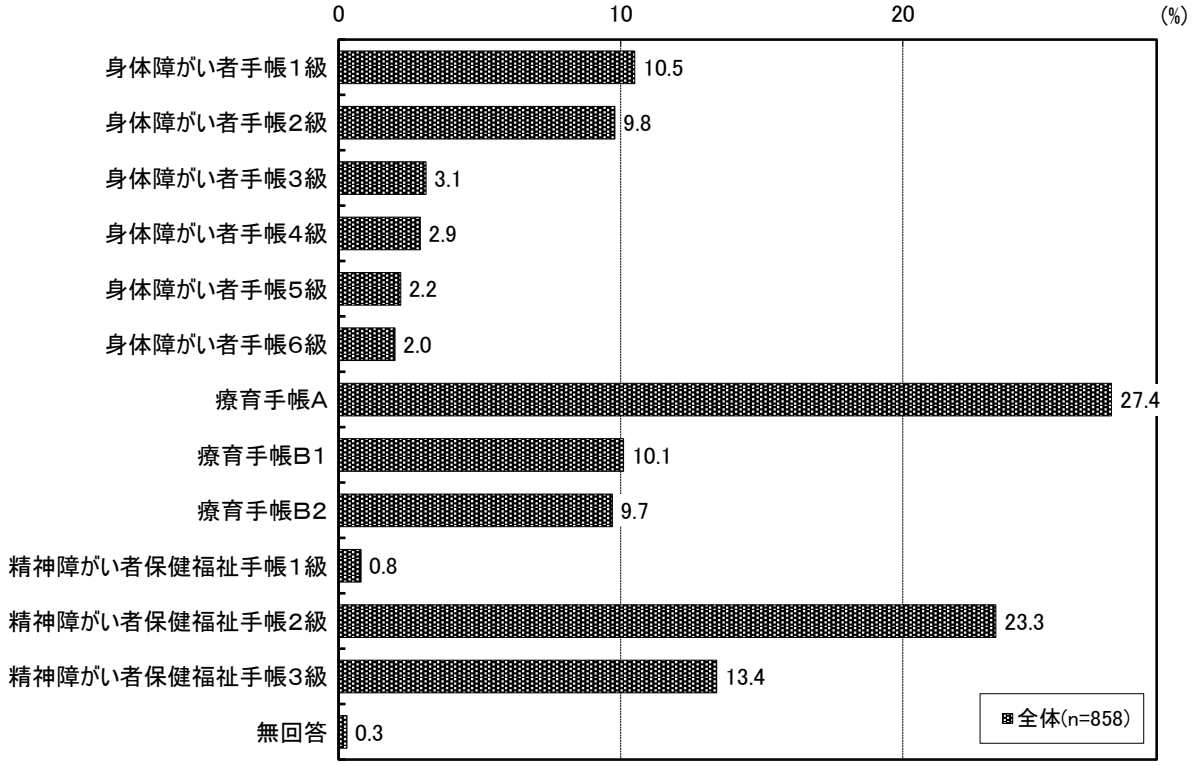
○年齢別にみると、0歳～17歳で「療育手帳Ａ」が37.5％、「療育手帳Ｂ２」が27.7％、65歳以上では「身体障がい者手帳１級」が33.3％と多くなっています。

（属性別クロス集計）

単位：％	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=112)	18歳～29歳 (n=58)	30歳～39歳 (n=97)	40歳～64歳 (n=293)	65歳以上 (n=231)
身体障がい者手帳１級	24.5	18.8	24.1	25.8	20.1	33.3
身体障がい者手帳２級	8.2	7.1	8.6	3.1	9.2	9.5
身体障がい者手帳３級	10.9	9.8	13.8	7.2	8.2	15.2
身体障がい者手帳４級	11.5	3.6	5.2	9.3	9.2	19.9
身体障がい者手帳５級	3	0.0	3.4	3.1	2.7	4.3
身体障がい者手帳６級	4.6	3.6	1.7	1.0	5.5	6.1
療育手帳Ａ	11.6	**37.5**	20.7	19.6	6.1	0.4
療育手帳Ｂ１	4.4	13.4	13.8	6.2	2.4	0.0
療育手帳Ｂ２	7.3	**27.7**	10.3	6.2	5.1	0.0
精神障がい者保健福祉手帳１級	0.9	0.0	0.0	0.0	1.7	0.9
精神障がい者保健福祉手帳２級	12.5	0.9	10.3	14.4	20.8	6.9
精神障がい者保健福祉手帳３級	11.2	5.4	10.3	17.5	17.1	5.2
無回答	0.6	0.0	0.0	0.0	0.3	1.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



※障がい者手帳を持っていると答えた人に対する設問

○「療育手帳Ａ」が27.4％と最も多く、次いで「精神障がい者保健福祉手帳２級」が23.3％、「精神障がい者保健福祉手帳３級」が13.4％、「身体障がい者手帳１級」が10.5％、「療育手帳Ｂ１」が10.1％などの順となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

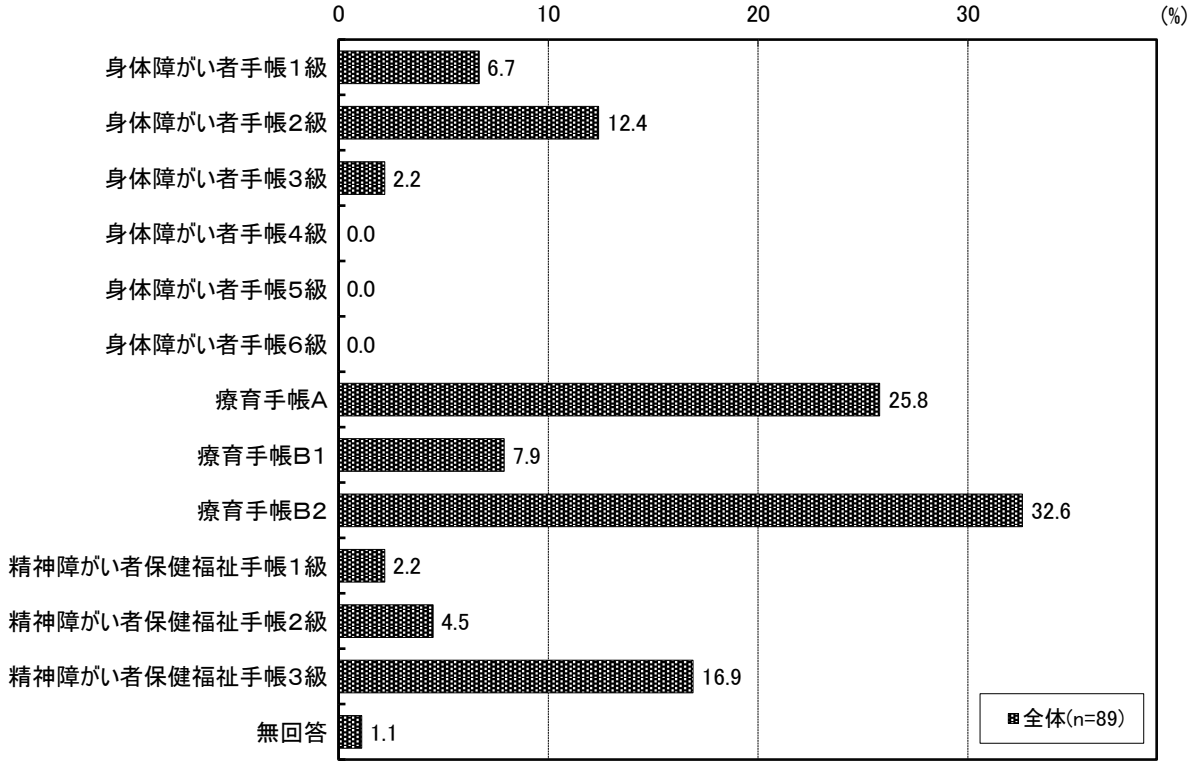
○年齢別にみると、「療育手帳Ａ」は30歳～39歳で42.9％、18歳～29歳で39.1％、「療育手帳Ｂ２」は18歳～29歳で20.3％、「身体障がい者手帳１級」は65歳以上で27.2％と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：％	全体 (n=858)	18歳～29歳 (n=207)	30歳～39歳 (n=175)	40歳～64歳 (n=353)	65歳以上 (n=103)
身体障がい者手帳１級	10.5	6.8	8.0	9.3	**27.2**
身体障がい者手帳２級	9.8	6.8	5.1	11.9	16.5
身体障がい者手帳３級	3.1	1.0	5.1	2.5	4.9
身体障がい者手帳４級	2.9	1.4	1.7	2.8	8.7
身体障がい者手帳５級	2.2	1.9	0.6	1.7	5.8
身体障がい者手帳６級	2.0	1.0	0.6	2.3	5.8
療育手帳Ａ	27.4	**39.1**	**42.9**	18.7	5.8
療育手帳Ｂ１	10.1	15.9	6.9	10.2	3.9
療育手帳Ｂ２	9.7	**20.3**	8.6	5.1	3.9
精神障がい者保健福祉手帳１級	0.8	0.0	0.0	1.7	1.0
精神障がい者保健福祉手帳２級	23.3	12.1	21.7	31.7	20.4
精神障がい者保健福祉手帳３級	13.4	12.1	13.7	17.0	4.9
無回答	0.3	0.0	0.6	0.6	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳未満）アンケート

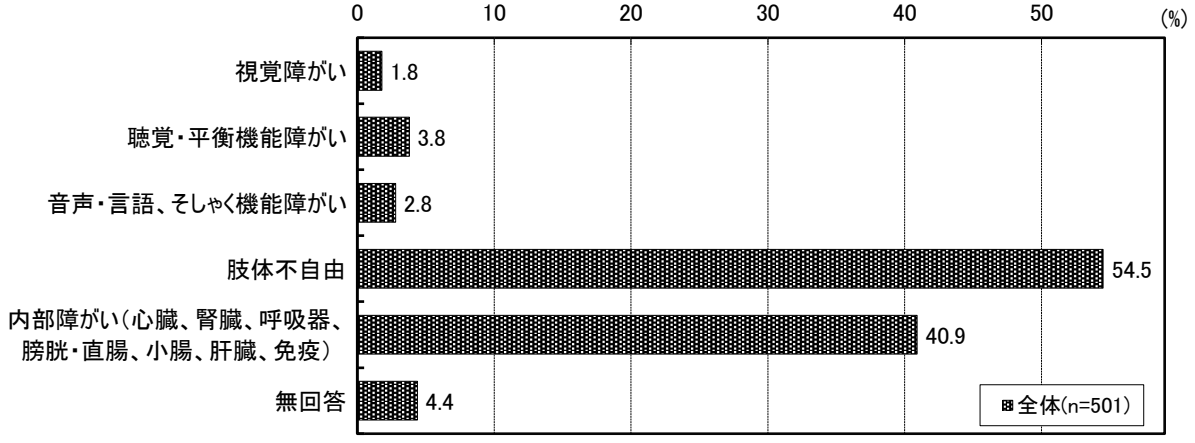


※障がい者手帳を持っていると答えた人に対する設問

○「療育手帳Ｂ２」が32.6%、「療育手帳Ａ」が25.8%、「精神障がい者保健福祉手帳３級」が16.9%、「身体障がい者手帳２級」が12.4%などの順となっています。

◆身体障がい者手帳をお持ちの人は、障がいの種類を答えてください。（あてはまるものすべてに○）

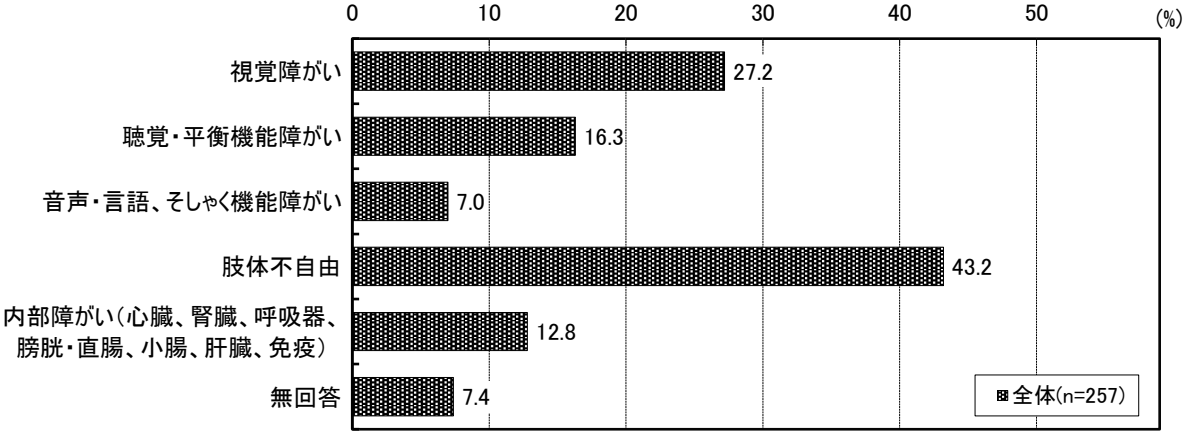
障がい者計画アンケート



※身体障がい者手帳を持っていると答えた人に対する設問

○「肢体不自由」が54.5%と最も多く、次いで「内部障がい（心臓、腎臓、呼吸器、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫）」が40.9%、「聴覚・平衡機能障がい」が3.8%、「音声・言語、そしゃく機能障がい」が2.8%、「視覚障がい」は1.8%となっています。

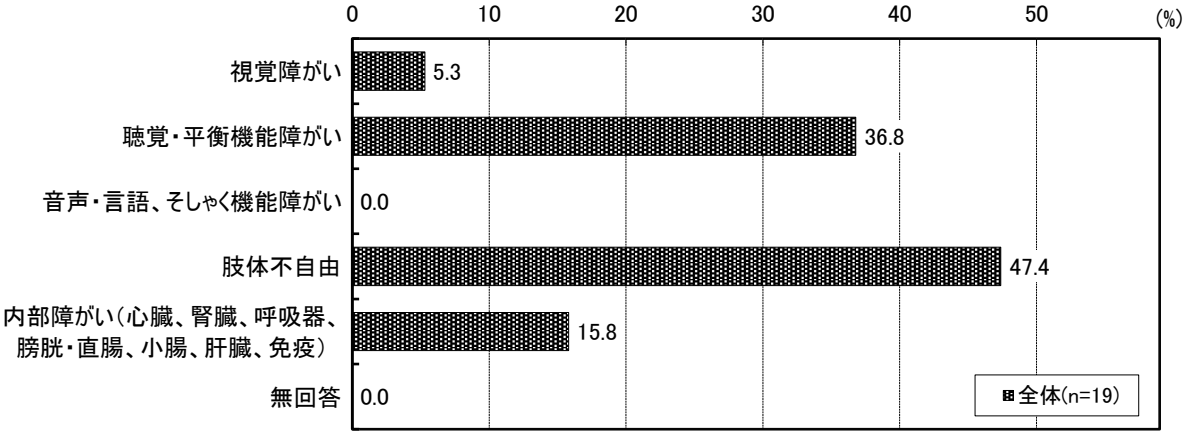
支援プラン（18歳以上）アンケート



※身体障がい者手帳を持っていると答えた人に対する設問

○「肢体不自由」が43.2％と最も多く、次いで「視覚障がい」が27.2％、「聴覚・平衡機能障がい」が16.3％、「内部障がい（心臓、腎臓、呼吸器、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫)」が12.8％、「音声・言語、そしゃく機能障がい」が7.0％となっています。

支援プラン（18歳未満）アンケート



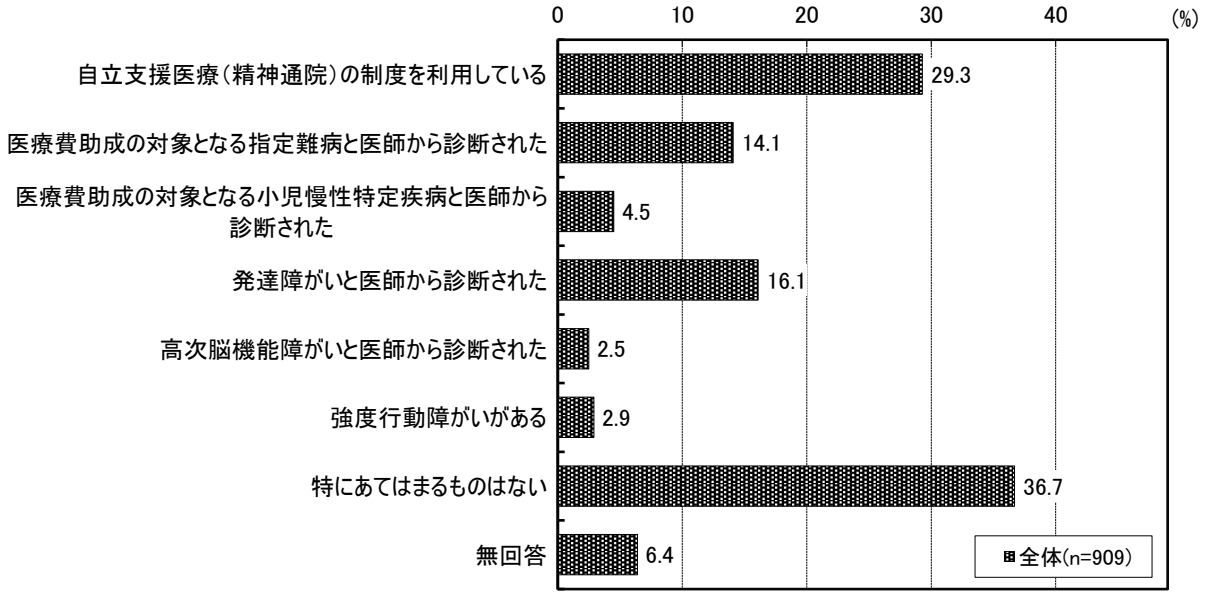
※身体障がい者手帳を持っていると答えた人に対する設問

○「肢体不自由」が47.4％と最も多く、次いで「聴覚・平衡機能障がい」が36.8％、「内部障がい（心臓、腎臓、呼吸器、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫)」が15.8％、「視覚障がい」が5.3％となっています。「音声・言語、そしゃく機能障がい」はみられませんでした。

⑥ 医療制度の利用や診断の状況

◆医療制度の利用や指定難病、発達障がい、高次脳機能障がいなどの診断について、教えてください。（あてはまるものすべてに○）

障がい者計画アンケート



○「特にあてはまるものはない」が36.7%と最も多く、次いで「自立支援医療（精神通院）の制度を利用している」が29.3%、「発達障がいと医師から診断された」が16.1%、「医療費助成の対象となる指定難病と医師から診断された」が14.1%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「自立支援医療（精神通院）の制度を利用している」は40歳～64歳で43.9%と多くなっています。また、「発達障がいと医師から診断された」は０歳～17歳で47.4%、18歳～29歳で39.1%と多くなっています。一方、65歳以上では「特にあてはまるものはない」が49.8%と半数近くを占めています。

○障がい種別ごとにみると、発達障がい、精神障がい、難病・小児慢性疾患については本設問への回答結果に従って属性化しているため、それぞれ多くを占めていますが、知的障がいでは45.0%が「発達障がいと医師から診断された」、身体障がいでは57.3%が「特にあてはまるものはない」と答えています。

（属性別クロス集計）

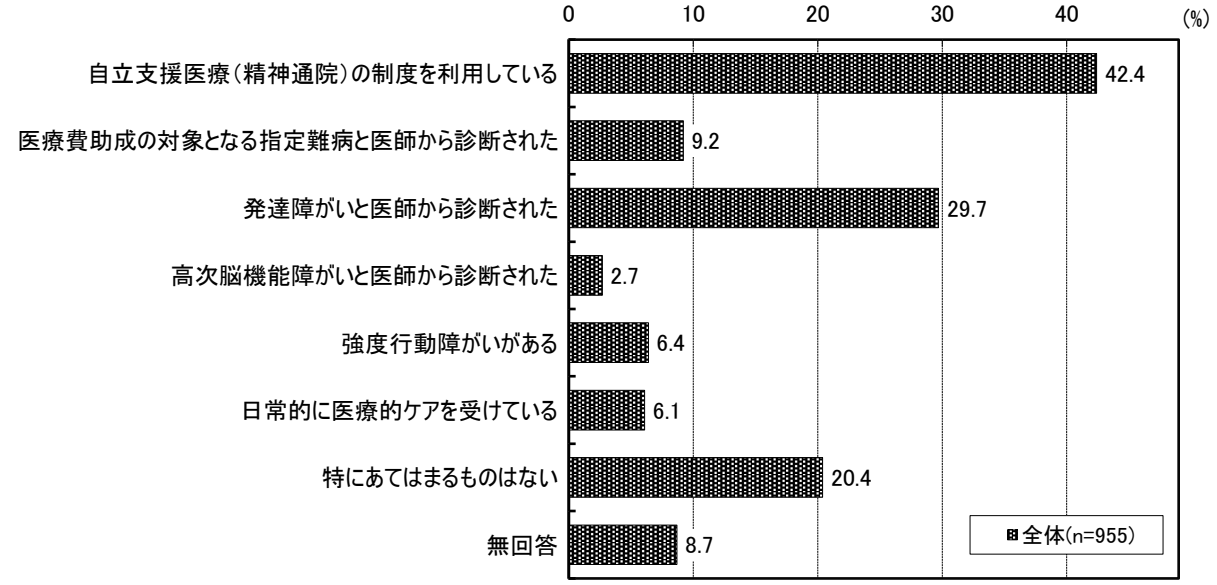
単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
自立支援医療（精神通院）の制度を利用している	29.3	2.6	34.8	36.9	**43.9**	19.4
医療費助成の対象となる指定難病と医師から診断された	14.1	9.5	17.4	8.7	13.1	19.0
医療費助成の対象となる小児慢性特定疾病と医師から診断された	4.5	**23.3**	2.9	4.9	1.8	0.4
発達障がいと医師から診断された	16.1	**47.4**	**39.1**	**28.2**	9.5	0.4
高次脳機能障がいと医師から診断された	2.5	0.9	0.0	1.9	3.4	2.9
強度行動障がいがある	2.9	1.7	8.7	3.9	2.7	1.8
特にあてはまるものはない	36.7	23.3	24.6	33.0	33.8	**49.8**
無回答	6.4	2.6	2.9	3.9	5.2	10.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
自立支援医療（精神通院）の制度を利用している	6.8	12.7	**89.3**	9.9	37.7	10.4
医療費助成の対象となる指定難病と医師から診断された	17.4	8.5	6.4	**79.5**	3.4	19.0
医療費助成の対象となる小児慢性特定疾病と医師から診断された	7.2	13.2	0.7	25.5	1.4	9.5
発達障がいと医師から診断された	3.4	**45.0**	23.2	3.7	**100.0**	12.2
高次脳機能障がいと医師から診断された	4.4	0.0	2.0	0.0	1.4	4.9
強度行動障がいがある	2.0	8.5	3.4	3.1	8.2	8.0
特にあてはまるものはない	**57.3**	23.8	3.7	0.0	0.0	41.6
無回答	7.4	7.4	2.0	0.0	0.0	7.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「自立支援医療（精神通院）の制度を利用している」が42.4%と最も多く、次いで「発達障がいと医師から診断された」が29.7%、「特にあてはまるものはない」が20.4%、「医療費助成の対象となる指定難病と医師から診断された」が9.2%、となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「自立支援医療（精神通院）の制度を利用している」は40歳～64歳で53.7%と非常に多くなっています。「発達障がいと医師から診断された」は18歳～29歳で52.5%、30歳～39歳で44.7%と多くなっています。

（属性別クロス集計）

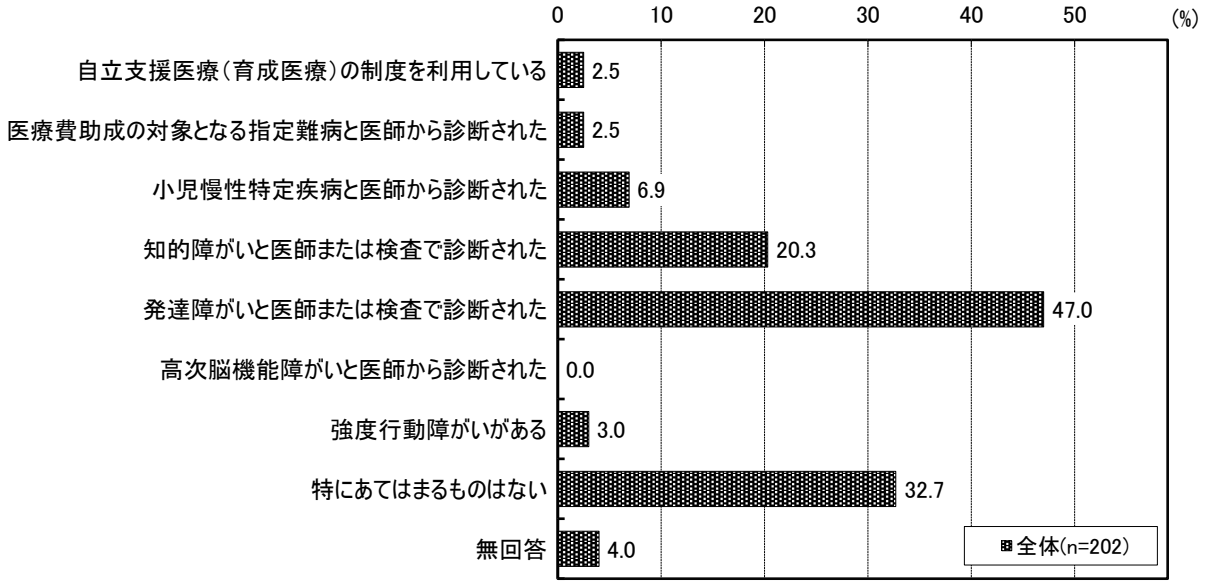
単位：%	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
自立支援医療（精神通院）の制度を利用している	42.4	37.1	38.4	**53.7**	23.6
医療費助成の対象となる指定難病と医師から診断された	9.2	6.8	3.2	8.8	**24.4**
発達障がいと医師から診断された	29.7	**52.5**	**44.7**	18.9	4.1
高次脳機能障がいと医師から診断された	2.7	0.9	2.1	3.5	4.9
強度行動障がいがある	6.4	14.5	8.9	1.8	1.6
日常的に医療的ケアを受けている	6.1	3.6	5.3	6.0	12.2
特にあてはまるものはない	20.4	19.9	22.6	18.1	26.0
無回答	8.7	3.2	4.2	9.8	15.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=257)	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい (n=388)
自立支援医療（精神通院）の制度を利用している	17.5	23.5	**89.8**	17.0	45.8	36.1	17.8
医療費助成の対象となる指定難病と医師から診断された	**19.8**	4.7	3.5	**100.0**	3.2	4.9	12.4
発達障がいと医師から診断された	6.6	**45.2**	33.0	10.2	**100.0**	**65.6**	30.2
高次脳機能障がいと医師から診断された	5.8	0.7	3.3	3.4	0.4	1.6	2.8
強度行動障がいがある	2.7	12.6	5.1	3.4	14.1	**100.0**	15.7
日常的に医療的ケアを受けている	13.6	5.2	5.5	12.5	2.8	4.9	9.0
特にあてはまるものはない	**38.5**	25.4	1.8	0.0	0.0	0.0	29.6
無回答	10.9	8.6	2.7	0.0	0.0	0.0	7.7

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳未満）アンケート

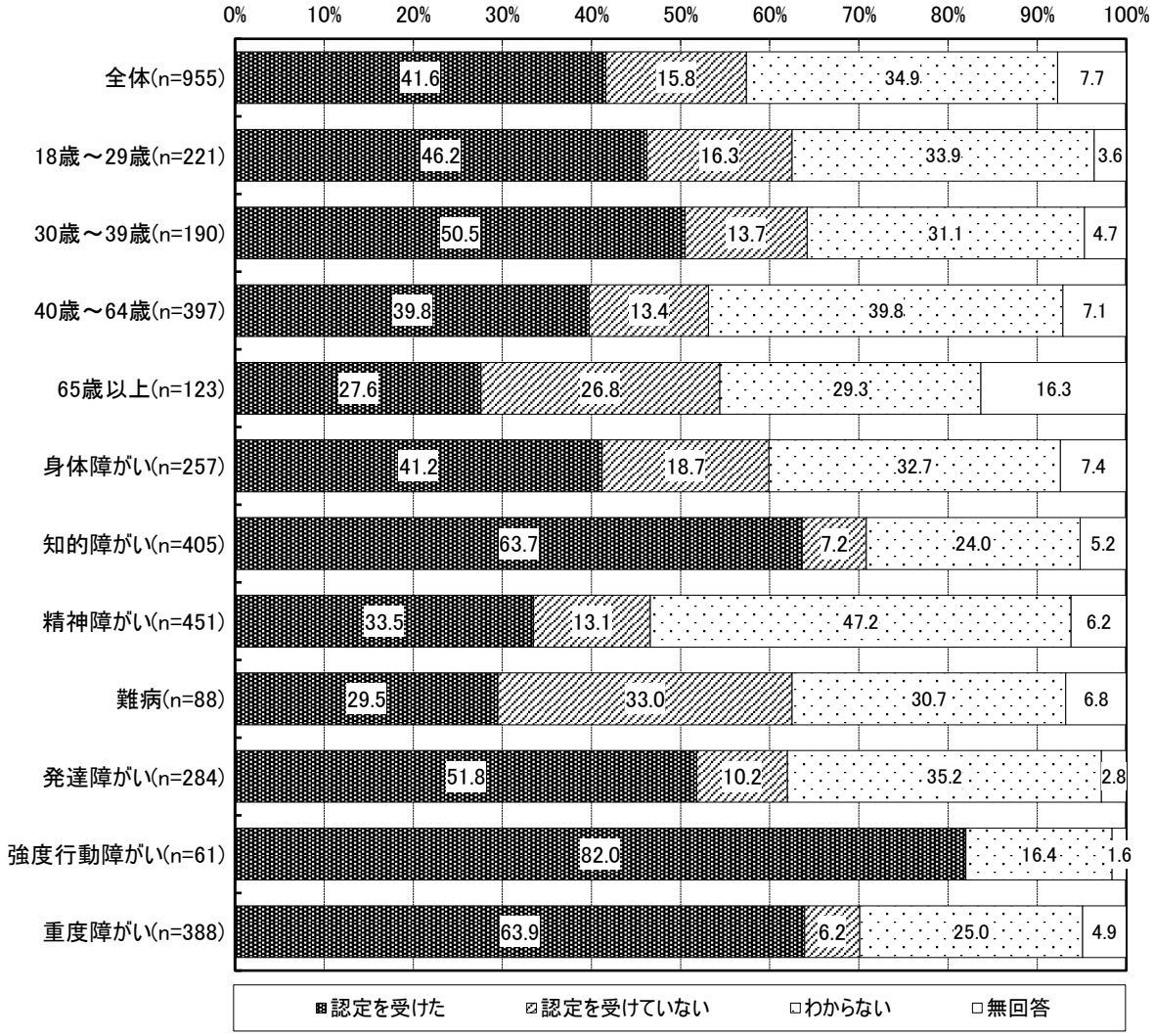


○「発達障がいと医師または検査で診断された」が47.0%と最も多く、次いで「特にあてはまるものはない」が32.7%、「知的障がいと医師または検査で診断された」が20.3%、「小児慢性特定疾病と医師から診断された」が6.9%となっています。

⑦ 障がい支援区分認定の状況

◆障がい支援区分の認定を受けていますか。また、受けた人は、どの区分で認定を受けていますか。（あてはまるものや区分に○）

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「認定を受けた」が41.6%、「受けていない」が15.8%、「わからない」が34.9%となっています。

○認定区分は、「区分４」が19.6%、「区分６」が19.1%、「区分３」が18.4%、「区分５」が17.9%と、比較的中重度の区分が多くなっています。年齢別にみると、30歳～39歳で「区分６」が30.2%と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「区分６」は強度行動障がいで62.0%、重度障がいで30.6%、身体障がいで30.2%と多くみられます。また、精神障がいでは「区分３」が31.8%、「区分２」が23.8%と多くなっています。

（属性別クロス集計）

単位：％	全体 （n=397）	18歳～29歳 （n=102）	30歳～39歳 （n=96）	40歳～64歳 （n=158）	65歳以上 （n=34）
区分１	2.3	0.0	1.0	2.5	8.8
区分２	12.6	9.8	7.3	14.6	**26.5**
区分３	18.4	11.8	15.6	26.6	8.8
区分４	19.6	21.6	21.9	17.7	20.6
区分５	17.9	25.5	19.8	14.6	2.9
区分６	19.1	25.5	**30.2**	9.5	11.8
非該当	0.8	1.0	1.0	0.6	0.0
無回答	9.3	4.9	3.1	13.9	**20.6**

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

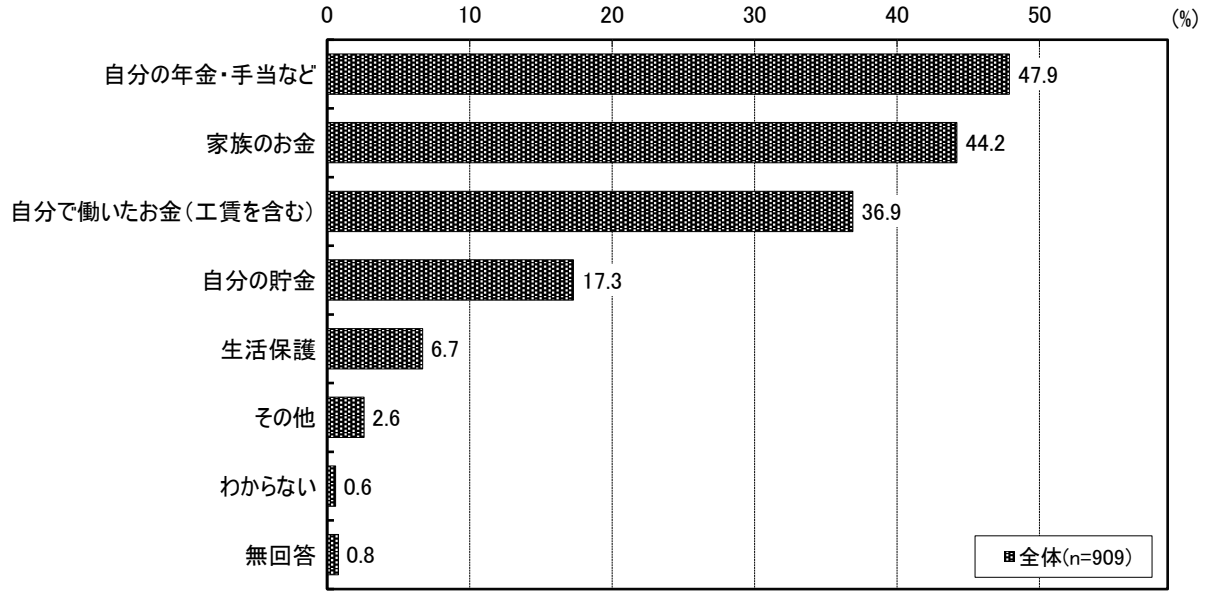
単位：％	身体障がい （n=106）	知的障がい （n=405）	精神障がい （n=451）	難病 （n=88）	発達障がい （n=284）	強度行動障がい （n=61）	重度障がい （n=388）
区分１	2.8	1.2	3.3	0.0	0.7	0.0	2.0
区分２	9.4	7.0	**23.8**	11.5	10.2	6.0	3.6
区分３	16.0	9.7	**31.8**	26.9	12.2	6.0	9.7
区分４	12.3	21.7	20.5	7.7	23.8	6.0	16.9
区分５	15.1	24.4	6.0	19.2	20.4	16.0	**28.6**
区分６	**30.2**	27.1	2.6	26.9	21.8	**62.0**	**30.6**
非該当	0.9	0.4	2.0	0.0	0.7	0.0	0.0
無回答	13.2	8.5	9.9	7.7	10.2	4.0	8.5

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

⑧ 生活費の状況

◆生活費（食費・家賃・こづかいなど）をどのように得ていますか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者計画アンケート



○「自分の年金・手当など」が47.9%と最も多く、次いで「家族のお金」が44.2%、「自分で働いたお金（工賃を含む）」が36.9%、「自分の貯金」が17.3%、「生活保護」が6.7%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「自分で働いたお金（工賃を含む）」は30歳～39歳で66.0%、40歳～64歳で60.1%、18歳～29歳で52.2%と多くみられます。「自分の年金・手当など」は65歳以上で89.0%と多くなっています。また、「家族のお金」は０歳～17歳で98.3%、18歳～29歳で60.9%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「家族のお金」は知的障がいで75.1%、発達障がいで69.2%、と多くなっています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
自分で働いたお金（工賃を含む）	36.9	0.0	**52.2**	**66.0**	**60.1**	9.9
自分の年金・手当など	47.9	1.7	29.0	34.0	37.5	**89.0**
自分の貯金	17.3	0.9	15.9	18.4	16.8	25.6
家族のお金	44.2	**98.3**	**60.9**	41.7	35.1	30.0
生活保護	6.7	0.9	2.9	5.8	11.0	5.1
その他	2.6	0.9	0.0	1.9	3.7	3.3
わからない	0.6	0.0	1.4	0.0	0.9	0.0
無回答	0.8	0.0	1.4	0.0	0.9	1.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

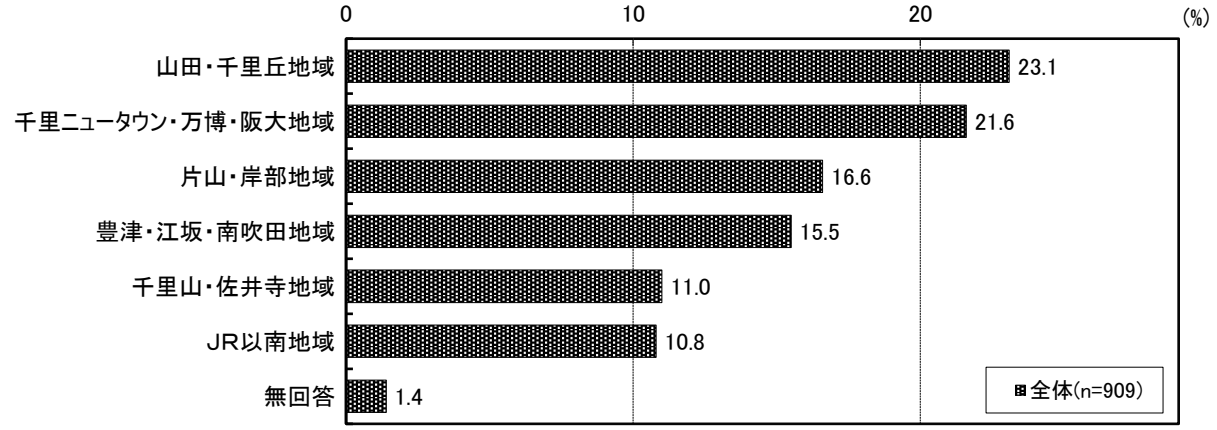
単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
自分で働いたお金（工賃を含む）	33.9	25.4	46.6	24.8	39.7	28.1
自分の年金・手当など	55.5	29.6	44.3	44.1	27.4	56.9
自分の貯金	19.6	3.7	17.8	15.5	12.3	12.8
家族のお金	39.1	**75.1**	39.9	52.8	**69.2**	47.7
生活保護	4.0	5.8	14.1	2.5	2.1	5.2
その他	2.6	1.1	3.7	1.2	1.4	3.1
わからない	0.0	1.1	1.0	0.0	0.7	0.6
無回答	0.4	0.0	1.0	0.0	0.0	0.6

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

⑨ 居住地域

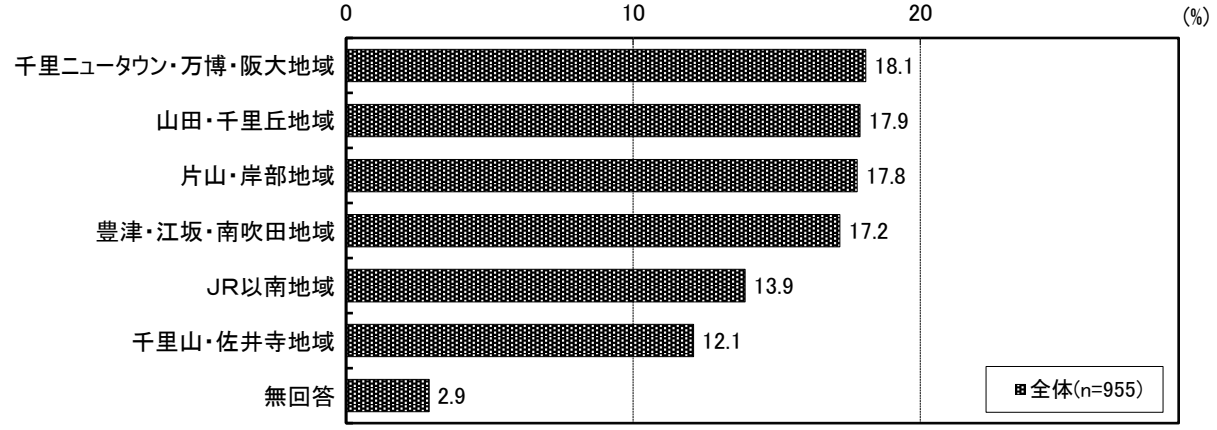
◆あなたのお住まいの地域はどこですか。（あてはまるもの１つに○）

障がい者計画アンケート



○「山田・千里丘地域」が23.1％と最も多く、次いで「千里ニュータウン・万博・阪大地域」が21.6％、「片山・岸部地域」が16.6％、「豊津・江坂・南吹田地域」が15.5％、「千里山・佐井寺地域」が11.0％、「ＪＲ以南地域」が10.8％となっています。

支援プラン（18歳以上）アンケート



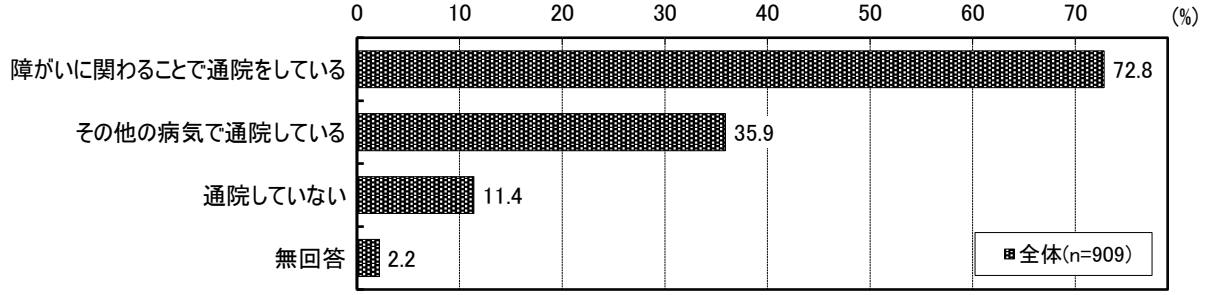
○「千里ニュータウン・万博・阪大地域」が18.1％と最も多く、次いで「山田・千里丘地域」が17.9％、「片山・岸部地域」が17.8％、「豊津・江坂・南吹田地域」が17.2％、「ＪＲ以南地域」が13.9％、「千里山・佐井寺地域」が12.1％となっています。

2　医療に関する状況

① 通院の状況

◆現在、病院に通っていますか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者計画アンケート



○「障がいに関わることで通院をしている」が72.8%、「その他の病気で通院している」が35.9%、「通院していない」が11.4%となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、65歳以上で「その他の病気で通院している」が47.6%となっています。

○障がい種別ごとにみると、「障がいに関わることで通院をしている」は精神障がいで90.3%、難病・小児慢性疾患で85.7%と多くなっています。また、「通院していない」は知的障がいで22.2%となっています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
障がいに関わることで通院をしている	72.8	75.9	72.5	68.0	81.4	64.5
その他の病気で通院している	35.9	19.0	20.3	25.2	37.8	**47.6**
通院していない	11.4	17.2	20.3	20.4	7.0	8.8
無回答	2.2	1.7	0.0	0.0	1.8	3.7

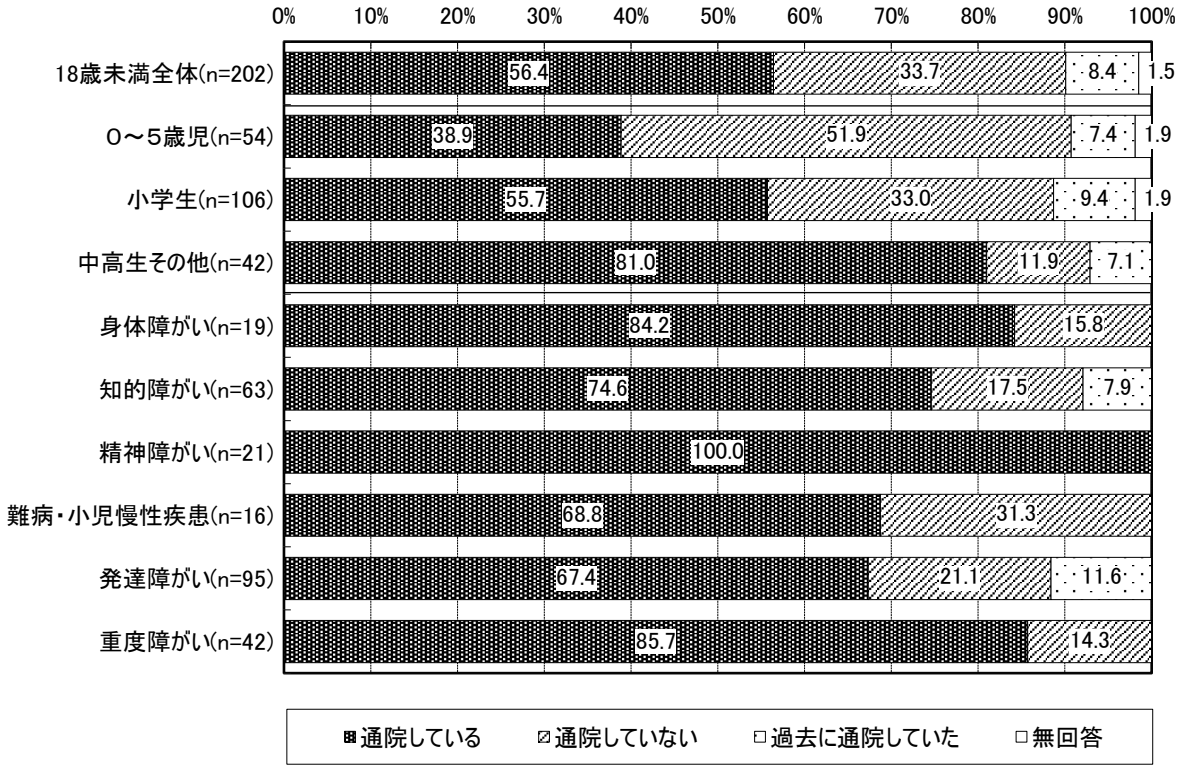
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
障がいに関わることで通院をしている	72.1	61.9	**90.3**	**85.7**	73.3	76.8
その他の病気で通院している	38.5	29.6	36.6	36.6	27.4	33.9
通院していない	10.6	**22.2**	2.0	2.5	18.5	10.1
無回答	2.6	3.2	0.3	3.1	0.7	2.8

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆お子さん（ご本人）の発達や障がいの関係で、通院していますか。（あてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



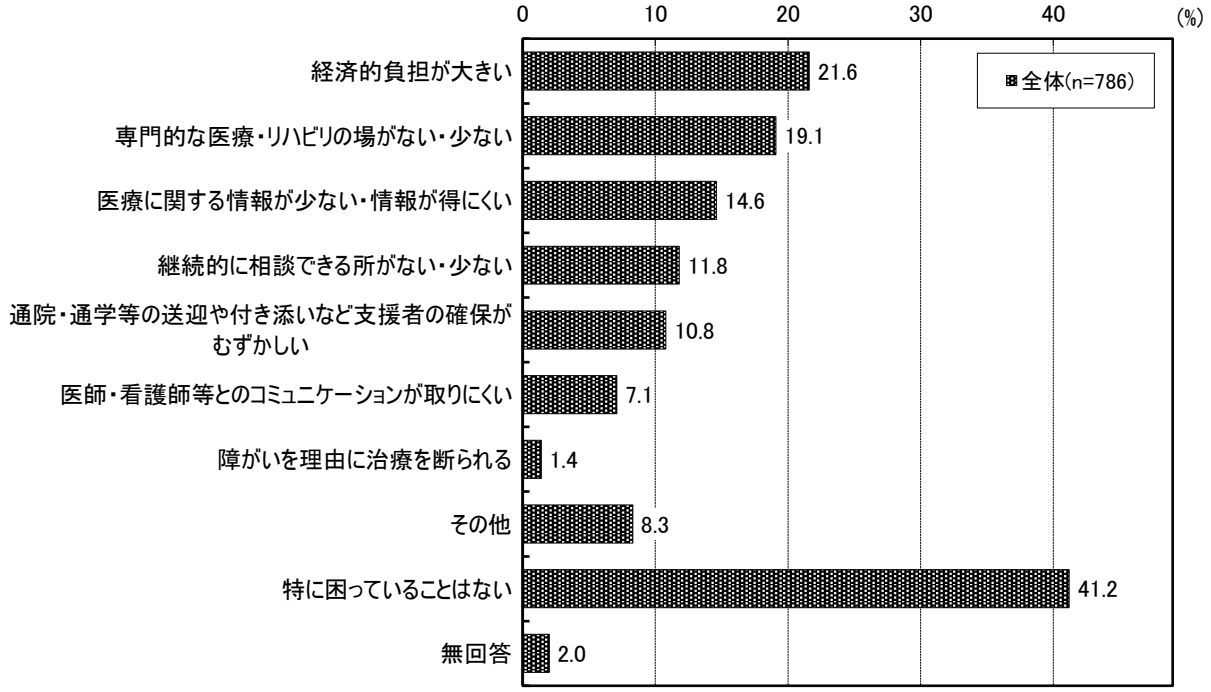
○「通院している」が56.4％と半数を超えています。

○年齢別にみると、年齢が高くなるほど「通院している」が増える傾向にあります。

② 医療に関する困りごと

◆医療のことで、困っていることは何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

障がい者計画アンケート



※病院に通っていると答えた人に対する設問

○「特に困っていることはない」が41.2%と最も多く、困っている内容としては「経済的負担が大きい」が21.6%、「専門的な医療・リハビリの場がない・少ない」が19.1%、「医療に関する情報が少ない・情報が得にくい」が14.6%、「継続的に相談できる所がない・少ない」が11.8%、「通院・通学等の送迎や付き添いなど支援者の確保がむずかしい」が10.8%の順となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０歳～17歳で「専門的な医療・リハビリの場がない・少ない」が37.2%、「通院・通学等の送迎や付き添いなど支援者の確保がむずかしい」が30.9%、「継続的に相談できる所がない・少ない」が25.5%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「専門的な医療・リハビリの場がない・少ない」は知的障がいで36.2%、「通院・通学等の送迎や付き添いなど支援者の確保がむずかしい」は知的障がいで27.7%と多くなっています。また、「継続的に相談できる所がない・少ない」は発達障がいで22.9%と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=786)	0歳～17歳 (n=94)	18歳～29歳 (n=55)	30歳～39歳 (n=82)	40歳～64歳 (n=299)	65歳以上 (n=240)
医療に関する情報が少ない・情報が得にくい	14.6	20.2	16.4	20.7	15.1	9.6
専門的な医療・リハビリの場がない・少ない	19.1	**37.2**	18.2	24.4	19.1	10.4
継続的に相談できる所がない・少ない	11.8	**25.5**	14.5	4.9	12.7	7.5
通院・通学等の送迎や付き添いなど支援者の確保がむずかしい	10.8	**30.9**	16.4	7.3	6.0	8.3
経済的負担が大きい	21.6	13.8	25.5	13.4	27.4	18.3
障がいを理由に治療を断られる	1.4	1.1	3.6	4.9	0.7	0.8
医師・看護師等とのコミュニケーションが取りにくい	7.1	6.4	14.5	12.2	6.7	4.2
その他	8.3	8.5	12.7	12.2	8.4	6.3
特に困っていることはない	41.2	26.6	30.9	42.7	39.5	**52.5**
無回答	2.0	0.0	0.0	1.2	1.0	4.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

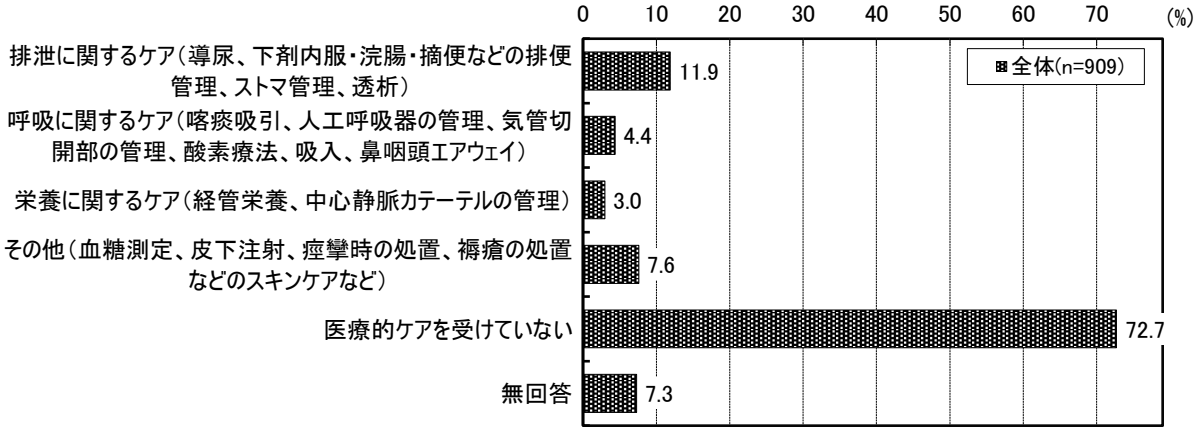
単位：%	身体障がい (n=436)	知的障がい (n=141)	精神障がい (n=291)	難病・小児慢性疾患 (n=152)	発達障がい (n=118)	重度障がい (n=285)
医療に関する情報が少ない・情報が得にくい	11.5	20.6	19.6	13.2	22.0	13.7
専門的な医療・リハビリの場がない・少ない	20.6	**36.2**	14.4	24.3	26.3	22.8
継続的に相談できる所がない・少ない	9.4	19.1	13.7	13.8	**22.9**	12.6
通院・通学等の送迎や付き添いなど支援者の確保がむずかしい	12.2	**27.7**	6.2	17.1	15.3	16.1
経済的負担が大きい	20.0	14.2	26.8	23.0	22.0	15.1
障がいを理由に治療を断られる	1.4	2.1	1.4	2.0	1.7	1.4
医師・看護師等とのコミュニケーションが取りにくい	4.6	15.6	7.9	3.9	16.1	8.8
その他	6.9	9.2	9.3	7.9	10.2	6.7
特に困っていることはない	43.3	26.2	39.5	38.2	30.5	42.1
無回答	2.5	0.0	2.1	1.3	0.0	2.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

③ 医療的ケアの状況

◆日常的に医療的ケアを受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者計画アンケート



○「医療的ケアを受けていない」が72.7%を占めており、医療的ケアを受けている内容としては「排泄に関するケア（導尿、下剤内服・浣腸・摘便などの排便管理、ストマ管理、透析)」が11.9%、「その他（血糖測定、皮下注射、痙攣時の処置、褥瘡の処置などのスキンケアなど)」が7.6%、「呼吸に関するケア（喀痰吸引、人工呼吸器の管理、気管切開部の管理、酸素療法、吸入、鼻咽頭エアウェイ)」が4.4%、「栄養に関するケア（経管栄養、中心静脈カテーテルの管理)」が3.0%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○障がい種別ごとにみると、「排泄に関するケア」は難病・小児慢性疾患で23.0%、重度障がいで22.9%と多く、「呼吸に関するケア」は難病・小児慢性疾患で16.1%と多くなっています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
呼吸に関するケア	4.4	10.3	5.8	2.9	3.4	3.3
栄養に関するケア	3.0	8.6	2.9	1.9	2.4	1.8
排泄に関するケア	11.9	16.4	8.7	9.7	8.8	15.8
その他	7.6	5.2	5.8	5.8	5.8	11.0
医療的ケアを受けていない	72.7	75.9	76.8	82.5	79.9	59.7
無回答	7.3	4.3	4.3	1.9	6.1	11.7

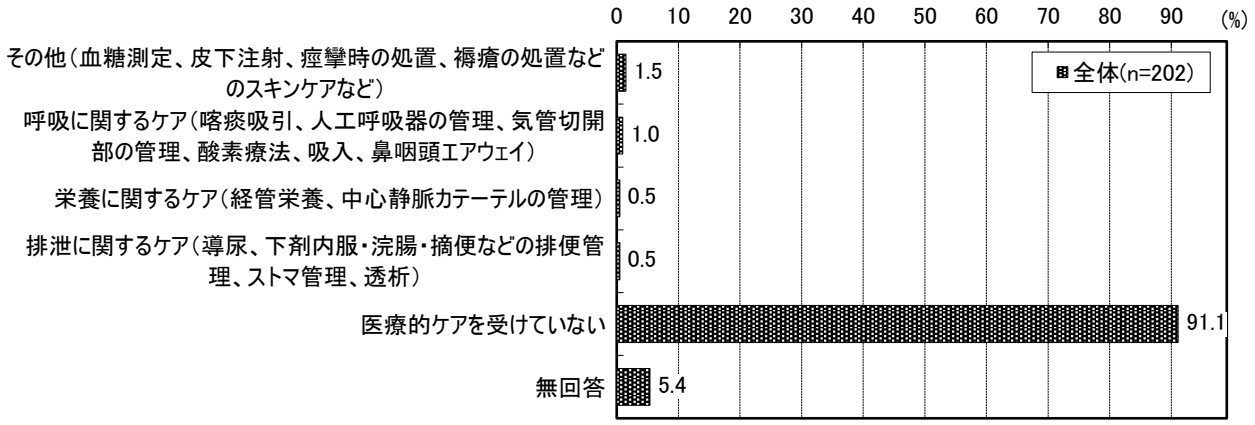
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
呼吸に関するケア	6.4	9.0	2.0	**16.1**	1.4	9.2
栄養に関するケア	5.4	7.4	0.7	10.6	0.7	7.6
排泄に関するケア	18.8	16.9	6.0	**23.0**	3.4	**22.9**
その他	10.0	7.4	6.4	16.8	3.4	12.2
医療的ケアを受けていない	63.7	70.4	80.2	52.8	**84.2**	57.2
無回答	7.2	7.4	6.4	5.6	6.8	8.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆お子さん（ご本人）はどのような医療的ケアを受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート

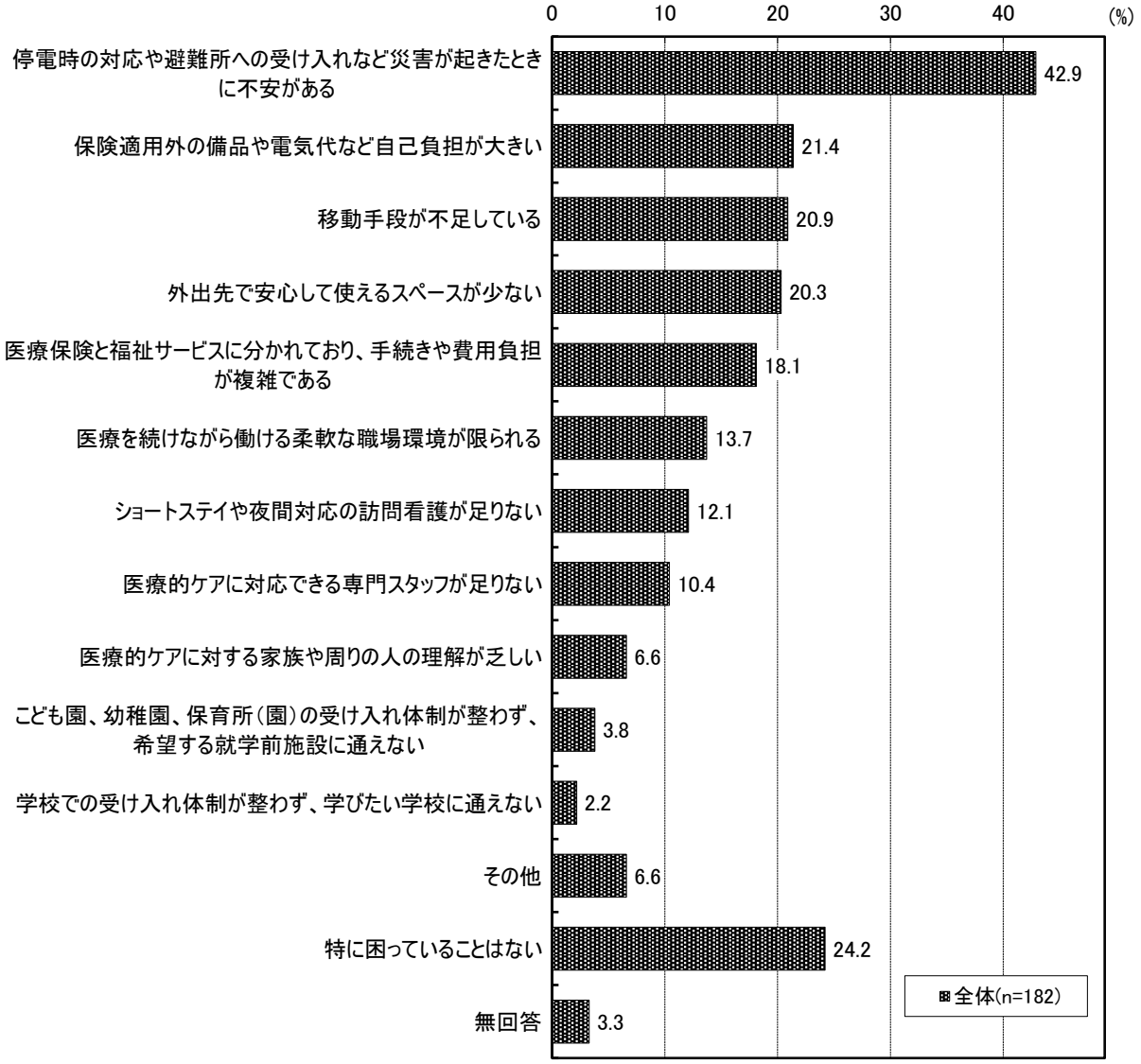


○「医療的ケアを受けていない」が91.1%で、医療的ケア児は少数となっています。

④ 医療的ケアに関する困りごと

◆医療的ケアに関して困っていることは何ですか。（あてはまるもの５つまでに○）

障がい者計画アンケート



※何らかの医療的ケアを受けていると答えた人に対する設問

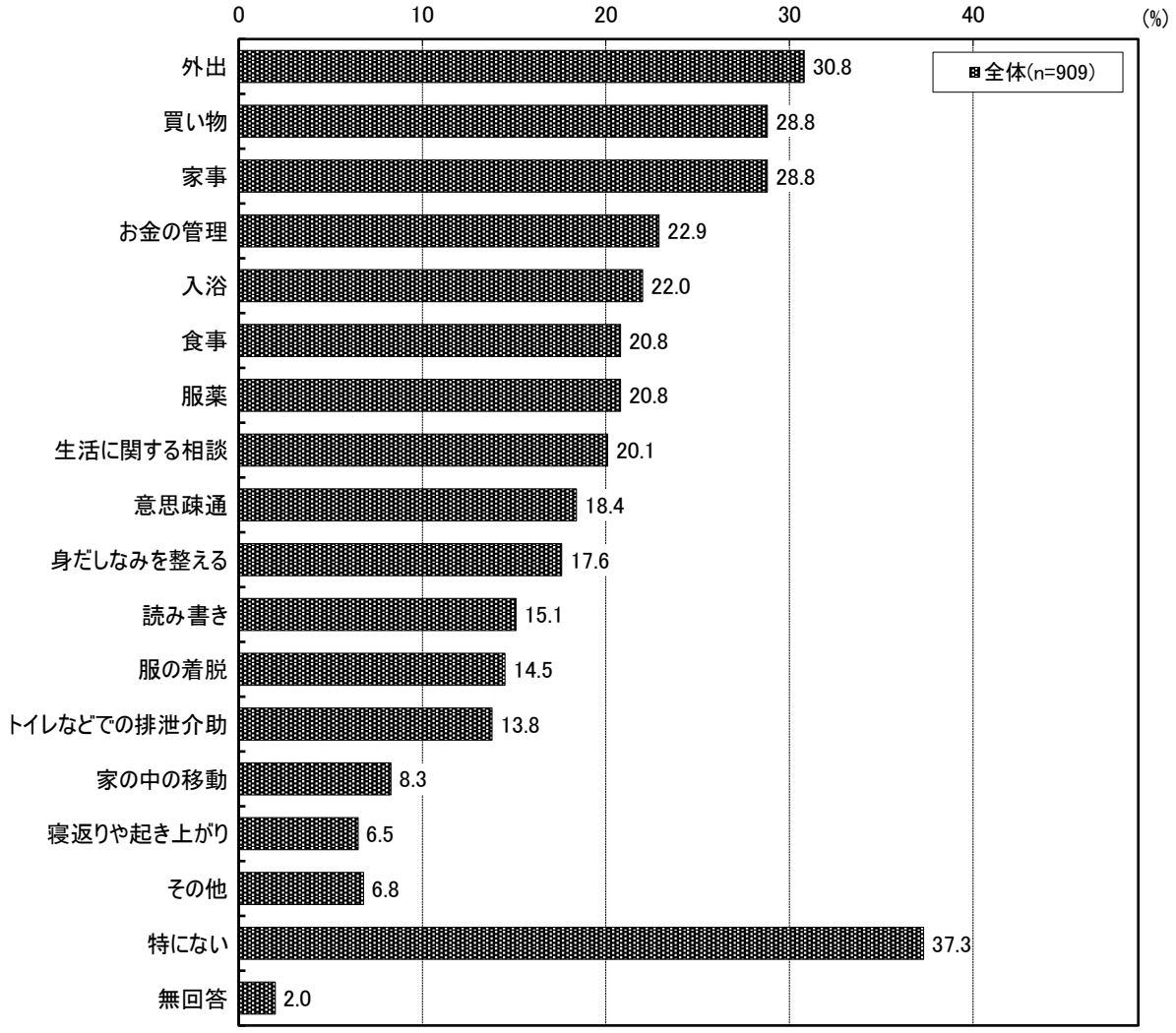
○「停電時の対応や避難所への受け入れなど災害が起きたときに不安がある」が42.9%と最も多く、次いで「保険適用外の備品や電気代など自己負担が大きい」が21.4%、「移動手段が不足している」が20.9%、「外出先で安心して使えるスペースが少ない」が20.3%、「医療保険と福祉サービスに分かれており、手続きや費用負担が複雑である」が18.1%の順となっています。なお、「特に困っていることはない」は24.2%でした

3　支援の状況

① 現在の生活で必要な支援

◆あなたの現在の生活で、必要な支援は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者計画アンケート



○「特にない」が37.3%と最も多く、必要な支援の内容としては「外出」が30.8%、「買い物」と「家事」がそれぞれ28.8%、「お金の管理」が22.9%、「入浴」が22.0%、「食事」と「服薬」がそれぞれ20.8%、「生活に関する相談」が20.1%の順となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０歳～17歳で「外出」が62.1%、「買い物」や「意思疎通」がそれぞれ56.0%となるなど、多くの内容で支援を必要としています。18歳～29歳では「家事」が40.6%、「お金の管理」が37.7%と比較的多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで「お金の管理」が62.4%、「外出」が61.9%となるなど多くの内容で支援を必要としています。同様に重度障がいや発達障がい、難病・小児慢性疾患でも多くの支援を必要としています。

（属性別クロス集計）

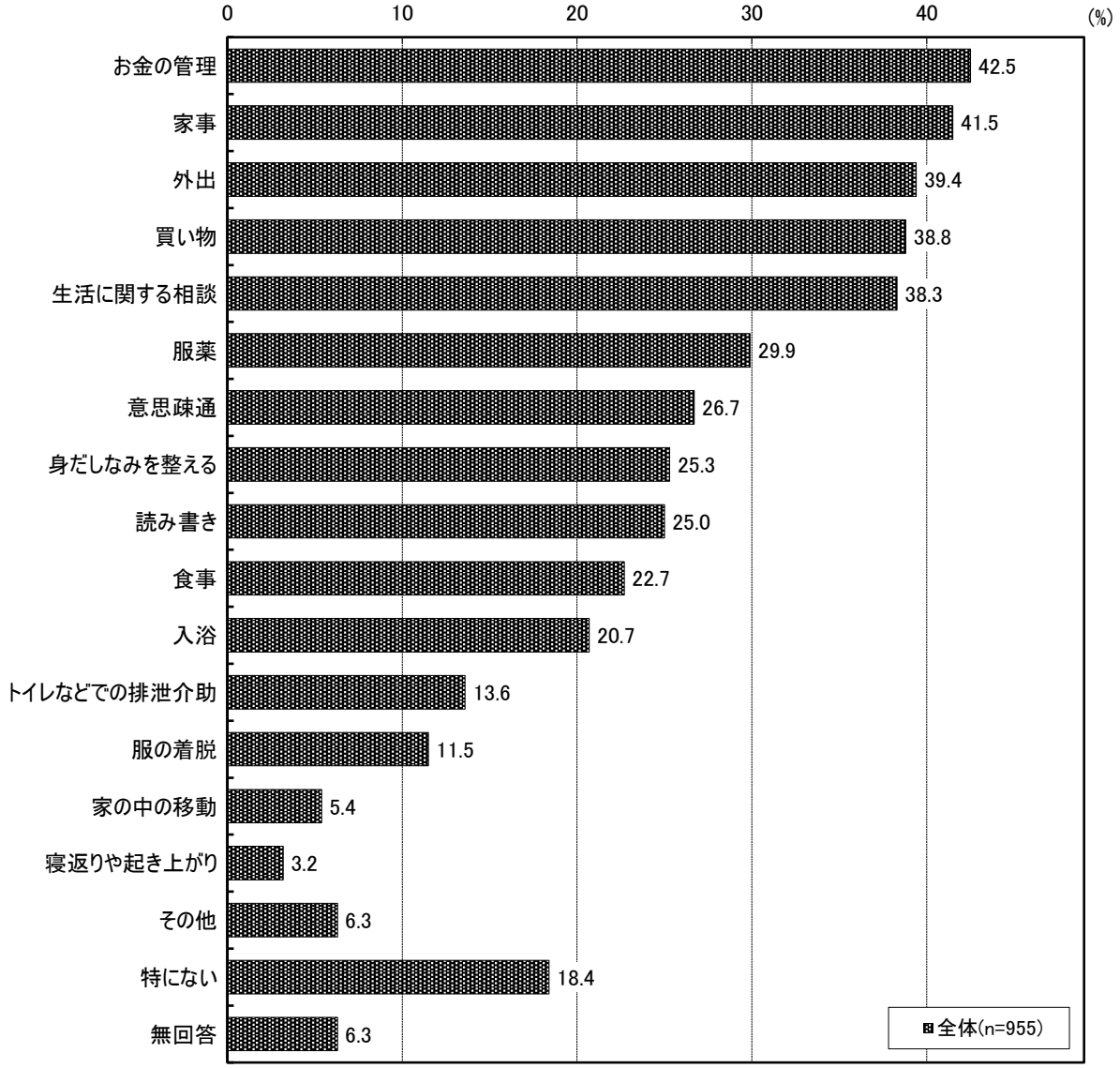
単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
食事	20.8	**43.1**	29.0	23.3	13.7	16.8
トイレなどでの排泄介助	13.8	**37.9**	18.8	14.6	7.3	10.6
入浴	22.0	**53.4**	26.1	21.4	13.4	19.4
身だしなみを整える	17.6	**51.7**	26.1	21.4	10.4	9.2
服の着脱	14.5	**36.2**	15.9	12.6	9.5	12.8
寝返りや起き上がり	6.5	12.1	5.8	3.9	4.6	8.1
家の中の移動	8.3	16.4	10.1	6.8	4.6	9.5
買い物	28.8	**56.0**	29.0	24.3	18.6	31.9
外出	30.8	**62.1**	37.7	30.1	19.2	30.8
意思疎通	18.4	**56.0**	**29.0**	26.2	11.6	4.8
服薬	20.8	**52.6**	**31.9**	25.2	13.1	12.8
家事	28.8	**50.9**	**40.6**	27.2	24.1	22.3
お金の管理	22.9	**53.4**	**37.7**	31.1	15.9	12.5
読み書き	15.1	**51.7**	17.4	18.4	7.3	7.3
生活に関する相談	20.1	**40.5**	**30.4**	25.2	19.2	8.4
その他	6.8	6.9	7.2	10.7	7.0	5.1
特にない	37.3	11.2	23.2	41.7	43.9	42.1
無回答	2.0	0.9	0.0	1.9	1.8	2.9

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
食事	21.8	**50.3**	15.4	**33.5**	28.1	**35.5**
トイレなどでの排泄介助	17.4	**39.2**	4.0	**28.0**	13.7	**28.7**
入浴	25.0	**52.9**	11.4	**33.5**	26.0	**38.8**
身だしなみを整える	18.0	**53.4**	9.4	24.2	**29.5**	**32.1**
服の着脱	19.0	**34.9**	5.4	**29.8**	11.6	**27.5**
寝返りや起き上がり	9.8	12.7	2.3	15.5	1.4	13.8
家の中の移動	13.2	18.0	3.0	**20.5**	1.4	17.4
買い物	29.7	**54.5**	22.8	36.6	35.6	**41.6**
外出	32.5	**61.9**	21.5	**41.6**	38.4	**47.4**
意思疎通	14.0	**59.8**	15.1	22.4	**45.9**	**30.3**
服薬	18.2	**53.4**	18.1	26.1	**39.0**	**32.7**
家事	25.9	**53.4**	29.2	26.7	**43.8**	37.9
お金の管理	17.2	**62.4**	24.2	22.4	**47.9**	32.1
読み書き	14.2	**52.4**	6.4	18.0	**34.2**	**27.8**
生活に関する相談	15.0	**43.4**	25.2	19.9	**41.1**	24.8
その他	5.8	4.8	8.7	5.0	8.9	4.9
特にない	42.7	11.6	33.6	33.5	13.7	28.7
無回答	2.2	0.5	2.0	1.9	0.0	3.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「お金の管理」が42.5％と最も多く、次いで「家事」が41.5％、「外出」が39.4％、「買い物」が38.8％、「生活に関する相談」が38.3％、「服薬」が29.9％、「意思疎通」が26.7％となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、18歳～29歳で「お金の管理」が63.3％、「家事」が54.3％、「生活に関する相談」が50.2％となるなど、多くの内容で支援を必要としています。30歳～39歳でも「生活に関する相談」が51.1％と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、強度行動障がい、重度障がい、知的障がいで多くの支援を必要としています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
食事	22.7	32.1	28.9	16.1	15.4
トイレなどでの排泄介助	13.6	20.8	18.9	6.5	13.0
入浴	20.7	28.1	27.4	12.8	20.3
身だしなみを整える	25.3	34.4	34.7	17.6	17.1
服の着脱	11.5	13.1	14.7	7.8	12.2
寝返りや起き上がり	3.2	3.2	1.6	2.8	7.3
家の中の移動	5.4	4.1	5.3	5.5	7.3
買い物	38.8	47.5	41.6	33.0	37.4
外出	39.4	49.3	42.6	31.7	40.7
意思疎通	26.7	**41.6**	35.8	18.9	11.4
服薬	29.9	**40.7**	35.8	22.4	24.4
家事	41.5	**54.3**	47.9	34.5	30.9
お金の管理	42.5	**63.3**	51.1	33.2	25.2
読み書き	25.0	**38.0**	31.6	15.6	21.1
生活に関する相談	38.3	**50.2**	**51.1**	31.7	21.1
その他	6.3	5.4	5.8	7.3	4.1
特にない	18.4	13.6	18.9	19.1	23.6
無回答	6.3	1.8	5.3	7.1	10.6

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

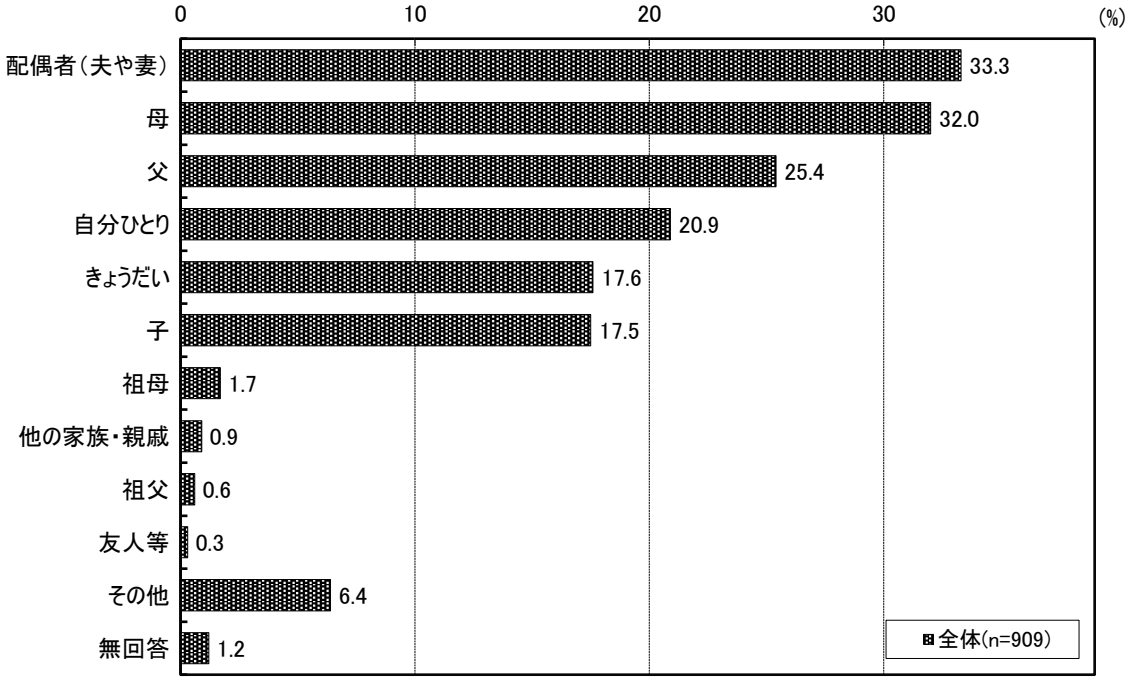
単位：%	身体障がい (n=257)	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい (n=388)
食事	28.4	**37.3**	14.2	20.5	28.2	**60.7**	**39.2**
トイレなどでの排泄介助	**24.1**	**25.9**	3.8	22.7	14.4	**54.1**	**31.7**
入浴	**32.3**	**37.0**	7.8	**30.7**	24.6	**68.9**	**45.1**
身だしなみを整える	33.1	**44.9**	13.5	27.3	32.4	**70.5**	**49.5**
服の着脱	**23.7**	19.8	2.9	20.5	10.6	**32.8**	**26.3**
寝返りや起き上がり	10.5	3.5	0.9	12.5	0.0	4.9	7.0
家の中の移動	**16.3**	7.2	2.2	14.8	1.1	6.6	11.3
買い物	**49.8**	**59.8**	24.6	**50.0**	46.1	**70.5**	**65.5**
外出	**51.8**	**59.3**	23.7	**51.1**	46.5	**82.0**	**69.3**
意思疎通	24.1	**47.4**	16.4	23.9	**42.6**	**78.7**	**46.1**
服薬	31.5	**48.4**	22.4	26.1	36.3	**78.7**	**51.8**
家事	44.7	**60.0**	34.8	33.0	51.4	**70.5**	**61.6**
お金の管理	36.6	**75.6**	31.7	28.4	**59.9**	**80.3**	**63.4**
読み書き	33.1	**48.4**	9.3	23.9	31.7	**68.9**	**53.6**
生活に関する相談	30.4	**54.1**	39.0	23.9	**49.3**	**68.9**	46.6
その他	5.4	4.4	9.1	4.5	7.0	6.6	3.6
特にない	18.7	9.1	19.1	26.1	10.9	3.3	8.2
無回答	7.4	4.4	6.2	6.8	4.9	1.6	6.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

② 同居者の状況

◆あなたは、現在、どなたと暮らしていますか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者計画アンケート



○「配偶者（夫や妻)」が33.3％と最も多く、次いで「母」が32.0％、「父」が25.4％、「自分ひとり」が20.9％、「きょうだい」が17.6％、「子」が17.5％となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「父」「母」「きょうだい」は０歳～17歳、18歳～29歳で多く、「配偶者（夫や妻)」は65歳以上で52.4％と比較的多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいや発達障がいで「父」「母」「きょうだい」が多くみられます。

（属性別クロス集計）

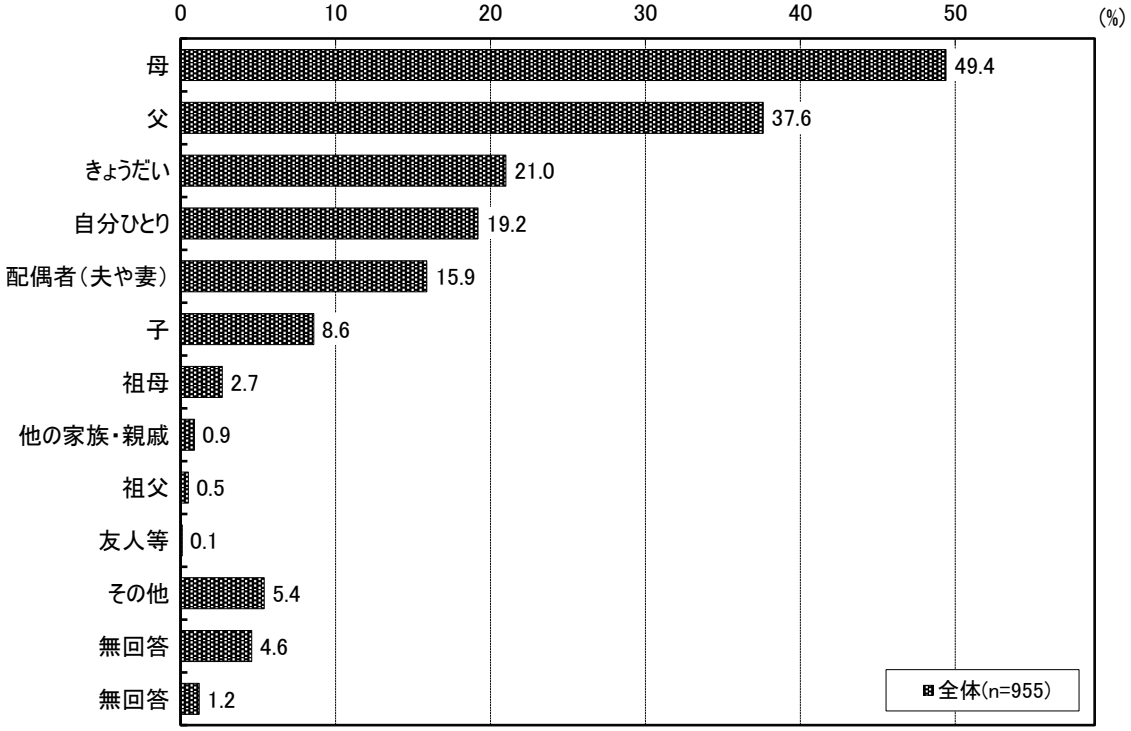
単位：％	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
父	25.4	**90.5**	**60.9**	35.0	14.0	0.0
母	32.0	**94.8**	**72.5**	**52.4**	21.3	1.5
配偶者（夫や妻）	33.3	0.9	4.3	23.3	38.7	**52.4**
祖父	0.6	0.9	0.0	1.9	0.3	0.0
祖母	1.7	5.2	5.8	1.9	0.6	0.0
きょうだい	17.6	**66.4**	**42.0**	17.5	8.8	1.5
子	17.5	0.9	1.4	14.6	25.0	20.9
他の家族・親戚	0.9	0.9	0.0	1.0	0.9	0.7
友人等	0.3	0.0	0.0	1.0	0.0	0.7
自分ひとり	20.9	0.0	11.6	16.5	25.6	27.8
その他	6.4	0.0	8.7	10.7	6.7	7.0
無回答	1.2	0.9	0.0	0.0	1.2	1.5

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
父	18.4	**69.3**	21.5	32.3	**62.3**	27.8
母	23.0	**81.5**	29.5	35.4	**72.6**	36.1
配偶者（夫や妻）	42.1	3.2	27.5	33.5	7.5	33.6
祖父	0.4	1.1	0.7	0.6	1.4	0.3
祖母	1.6	3.7	1.3	2.5	4.8	1.2
きょうだい	12.0	**48.7**	12.8	20.5	**45.2**	18.3
子	21.0	1.6	16.4	12.4	4.1	15.6
他の家族・親戚	1.0	0.5	1.0	1.9	0.7	0.9
友人等	0.4	0.5	0.0	0.0	0.7	0.3
自分ひとり	20.4	2.6	28.5	17.4	8.9	15.9
その他	6.4	13.2	5.4	5.6	6.2	9.2
無回答	0.8	1.6	2.0	1.9	0.7	1.8

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「母」が49.4%と最も多く、次いで「父」が37.6%、「きょうだい」が21.0%、「自分ひとり」が19.2%、「配偶者（夫や妻)」が15.9%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「母」「父」「きょうだい」は18歳～29歳、30歳～39歳で多く、「配偶者（夫や妻)」は65歳以上で47.2%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいや発達障がい、強度行動障がい、重度障がいで「母」「父」と暮らす人が多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
父	37.6	**67.0**	**55.3**	24.4	2.4
母	49.4	**83.3**	**66.3**	36.5	4.9
配偶者（夫や妻）	15.9	1.8	5.8	19.4	**47.2**
祖父	0.5	1.8	0.5	0.0	0.0
祖母	2.7	7.7	4.7	0.0	0.0
きょうだい	21.0	**45.2**	19.5	13.4	5.7
子	8.6	0.0	7.4	12.6	14.6
他の家族・親戚	0.9	1.4	0.0	0.8	1.6
友人等	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0
自分ひとり	19.2	7.2	13.2	26.4	26.8
その他	5.4	4.1	4.7	6.3	5.7
無回答	4.6	0.5	4.7	5.3	6.5

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

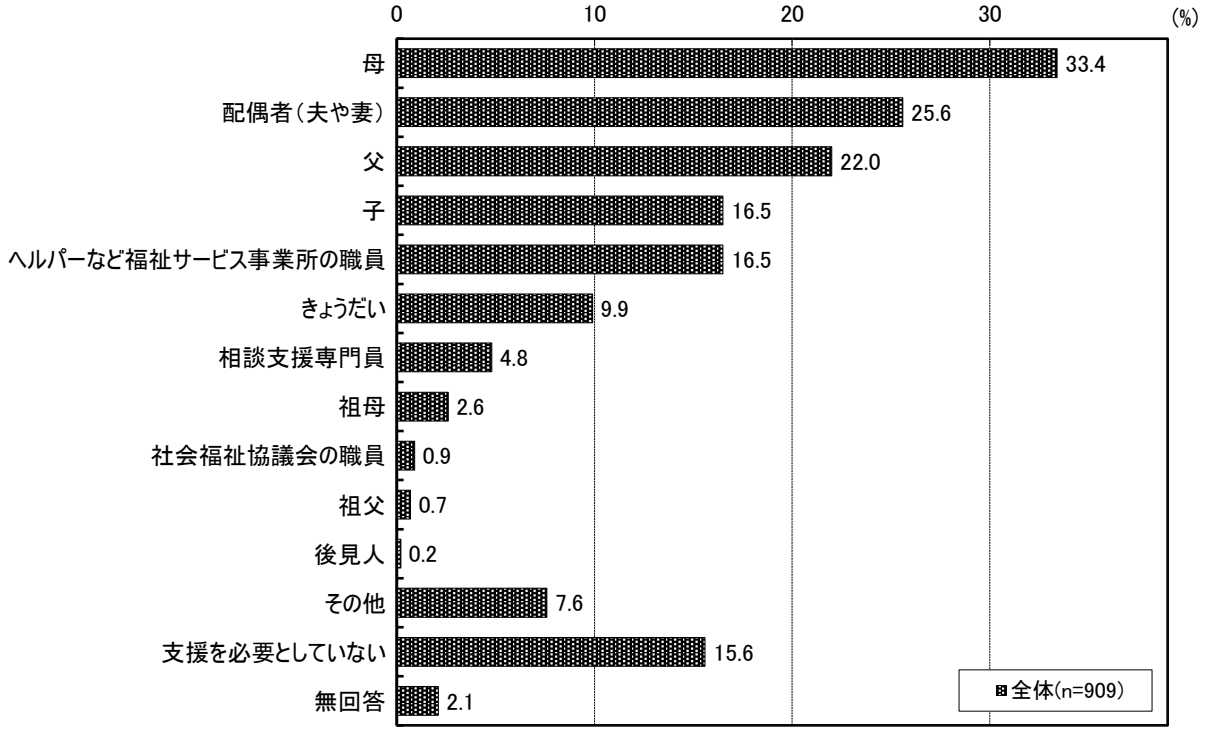
単位：%	身体障がい (n=257)	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい (n=388)
父	30.0	**62.0**	27.5	23.9	**53.5**	**55.7**	**47.9**
母	37.0	**77.3**	41.7	25.0	**69.0**	**78.7**	**60.8**
配偶者（夫や妻）	24.1	1.7	14.4	**43.2**	3.9	4.9	12.4
祖父	0.4	1.0	0.0	1.1	1.1	0.0	1.0
祖母	2.7	4.4	2.0	2.3	3.5	1.6	3.4
きょうだい	16.7	30.6	18.4	9.1	28.9	27.9	24.5
子	11.3	0.7	9.1	**20.5**	4.6	1.6	5.4
他の家族・親戚	0.8	1.0	1.1	1.1	0.4	0.0	0.8
友人等	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
自分ひとり	20.6	6.2	28.4	12.5	13.7	9.8	9.8
その他	6.6	8.1	4.2	9.1	5.3	4.9	7.0
無回答	5.1	3.2	5.3	3.4	3.9	1.6	4.9

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

③ 主な支援者・養育者

◆あなたを主に支援しているのはどなたですか。（あてはまるもの３つまでに○）

障がい者計画アンケート



○「母」が33.4%と最も多く、次いで「配偶者（夫や妻)」が25.6%、「父」が22.0%、「子」と「ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員」がそれぞれ16.5%、「支援を必要としていない」が15.6%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「母」「父」は０歳から39歳にかけて「配偶者（夫や妻)」「子」は65歳以上は多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「母」「父」は知的障がいや発達障がいで多く、「ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員」も知的障がいで26.5%と多くみられます。

（属性別クロス集計）

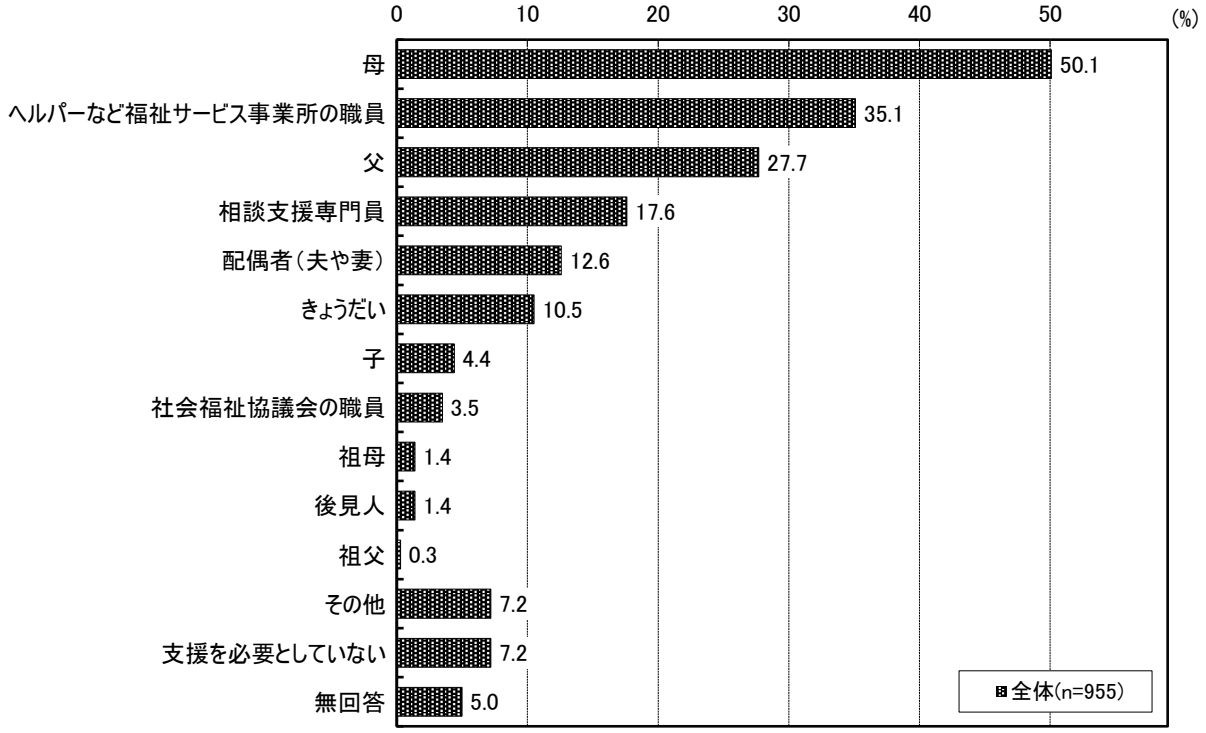
単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
父	22.0	**73.3**	**50.7**	**34.0**	12.5	0.0
母	33.4	**94.0**	**78.3**	**55.3**	23.5	0.7
配偶者（夫や妻）	25.6	0.0	4.3	12.6	31.7	**40.3**
祖父	0.7	1.7	0.0	1.9	0.3	0.0
祖母	2.6	**12.9**	5.8	2.9	0.3	0.0
きょうだい	9.9	10.3	15.9	9.7	12.5	4.8
子	16.5	0.9	0.0	0.0	12.8	**38.1**
後見人	0.2	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0
相談支援専門員	4.8	3.4	5.8	4.9	6.7	2.9
社会福祉協議会の職員	0.9	0.0	2.9	0.0	0.9	1.1
ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員	16.5	12.9	17.4	19.4	12.5	22.0
その他	7.6	2.6	5.8	8.7	8.2	8.1
支援を必要としていない	15.6	0.0	10.1	19.4	22.0	14.7
無回答	2.1	1.7	1.4	0.0	1.8	2.6

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
父	15.2	**58.7**	21.5	29.8	**51.4**	25.1
母	23.4	**84.1**	33.2	37.9	**76.7**	38.8
配偶者（夫や妻）	31.3	2.1	23.8	31.1	5.5	27.8
祖父	0.4	0.5	0.7	0.6	1.4	0.3
祖母	2.6	5.8	1.3	5.6	6.8	2.8
きょうだい	7.2	17.5	10.7	8.7	15.1	9.5
子	22.8	0.5	11.4	18.6	0.7	17.4
後見人	0.2	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0
相談支援専門員	2.4	6.3	9.4	3.7	9.6	3.4
社会福祉協議会の職員	0.6	1.6	2.0	0.0	1.4	0.3
ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員	18.2	**26.5**	15.8	19.3	14.4	24.8
その他	7.2	3.7	10.1	8.1	9.6	8.6
支援を必要としていない	17.6	1.6	14.8	12.4	4.8	10.1
無回答	2.2	2.1	2.0	1.9	0.7	2.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「母」が50.1％と最も多く、次いで「ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員」が35.1％、「父」が27.7％、「相談支援専門員」が17.6％、「配偶者（夫や妻）」が12.6％、「きょうだい」が10.5％となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「母」「父」は18歳～29歳、30歳～39歳で多く、「配偶者（夫や妻）」は65歳以上で37.4％と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「母」「父」は知的障がいや発達障がい、強度行動障がい、重度障がいで多く、「ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員」は強度行動障がいで60.7％と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
父	27.7	**46.6**	**39.5**	20.7	2.4
母	50.1	**79.6**	**68.4**	39.3	4.9
配偶者（夫や妻）	12.6	1.8	4.2	15.1	**37.4**
祖父	0.3	1.4	0.0	0.0	0.0
祖母	1.4	4.1	2.1	0.0	0.0
きょうだい	10.5	8.1	6.8	13.1	13.0
子	4.4	0.0	0.5	4.5	17.1
後見人	1.4	0.0	0.0	2.3	3.3
相談支援専門員	17.6	15.8	15.8	19.6	18.7
社会福祉協議会の職員	3.5	1.4	2.1	5.5	3.3
ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員	35.1	26.2	38.4	37.3	38.2
その他	7.2	6.3	2.6	9.8	6.5
支援を必要としていない	7.2	5.4	7.4	7.6	10.6
無回答	5.0	0.9	5.3	5.3	7.3

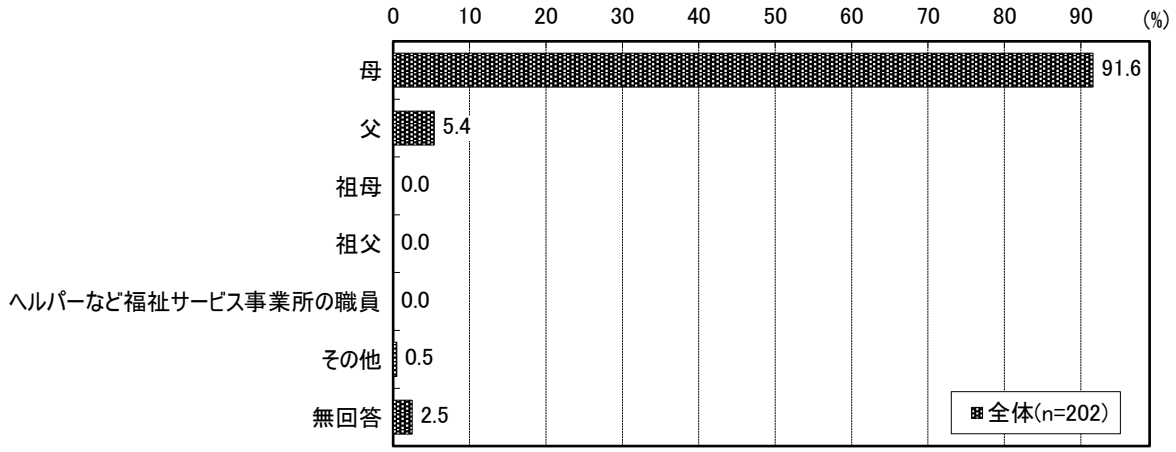
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=257)	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい (n=388)
父	22.2	**42.5**	21.5	19.3	**40.5**	**41.0**	**34.8**
母	37.0	**78.8**	44.8	22.7	**70.8**	**88.5**	**63.4**
配偶者（夫や妻）	18.7	1.2	13.1	**33.0**	3.2	4.9	9.8
祖父	0.0	0.5	0.4	0.0	0.7	0.0	0.3
祖母	1.2	2.5	1.1	1.1	2.5	0.0	2.1
きょうだい	11.3	10.9	10.4	6.8	9.2	13.1	12.9
子	10.5	0.0	2.9	**14.8**	0.7	0.0	5.7
後見人	1.2	1.5	1.8	0.0	0.0	0.0	0.5
相談支援専門員	10.9	13.8	27.5	12.5	20.1	9.8	11.1
社会福祉協議会の職員	1.6	3.7	5.5	0.0	3.9	0.0	1.8
ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員	33.5	40.0	36.4	23.9	41.2	**60.7**	42.3
その他	3.9	4.4	11.1	8.0	5.6	6.6	3.9
支援を必要としていない	11.3	0.7	5.8	17.0	2.8	1.6	3.6
無回答	5.4	4.0	5.3	3.4	3.9	1.6	5.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆お子さん（ご本人）を主に養育しているのはどなたですか。（あてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート

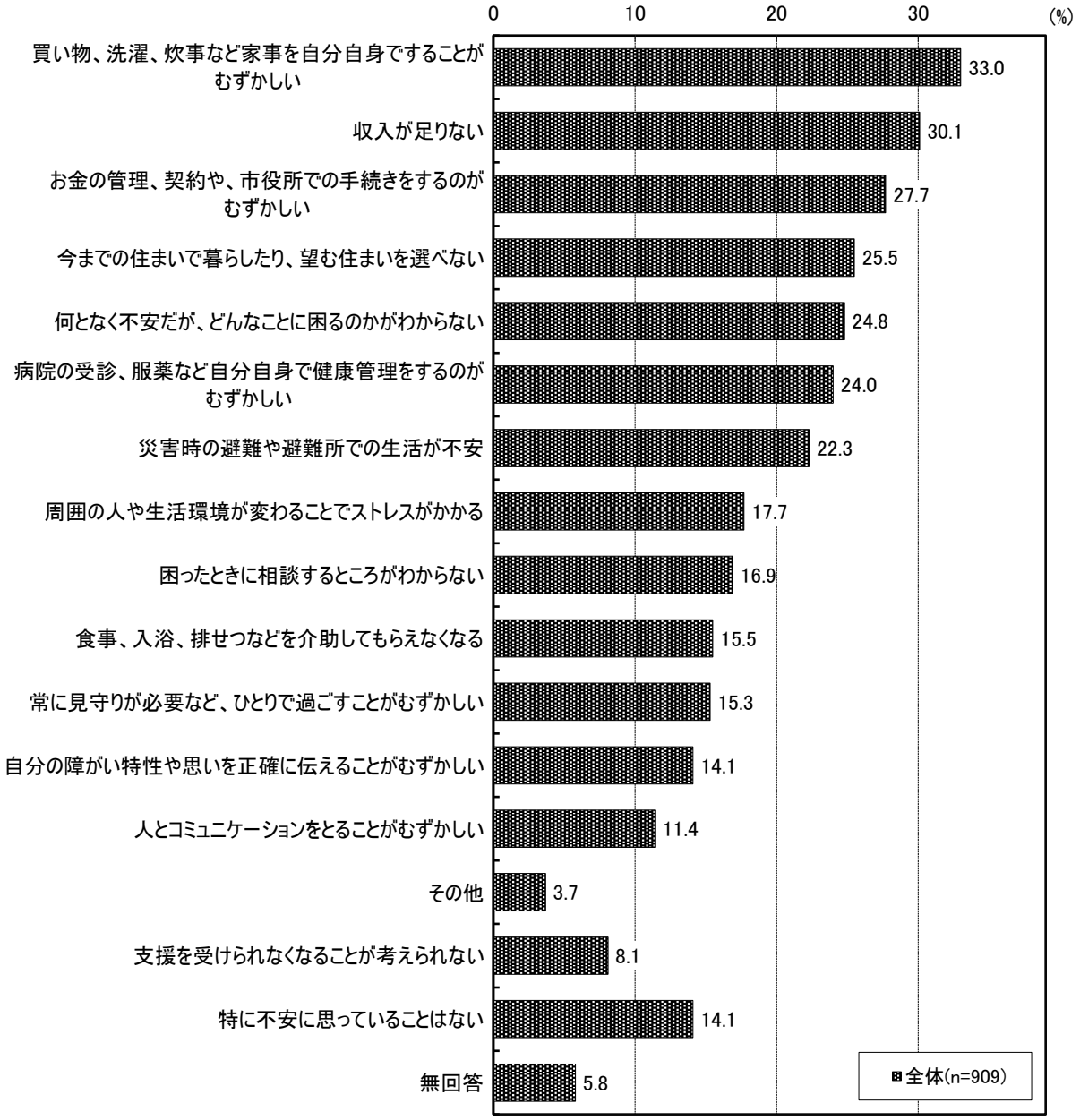


○「母」が91.6%と中心的役割を担っています。

④ 家族などの支援が受けられなくなった場合の不安

◆現在一緒に暮らしている人と、暮らせなくなったときや一緒に暮らしている人の支援が受けられなくなったときに、不安なことはありますか。（あてはまるもの５つまでに○）

障がい者計画アンケート



○「買い物、洗濯、炊事など家事を自分自身ですることがむずかしい」が33.0%と最も多く、次いで「収入が足りない」が30.1%、「お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい」が27.7%、「今までの住まいで暮らしたり、望む住まいを選べない」が25.5%、「何となく不安だが、どんなことに困るのかがわからない」が24.8%、「病院の受診、服薬など自分自身で健康管理をするのがむずかしい」が24.0%、「災害時の避難や避難所での生活が不安」が22.3%となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、０歳～17歳で「買い物、洗濯、炊事など家事を自分自身ですることがむずかしい」が56.0%、「病院の受診、服薬など自分自身で健康管理をするのがむずかしい」が50.0%、「お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい」が49.1%、「常に見守りが必要など、ひとりで過ごすことがむずかしい」が44.8%と多くみられます。18歳～29歳では「買い物、洗濯、炊事など家事を自分自身ですることがむずかしい」が43.5%、「お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい」が39.1%、「困ったときに相談するところがわからない」が29.0%、30歳～39歳でも「お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい」が37.9%と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいや発達障がいで「お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい」「買い物、洗濯、炊事など家事を自分自身ですることがむずかしい」など非常に多くの項目で不安に思う人が多くみられます。精神障がいでは「収入が足りない」が41.6%と特に多くなっています。

（属性別クロス集計）

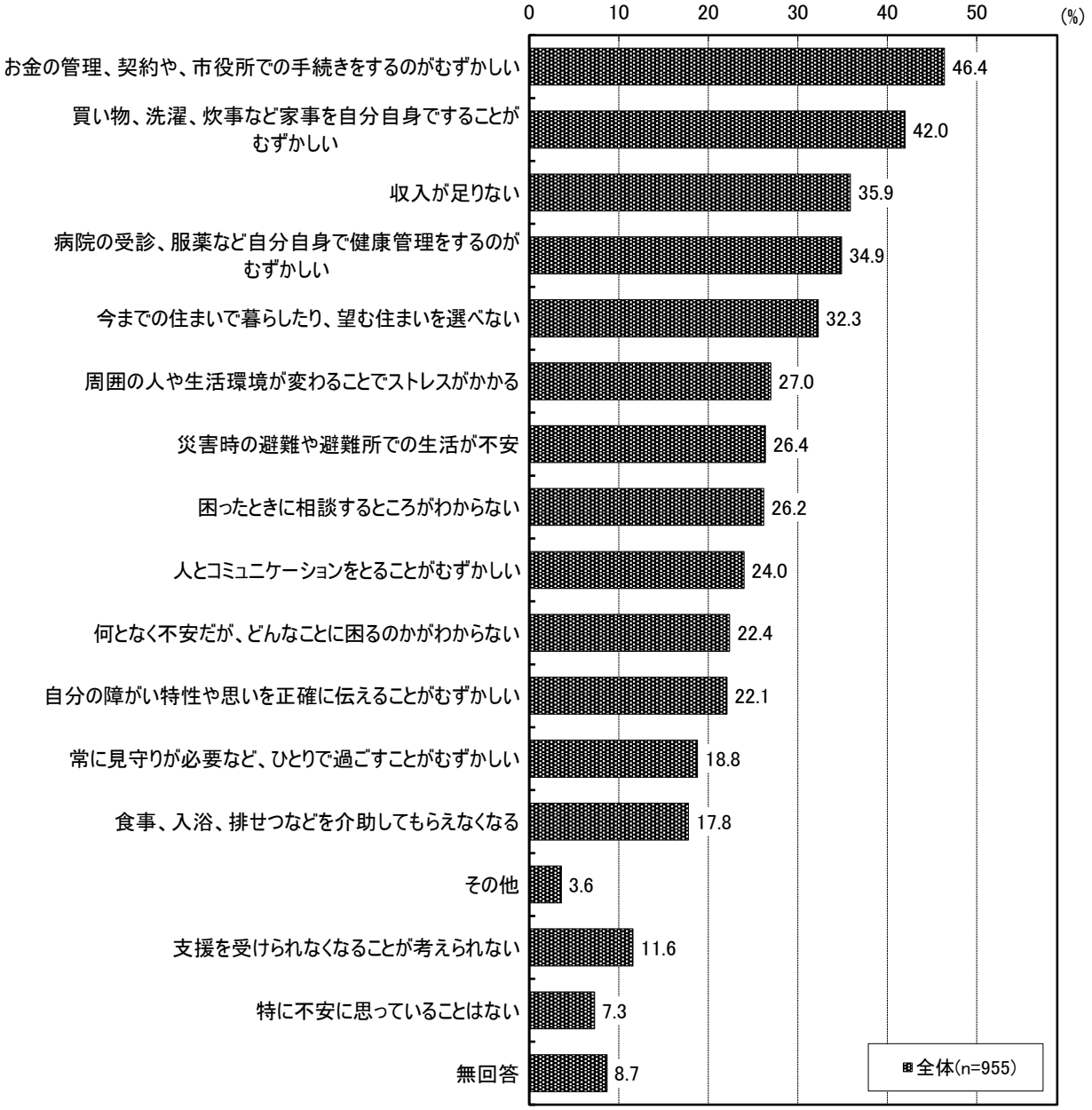
単位：％	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
今までの住まいで暮らしたり、望む住まいを選べない	25.5	34.5	29.0	29.1	27.1	17.6
食事、入浴、排せつなどを介助してもらえなくなる	15.5	**31.9**	17.4	16.5	8.2	16.8
買い物、洗濯、炊事など家事を自分自身ですることがむずかしい	33.0	**56.0**	**43.5**	32.0	25.3	30.4
常に見守りが必要など、ひとりで過ごすことがむずかしい	15.3	**44.8**	21.7	19.4	8.5	8.4
病院の受診、服薬など自分自身で健康管理をするのがむずかしい	24.0	**50.0**	29.0	24.3	14.0	23.8
お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい	27.7	**49.1**	**39.1**	**37.9**	22.3	18.7
困ったときに相談するところがわからない	16.9	19.0	**29.0**	18.4	19.5	9.5
自分の障がい特性や思いを正確に伝えることがむずかしい	14.1	23.3	23.2	23.3	14.6	3.7
人とコミュニケーションをとることがむずかしい	11.4	**25.9**	14.5	18.4	10.7	3.3
収入が足りない	30.1	21.6	33.3	38.8	35.7	21.6
周囲の人や生活環境が変わることでストレスがかかる	17.7	11.2	24.6	27.2	20.1	12.5
災害時の避難や避難所での生活が不安	22.3	14.7	20.3	23.3	21.6	26.4
何となく不安だが、どんなことに困るのかがわからない	24.8	18.1	21.7	16.5	26.5	28.6
その他	3.7	7.8	4.3	3.9	2.1	4.0
支援を受けられなくなることが考えられない	8.1	11.2	8.7	7.8	7.3	8.1
特に不安に思っていることはない	14.1	5.2	13.0	16.5	16.5	15.4
無回答	5.8	0.9	1.4	1.0	5.2	11.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
今までの住まいで暮らしたり、望む住まいを選べない	23.2	32.8	29.9	27.3	34.2	26.6
食事、入浴、排せつなどを介助してもらえなくなる	20.0	**30.7**	7.7	23.0	15.1	**28.7**
買い物、洗濯、炊事など家事を自分自身ですることがむずかしい	32.3	**57.1**	26.5	35.4	**53.4**	41.0
常に見守りが必要など、ひとりで過ごすことがむずかしい	14.6	**47.1**	9.4	17.4	**26.7**	**29.4**
病院の受診、服薬など自分自身で健康管理をするのがむずかしい	24.0	**49.2**	20.5	28.6	**39.0**	33.3
お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい	20.2	**57.7**	31.9	21.7	**56.2**	28.4
困ったときに相談するところがわからない	13.8	19.6	22.5	12.4	**30.8**	15.0
自分の障がい特性や思いを正確に伝えることがむずかしい	7.4	**30.7**	19.1	8.7	**34.2**	13.1
人とコミュニケーションをとることがむずかしい	7.2	**27.0**	14.4	9.9	**30.8**	14.1
収入が足りない	25.5	23.3	**41.6**	22.4	33.6	22.3
周囲の人や生活環境が変わることでストレスがかかる	11.4	18.0	**29.5**	11.8	**29.5**	13.8
災害時の避難や避難所での生活が不安	26.3	21.7	16.8	22.4	16.4	29.1
何となく不安だが、どんなことに困るのかがわからない	26.5	13.2	26.2	19.9	20.5	22.0
その他	3.8	4.8	2.0	5.6	5.5	3.7
支援を受けられなくなることが考えられない	8.0	12.7	7.0	7.5	8.9	11.0
特に不安に思っていることはない	15.0	5.8	10.7	14.3	6.2	9.2
無回答	5.0	2.6	8.7	6.8	0.7	5.8

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい」が46.4%と最も多く、次いで「買い物、洗濯、炊事など家事を自分自身ですることがむずかしい」が42.0%、「収入が足りない」が35.9%、「病院の受診、服薬など自分自身で健康管理をするのがむずかしい」が34.9%、「今までの住まいで暮らしたり、望む住まいを選べない」が32.3%、「周囲の人や生活環境が変わることでストレスがかかる」が27.0%、「災害時の避難や避難所での生活が不安」が26.4%、「困ったときに相談するところがわからない」が26.2%、「人とコミュニケーションをとることがむずかしい」が24.0%の順となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、18歳～29歳で「お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい」が67.4%、「病院の受診、服薬など自分自身で健康管理をするのがむずかしい」が46.2%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいや発達障がい、強度行動障がい、重度障がいで「買い物、洗濯、炊事など家事を自分自身ですることがむずかしい」「お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい」など非常に多くの項目で不安に思う人が多くみられます。身体障がいでは「災害時の避難や避難所での生活が不安」が38.1％と比較的多くなっています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
今までの住まいで暮らしたり、望む住まいを選べない	32.3	35.3	35.8	32.7	21.1
食事、入浴、排せつなどを介助してもらえなくなる	17.8	21.7	23.7	11.8	18.7
買い物、洗濯、炊事など家事を自分自身ですることがむずかしい	42.0	50.2	46.8	36.8	36.6
常に見守りが必要など、ひとりで過ごすことがむずかしい	18.8	26.7	23.2	13.4	13.8
病院の受診、服薬など自分自身で健康管理をするのがむずかしい	34.9	**46.2**	42.6	26.2	30.1
お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい	46.4	**67.4**	51.1	37.0	32.5
困ったときに相談するところがわからない	26.2	33.0	25.3	25.4	20.3
自分の障がい特性や思いを正確に伝えることがむずかしい	22.1	31.7	27.9	17.1	12.2
人とコミュニケーションをとることがむずかしい	24.0	28.5	31.6	21.9	12.2
収入が足りない	35.9	38.9	38.4	37.3	24.4
周囲の人や生活環境が変わることでストレスがかかる	27.0	27.1	34.2	26.4	17.9
災害時の避難や避難所での生活が不安	26.4	22.2	25.8	25.9	35.0
何となく不安だが、どんなことに困るのかがわからない	22.4	22.6	22.1	21.2	28.5
その他	3.6	4.1	5.3	2.8	2.4
支援を受けられなくなることが考えられない	11.6	8.1	14.7	12.3	8.9
特に不安に思っていることはない	7.3	3.6	6.8	9.8	8.1
無回答	8.7	2.3	6.8	9.3	15.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=257)	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい (n=388)
今までの住まいで暮らしたり、望む住まいを選べない	34.6	38.3	30.6	29.5	34.2	**55.7**	40.7
食事、入浴、排せつなどを介助してもらえなくなる	26.5	**33.1**	7.3	19.3	20.8	**52.5**	**37.6**
買い物、洗濯、炊事など家事を自分自身ですることがむずかしい	45.1	**62.5**	31.9	42.0	**53.2**	**67.2**	**61.9**
常に見守りが必要など、ひとりで過ごすことがむずかしい	20.6	**35.1**	10.9	17.0	25.7	**63.9**	**37.6**
病院の受診、服薬など自分自身で健康管理をするのがむずかしい	37.7	**60.7**	22.6	31.8	42.6	**65.6**	**58.8**
お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい	40.1	**73.8**	39.5	31.8	**63.0**	**57.4**	**58.0**
困ったときに相談するところがわからない	22.6	31.9	28.6	18.2	30.6	29.5	25.0
自分の障がい特性や思いを正確に伝えることがむずかしい	16.3	**34.8**	20.6	14.8	**34.9**	**42.6**	28.1
人とコミュニケーションをとることがむずかしい	15.6	33.1	24.6	15.9	**35.2**	**42.6**	27.1
収入が足りない	27.6	29.9	43.9	29.5	36.6	32.8	26.3
周囲の人や生活環境が変わることでストレスがかかる	23.0	28.4	32.6	25.0	32.7	**49.2**	25.8
災害時の避難や避難所での生活が不安	**38.1**	28.9	22.6	33.0	26.1	**39.3**	35.3
何となく不安だが、どんなことに困るのかがわからない	20.6	19.5	24.6	27.3	23.9	19.7	18.0
その他	3.9	3.5	3.3	2.3	3.9	4.9	3.9
支援を受けられなくなることが考えられない	12.1	14.8	10.4	11.4	9.5	21.3	17.0
特に不安に思っていることはない	6.6	2.7	8.0	13.6	4.6	0.0	2.6
無回答	10.9	4.7	9.8	12.5	5.6	3.3	7.5

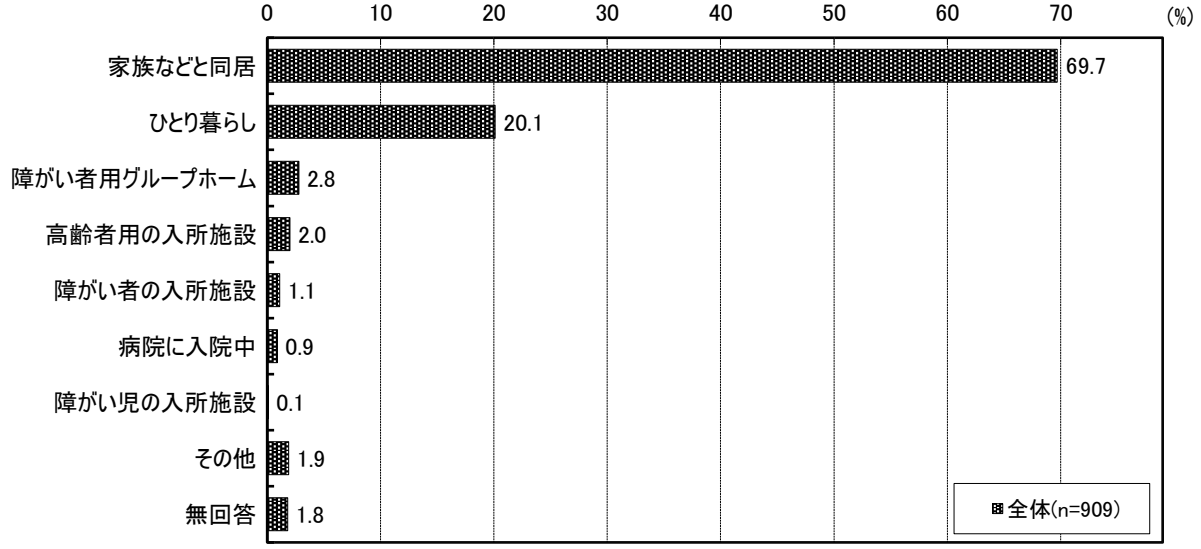
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

4　現在と将来の暮らし

① 現在の暮らし方

◆あなたは、現在、どこでどのように暮らしていますか。（あてはまるもの１つに○）

障がい者計画アンケート



○「家族などと同居」が69.7%と最も多く、次いで「ひとり暮らし」が20.1%、「障がい者用グループホーム」が2.8%、「高齢者用の入所施設」が2.0%、「障がい者の入所施設」が1.1%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「家族などと同居」は０歳～17歳で98.3%、18歳～29歳で81.2%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「家族などと同居」は発達障がいで84.9%、知的障がいで80.4%と多くなっています。

（属性別クロス集計）

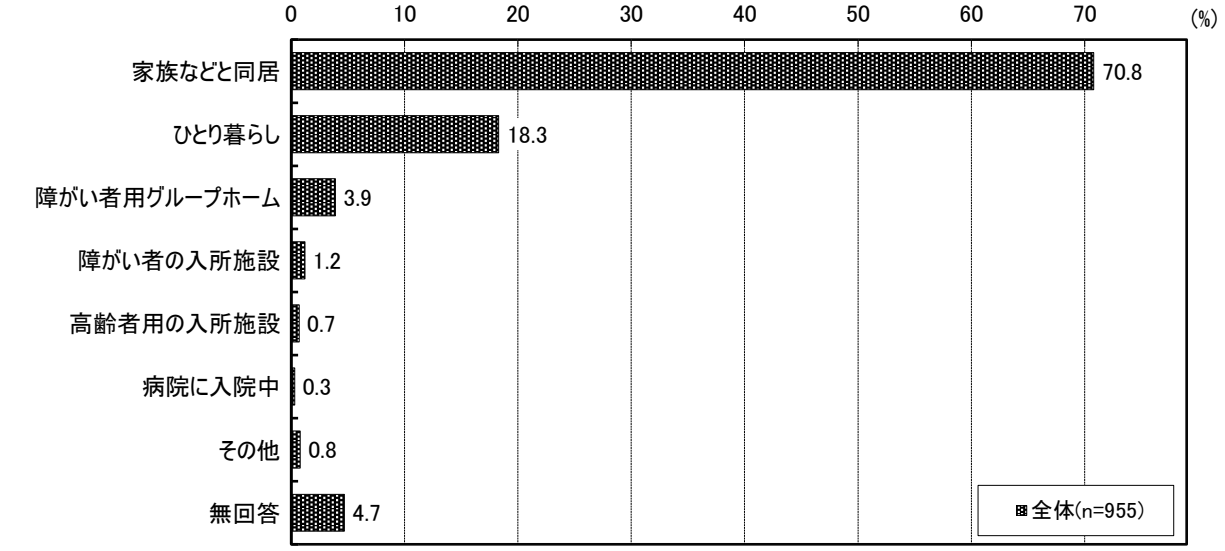
単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
ひとり暮らし	20.1	0.0	11.6	16.5	25.0	25.6
家族などと同居	69.7	**98.3**	**81.2**	72.8	64.0	61.2
障がい者用グループホーム	2.8	0.0	5.8	8.7	3.4	0.4
障がい者の入所施設	1.1	0.0	2.9	0.0	1.8	0.7
障がい児の入所施設	0.1	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
高齢者用の入所施設	2.0	0.0	0.0	0.0	1.2	5.1
病院に入院中	0.9	0.0	0.0	0.0	1.5	0.7
その他	1.9	0.0	0.0	1.9	1.2	4.0
無回答	1.8	1.7	0.0	0.0	1.8	2.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
ひとり暮らし	19.4	2.6	27.9	16.8	8.9	15.6
家族などと同居	70.7	**80.4**	63.8	72.7	**84.9**	70.9
障がい者用グループホーム	1.6	10.1	3.7	2.5	4.1	4.6
障がい者の入所施設	1.6	2.6	0.3	2.5	0.7	2.4
障がい児の入所施設	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.3
高齢者用の入所施設	2.4	0.0	0.7	1.9	0.0	2.1
病院に入院中	1.2	0.5	0.7	0.0	0.7	1.5
その他	2.6	1.1	1.0	1.2	0.7	1.5
無回答	1.0	3.2	2.0	2.5	0.7	1.5

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「家族などと同居」が70.8%と最も多く、次いで「ひとり暮らし」が18.3%、「障がい者用グループホーム」が3.9%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「家族などと同居」は18歳～29歳で88.2%と比較的多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「家族などと同居」は知的障がいで82.2%、強度行動障がいで82.0%となっています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
ひとり暮らし	18.3	7.7	12.6	25.2	24.4
家族などと同居	70.8	**88.2**	76.3	62.7	60.2
障がい者用グループホーム	3.9	3.6	3.2	5.5	0.8
障がい者の入所施設	1.2	0.5	2.1	1.0	0.8
高齢者用の入所施設	0.7	0.0	0.0	0.3	4.1
病院に入院中	0.3	0.0	0.0	0.8	0.0
その他	0.8	0.0	2.1	0.3	2.4
無回答	4.7	0.5	5.3	5.0	7.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

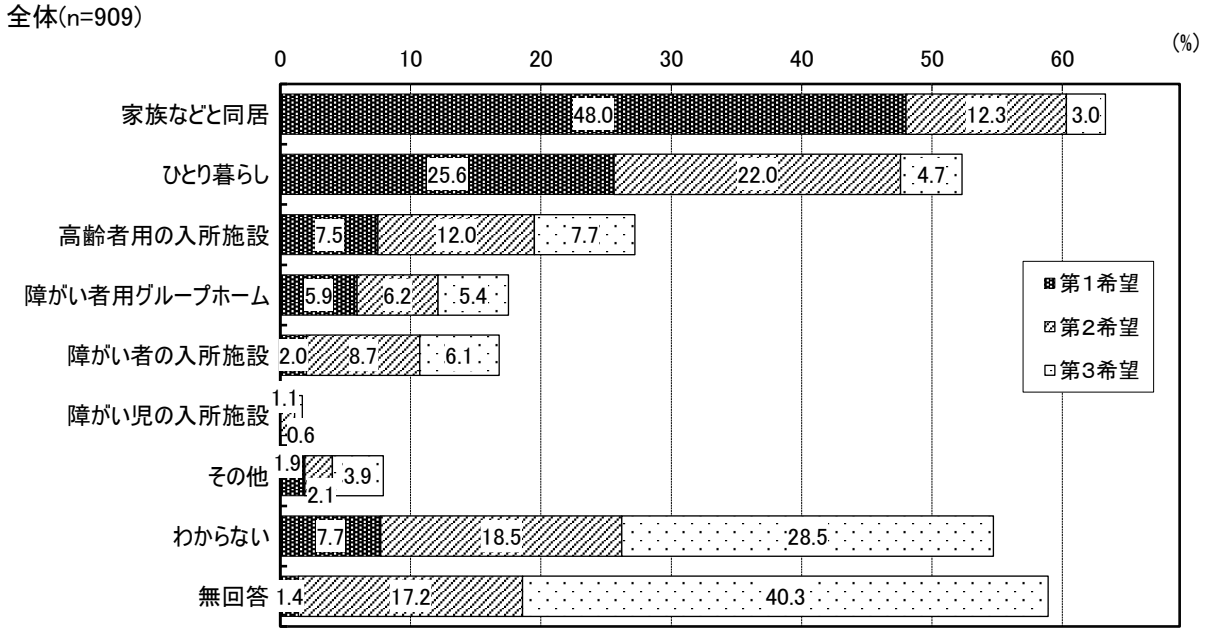
単位：%	身体障がい (n=257)	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい (n=388)
ひとり暮らし	19.5	5.7	27.3	13.6	13.7	9.8	9.3
家族などと同居	69.3	**82.2**	61.6	76.1	76.4	**82.0**	78.9
障がい者用グループホーム	3.5	7.4	3.8	1.1	4.6	6.6	5.7
障がい者の入所施設	1.6	2.0	0.7	1.1	1.1	1.6	1.8
高齢者用の入所施設	0.4	0.2	0.7	2.3	0.0	0.0	0.0
病院に入院中	0.4	0.2	0.2	1.1	0.0	0.0	0.3
その他	0.8	0.5	0.9	1.1	1.4	1.6	1.0
無回答	5.1	3.5	5.5	3.4	4.2	1.6	4.9

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

② 将来の暮らしの希望

◆あなたは、将来、どこでどのように暮らしたいですか。

障がい者計画アンケート



《第１希望》（あてはまるもの１つに○）

○「家族などと同居」が48.0％と最も多く、次いで「ひとり暮らし」が25.6％、「わからない」が7.7％、「高齢者用の入所施設」が7.5％、「障がい者用グループホーム」が5.9％となっています。

《第２希望》（第１希望で選んだものを除いて、あてはまるもの１つに○）

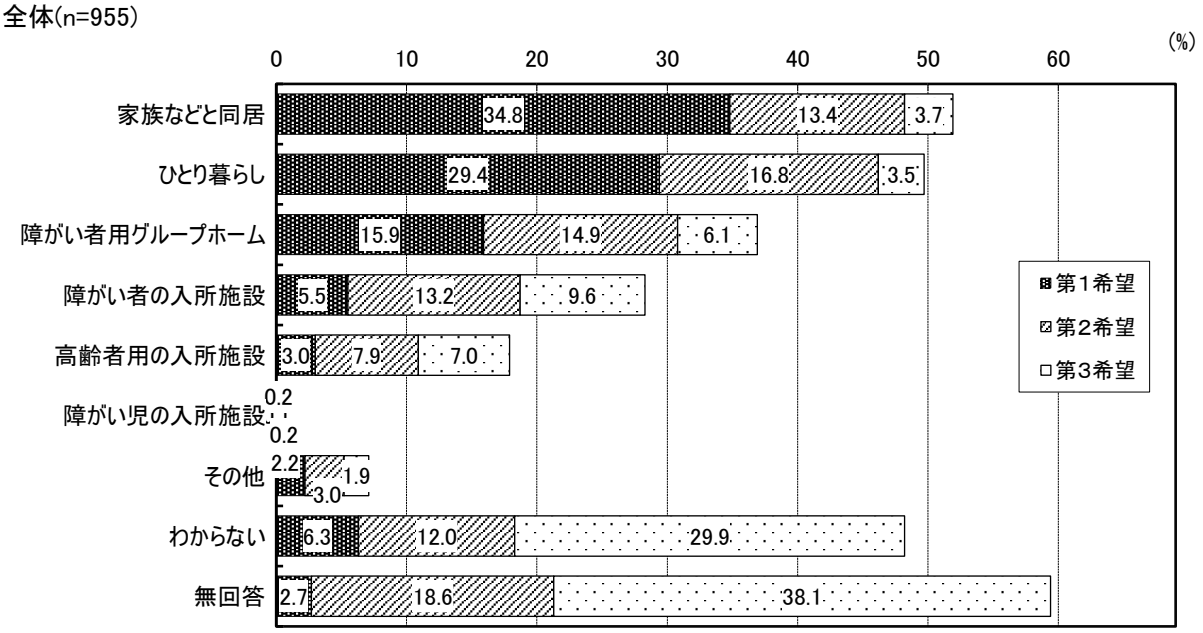
○「ひとり暮らし」が22.0％と最も多く、次いで「わからない」が18.5％、「家族などと同居」が12.3％、「高齢者用の入所施設」が12.0％、「障がい者の入所施設」が8.7％、「障がい者用グループホーム」が6.2％となっています。

《第３希望》（第１・第２希望で選んだものを除いて、あてはまるもの１つに○）

○「わからない」が28.5％と最も多く、次いで「高齢者用の入所施設」が7.7％、「障がい者の入所施設」が6.1％、「障がい者用グループホーム」が5.4％、「ひとり暮らし」が4.7％となっています。

支援プラン（18歳以上）アンケート

全体(n=955)



《第１希望》（あてはまるもの１つに○）

○「家族などと同居」が34.8％と最も多く、次いで「ひとり暮らし」が29.4％、「障がい者用グループホーム」が15.9％、「障がい者の入所施設」が5.5％となっています。

《第２希望》（第１希望で選んだものを除いて、あてはまるもの１つに○）

○「無回答」が18.6％と多いものの、回答では「ひとり暮らし」が16.8％、「障がい者用グループホーム」が14.9％、「家族などと同居」が13.4％、「障がい者の入所施設」が13.2％となっています。

《第３希望》（第１・第２希望で選んだものを除いて、あてはまるもの１つに○）

○「無回答」が38.1％、「わからない」が29.9％と第３希望まで具体的に想定していない人が多いことがうかがえます。回答では、「障がい者の入所施設」が9.6％、「高齢者用の入所施設」が7.0％、「障がい者用グループホーム」が6.1％となっています。

③ グループホームの利用希望時期

◆いつからグループホームを利用したいですか。（あてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳以上）アンケート



※将来、障がい者用グループホームで暮らしたいと答えた人に対する設問

○「３年後よりも後で」が63.0%と最も多く、「３年後までに」が18.5%となっています。

○強度行動障がいで「今すぐ」が22.7%、「３年後までに」が31.8%となっています。

④ 希望する暮らしの実現に必要なこと

◆あなたが、希望する暮らし方を実現するために、必要なことは何ですか。（あてはまるもの５つまでに○）

障がい者計画アンケート



○「緊急時や困ったときに相談できる場所があること」が45.2%と最も多く、次いで「どんな支援が受けられるか情報が得られること」が43.1%、「障がい年金や特別障がい者手当など、生活にかかるお金への支援が充実していること」が41.8%、「自分の障がい特性を理解し診てもらえる病院が近くにあること」が32.0%、「周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること」と「タクシーなど外出する際に必要なお金への支援があること」がそれぞれ23.7%となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、０歳～17歳で「お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実)」が37.9%、「周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること」が36.2%、「入居できる障がい者グループホームが多くあること」と「日中に通う場所があること」がそれぞれ35.3%、「自分の障がい特性の理解や配慮がある学校が近くにあること」が31.9%と多くなっています。また、18歳～29歳で「お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実)」が30.4%、30歳～39歳で「周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること」が34.0%、65歳以上で「タクシーなど外出する際に必要なお金への支援があること」が35.2%とそれぞれ多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実)」は知的障がいで42.3%、発達障がいで40.4%、「日中に通う場所があること」は知的障がいで40.2%、「入居できる障がい者グループホームが多くあること」も知的障がいで37.6%、発達障がいで27.4%と多くみられます。また、「コミュニケーションの支援や意思疎通の支援があること」は発達障がいで33.6%、知的障がいで28.0%、「周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること」は発達障がいで39.0%、「働きはじめることや、働き続けることへの支援があること」は発達障がいで32.9%、「日常生活の介護への支援が充実していること」は重度障がいで33.9%、難病・小児慢性疾患で31.7%、知的障がいで30.7%とそれぞれ多くみられます。

（属性別クロス集計）

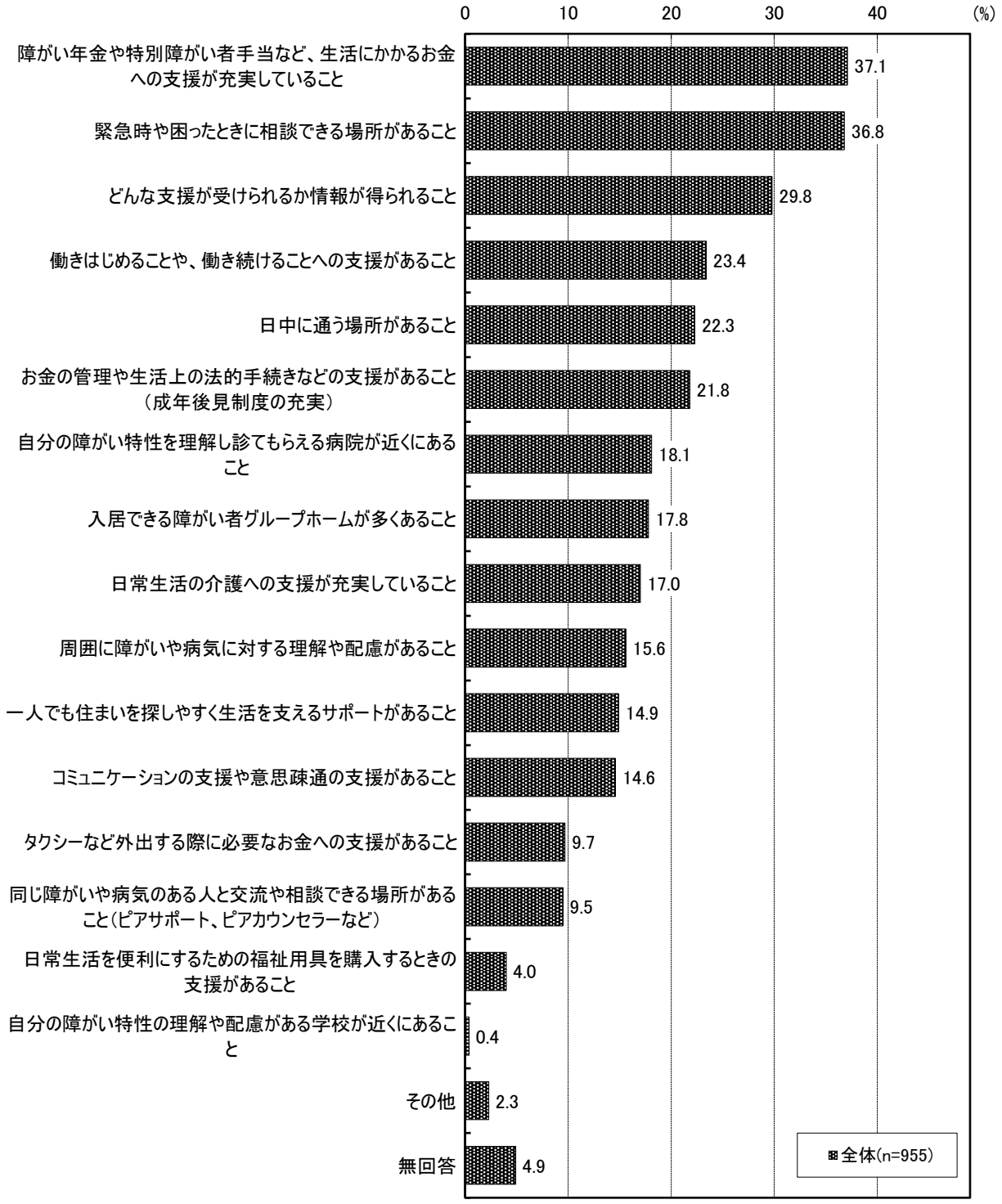
単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
どんな支援が受けられるか情報が得られること	43.1	39.7	42.0	33.0	45.4	45.4
緊急時や困ったときに相談できる場所があること	45.2	42.2	52.2	42.7	44.2	46.5
自分の障がい特性を理解し診てもらえる病院が近くにあること	32.0	26.7	34.8	40.8	33.8	28.9
同じ障がいや病気のある人と交流や相談できる場所があること（ピアサポート、ピアカウンセラーなど）	8.4	10.3	14.5	6.8	10.7	4.0
コミュニケーションの支援や意思疎通の支援があること	14.9	26.7	18.8	20.4	11.6	10.6
お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実）	19.9	**37.9**	**30.4**	23.3	16.5	12.5
一人でも住まいを探しやすく生活を支えるサポートがあること	23.2	19.0	10.1	27.2	28.7	19.4
入居できる障がい者グループホームが多くあること	11.8	**35.3**	14.5	17.5	8.2	3.7
日中に通う場所があること	17.7	**35.3**	15.9	13.6	13.7	16.5
日常生活の介護への支援が充実していること	20.7	24.1	15.9	13.6	13.4	**31.5**
周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること	23.7	**36.2**	33.3	**34.0**	21.0	15.8
自分の障がい特性の理解や配慮があるこども園、幼稚園、保育所（園）が近くにあること	2.1	**12.9**	0.0	1.9	0.3	0.4
自分の障がい特性の理解や配慮がある学校が近くにあること	4.6	**31.9**	1.4	1.0	0.9	0.0
働きはじめることや、働き続けることへの支援があること	21.7	29.3	27.5	31.1	30.5	2.9
障がい年金や特別障がい者手当など、生活にかかるお金への支援が充実していること	41.8	43.1	50.7	47.6	49.7	28.2
タクシーなど外出する際に必要なお金への支援があること	23.7	2.6	11.6	16.5	25.9	**35.2**
日常生活を便利にするための福祉用具を購入するときの支援があること	10.1	6.0	8.7	2.9	7.9	17.6
その他	4.4	2.6	4.3	4.9	4.9	4.8
無回答	5.5	0.9	7.2	1.9	5.2	8.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
どんな支援が受けられるか情報が得られること	43.5	32.8	46.3	44.7	38.4	36.4
緊急時や困ったときに相談できる場所があること	43.7	41.8	46.3	46.6	45.9	43.4
自分の障がい特性を理解し診てもらえる病院が近くにあること	28.9	30.2	41.9	37.3	38.4	33.3
同じ障がいや病気のある人と交流や相談できる場所があること（ピアサポート、ピアカウンセラーなど）	5.8	10.1	13.4	4.3	12.3	7.3
コミュニケーションの支援や意思疎通の支援があること	11.4	**28.0**	15.8	8.1	**33.6**	18.3
お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実）	13.6	**42.3**	24.2	14.3	**40.4**	20.8
一人でも住まいを探しやすく生活を支えるサポートがあること	20.8	15.3	29.2	16.8	26.7	17.1
入居できる障がい者グループホームが多くあること	9.0	**37.6**	8.4	11.2	**27.4**	18.3
日中に通う場所があること	17.6	**40.2**	11.7	21.1	24.0	23.2
日常生活の介護への支援が充実していること	27.3	**30.7**	10.1	**31.7**	17.8	**33.9**
周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること	18.4	31.2	30.5	18.0	**39.0**	21.4
自分の障がい特性の理解や配慮があるこども園、幼稚園、保育所（園）が近くにあること	2.0	6.3	0.3	4.3	3.4	3.4
自分の障がい特性の理解や配慮がある学校が近くにあること	2.8	**14.8**	1.7	8.1	11.6	4.0
働きはじめることや、働き続けることへの支援があること	16.2	19.6	30.9	16.8	**32.9**	14.4
障がい年金や特別障がい者手当など、生活にかかるお金への支援が充実していること	40.3	49.7	48.3	40.4	47.3	49.2
タクシーなど外出する際に必要なお金への支援があること	29.9	8.5	21.1	25.5	2.7	24.5
日常生活を便利にするための福祉用具を購入するときの支援があること	16.0	4.2	4.0	13.7	1.4	12.8
その他	4.6	3.2	4.7	6.2	2.7	4.0
無回答	5.6	4.8	4.4	4.3	2.7	4.9

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「障がい年金や特別障がい者手当など、生活にかかるお金への支援が充実していること」が37.1%、「緊急時や困ったときに相談できる場所があること」が36.8%、「どんな支援が受けられるか情報が得られること」が29.8%、「働きはじめることや、働き続けることへの支援があること」が23.4%、「日中に通う場所があること」が22.3%、「お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実）」が21.8%となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、「入居できる障がい者グループホームが多くあること」は18歳～29歳で29.0%、「日常生活の介護への支援が充実していること」は65歳以上で28.5%と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「入居できる障がい者グループホームが多くあること」は強度行動障がいで54.1%、知的障がいで36.8%、重度障がいで34.3%、発達障がいで28.5%と多くなっています。「日中に通う場所があること」は強度行動障がいで54.1%、「日常生活の介護への支援が充実していること」は強度行動障がいで42.6%、重度障がいで31.2%、「お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実)」は知的障がいで34.6%と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：％	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
どんな支援が受けられるか情報が得られること	29.8	21.7	25.8	34.5	37.4
緊急時や困ったときに相談できる場所があること	36.8	36.2	31.1	40.3	36.6
自分の障がい特性を理解し診てもらえる病院が近くにあること	18.1	12.2	20.0	19.4	19.5
同じ障がいや病気のある人と交流や相談できる場所があること（ピアサポート、ピアカウンセラーなど）	9.5	10.4	8.4	9.3	10.6
コミュニケーションの支援や意思疎通の支援があること	14.6	16.7	17.9	13.1	9.8
お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実）	21.8	31.7	25.8	18.4	10.6
一人でも住まいを探しやすく生活を支えるサポートがあること	14.9	14.0	15.8	17.6	8.1
入居できる障がい者グループホームが多くあること	17.8	**29.0**	24.7	12.3	5.7
日中に通う場所があること	22.3	24.4	22.6	22.7	17.1
日常生活の介護への支援が充実していること	17.0	17.6	21.1	9.8	**28.5**
周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること	15.6	17.6	18.9	15.1	9.8
自分の障がい特性の理解や配慮がある学校が近くにあること	0.4	0.5	1.1	0.0	0.8
働きはじめることや、働き続けることへの支援があること	23.4	28.5	27.4	24.2	7.3
障がい年金や特別障がい者手当など、生活にかかるお金への支援が充実していること	37.1	38.0	44.2	36.3	27.6
タクシーなど外出する際に必要なお金への支援があること	9.7	5.0	8.4	10.8	17.1
日常生活を便利にするための福祉用具を購入するときの支援があること	4.0	2.3	3.7	4.5	6.5
その他	2.3	0.9	3.7	2.3	3.3
無回答	4.9	0.9	3.7	5.5	9.8

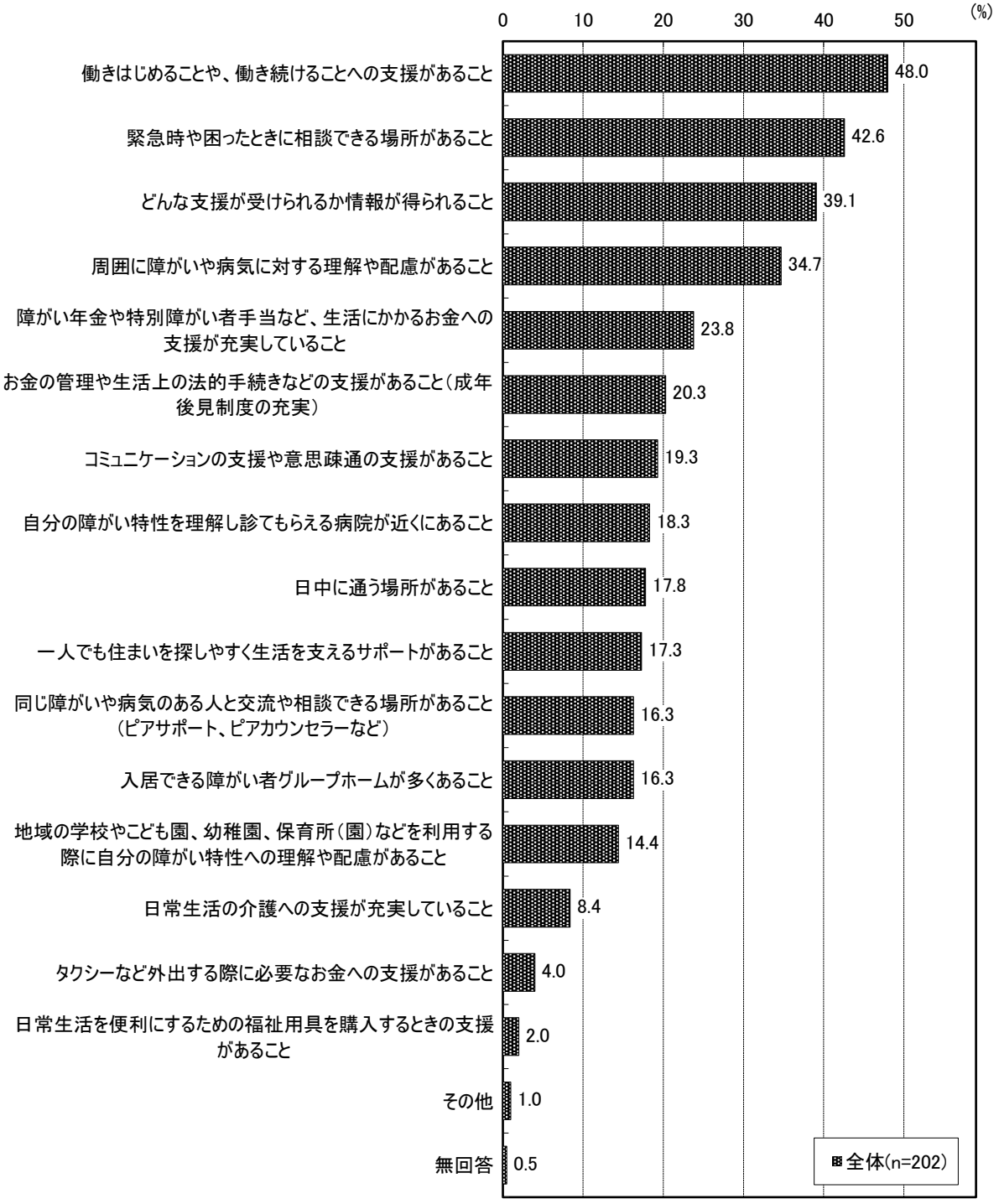
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=257)	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい (n=388)
どんな支援が受けられるか情報が得られること	34.6	18.8	33.9	37.5	25.4	23.0	22.9
緊急時や困ったときに相談できる場所があること	40.9	30.9	41.7	29.5	30.6	19.7	31.7
自分の障がい特性を理解し診てもらえる病院が近くにあること	16.7	12.6	25.3	22.7	15.8	16.4	14.4
同じ障がいや病気のある人と交流や相談できる場所があること（ピアサポート、ピアカウンセラーなど）	9.7	7.2	11.5	17.0	7.7	8.2	7.0
コミュニケーションの支援や意思疎通の支援があること	12.1	22.2	13.3	12.5	20.1	27.9	19.1
お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実）	17.5	**34.6**	19.7	12.5	30.3	27.9	26.5
一人でも住まいを探しやすく生活を支えるサポートがあること	10.5	12.3	17.1	12.5	15.8	4.9	8.5
入居できる障がい者グループホームが多くあること	14.8	**36.8**	7.8	11.4	**28.5**	**54.1**	**34.3**
日中に通う場所があること	22.2	31.4	21.3	14.8	25.7	**54.1**	31.4
日常生活の介護への支援が充実していること	24.9	24.9	7.8	21.6	16.9	**42.6**	**31.2**
周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること	13.2	15.1	18.0	11.4	19.7	14.8	13.7
自分の障がい特性の理解や配慮がある学校が近くにあること	0.4	0.5	0.4	0.0	0.7	0.0	0.8
働きはじめることや、働き続けることへの支援があること	13.6	17.8	32.6	9.1	27.8	9.8	11.1
障がい年金や特別障がい者手当など、生活にかかるお金への支援が充実していること	43.2	36.8	36.8	36.4	39.8	39.3	42.0
タクシーなど外出する際に必要なお金への支援があること	15.6	5.7	9.1	18.2	5.6	3.3	10.8
日常生活を便利にするための福祉用具を購入するときの支援があること	8.9	2.0	2.7	8.0	1.1	3.3	5.7
その他	2.3	2.2	2.0	3.4	2.1	0.0	1.8
無回答	4.3	4.9	3.8	10.2	2.8	1.6	5.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆お子さん（ご本人）が、将来成人した後の充実した暮らし方を実現するために、必要なことは何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「働きはじめることや、働き続けることへの支援があること」が48.0％と最も多く、次いで「緊急時や困ったときに相談できる場所があること」が42.6％、「どんな支援が受けられるか情報が得られること」が39.1％、「周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること」が34.7％、「障がい年金や特別障がい者手当など、生活にかかるお金への支援が充実していること」が23.8％となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、中高生その他で「働きはじめることや、働き続けることへの支援があること」が61.9%、「障がい年金や特別障がい者手当など、生活にかかるお金への支援が充実していること」が42.9%、「お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実)」が31.0%と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、発達障がいで「周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること」が46.3%と多く、「入居できる障がい者グループホームが多くあること」は知的障がいで42.9%、重度障がいで40.5%と多くみられます。

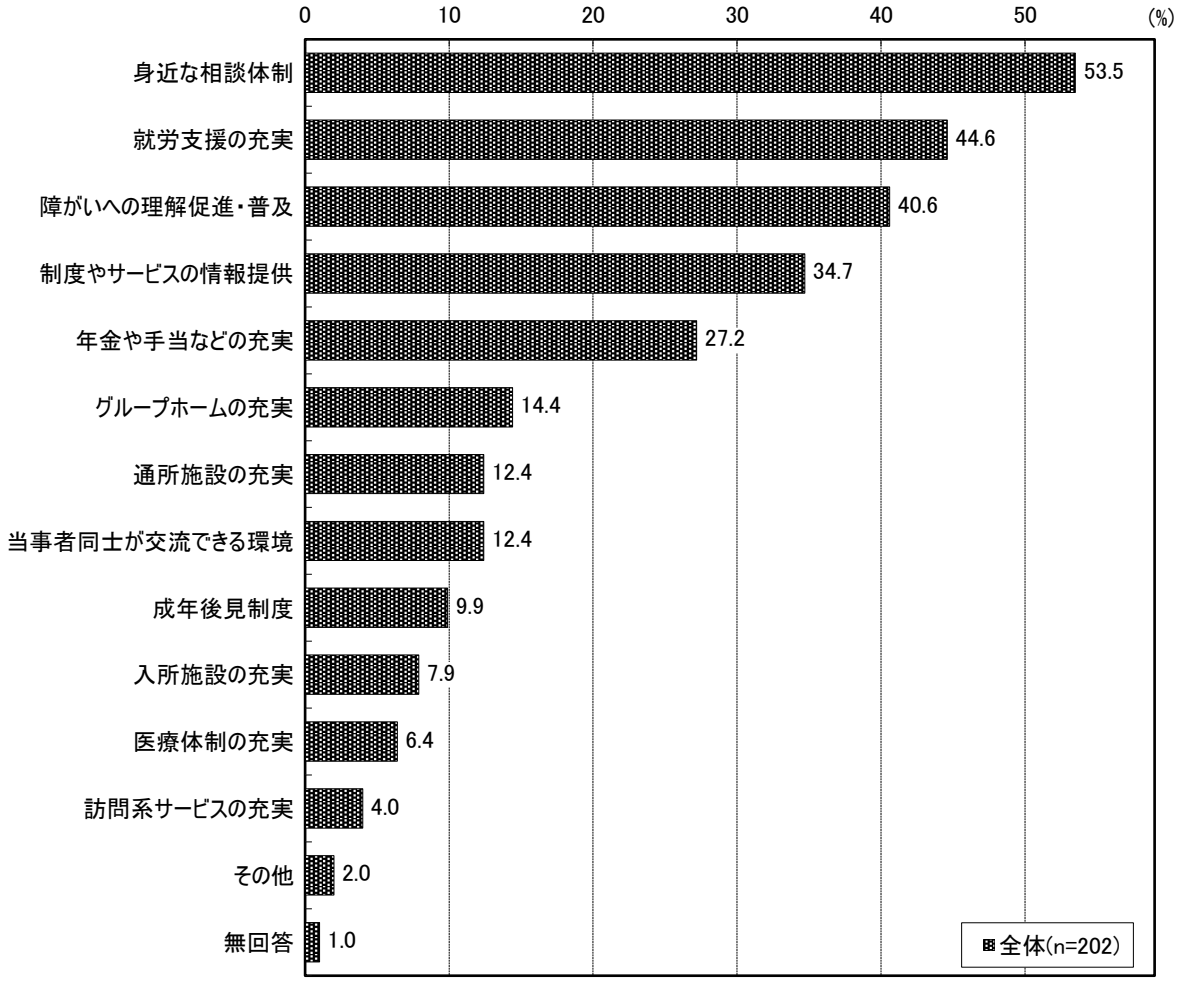
（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
どんな支援が受けられるか情報が得られること	39.1	37.0	37.7	45.2	47.4	34.9	47.6	31.3	42.1	42.9
緊急時や困ったときに相談できる場所があること	42.6	40.7	49.1	28.6	21.1	27.0	**57.1**	37.5	47.4	28.6
自分の障がい特性を理解し診てもらえる病院が近くにあること	18.3	16.7	15.1	**28.6**	10.5	17.5	**28.6**	18.8	22.1	14.3
同じ障がいや病気のある人と交流や相談できる場所があること（ピアサポート、ピアカウンセラーなど）	16.3	13.0	15.1	23.8	15.8	17.5	**28.6**	12.5	20.0	11.9
コミュニケーションの支援や意思疎通の支援があること	19.3	16.7	20.8	19.0	15.8	14.3	23.8	12.5	22.1	19.0
お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実）	20.3	18.5	17.0	**31.0**	21.1	**36.5**	**47.6**	18.8	22.1	31.0
一人でも住まいを探しやすく生活を支えるサポートがあること	17.3	18.5	17.0	16.7	5.3	25.4	**33.3**	12.5	14.7	11.9
入居できる障がい者グループホームが多くあること	16.3	16.7	11.3	**28.6**	15.8	**42.9**	14.3	**37.5**	18.9	**40.5**
日中に通う場所があること	17.8	5.6	20.8	26.2	15.8	**28.6**	**28.6**	12.5	22.1	26.2
日常生活の介護への支援が充実していること	8.4	3.7	10.4	9.5	15.8	17.5	**19.0**	**25.0**	10.5	**21.4**
周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること	34.7	29.6	37.7	33.3	15.8	25.4	**52.4**	12.5	**46.3**	23.8
地域の学校やこども園、幼稚園、保育所（園）などを利用する際に自分の障がい特性への理解や配慮があること	14.4	20.4	11.3	14.3	5.3	12.7	23.8	12.5	11.6	11.9
働きはじめることや、働き続けることへの支援があること	48.0	31.5	50.9	**61.9**	31.6	41.3	**90.5**	25.0	56.8	31.0
障がい年金や特別障がい者手当など、生活にかかるお金への支援が充実していること	23.8	18.5	18.9	**42.9**	**52.6**	**42.9**	23.8	**37.5**	25.3	**50.0**
タクシーなど外出する際に必要なお金への支援があること	4.0	1.9	3.8	7.1	5.3	7.9	4.8	6.3	6.3	4.8
日常生活を便利にするための福祉用具を購入するときの支援があること	2.0	1.9	1.9	2.4	10.5	3.2	0.0	6.3	1.1	7.1
その他	1.0	1.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.5	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆お子さん（ご本人）の将来の暮らしのために、必要なことは何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「身近な相談体制」が53.5％と最も多く、「就労支援の充実」が44.6％、「障がいへの理解促進・普及」が40.6％と続いています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、中高生その他で「年金や手当などの充実」が38.1％と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「グループホームの充実」は知的障がいで38.1％、重度障がいで33.3％となっているほか、重度障がいでは「年金や手当などの充実」が45.2％、「通所施設の充実」が33.3％と全体値を上回っています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
身近な相談体制	53.5	57.4	51.9	52.4	36.8	30.2	47.6	37.5	52.6	26.2
制度やサービスの情報提供	34.7	33.3	34.0	38.1	36.8	27.0	38.1	31.3	40.0	23.8
就労支援の充実	44.6	33.3	49.1	47.6	42.1	54.0	**66.7**	37.5	50.5	40.5
訪問系サービスの充実	4.0	1.9	6.6	0.0	10.5	9.5	4.8	12.5	4.2	4.8
通所施設の充実	12.4	13.0	13.2	9.5	10.5	**25.4**	0.0	**31.3**	13.7	**33.3**
グループホームの充実	14.4	11.1	13.2	21.4	10.5	**38.1**	9.5	**25.0**	17.9	**33.3**
入所施設の充実	7.9	7.4	5.7	14.3	10.5	**22.2**	0.0	**18.8**	8.4	**21.4**
年金や手当などの充実	27.2	24.1	24.5	**38.1**	**47.4**	31.7	**42.9**	31.3	29.5	**45.2**
医療体制の充実	6.4	5.6	7.5	4.8	**21.1**	6.3	0.0	25.0	2.1	11.9
成年後見制度	9.9	7.4	9.4	14.3	0.0	19.0	14.3	0.0	10.5	9.5
障がいへの理解促進・普及	40.6	27.8	45.3	45.2	26.3	38.1	42.9	18.8	45.3	31.0
当事者同士が交流できる環境	12.4	18.5	12.3	4.8	5.3	7.9	9.5	0.0	11.6	4.8
その他	2.0	1.9	2.8	0.0	0.0	4.8	4.8	6.3	2.1	0.0
無回答	1.0	1.9	0.9	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4

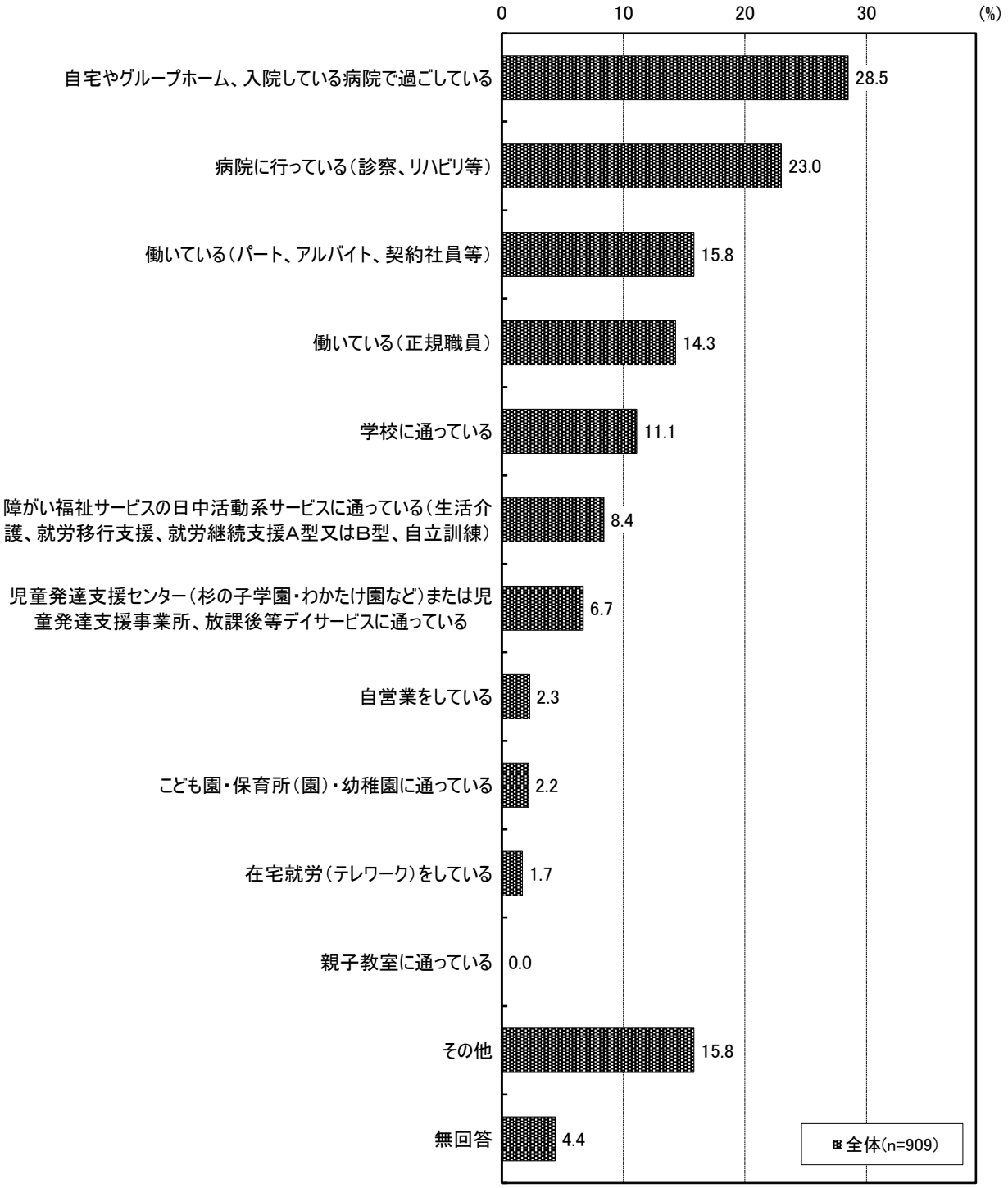
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

5　日中活動の状況

① 平日の昼間の過ごし方

◆あなたは、平日の昼間の時間帯は、どのように過ごしていますか。（時間が長いもの３つまでに○）

障がい者計画アンケート



○「自宅やグループホーム、入院している病院で過ごしている」が28.5%と最も多く、次いで「病院に行っている（診察、リハビリ等）」が23.0%、「働いている（パート、アルバイト、契約社員等）」が15.8%、「働いている（正規職員）」が14.3%、「学校に通っている」が11.1%、「障がい福祉サービスの日中活動系サービスに通っている（生活介護、就労移行支援、就労継続支援Ａ型又はＢ型、自立訓練）」は8.4%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０歳～17歳で「学校に通っている」が69.8%、「児童発達支援センター（杉の子学園・わかたけ園など）または児童発達支援事業所、放課後等デイサービスに通っている」が44.0%と多く、18歳から64歳にかけて「働いている（正規職員）」が25%前後となっています。また、18歳～29歳では「障がい福祉サービスの日中活動系サービスに通っている（生活介護、就労移行支援、就労継続支援Ａ型又はＢ型、自立訓練）」が18.8%となっています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで「学校に通っている」が36.5%、「児童発達支援センター（杉の子学園・わかたけ園など）または児童発達支援事業所、放課後等デイサービスに通っている」が27.5%、「障がい福祉サービスの日中活動系サービスに通っている（生活介護、就労移行支援、就労継続支援Ａ型又はＢ型、自立訓練）」が21.7%となっています。また、発達障がいで「学校に通っている」が29.5%、精神障がいで「働いている（パート、アルバイト、契約社員等）」は26.2%と比較的多くなっています。

（属性別クロス集計）

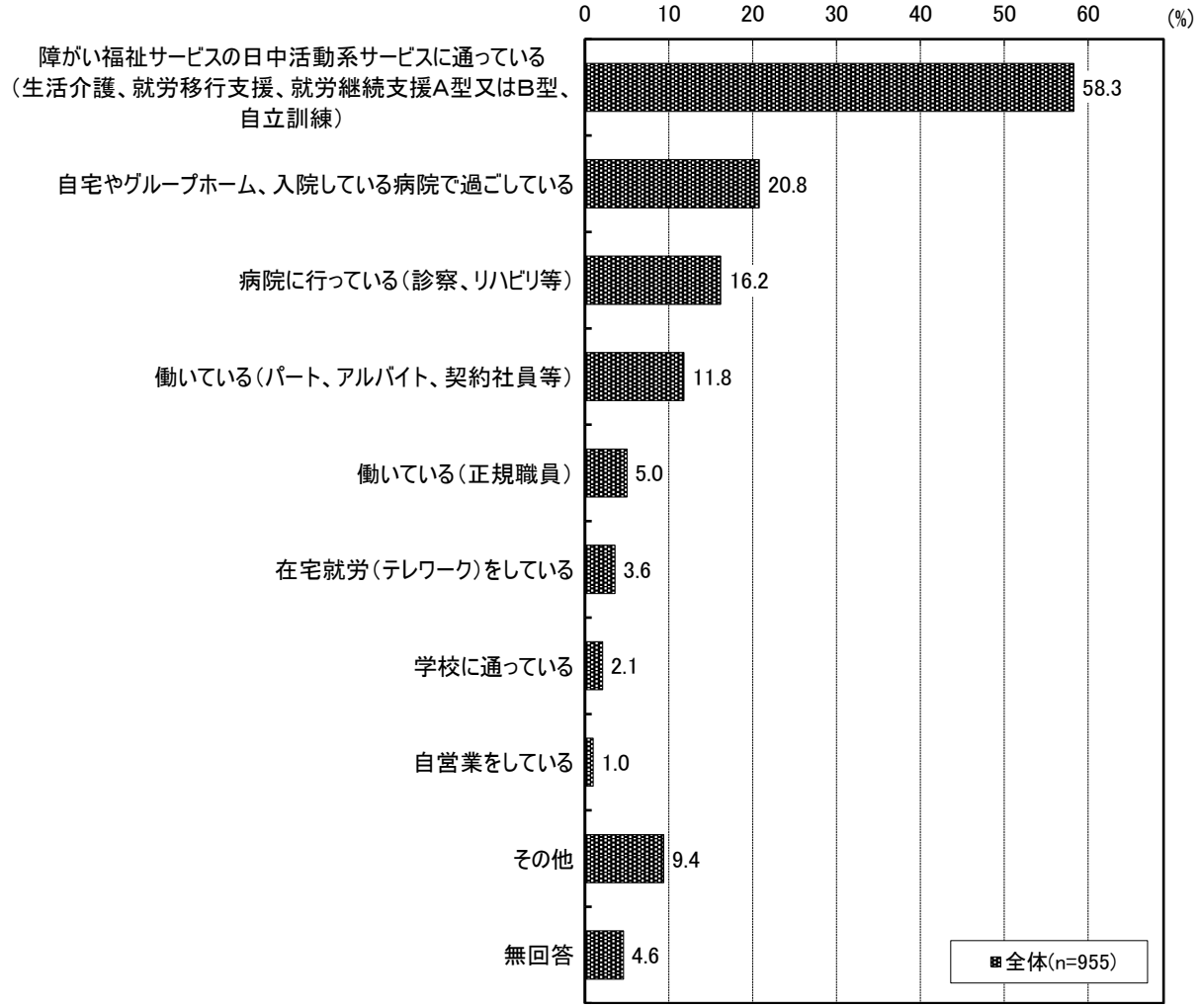
単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
自宅やグループホーム、入院している病院で過ごしている	28.5	13.8	21.7	29.1	27.4	37.4
児童発達支援センター（杉の子学園・わかたけ園など）または児童発達支援事業所、放課後等デイサービスに通っている	6.7	**44.0**	1.4	1.9	1.5	0.4
親子教室に通っている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
こども園・保育所（園）・幼稚園に通っている	2.2	**17.2**	0.0	0.0	0.0	0.0
学校に通っている	11.1	**69.8**	17.4	2.9	1.2	0.0
障がい福祉サービスの日中活動系サービスに通っている（生活介護、就労移行支援、就労継続支援Ａ型又はＢ型、自立訓練）	8.4	0.0	**18.8**	17.5	11.0	3.3
病院に行っている（診察、リハビリ等）	23.0	9.5	14.5	18.4	19.2	36.3
働いている（正規職員）	14.3	0.0	**24.6**	**26.2**	**25.3**	0.7
働いている（パート、アルバイト、契約社員等）	15.8	1.7	20.3	25.2	24.4	6.2
自営業をしている	2.3	0.0	1.4	1.0	4.0	2.2
在宅就労（テレワーク）をしている	1.7	0.0	1.4	3.9	2.7	0.4
その他	15.8	1.7	11.6	8.7	13.7	**28.6**
無回答	4.4	0.0	1.4	1.0	1.2	11.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
自宅やグループホーム、入院している病院で過ごしている	27.1	19.6	36.2	26.1	24.0	27.8
児童発達支援センター（杉の子学園・わかたけ園など）または児童発達支援事業所、放課後等デイサービスに通っている	5.8	**27.5**	1.0	11.2	17.8	11.9
親子教室に通っている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
こども園・保育所（園）・幼稚園に通っている	1.6	7.4	0.0	3.1	6.2	1.2
学校に通っている	9.0	**36.5**	4.4	18.0	**29.5**	14.4
障がい福祉サービスの日中活動系サービスに通っている（生活介護、就労移行支援、就労継続支援Ａ型又はＢ型、自立訓練）	7.2	**21.7**	10.1	5.6	13.0	14.1
病院に行っている（診察、リハビリ等）	25.9	12.2	29.2	24.2	12.3	28.1
働いている（正規職員）	16.2	3.2	12.4	14.3	10.3	11.3
働いている（パート、アルバイト、契約社員等）	10.4	12.2	**26.2**	6.2	24.7	8.0
自営業をしている	3.0	0.0	2.7	1.9	0.0	2.8
在宅就労（テレワーク）をしている	1.8	0.0	2.7	1.9	2.1	1.2
その他	18.0	4.8	13.4	16.1	4.8	15.9
無回答	5.4	2.6	2.7	3.1	1.4	4.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「障がい福祉サービスの日中活動系サービスに通っている（生活介護、就労移行支援、就労継続支援Ａ型又はＢ型、自立訓練)」が58.3％と最も多く、次いで「自宅やグループホーム、入院している病院で過ごしている」が20.8％、「病院に行っている（診察、リハビリ等)」が16.2％、「働いている（パート、アルバイト、契約社員等)」が11.8％となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、「障がい福祉サービスの日中活動系サービスに通っている（生活介護、就労移行支援、就労継続支援Ａ型又はＢ型、自立訓練)」は30歳～39歳で69.5％、18歳～29歳で68.3％となっています。65歳以上では「自宅やグループホーム、入院している病院で過ごしている」が31.7％、「病院に行っている（診察、リハビリ等)」が27.6％と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「障がい福祉サービスの日中活動系サービスに通っている（生活介護、就労移行支援、就労継続支援Ａ型又はＢ型、自立訓練)」は強度行動障がいで85.2％、知的障がいで76.0％、発達障がいで74.3％と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
自宅やグループホーム、入院している病院で過ごしている	20.8	8.1	22.6	23.7	31.7
学校に通っている	2.1	6.8	1.1	0.8	0.0
障がい福祉サービスの日中活動系サービスに通っている（生活介護、就労移行支援、就労継続支援A型又はB型、自立訓練）	58.3	68.3	69.5	55.2	34.1
病院に行っている（診察、リハビリ等）	16.2	6.3	10.0	21.7	27.6
働いている（正規職員）	5.0	4.1	6.3	6.3	1.6
働いている（パート、アルバイト、契約社員等）	11.8	14.9	9.5	13.1	6.5
自営業をしている	1.0	0.5	0.0	0.8	4.9
在宅就労（テレワーク）をしている	3.6	2.7	2.1	4.8	4.1
その他	9.4	4.1	6.3	10.8	19.5
無回答	4.6	3.6	3.2	3.8	9.8

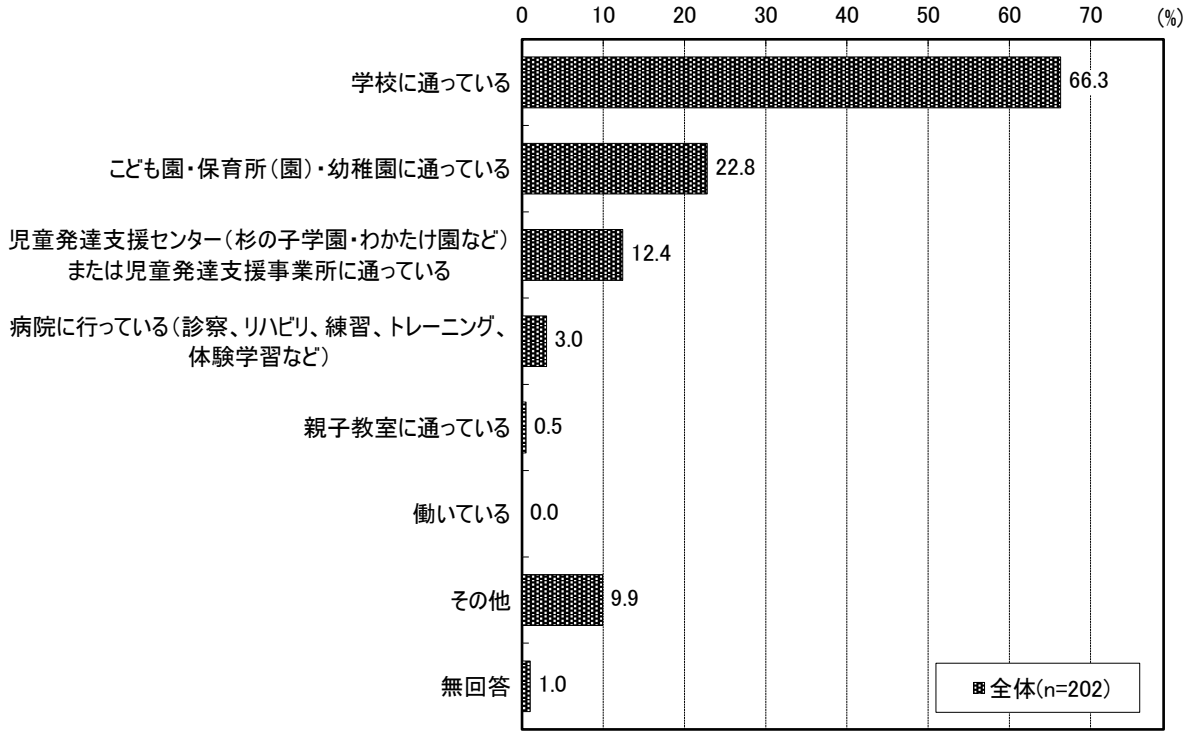
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=257)	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい (n=388)
自宅やグループホーム、入院している病院で過ごしている	27.6	14.6	22.8	25.0	12.3	8.2	19.1
学校に通っている	4.7	2.5	2.2	1.1	2.1	1.6	2.8
障がい福祉サービスの日中活動系サービスに通っている（生活介護、就労移行支援、就労継続支援A型又はB型、自立訓練）	41.2	**76.0**	59.9	27.3	**74.3**	**85.2**	66.0
病院に行っている（診察、リハビリ等）	18.7	10.1	21.1	26.1	13.0	8.2	11.3
働いている（正規職員）	8.6	2.5	3.3	9.1	3.5	1.6	4.6
働いている（パート、アルバイト、契約社員等）	8.6	10.6	14.4	9.1	12.7	4.9	5.9
自営業をしている	2.3	0.0	0.4	4.5	0.0	0.0	0.8
在宅就労（テレワーク）をしている	3.1	0.7	4.9	2.3	1.8	0.0	2.1
その他	13.2	2.7	11.5	17.0	4.9	3.3	7.2
無回答	5.4	5.2	2.9	10.2	4.2	6.6	6.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆お子さん（ご本人）は、平日の昼間の時間帯は、どのように過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「学校に通っている」が66.3％と最も多く、次いで「こども園・保育所（園）・幼稚園に通っている」が22.8％、「児童発達支援センター（杉の子学園・わかたけ園など）または児童発達支援事業所に通っている」が12.4％、「病院に行っている（診察、リハビリ、練習、トレーニング、体験学習など)」が3.0％となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「学校に通っている」は小学生、中高生その他で90％前後、「こども園・保育所（園）・幼稚園に通っている」は０～５歳児で29.6％となっています。

○障がい種別ごとにみると、「学校に通っている」は精神障がいで90.5％、「児童発達支援センター（杉の子学園・わかたけ園など）または児童発達支援事業所に通っている」は重度障がいで26.2％と比較的多くみられます。

（属性別クロス集計）

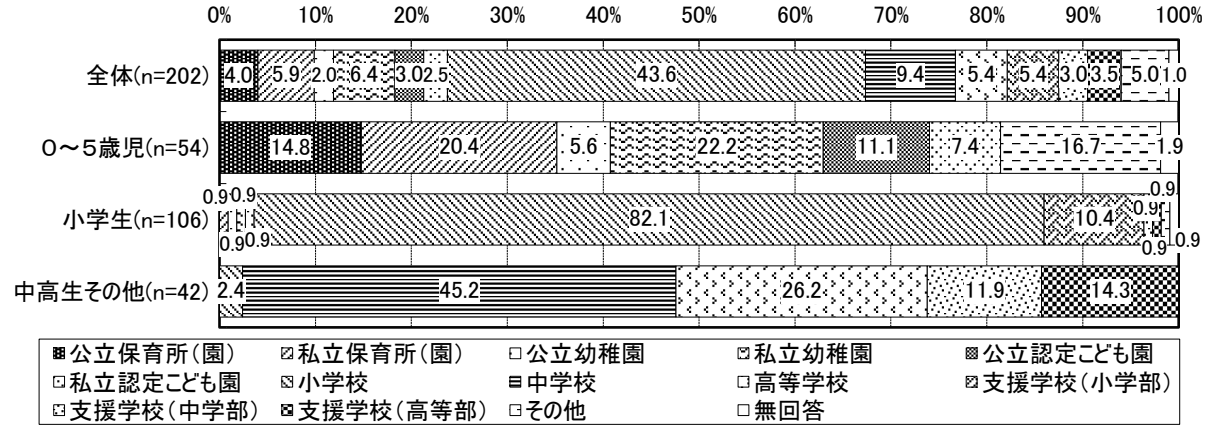
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
児童発達支援センター（杉の子学園・わかたけ園など）または児童発達支援事業所に通っている	12.4	**29.6**	6.6	4.8	21.1	22.2	0.0	**31.3**	11.6	**26.2**
親子教室に通っている	0.5	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
こども園・保育所（園）・幼稚園に通っている	22.8	**79.6**	2.8	0.0	15.8	11.1	0.0	6.3	12.6	11.9
学校に通っている	66.3	0.0	**91.5**	**88.1**	73.7	68.3	**90.5**	68.8	74.7	76.2
働いている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
病院に行っている（診察、リハビリ、練習、トレーニング、体験学習など）	3.0	1.9	2.8	4.8	10.5	3.2	9.5	6.3	3.2	7.1
その他	9.9	5.6	8.5	19.0	10.5	4.8	19.0	12.5	14.7	7.1
無回答	1.0	1.9	0.9	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

② 通園・通学先

◆お子さん（ご本人）が所属されている通園先、通学先を答えてください。（あてはまるもの１つに○）

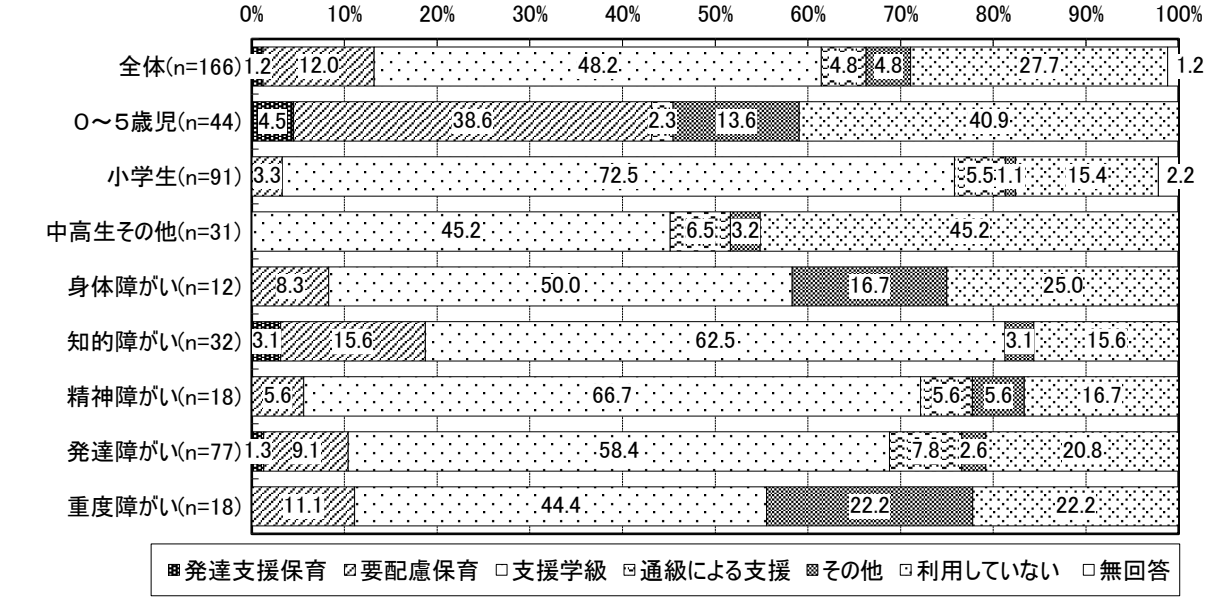
支援プラン（18歳未満）アンケート



○「小学校」が43.6％で最も多く、通常学級在籍児童が多くみられます。一方で支援学校在籍者も小学部5.4％、中学部3.0％、高等部3.5％と一定数存在します。

◆通園先、通学先で発達支援や支援学級を利用していますか。（あてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



※通園先、通学先で公立保育所(園)、私立保育所(園)、公立幼稚園、私立幼稚園、公立認定こども園、私立認定こども園、小学校、中学校、高等学校と答えた人に対する設問

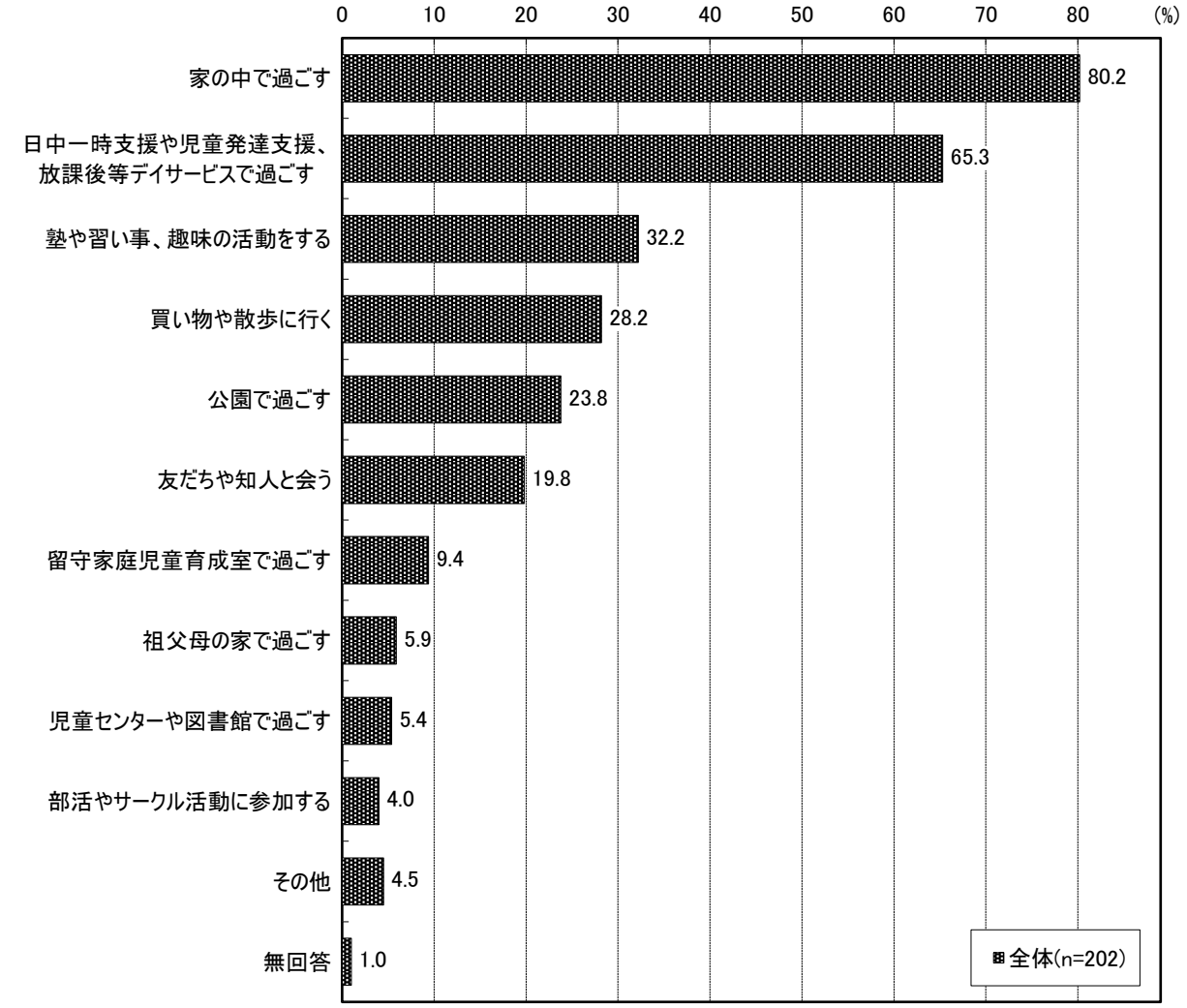
○「支援学級」が48.2％と約半数を占めており、「利用していない」が27.7％、「通級による支援」が4.8％となっています。

○年齢別にみると、小学生で「支援学級」が72.5％となっています。

○障がい種別ごとにみると、「支援学級」の利用は、知的障がいで62.5％、精神障がいで66.7％となっています。

③ 放課後や休日の過ごし方

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「家の中で過ごす」が80.2%、「日中一時支援や児童発達支援、放課後等デイサービスで過ごす」が65.3%と多く、次いで「塾や習い事、趣味の活動をする」が32.2%、「買い物や散歩に行く」が28.2%、「公園で過ごす」が23.8%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０～５歳児で「家の中で過ごす」が92.6%、「買い物や散歩に行く」が48.1%、小学生で「日中一時支援や児童発達支援、放課後等デイサービスで過ごす」が75.5%と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、身体障がいで「家の中で過ごす」が94.7%、知的障がいで「日中一時支援や児童発達支援、放課後等デイサービスで過ごす」が77.8%となっています。

（属性別クロス集計）

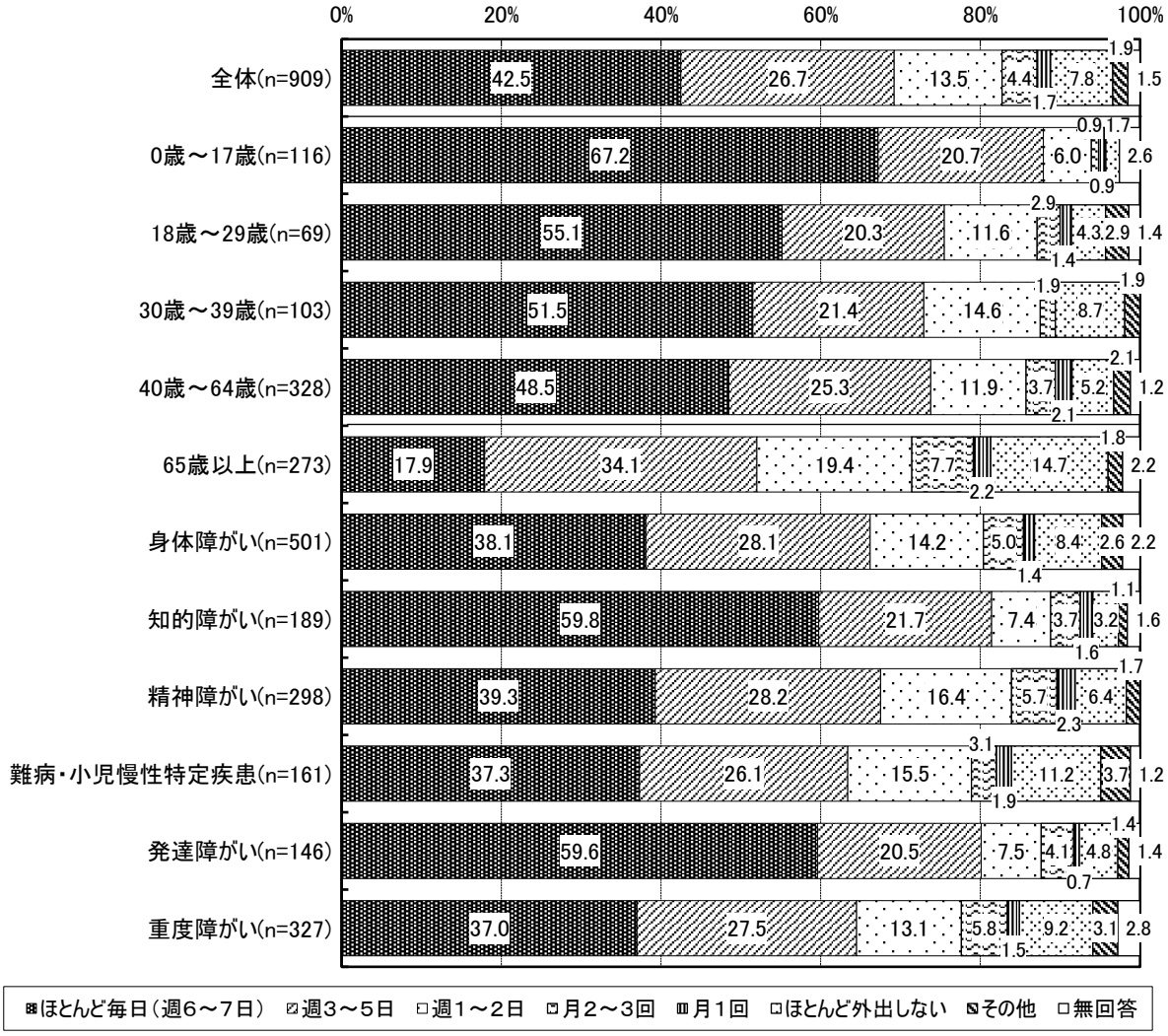
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
友だちや知人と会う	19.8	3.7	28.3	19.0	15.8	9.5	**33.3**	18.8	24.2	9.5
買い物や散歩に行く	28.2	**48.1**	24.5	11.9	26.3	30.2	19.0	18.8	22.1	26.2
公園で過ごす	23.8	33.3	28.3	0.0	15.8	17.5	14.3	18.8	17.9	16.7
家の中で過ごす	80.2	**92.6**	77.4	71.4	**94.7**	69.8	76.2	87.5	73.7	73.8
祖父母の家で過ごす	5.9	13.0	3.8	2.4	5.3	6.3	4.8	0.0	4.2	7.1
留守家庭児童育成室で過ごす	9.4	0.0	17.9	0.0	5.3	9.5	**33.3**	6.3	11.6	4.8
児童センターや図書館で過ごす	5.4	5.6	7.5	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	4.2	2.4
部活やサークル活動に参加する	4.0	0.0	0.9	**16.7**	5.3	3.2	9.5	0.0	4.2	2.4
塾や習い事、趣味の活動をする	32.2	18.5	38.7	33.3	26.3	12.7	33.3	18.8	24.2	14.3
日中一時支援や児童発達支援、放課後等デイサービスで過ごす	65.3	40.7	**75.5**	71.4	47.4	**77.8**	61.9	62.5	74.7	71.4
その他	4.5	5.6	4.7	2.4	5.3	4.8	0.0	0.0	5.3	9.5
無回答	1.0	1.9	0.9	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

④ 外出の頻度

◆あなたは、どれくらい外出しますか。（あてはまるもの１つに○）

障がい者計画アンケート



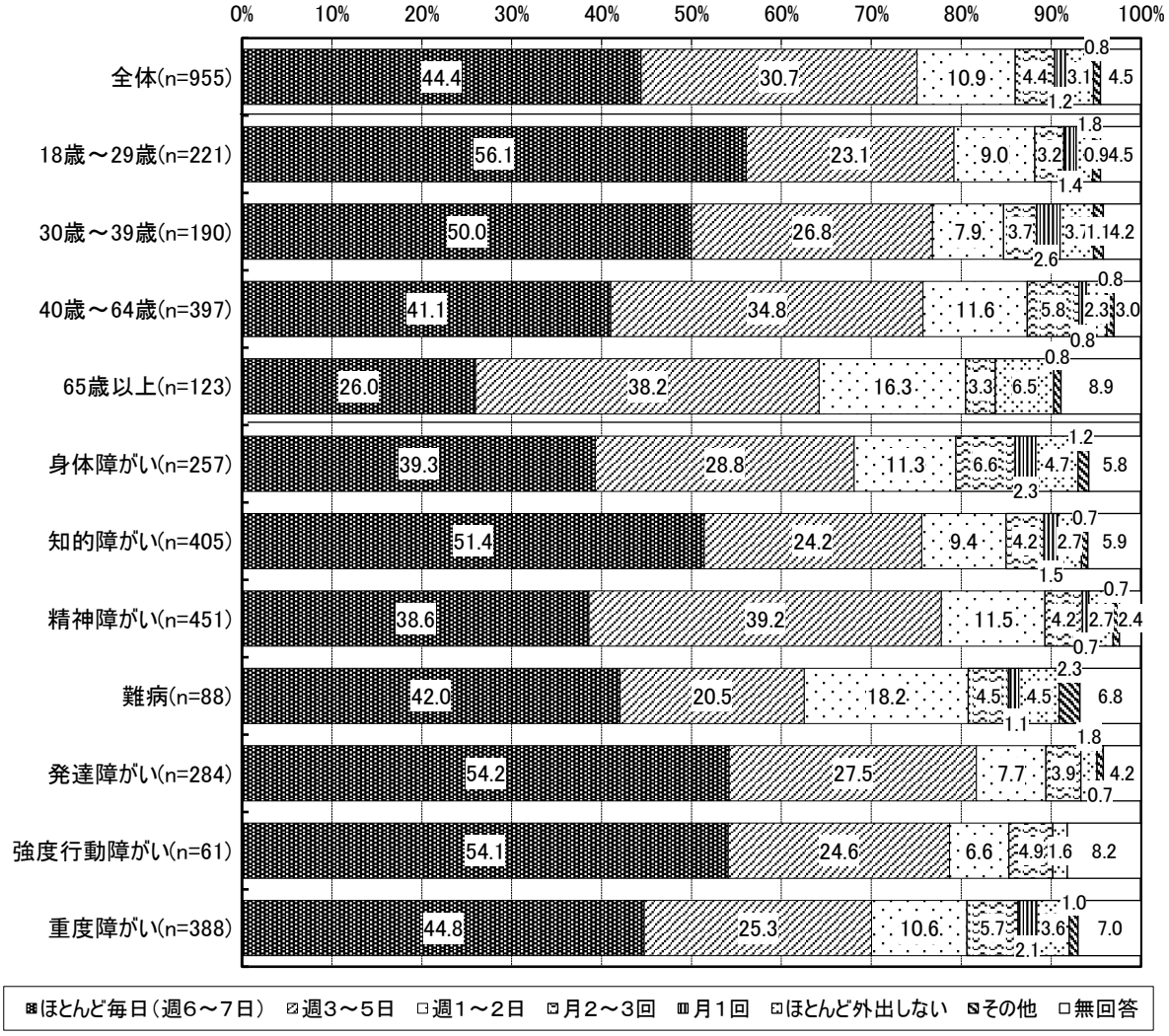
○「ほとんど毎日（週６～７日）」が42.5%と最も多く、次いで「週３～５日」が26.7%、「週１～２日」が13.5%となっています。一方、「ほとんど外出しない」は7.8%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「ほとんど毎日（週６～７日）」は０歳～17歳で67.2%、18歳～29歳で55.1%と多くなっています。一方、65歳以上では「週３～５日」が34.1%、「週１～２日」が19.4%、「ほとんど外出しない」が14.7%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「ほとんど毎日（週６～７日）」は知的障がいで59.8%、発達障がいで59.6%と多くなっています。

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「ほとんど毎日（週６～７日）」が44.4%と最も多く、次いで「週３～５日」が30.7%、「週１～２日」が10.9%となっています。一方、「ほとんど外出しない」は3.1%となっています。

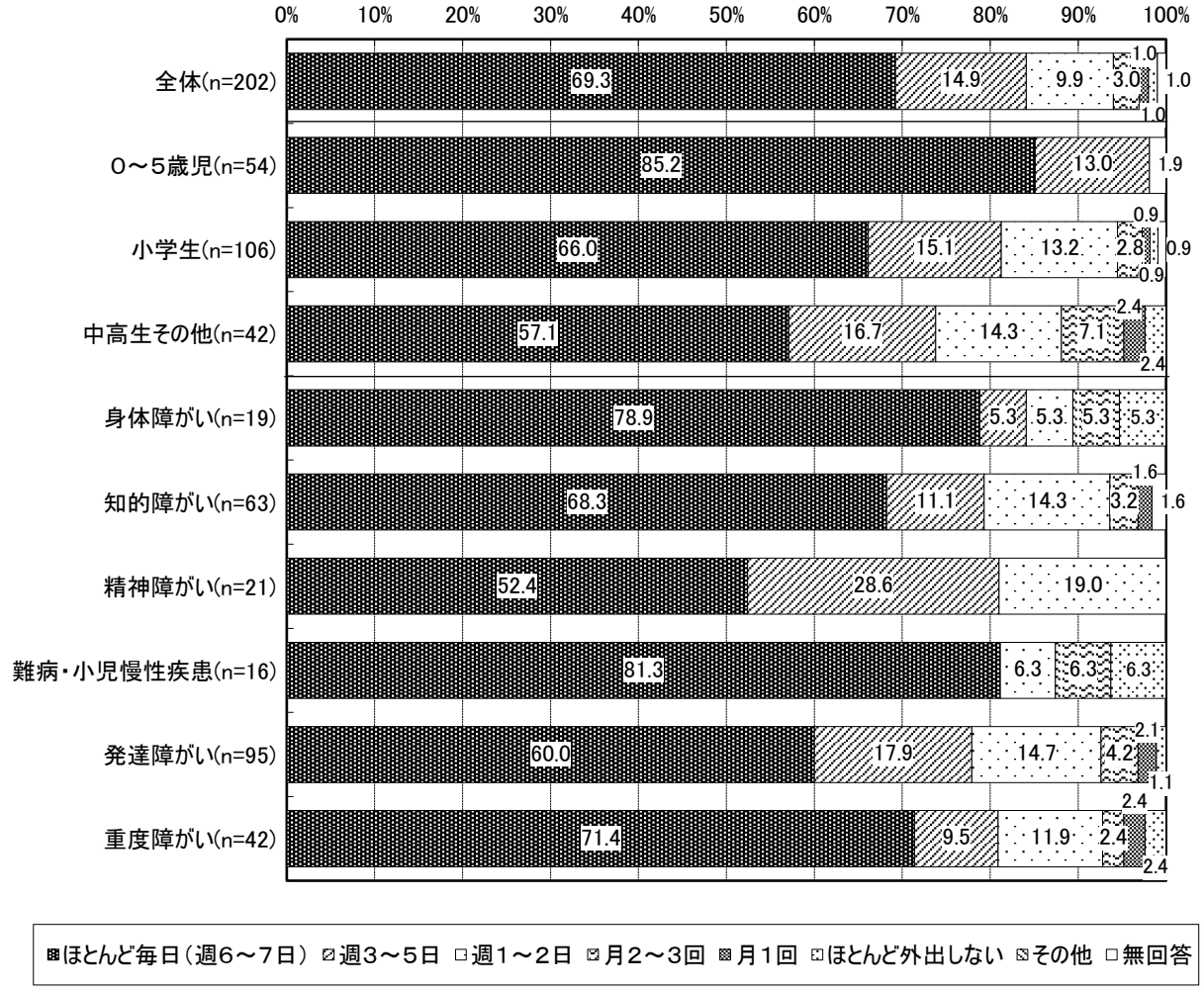
[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「ほとんど毎日（週６～７日）」は18歳～29歳で56.1%、30歳～39歳で50.0%と多く、「週３～５日」は65歳以上で38.2%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「ほとんど毎日（週６～７日）」は発達障がいで54.2%、強度行動障がいで54.1%、知的障がいで51.4%と多くなっています。

◆お子さん（ご本人）は、同伴者（保護者や介助者）と一緒の場合も含めてどれくらい外出しますか。（あてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「ほとんど毎日（週６～７日）」が69.3%と最も多く、次いで「週３～５日」が14.9%、「週１～２日」が9.9%となっています。一方、「ほとんど外出しない」は1.0%となっており、多くの子供が日常的に外出しています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

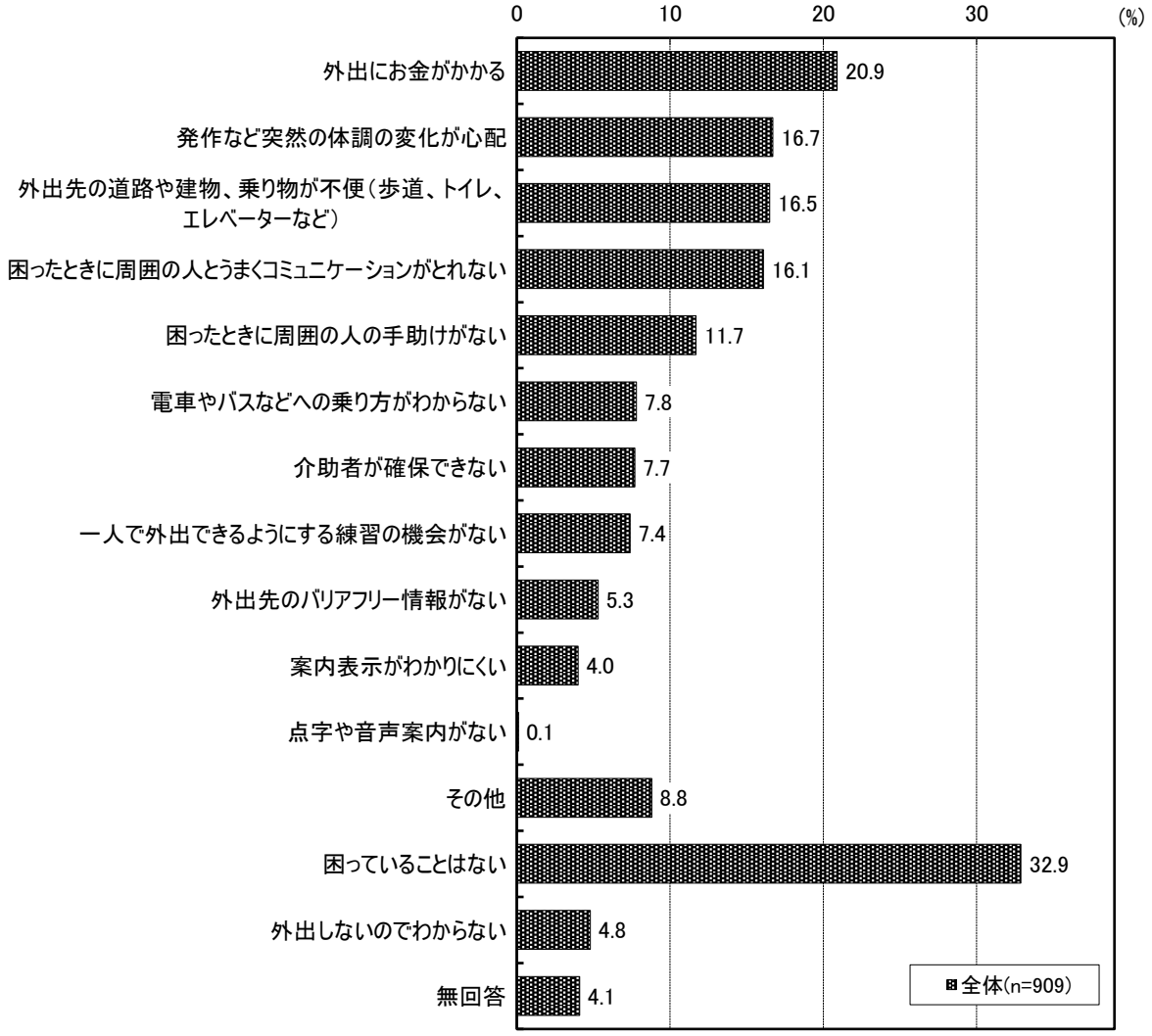
○年齢別にみると、「ほとんど毎日（週６～７日）」は０～５歳児で85.2%と特に多く、小学生でも66.0%となっています。

○障がい種別ごとにみると、「ほとんど毎日（週６～７日）」は難病・小児慢性疾患で81.3%、身体障がいで78.9%、重度障がいで71.4%と多くなっています。

⑤ 外出時の困りごと

◆あなたは、外出するとき、どのようなことに困っていますか。（あてはまるもの５つまでに○）

障がい者計画アンケート



○「困っていることはない」が32.9％と最も多く、困っている内容としては「外出にお金がかかる」が20.9％、「発作など突然の体調の変化が心配」が16.7％、「外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど)」が16.5％、「困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない」が16.1％、「困ったときに周囲の人の手助けがない」が11.7％となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０歳～17歳で「困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない」が37.1％、「一人で外出できるようにする練習の機会がない」が28.4％、「困ったときに周囲の人の手助けがない」が23.3％、「外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど)」が20.7％と多くなっています。18歳～29歳では「困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない」が29.0％となっています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
介助者が確保できない	7.7	12.1	14.5	7.8	6.4	5.9
一人で外出できるようにする練習の機会がない	7.4	**28.4**	2.9	5.8	4.3	3.3
外出にお金がかかる	20.9	5.2	23.2	29.1	26.8	16.5
発作など突然の体調の変化が心配	16.7	14.7	14.5	22.3	20.1	12.1
外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど）	16.5	20.7	10.1	11.7	14.3	19.8
電車やバスなどへの乗り方がわからない	7.8	**19.0**	15.9	10.7	3.7	4.8
点字や音声案内がない	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
案内表示がわかりにくい	4.0	4.3	7.2	4.9	2.4	2.9
外出先のバリアフリー情報がない	5.3	5.2	5.8	1.9	5.5	5.9
困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない	16.1	**37.1**	**29.0**	24.3	12.8	4.8
困ったときに周囲の人の手助けがない	11.7	**23.3**	17.4	11.7	10.7	6.2
その他	8.8	16.4	10.1	7.8	6.7	8.4
困っていることはない	32.9	20.7	27.5	34.0	39.3	32.6
外出しないのでわからない	4.8	0.9	4.3	3.9	1.8	11.0
無回答	4.1	0.9	2.9	1.0	2.1	8.4

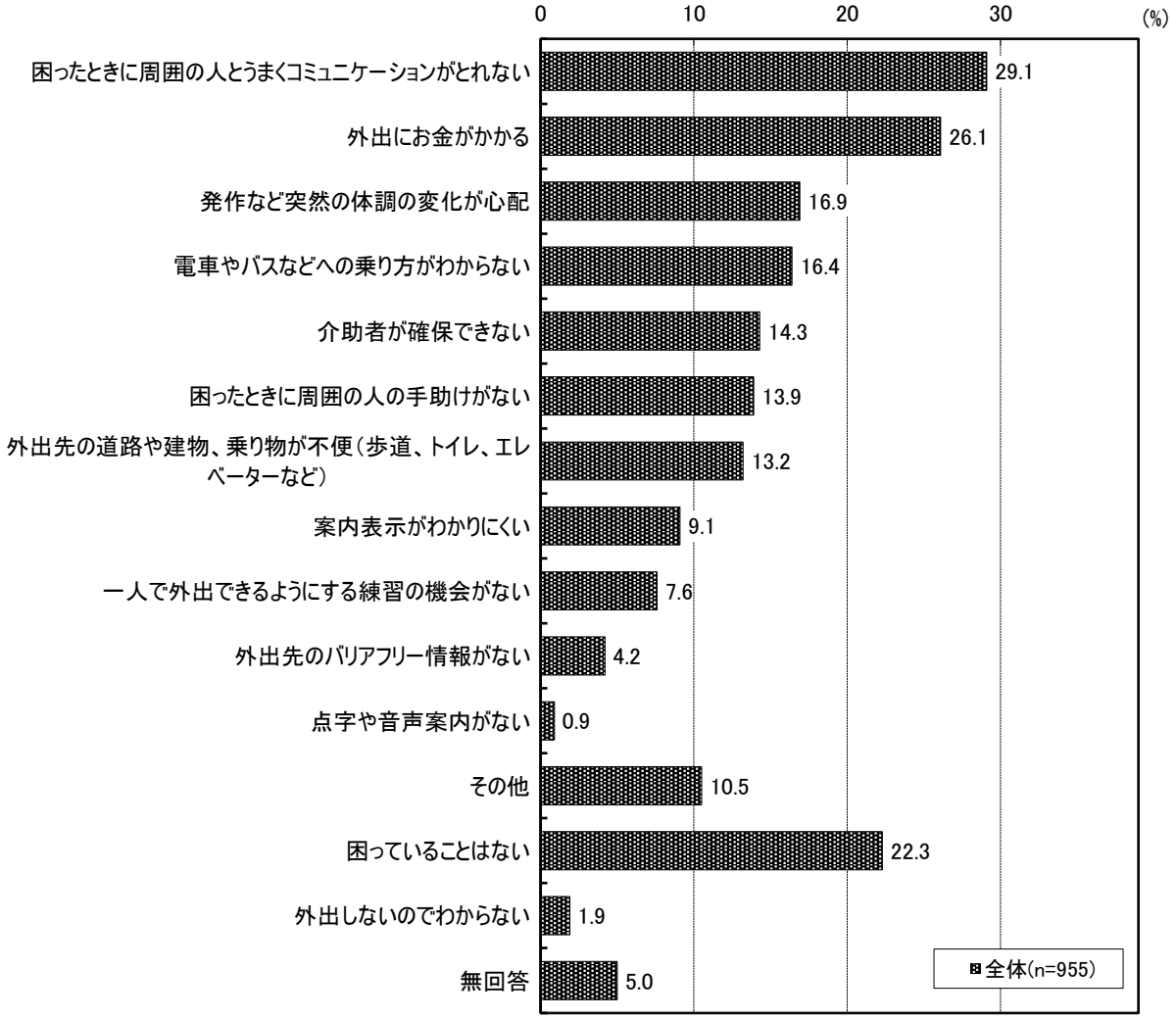
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで「困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない」が42.3%、「困ったときに周囲の人の手助けがない」が23.8%、「電車やバスなどへの乗り方がわからない」が21.7%、「介助者が確保できない」が20.1%、「一人で外出できるようにする練習の機会がない」が19.6%と多くなっています。また、精神障がいで「外出にお金がかかる」が35.9%、難病・小児慢性疾患で「外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど)」が28.6%、「発作など突然の体調の変化が心配」が27.3%と多くなっています。発達障がいでは「困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない」が44.5%、「困ったときに周囲の人の手助けがない」が21.9%となっています。

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
介助者が確保できない	8.4	**20.1**	5.4	12.4	10.3	14.7
一人で外出できるようにする練習の機会がない	4.4	**19.6**	6.0	5.6	16.4	8.6
外出にお金がかかる	15.8	16.4	**35.9**	9.9	22.6	16.2
発作など突然の体調の変化が心配	15.0	19.6	24.5	**27.3**	15.8	19.6
外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど)	24.4	19.0	7.7	**28.6**	4.8	24.8
電車やバスなどへの乗り方がわからない	5.0	**21.7**	7.0	7.5	**18.5**	11.9
点字や音声案内がない	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
案内表示がわかりにくい	3.8	7.9	3.0	2.5	6.8	4.3
外出先のバリアフリー情報がない	8.6	5.3	2.3	7.5	0.7	9.5
困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない	8.4	**42.3**	17.8	8.7	**44.5**	16.8
困ったときに周囲の人の手助けがない	8.8	**23.8**	13.8	8.1	**21.9**	12.8
その他	8.6	11.6	8.7	10.6	13.0	9.8
困っていることはない	33.9	15.3	29.9	29.8	21.2	24.5
外出しないのでわからない	6.4	1.6	2.3	7.5	1.4	7.3
無回答	5.2	3.2	1.7	3.7	2.7	5.5

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない」が29.1%と最も多く、次いで「外出にお金がかかる」が26.1%、「発作など突然の体調の変化が心配」が16.9%、「電車やバスなどへの乗り方がわからない」が16.4%、「介助者が確保できない」が14.3%となっています。外出時にはコミュニケーション面や経済的負担、移動手段への不安などが課題となっています。なお、「困っていることはない」は22.3%でした。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、18歳～29歳で「困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない」が44.8%、65歳以上で「外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど)」が29.3%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない」は強度行動障がいで57.4%、知的障がいで46.7%、発達障がいで41.9%と多くみられます。「介助者が確保できない」は強度行動障がいで41.0%、重度障がいで29.6%、「発作など突然の体調の変化が心配」は強度行動障がいで34.4%、「外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど)」は身体障がいで31.1%、難病で28.4%、「電車やバスなどへの乗り方がわからない」は知的障がいで27.2%とそれぞれ多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：％	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
介助者が確保できない	14.3	18.6	16.8	10.1	16.3
一人で外出できるようにする練習の機会がない	7.6	8.6	5.8	9.1	5.7
外出にお金がかかる	26.1	27.1	25.3	28.5	21.1
発作など突然の体調の変化が心配	16.9	17.2	16.3	18.9	11.4
外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど）	13.2	10.0	7.9	12.8	**29.3**
電車やバスなどへの乗り方がわからない	16.4	22.2	15.8	15.4	10.6
点字や音声案内がない	0.9	0.9	0.0	1.0	2.4
案内表示がわかりにくい	9.1	12.2	3.2	10.6	8.9
外出先のバリアフリー情報がない	4.2	3.2	2.6	3.5	11.4
困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない	29.1	**44.8**	33.7	22.7	14.6
困ったときに周囲の人の手助けがない	13.9	15.4	15.3	14.6	8.1
その他	10.5	9.5	13.7	10.3	8.9
困っていることはない	22.3	15.8	23.2	25.2	22.8
外出しないのでわからない	1.9	1.4	1.6	2.5	1.6
無回答	5.0	1.8	2.1	4.8	11.4

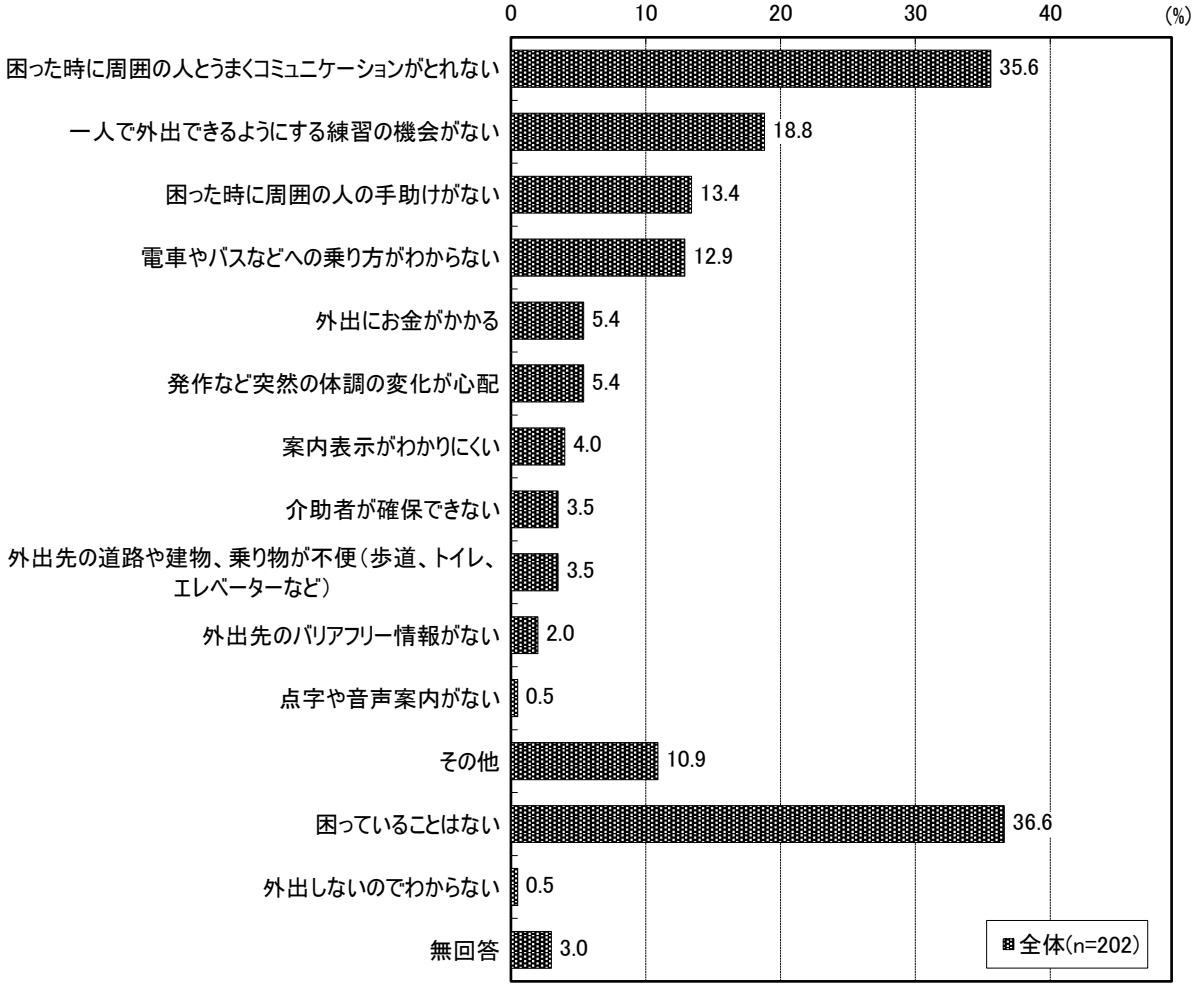
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=257)	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい (n=388)
介助者が確保できない	22.6	23.5	7.1	19.3	15.1	**41.0**	**29.6**
一人で外出できるようにする練習の機会がない	5.8	13.3	5.8	5.7	9.5	6.6	11.6
外出にお金がかかる	23.0	23.0	34.1	21.6	27.1	32.8	20.9
発作など突然の体調の変化が心配	15.2	14.1	23.5	15.9	17.3	**34.4**	17.0
外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど）	**31.1**	9.6	7.8	**28.4**	6.7	13.1	21.9
電車やバスなどへの乗り方がわからない	17.1	**27.2**	12.4	10.2	22.5	26.2	26.3
点字や音声案内がない	3.1	0.0	0.4	2.3	0.0	0.0	1.5
案内表示がわかりにくい	15.2	8.6	7.1	12.5	8.1	3.3	11.1
外出先のバリアフリー情報がない	12.5	2.7	1.8	11.4	1.4	1.6	7.0
困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない	22.6	**46.7**	22.4	19.3	**41.9**	**57.4**	38.9
困ったときに周囲の人の手助けがない	14.4	18.0	11.8	18.2	17.6	21.3	18.0
その他	12.1	11.1	10.4	14.8	12.3	13.1	12.1
困っていることはない	15.6	14.1	27.1	22.7	20.1	1.6	8.5
外出しないのでわからない	1.6	2.7	1.8	2.3	1.1	1.6	3.4
無回答	5.4	5.9	3.1	2.3	2.8	8.2	5.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆お子さん（ご本人）は、外出するとき、どのようなことに困っていますか。（あてはまるものすべてに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「困っていることはない」が36.6％と最も多く、困っている内容としては「困った時に周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない」が35.6％、「一人で外出できるようにする練習の機会がない」が18.8％、「困った時に周囲の人の手助けがない」が13.4％、「電車やバスなどへの乗り方がわからない」が12.9％となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０～５歳児で「困っていることはない」が61.1％と多く、中高生その他で「困った時に周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない」が52.4％と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「困った時に周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない」は発達障がいで53.7％、知的障がいで52.4％、重度障がいで50.0％と多く、「電車やバスなどへの乗り方がわからない」は知的障がいで27.0％、重度障がいで23.8％と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
介助者が確保できない	3.5	0.0	3.8	7.1	**15.8**	7.9	4.8	**18.8**	4.2	**14.3**
一人で外出できるようにする練習の機会がない	18.8	13.0	24.5	11.9	26.3	25.4	23.8	**31.3**	25.3	23.8
外出にお金がかかる	5.4	1.9	6.6	7.1	0.0	6.3	**19.0**	0.0	11.6	9.5
発作など突然の体調の変化が心配	5.4	3.7	5.7	7.1	10.5	9.5	**23.8**	12.5	8.4	**16.7**
外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど）	3.5	0.0	5.7	2.4	**21.1**	7.9	4.8	**18.8**	3.2	11.9
電車やバスなどへの乗り方がわからない	12.9	5.6	15.1	16.7	15.8	**27.0**	19.0	18.8	18.9	**23.8**
点字や音声案内がない	0.5	0.0	0.0	2.4	0.0	1.6	0.0	0.0	1.1	2.4
案内表示がわかりにくい	4.0	0.0	5.7	4.8	5.3	4.8	0.0	0.0	4.2	4.8
外出先のバリアフリー情報がない	2.0	0.0	2.8	2.4	**15.8**	6.3	0.0	**18.8**	1.1	9.5
困った時に周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない	35.6	18.5	37.7	**52.4**	31.6	**52.4**	**61.9**	31.3	**53.7**	**50.0**
困った時に周囲の人の手助けがない	13.4	7.4	17.0	11.9	21.1	22.2	**33.3**	**31.3**	17.9	**28.6**
その他	10.9	7.4	14.2	7.1	10.5	12.7	9.5	12.5	12.6	14.3
困っていることはない	36.6	**61.1**	29.2	23.8	31.6	15.9	9.5	18.8	21.1	14.3
外出しないのでわからない	0.5	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	3.0	9.3	0.9	0.0	0.0	4.8	0.0	6.3	1.1	2.4

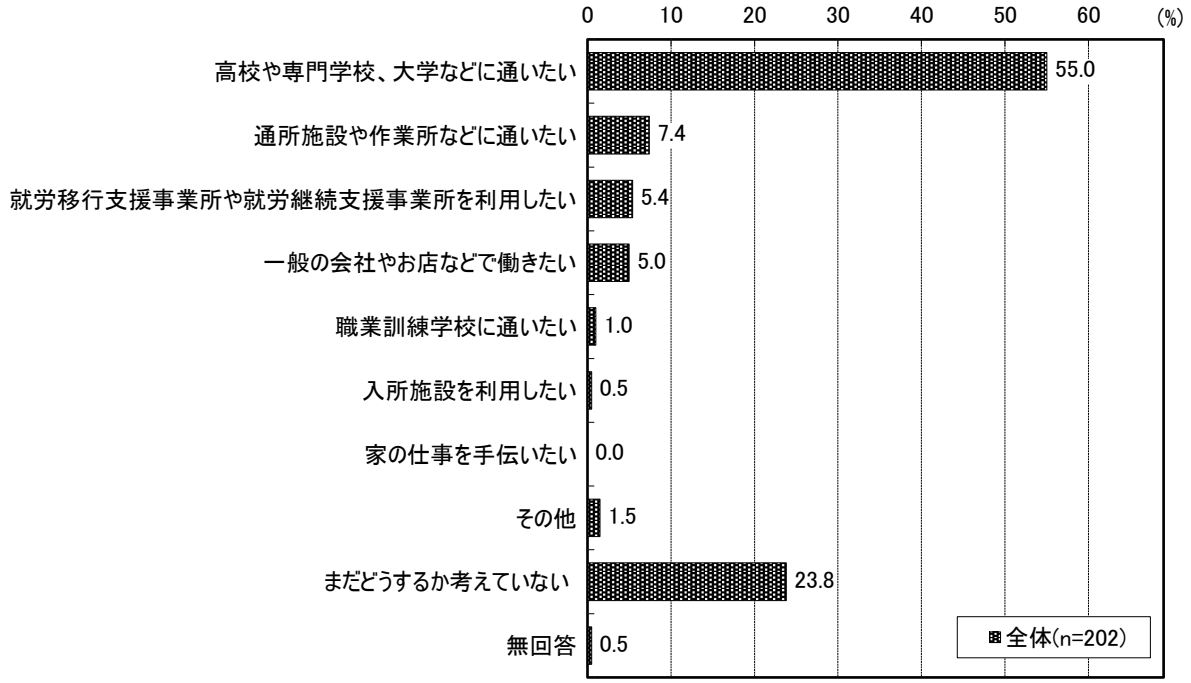
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

6　就労や交流の状況と意向

① 卒業後の進路

◆お子さん（ご本人）は卒業後（義務教育期間の終了後）の進路をどのように考えていますか。（最もあてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「高校や専門学校、大学などに通いたい」が55.0％と最も多く、「まだどうするか考えていない」が23.8％、「通所施設や作業所などに通いたい」が7.4％、「就労移行支援事業所や就労継続支援事業所を利用したい」が5.4％、「一般の会社やお店などで働きたい」が5.0％と続いています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、中高生その他で「高校や専門学校、大学などに通いたい」が66.7％と多く、０～５歳児で「まだどうするか考えていない」が38.9％となっています。

○障がい種別ごとにみると、重度障がいで「通所施設や作業所などに通いたい」が31.0％、知的障がいでも23.8％と全体値を上回っています。

（属性別クロス集計）

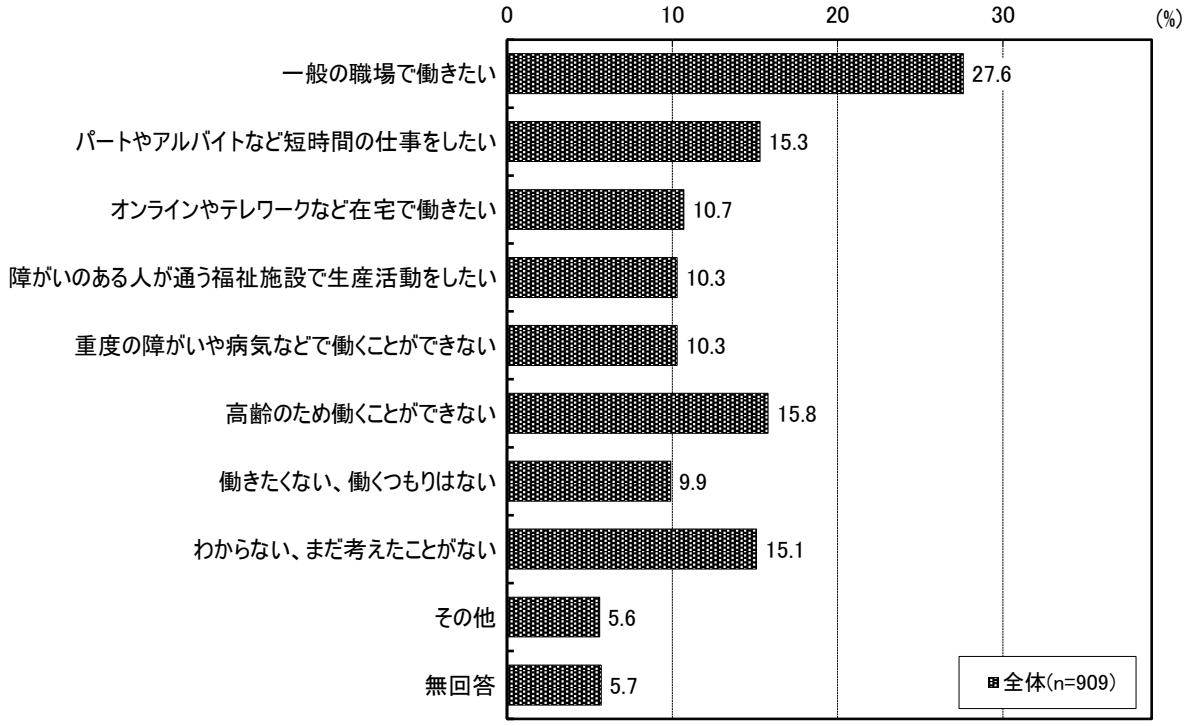
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
高校や専門学校、大学などに通いたい	55.0	50.0	52.8	**66.7**	36.8	25.4	57.1	25.0	49.5	26.2
一般の会社やお店などで働きたい	5.0	1.9	6.6	4.8	5.3	6.3	14.3	0.0	7.4	9.5
職業訓練学校に通いたい	1.0	0.0	0.9	2.4	0.0	1.6	0.0	0.0	1.1	2.4
就労移行支援事業所や就労継続支援事業所を利用したい	5.4	1.9	6.6	7.1	**15.8**	12.7	9.5	6.3	7.4	7.1
通所施設や作業所などに通いたい	7.4	3.7	7.5	11.9	**21.1**	**23.8**	0.0	**43.8**	7.4	**31.0**
家の仕事を手伝いたい	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入所施設を利用したい	0.5	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	4.8	0.0	1.1	0.0
その他	1.5	3.7	0.9	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	1.1	4.8
まだどうするか考えていない	23.8	**38.9**	23.6	4.8	21.1	27.0	14.3	25.0	24.2	19.0
無回答	0.5	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

② 今後の就労意向

◆今後、働くことについて、どのように考えていますか。現在すでに働いている人も望ましいと思う働き方を選んでください。（あてはまるもの２つまでに○）

障がい者計画アンケート



○「一般の職場で働きたい」が27.6％と最も多く、次いで「高齢のため働くことができない」が15.8％、「パートやアルバイトなど短時間の仕事をしたい」が15.3％、「わからない、まだ考えたことがない」が15.1％、「オンラインやテレワークなど在宅で働きたい」が10.7％、「障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい」と「重度の障がいや病気などで働くことができない」がそれぞれ10.3％となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「一般の職場で働きたい」は18歳～29歳で56.5％、30歳～39歳でも50.5％と多くみられます。０歳～17歳では「わからない、まだ考えたことがない」が39.7％、「障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい」が32.8％となっています。また、18歳～29歳では「オンラインやテレワークなど在宅で働きたい」が23.2％と多く、65歳以上では「高齢のため働くことができない」が48.7％となっています。

○障がい種別ごとにみると、発達障がいで「一般の職場で働きたい」が38.4％と多く、「障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい」は知的障がいで32.8％、発達障がいで24.0％となっています。重度障がいでは「重度の障がいや病気などで働くことができない」が22.3％となっています。

（属性別クロス集計）

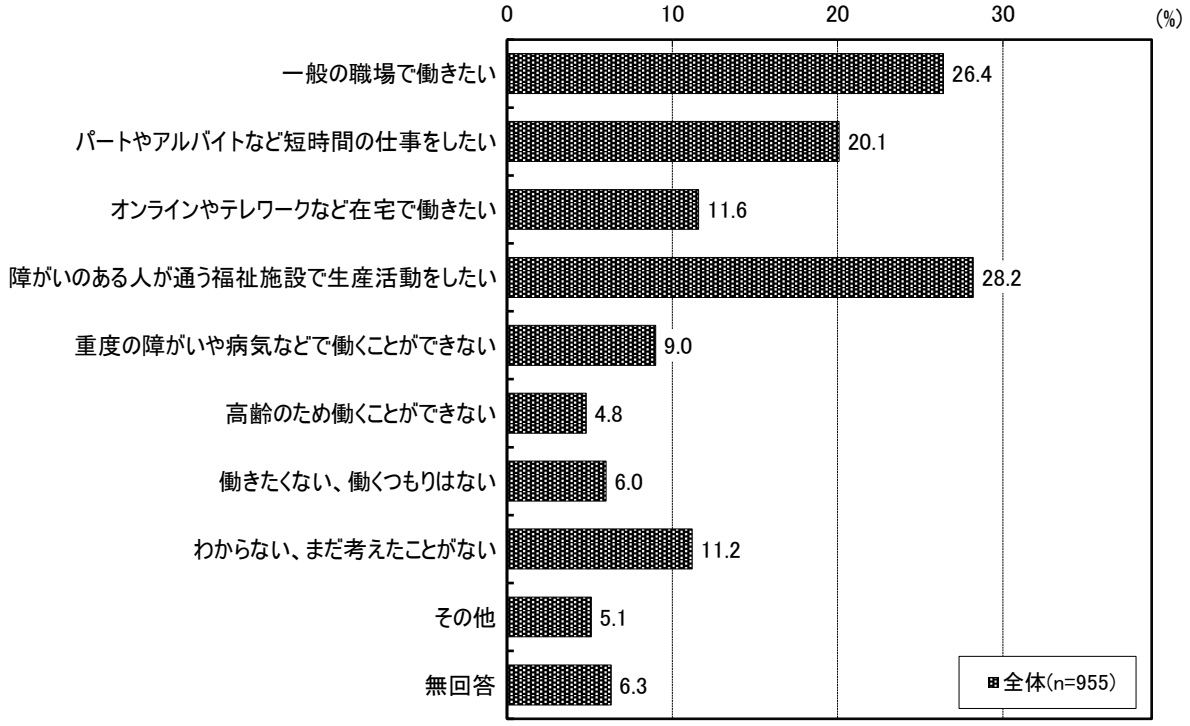
単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
一般の職場で働きたい	27.6	28.4	**56.5**	**50.5**	36.3	1.5
パートやアルバイトなど短時間の仕事をしたい	15.3	5.2	8.7	16.5	23.2	11.7
オンラインやテレワークなど在宅で働きたい	10.7	2.6	**23.2**	19.4	15.2	2.2
障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい	10.3	**32.8**	14.5	12.6	8.5	1.8
重度の障がいや病気などで働くことができない	10.3	12.1	10.1	10.7	9.5	10.6
高齢のため働くことができない	15.8	0.0	0.0	0.0	1.8	**48.7**
働きたくない、働くつもりはない	9.9	1.7	1.4	4.9	7.9	19.8
わからない、まだ考えたことがない	15.1	**39.7**	8.7	8.7	14.6	8.8
その他	5.6	1.7	7.2	6.8	5.5	6.6
無回答	5.7	0.9	1.4	2.9	3.7	11.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患(n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
一般の職場で働きたい	24.0	20.6	32.9	22.4	**38.4**	17.1
パートやアルバイトなど短時間の仕事をしたい	13.2	7.4	20.8	9.9	10.3	11.3
オンラインやテレワークなど在宅で働きたい	9.2	4.8	15.4	11.8	11.0	8.0
障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい	8.0	**32.8**	9.7	11.2	**24.0**	15.6
重度の障がいや病気などで働くことができない	13.0	19.0	9.1	18.6	7.5	**22.3**
高齢のため働くことができない	23.0	0.5	7.7	19.9	0.7	18.0
働きたくない、働くつもりはない	10.0	1.6	11.4	8.1	5.5	6.7
わからない、まだ考えたことがない	12.4	**28.6**	13.4	16.1	24.0	14.7
その他	4.2	1.6	9.1	5.6	4.8	5.2
無回答	7.2	4.8	3.0	3.1	2.1	7.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい」が28.2％と最も多く、次いで「一般の職場で働きたい」が26.4％、「パートやアルバイトなど短時間の仕事をしたい」が20.1％、「オンラインやテレワークなど在宅で働きたい」が11.6％、「わからない、まだ考えたことがない」が11.2％となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、18歳～29歳で「一般の職場で働きたい」が40.3％、65歳以上で「高齢のため働くことができない」が26.8％と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい」は強度行動障がいで55.7％、知的障がいで43.0％、重度障がいで40.5％と多くみられます。精神障がいでは「パートやアルバイトなど短時間の仕事をしたい」が30.6％と多く、「重度の障がいや病気などで働くことができない」は強度行動障がいで21.3％、重度障がいで19.8％となっています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
一般の職場で働きたい	26.4	**40.3**	28.9	26.2	2.4
パートやアルバイトなど短時間の仕事をしたい	20.1	21.3	17.4	24.2	8.9
オンラインやテレワークなど在宅で働きたい	11.6	8.6	16.8	12.3	8.1
障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい	28.2	28.5	34.2	28.0	18.7
重度の障がいや病気などで働くことができない	9.0	8.6	13.7	7.6	5.7
高齢のため働くことができない	4.8	0.0	0.0	3.3	**26.8**
働きたくない、働くつもりはない	6.0	3.2	2.6	6.0	14.6
わからない、まだ考えたことがない	11.2	11.3	10.5	10.6	13.0
その他	5.1	3.2	3.7	5.5	10.6
無回答	6.3	4.1	4.2	5.8	13.0

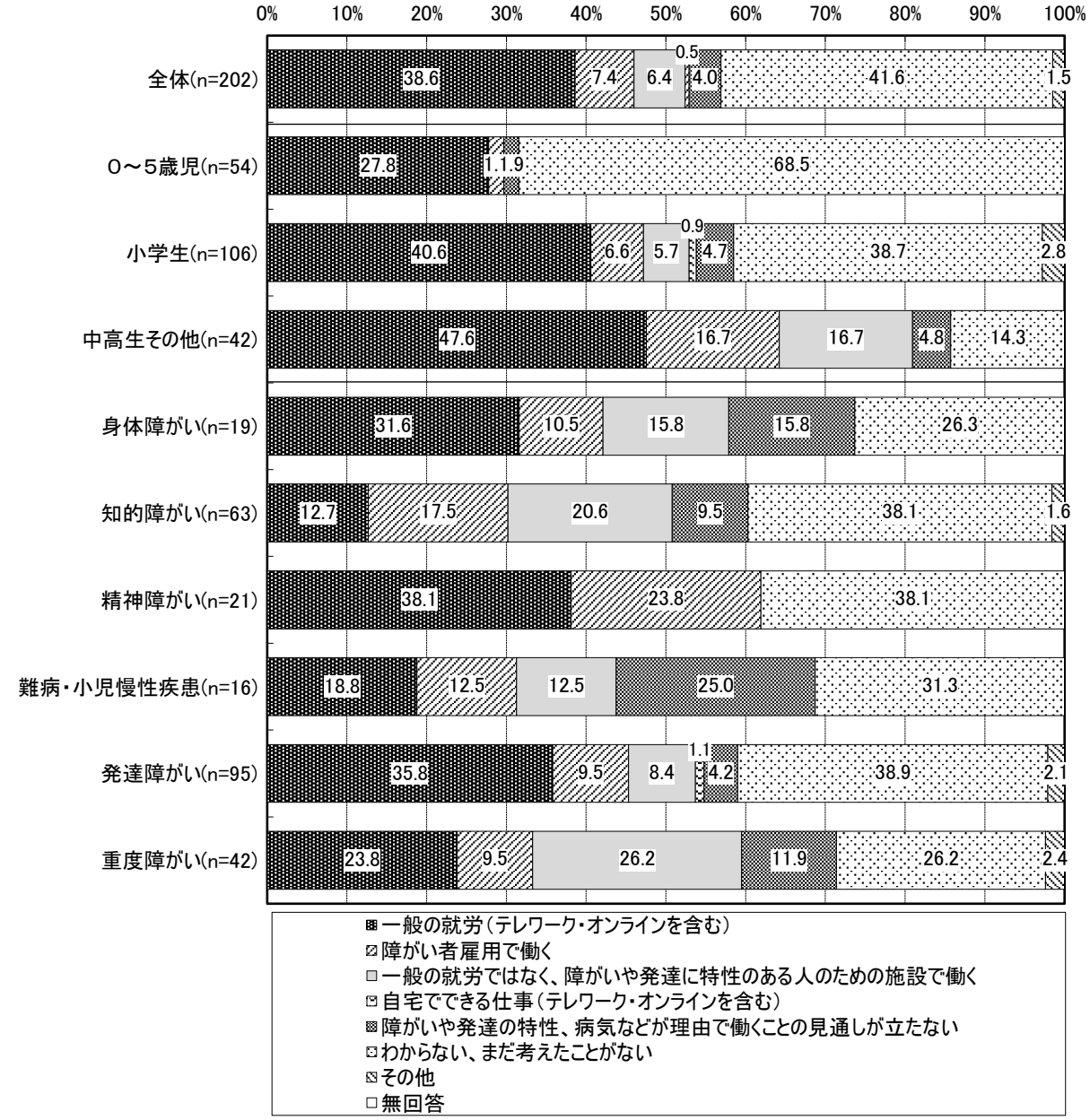
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=257)	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい (n=388)
一般の職場で働きたい	21.4	19.0	32.6	23.9	28.5	11.5	12.4
パートやアルバイトなど短時間の仕事をしたい	11.7	11.4	**30.6**	21.6	17.6	9.8	8.0
オンラインやテレワークなど在宅で働きたい	10.9	3.0	16.4	15.9	11.3	1.6	5.4
障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい	22.2	**43.0**	24.4	15.9	33.8	**55.7**	**40.5**
重度の障がいや病気などで働くことができない	16.3	14.8	3.5	9.1	9.9	**21.3**	**19.8**
高齢のため働くことができない	10.9	1.2	4.0	8.0	0.4	0.0	4.4
働きたくない、働くつもりはない	8.6	2.7	6.0	8.0	2.5	1.6	4.9
わからない、まだ考えたことがない	11.3	12.3	12.0	10.2	14.8	6.6	10.8
その他	7.0	3.2	6.2	6.8	4.6	0.0	3.1
無回答	5.4	8.1	3.8	10.2	4.2	8.2	8.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆お子さん（ご本人）は、将来、働くことについて、どのように考えていますか。（最もあてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「わからない、まだ考えたことがない」が41.6％と最も多く、次いで「一般の就労（テレワーク・オンラインを含む)」が38.6％となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

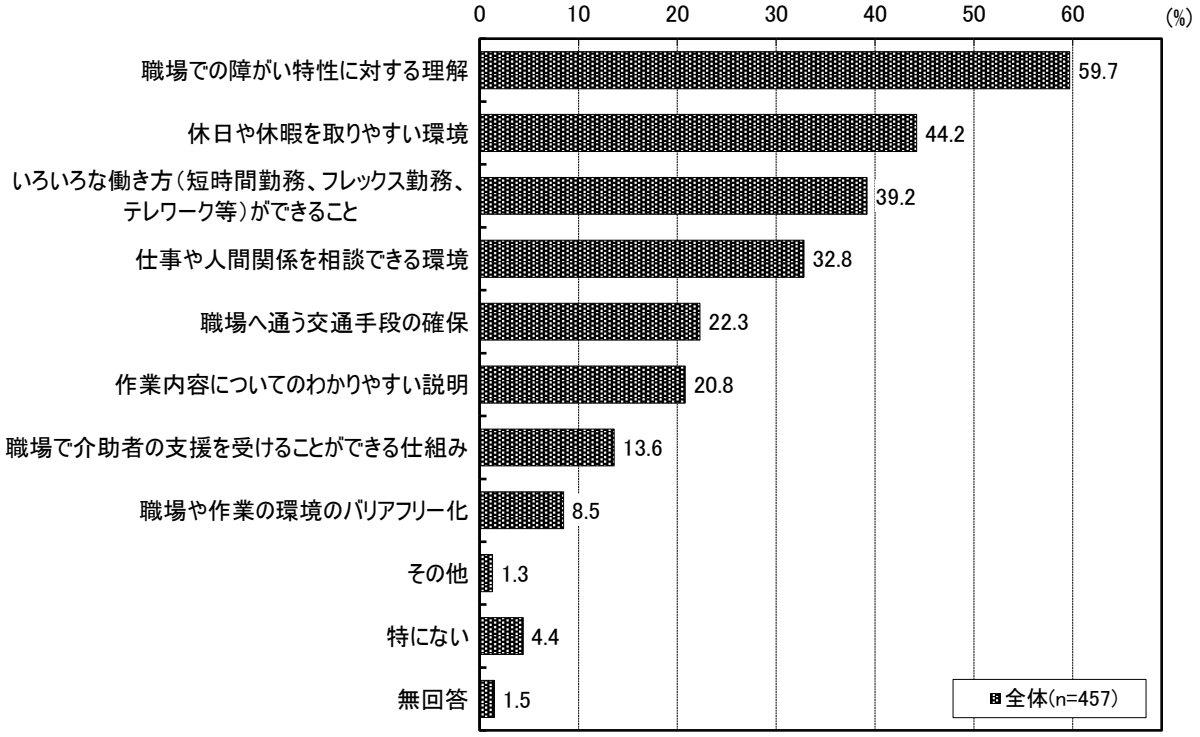
○年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「一般の就労（テレワーク・オンラインを含む)」「障がい者雇用で働く」「一般の就労ではなく、障がいや発達に特性のある人のための施設で働く」と答える人が増え、「わからない、まだ考えたことがない」が減っています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで「一般の就労ではなく、障がいや発達に特性のある人のための施設で働く」が20.6％、「障がい者雇用で働く」が17.5％と全体値を上回っています。

③ 働きやすい環境

◆どのような環境があれば働きやすいと思いますか。（あてはまるもの３つまでに○）

障がい者計画アンケート



※何らかの形で働いていると答えた人に対する設問

○「職場での障がい特性に対する理解」が59.7%と最も多く、次いで「休日や休暇を取りやすい環境」が44.2%、「いろいろな働き方（短時間勤務、フレックス勤務、テレワーク等）ができること」が39.2%、「仕事や人間関係を相談できる環境」が32.8%、「職場へ通う交通手段の確保」が22.3%、「作業内容についてのわかりやすい説明」が20.8%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０歳～17歳で「職場での障がい特性に対する理解」が81.8%、「職場で介助者の支援を受けることができる仕組み」が54.5%、「作業内容についてのわかりやすい説明」が37.9%、「職場へ通う交通手段の確保」が36.4%と多くなっています。18歳～29歳では「仕事や人間関係を相談できる環境」が43.6%、40歳～64歳では「休日や休暇を取りやすい環境」が56.2%、65歳以上では「職場へ通う交通手段の確保」が34.2%とそれぞれ多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「職場での障がい特性に対する理解」は発達障がいで77.0%、知的障がいで75.5%、「職場で介助者の支援を受けることができる仕組み」は知的障がいで44.3%、重度障がいで26.3%、発達障がいで26.0%、「仕事や人間関係を相談できる環境」は発達障がいで47.0%、精神障がいで45.3%、「作業内容についてのわかりやすい説明」は知的障がいで41.5%、発達障がいで35.0%、「職場へ通う交通手段の確保」は知的障がいで34.9%とそれぞれ多くみられます。

（属性別クロス集計）

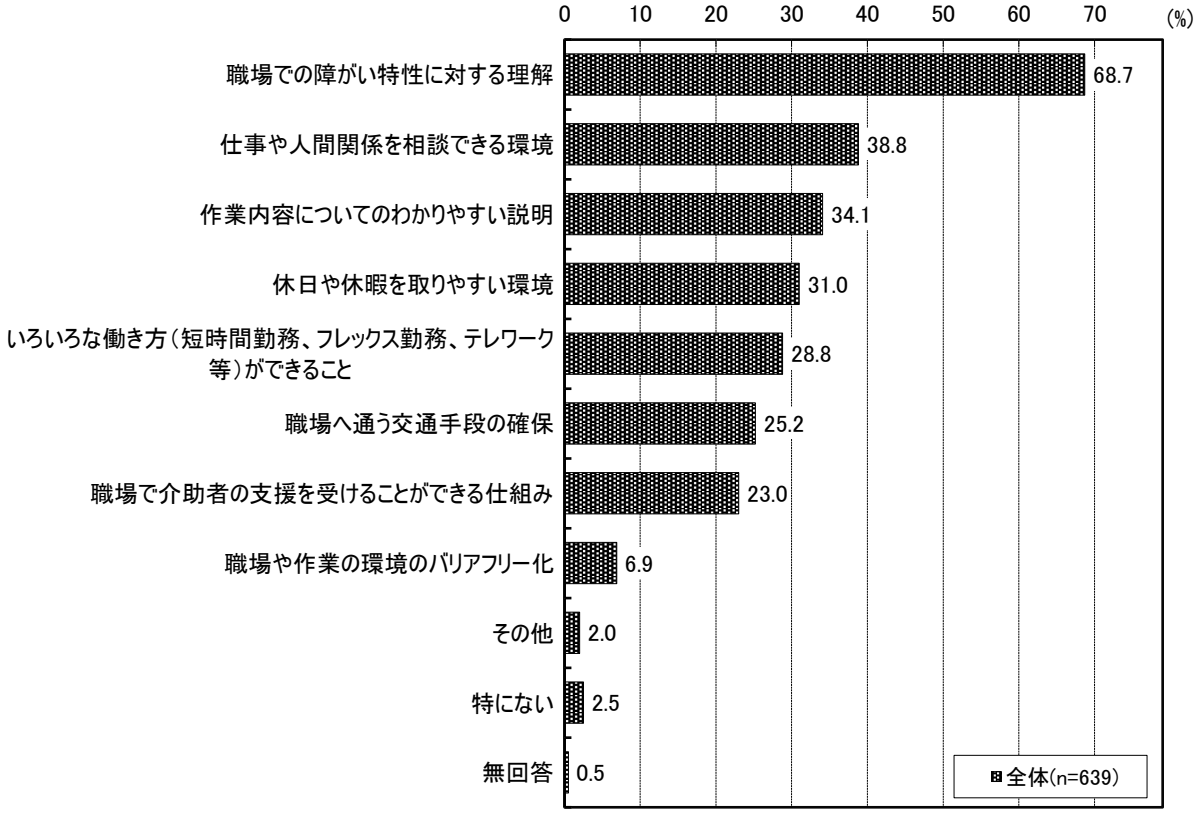
単位：%	全体 (n=457)	0歳～17歳 (n=66)	18歳～29歳 (n=55)	30歳～39歳 (n=76)	40歳～64歳 (n=217)	65歳以上 (n=38)
職場での障がい特性に対する理解	59.7	**81.8**	67.3	61.8	54.8	31.6
職場や作業の環境のバリアフリー化	8.5	9.1	10.9	10.5	7.4	7.9
職場へ通う交通手段の確保	22.3	**36.4**	12.7	18.4	20.3	**34.2**
作業内容についてのわかりやすい説明	20.8	**37.9**	21.8	27.6	13.8	13.2
いろいろな働き方（短時間勤務、フレックス勤務、テレワーク等）ができること	39.2	25.8	29.1	40.8	45.2	39.5
休日や休暇を取りやすい環境	44.2	19.7	36.4	42.1	**56.2**	34.2
仕事や人間関係を相談できる環境	32.8	24.2	**43.6**	35.5	32.3	23.7
職場で介助者の支援を受けることができる仕組み	13.6	**54.5**	10.9	10.5	4.6	5.3
その他	1.3	3.0	5.5	0.0	0.5	0.0
特にない	4.4	0.0	3.6	2.6	3.7	**21.1**
無回答	1.5	1.5	3.6	0.0	1.4	2.6

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=216)	知的障がい (n=106)	精神障がい (n=181)	難病 (n=70)	発達障がい (n=100)	重度障がい (n=137)
職場での障がい特性に対する理解	52.8	**75.5**	63.5	51.4	**77.0**	59.9
職場や作業の環境のバリアフリー化	14.8	6.6	2.2	4.3	5.0	13.9
職場へ通う交通手段の確保	25.9	**34.9**	17.7	27.1	19.0	**35.0**
作業内容についてのわかりやすい説明	14.4	**41.5**	23.8	12.9	**35.0**	19.0
いろいろな働き方（短時間勤務、フレックス勤務、テレワーク等）ができること	41.7	13.2	42.0	47.1	24.0	34.3
休日や休暇を取りやすい環境	44.0	16.0	50.8	48.6	31.0	32.1
仕事や人間関係を相談できる環境	21.3	29.2	**45.3**	18.6	**47.0**	16.1
職場で介助者の支援を受けることができる仕組み	13.0	**44.3**	5.0	14.3	**26.0**	**26.3**
その他	1.4	1.9	1.1	5.7	2.0	1.5
特にない	6.9	0.0	2.2	7.1	0.0	5.8
無回答	1.9	2.8	0.6	1.4	3.0	2.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



※何らかの形で働いていると答えた人に対する設問

○「職場での障がい特性に対する理解」が68.7%と最も多く、次いで「仕事や人間関係を相談できる環境」が38.8%、「作業内容についてのわかりやすい説明」が34.1%、「休日や休暇を取りやすい環境」が31.0%、「いろいろな働き方（短時間勤務、フレックス勤務、テレワーク等）ができること」が28.8%、「職場へ通う交通手段の確保」が25.2%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、18歳～29歳で「職場での障がい特性に対する理解」が78.9%と特に多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「職場で介助者の支援を受けることができる仕組み」は強度行動障がいではが66.7%、重度障がいで48.0%と多く、「職場へ通う交通手段の確保」も強度行動障がいで52.4%、重度障がいで36.9%と多くなっています。また、難病で「いろいろな働き方（短時間勤務、フレックス勤務、テレワーク等）ができること」が49.0%、知的障がいで「作業内容についてのわかりやすい説明」が45.2%、精神障がいで「休日や休暇を取りやすい環境」が42.3%とそれぞれ多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=639)	18歳～29歳 (n=171)	30歳～39歳 (n=139)	40歳～64歳 (n=278)	65歳以上 (n=40)
職場での障がい特性に対する理解	68.7	**78.9**	64.0	68.3	50.0
職場や作業の環境のバリアフリー化	6.9	4.7	7.2	7.2	12.5
職場へ通う交通手段の確保	25.2	26.3	24.5	24.5	32.5
作業内容についてのわかりやすい説明	34.1	42.7	33.8	30.2	25.0
いろいろな働き方（短時間勤務、フレックス勤務、テレワーク等）ができること	28.8	23.4	33.1	30.2	27.5
休日や休暇を取りやすい環境	31.0	21.6	36.0	37.4	12.5
仕事や人間関係を相談できる環境	38.8	42.7	40.3	38.5	17.5
職場で介助者の支援を受けることができる仕組み	23.0	28.1	30.9	15.5	22.5
その他	2.0	1.8	2.9	1.1	7.5
特にない	2.5	3.5	0.0	2.5	7.5
無回答	0.5	0.0	0.0	0.4	2.5

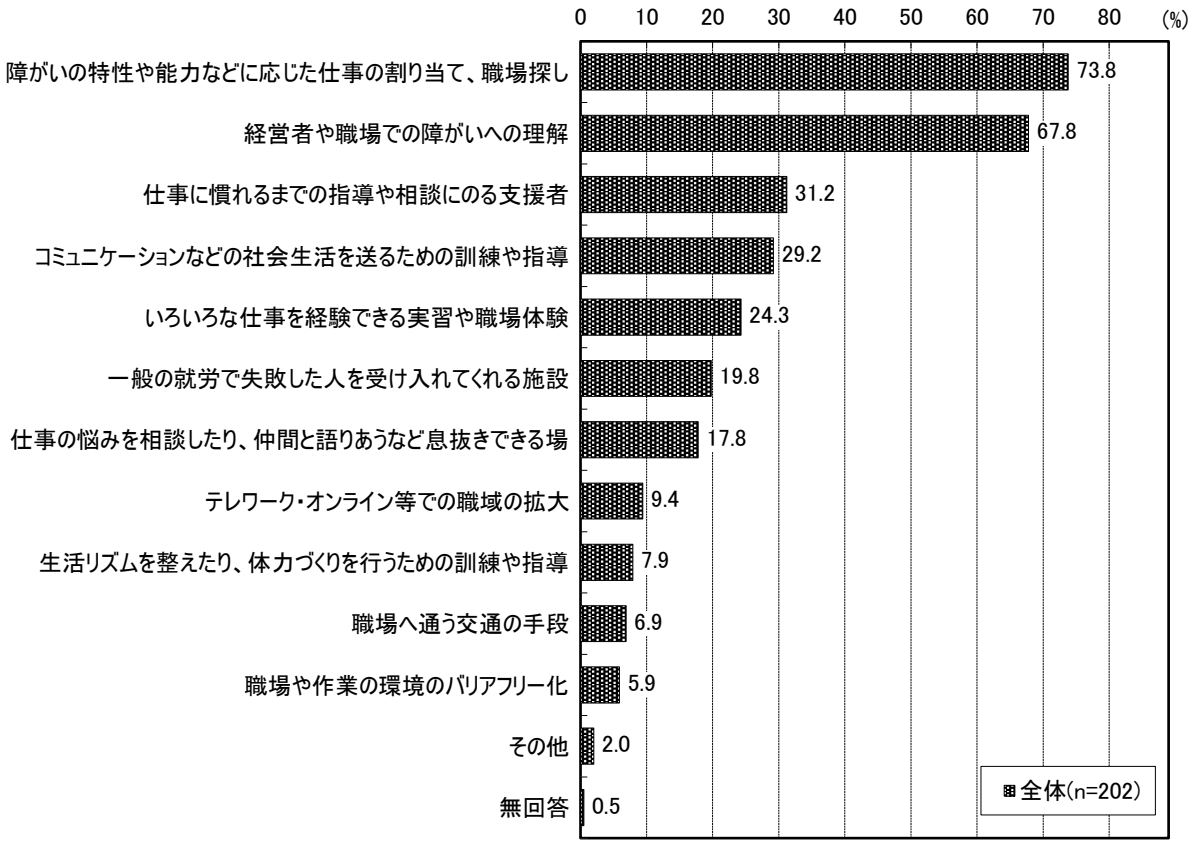
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=257)	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい (n=388)
職場での障がい特性に対する理解	66.9	74.1	68.3	61.2	78.2	73.8	72.9
職場や作業の環境のバリアフリー化	**19.9**	7.2	2.7	16.3	2.9	4.8	16.0
職場へ通う交通手段の確保	31.6	31.9	19.5	26.5	28.2	**52.4**	**36.9**
作業内容についてのわかりやすい説明	25.0	**45.2**	34.0	18.4	41.7	35.7	31.6
いろいろな働き方（短時間勤務、フレックス勤務、テレワーク等）ができること	29.4	9.9	36.7	**49.0**	23.8	14.3	16.4
休日や休暇を取りやすい環境	22.1	10.6	**42.3**	28.6	26.2	16.7	12.9
仕事や人間関係を相談できる環境	30.1	35.0	47.0	26.5	40.3	19.0	22.7
職場で介助者の支援を受けることができる仕組み	27.9	41.8	12.4	28.6	25.2	**66.7**	**48.0**
その他	0.0	2.7	1.2	4.1	3.4	7.1	2.2
特にない	4.4	1.9	1.8	2.0	2.4	0.0	2.2
無回答	0.7	0.4	0.3	2.0	0.0	0.0	0.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆障がいや発達に特性がある人が一般の就労で働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「障がいの特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が73.8%と最も多く、これに次いで「経営者や職場での障がいへの理解」が67.8%、「仕事に慣れるまでの指導や相談にのる支援者」が31.2%、「コミュニケーションなどの社会生活を送るための訓練や指導」が29.2%と続いています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、中高生その他で「障がいの特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が85.7%と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、精神障がいで「障がいの特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が85.7%、「経営者や職場での障がいへの理解」が81.0%と多く、身体障がいでも「経営者や職場での障がいへの理解」が78.9%、「職場や作業の環境のバリアフリー化」が36.8%と全体値を上回っています。

（属性別クロス集計）

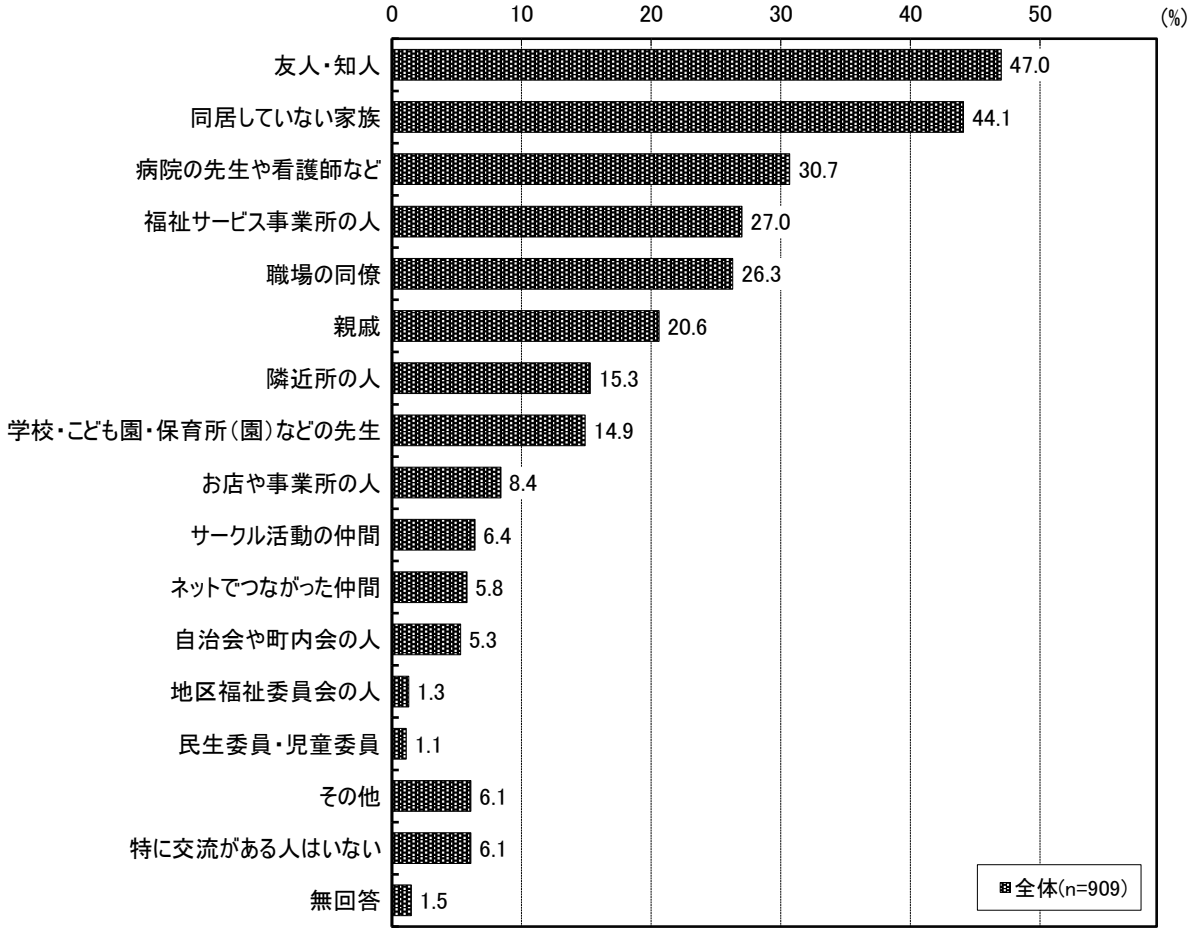
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
障がいの特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し	73.8	72.2	69.8	**85.7**	73.7	81.0	**85.7**	68.8	78.9	81.0
いろいろな仕事を経験できる実習や職場体験	24.3	24.1	21.7	31.0	5.3	27.0	23.8	6.3	30.5	14.3
テレワーク・オンライン等での職域の拡大	9.4	5.6	11.3	9.5	0.0	7.9	14.3	12.5	12.6	7.1
経営者や職場での障がいへの理解	67.8	57.4	71.7	71.4	**78.9**	69.8	**81.0**	62.5	66.3	76.2
生活リズムを整えたり、体力づくりを行うための訓練や指導	7.9	7.4	7.5	9.5	5.3	7.9	4.8	12.5	9.5	9.5
コミュニケーションなどの社会生活を送るための訓練や指導	29.2	37.0	26.4	26.2	21.1	30.2	9.5	25.0	26.3	23.8
仕事に慣れるまでの指導や相談にのる支援者	31.2	31.5	31.1	31.0	0.0	39.7	28.6	0.0	32.6	14.3
仕事の悩みを相談したり、仲間と語りあうなど息抜きできる場	17.8	20.4	15.1	21.4	15.8	17.5	19.0	12.5	16.8	16.7
一般の就労で失敗した人を受け入れてくれる施設	19.8	14.8	22.6	19.0	10.5	17.5	19.0	18.8	21.1	11.9
職場や作業の環境のバリアフリー化	5.9	3.7	5.7	9.5	**36.8**	3.2	9.5	**25.0**	3.2	**16.7**
職場へ通う交通の手段	6.9	5.6	5.7	11.9	10.5	**17.5**	4.8	**18.8**	9.5	**21.4**
その他	2.0	1.9	2.8	0.0	5.3	3.2	9.5	0.0	2.1	2.4
無回答	0.5	0.0	0.9	0.0	5.3	1.6	0.0	6.3	0.0	2.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

④ 日常的な交流の状況

◆あなたは、日ごろどのような人と交流がありますか。（あてはまる人すべてに○）

障がい者計画アンケート



○「友人・知人」が47.0％と最も多く、次いで「同居していない家族」が44.1％、「病院の先生や看護師など」が30.7％、「福祉サービス事業所の人」が27.0％、「職場の同僚」が26.3％となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、０歳～17歳で「学校・こども園・保育所（園）などの先生」が89.7％、「福祉サービス事業所の人」が56.0％、「親戚」が37.9％と多くなっています。18歳～29歳でも「福祉サービス事業所の人」が37.7％と多いほか、「職場の同僚」は18歳から64歳にかけて40％前後となっています。

○障がい種別ごとにみると、「福祉サービス事業所の人」は知的障がいで57.7％、発達障がいで42.5％、重度障がいで37.0％と多くみられます。「学校・こども園・保育所（園）などの先生」は知的障がいで47.6％、発達障がいで37.0％となっています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
同居していない家族	44.1	37.9	42.0	44.7	44.5	47.6
親戚	20.6	**37.9**	26.1	15.5	14.3	19.4
隣近所の人	15.3	12.9	11.6	7.8	12.8	23.1
友人・知人	47.0	54.3	56.5	48.5	41.2	47.3
自治会や町内会の人	5.3	1.7	0.0	1.9	3.4	11.4
民生委員・児童委員	1.1	0.0	0.0	0.0	0.9	2.2
地区福祉委員会の人	1.3	0.0	0.0	1.0	0.6	3.3
お店や事業所の人	8.4	3.4	14.5	10.7	11.9	4.0
職場の同僚	26.3	0.0	**39.1**	**42.7**	**43.9**	6.6
サークル活動の仲間	6.4	0.9	11.6	6.8	3.0	10.6
学校・こども園・保育所（園）などの先生	14.9	**89.7**	10.1	9.7	3.4	0.4
福祉サービス事業所の人	27.0	**56.0**	**37.7**	20.4	18.9	24.5
病院の先生や看護師など	30.7	32.8	31.9	20.4	31.4	32.6
ネットでつながった仲間	5.8	1.7	18.8	14.6	5.8	1.1
その他	6.1	2.6	7.2	4.9	4.9	8.8
特に交流がある人はいない	6.1	1.7	1.4	8.7	7.0	7.0
無回答	1.5	1.7	1.4	0.0	0.9	2.9

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

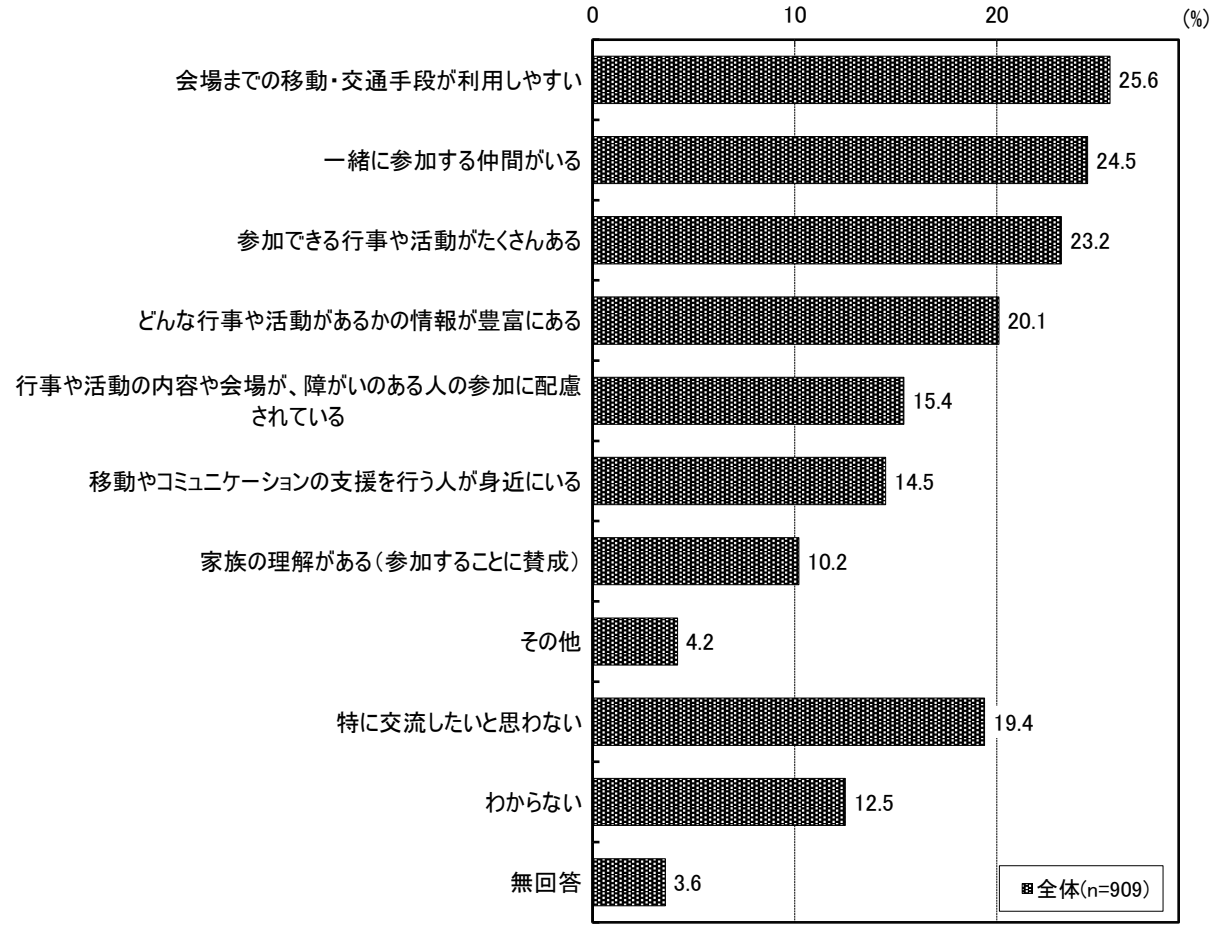
単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
同居していない家族	47.1	35.4	39.3	41.6	39.7	45.0
親戚	21.6	27.0	16.4	24.2	28.1	22.9
隣近所の人	18.0	8.5	11.7	15.5	4.1	14.1
友人・知人	48.9	34.4	45.6	49.1	44.5	39.8
自治会や町内会の人	7.8	0.5	2.7	5.6	0.7	4.9
民生委員・児童委員	1.6	0.0	1.0	0.6	0.0	0.6
地区福祉委員会の人	2.0	1.1	0.0	1.9	0.0	0.9
お店や事業所の人	8.2	7.9	11.4	7.5	7.5	8.6
職場の同僚	25.1	13.2	31.9	21.1	23.3	19.0
サークル活動の仲間	7.8	3.7	4.4	5.6	4.8	5.5
学校・こども園・保育所（園）などの先生	11.8	**47.6**	5.4	22.4	**37.0**	18.0
福祉サービス事業所の人	25.0	**57.7**	24.5	28.0	**42.5**	**37.0**
病院の先生や看護師など	30.1	28.0	37.9	38.5	28.8	36.1
ネットでつながった仲間	4.0	1.6	11.4	4.3	8.9	4.3
その他	6.0	5.3	6.4	6.2	5.5	6.1
特に交流がある人はいない	4.4	3.2	9.4	3.7	7.5	4.3
無回答	1.6	2.1	0.7	1.9	1.4	2.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

⑤ 交流促進に必要なこと

◆あなたは、どんなことがあれば、行事や活動などで人との交流ができますか。（あてはまるもの３つまでに○）

障がい者計画アンケート



○「会場までの移動・交通手段が利用しやすい」が25.6%、「一緒に参加する仲間がいる」が24.5%、「参加できる行事や活動がたくさんある」が23.2%、「どんな行事や活動があるかの情報が豊富にある」が20.1%、「特に交流したいと思わない」が19.4%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、18歳～29歳で「一緒に参加する仲間がいる」が44.9%と多く、「行事や活動の内容や会場が、障がいのある人の参加に配慮されている」が27.5%となっています。０歳～17歳では「参加できる行事や活動がたくさんある」が38.8%、「移動やコミュニケーションの支援を行う人が身近にいる」と「行事や活動の内容や会場が、障がいのある人の参加に配慮されている」がそれぞれ33.6%となっています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで「移動やコミュニケーションの支援を行う人が身近にいる」が39.7%、「行事や活動の内容や会場が、障がいのある人の参加に配慮されている」が37.0%と多く、発達障がいでも「移動やコミュニケーションの支援を行う人が身近にいる」が28.1%と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
参加できる行事や活動がたくさんある	23.2	**38.8**	26.1	23.3	21.6	18.7
会場までの移動・交通手段が利用しやすい	25.6	30.2	31.9	23.3	24.4	25.6
移動やコミュニケーションの支援を行う人が身近にいる	14.5	**33.6**	14.5	18.4	11.0	9.5
行事や活動の内容や会場が、障がいのある人の参加に配慮されている	15.4	**33.6**	**27.5**	16.5	14.0	6.6
家族の理解がある（参加することに賛成）	10.2	12.9	15.9	12.6	8.2	9.5
一緒に参加する仲間がいる	24.5	25.9	**44.9**	33.0	24.7	15.0
どんな行事や活動があるかの情報が豊富にある	20.1	20.7	23.2	17.5	21.3	19.4
その他	4.2	1.7	8.7	2.9	2.4	6.2
特に交流したいと思わない	19.4	5.2	7.2	20.4	21.0	25.6
わからない	12.5	15.5	7.2	7.8	13.7	12.8
無回答	3.6	0.9	5.8	1.0	1.8	7.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患(n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
参加できる行事や活動がたくさんある	23.4	31.2	21.8	24.2	28.8	22.0
会場までの移動・交通手段が利用しやすい	28.9	31.2	23.8	28.6	24.0	29.4
移動やコミュニケーションの支援を行う人が身近にいる	13.4	**39.7**	12.4	12.4	**28.1**	22.9
行事や活動の内容や会場が、障がいのある人の参加に配慮されている	15.4	**37.0**	11.1	18.6	24.0	24.8
家族の理解がある（参加することに賛成）	10.6	10.6	9.1	12.4	11.6	11.0
一緒に参加する仲間がいる	21.2	27.5	27.2	22.4	33.6	16.8
どんな行事や活動があるかの情報が豊富にある	21.6	15.9	20.8	19.3	18.5	16.5
その他	3.8	2.6	4.0	7.5	6.2	3.7
特に交流したいと思わない	18.6	7.4	25.2	16.1	9.6	14.7
わからない	12.6	12.2	10.7	11.8	13.0	12.5
無回答	3.8	3.2	2.3	1.9	3.4	5.2

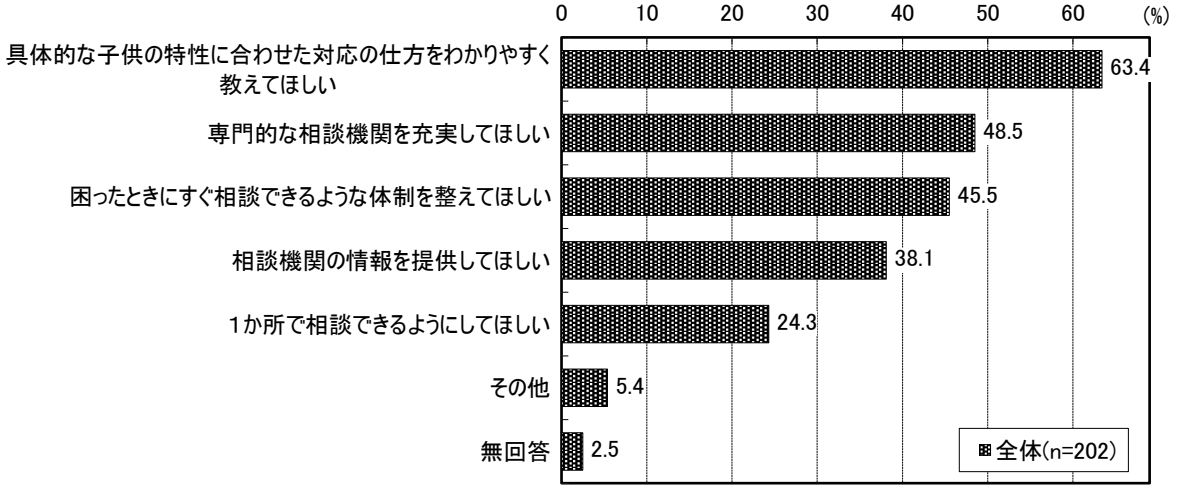
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

7　療育・発達支援に関する意識

① 療育相談への要望

◆市内の療育に関する相談について望むことがありますか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「具体的な子供の特性に合わせた対応の仕方をわかりやすく教えてほしい」が63.4%と最も多く、次いで「専門的な相談機関を充実してほしい」が48.5%、「困ったときにすぐ相談できるような体制を整えてほしい」が45.5%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、中高生その他で「困ったときにすぐ相談できる体制」が59.5%と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、発達障がいで「具体的な子供の特性に合わせた対応の仕方をわかりやすく教えてほしい」が69.5%、精神障がいでは「困ったときにすぐ相談できるような体制を整えてほしい」が61.9%と比較的多くみられます。

（属性別クロス集計）

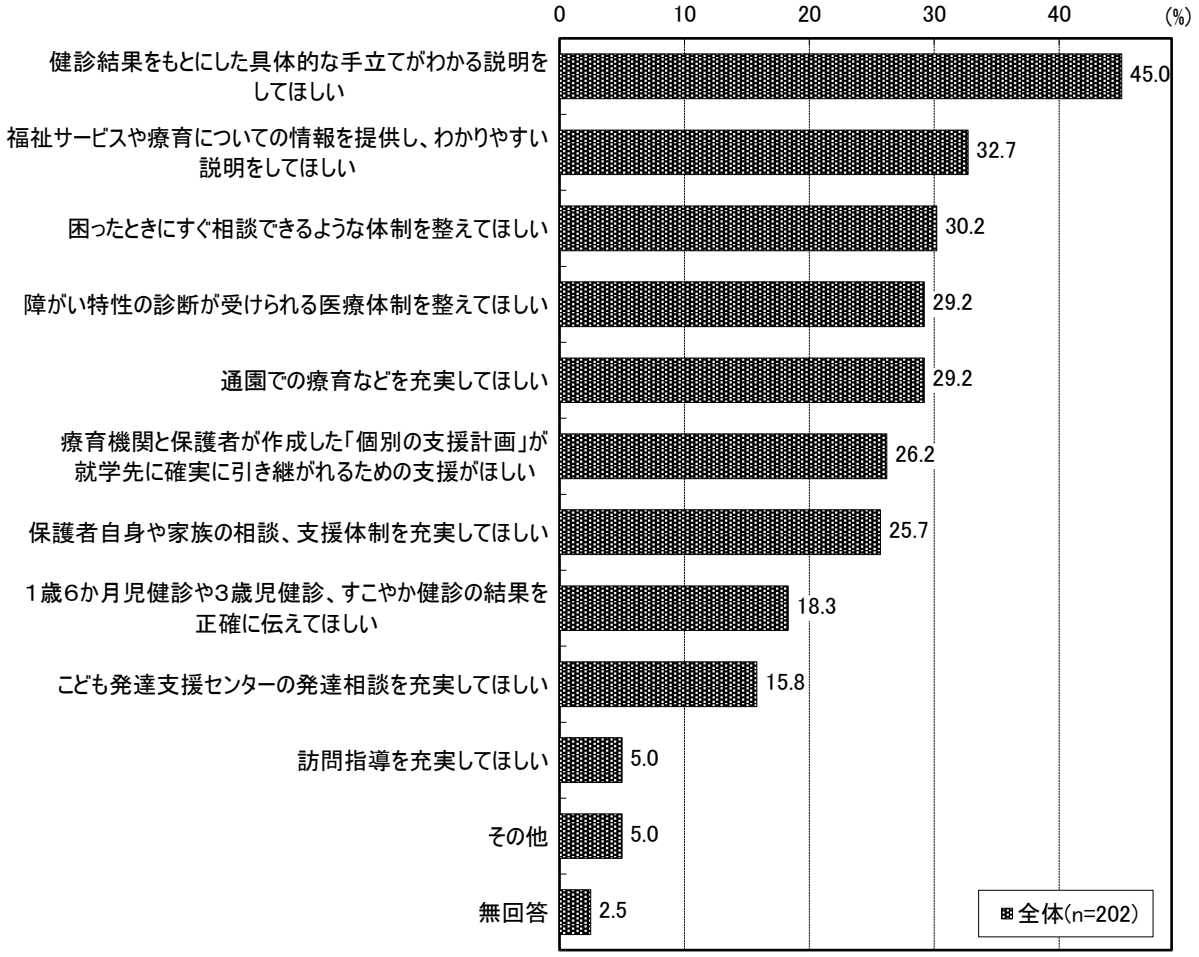
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
相談機関の情報を提供してほしい	38.1	40.7	38.7	33.3	26.3	36.5	42.9	25.0	46.3	28.6
困ったときにすぐ相談できるような体制を整えてほしい	45.5	40.7	42.5	**59.5**	26.3	46.0	**61.9**	43.8	51.6	38.1
１か所で相談できるようにしてほしい	24.3	25.9	20.8	31.0	**36.8**	27.0	14.3	18.8	24.2	33.3
専門的な相談機関を充実してほしい	48.5	50.0	49.1	45.2	47.4	49.2	42.9	43.8	50.5	47.6
具体的な子供の特性に合わせた対応の仕方をわかりやすく教えてほしい	63.4	64.8	64.2	59.5	31.6	55.6	71.4	43.8	69.5	47.6
その他	5.4	5.6	6.6	2.4	10.5	7.9	9.5	12.5	4.2	7.1
無回答	2.5	1.9	1.9	4.8	0.0	1.6	4.8	0.0	3.2	2.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

② 乳幼児期健診・療育への要望

◆乳幼児期の健診や療育に関してどのようなことを望みますか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「健診結果をもとにした具体的な手立てがわかる説明をしてほしい」が45.0%と最も多く、次いで「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をしてほしい」が32.7%、「困ったときにすぐ相談できるような体制を整えてほしい」が30.2%、「障がい特性の診断が受けられる医療体制を整えてほしい」と「通園での療育などを充実してほしい」がそれぞれ29.2%、「療育機関と保護者が作成した「個別の支援計画」が就学先に確実に引き継がれるための支援がほしい」が26.2%、「保護者自身や家族の相談、支援体制を充実してほしい」が25.7%と続いています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、中高生その他で「困ったときにすぐ相談できるような体制を整えてほしい」が42.9%、「障がい特性の診断が受けられる医療体制を整えてほしい」が40.5%、「保護者自身や家族の相談、支援体制を充実してほしい」が35.7%と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をしてほしい」が46.0%、「通園での療育などを充実してほしい」が42.9%、重度障がいでも「通園での療育などを充実してほしい」が42.9%となっています。

（属性別クロス集計）

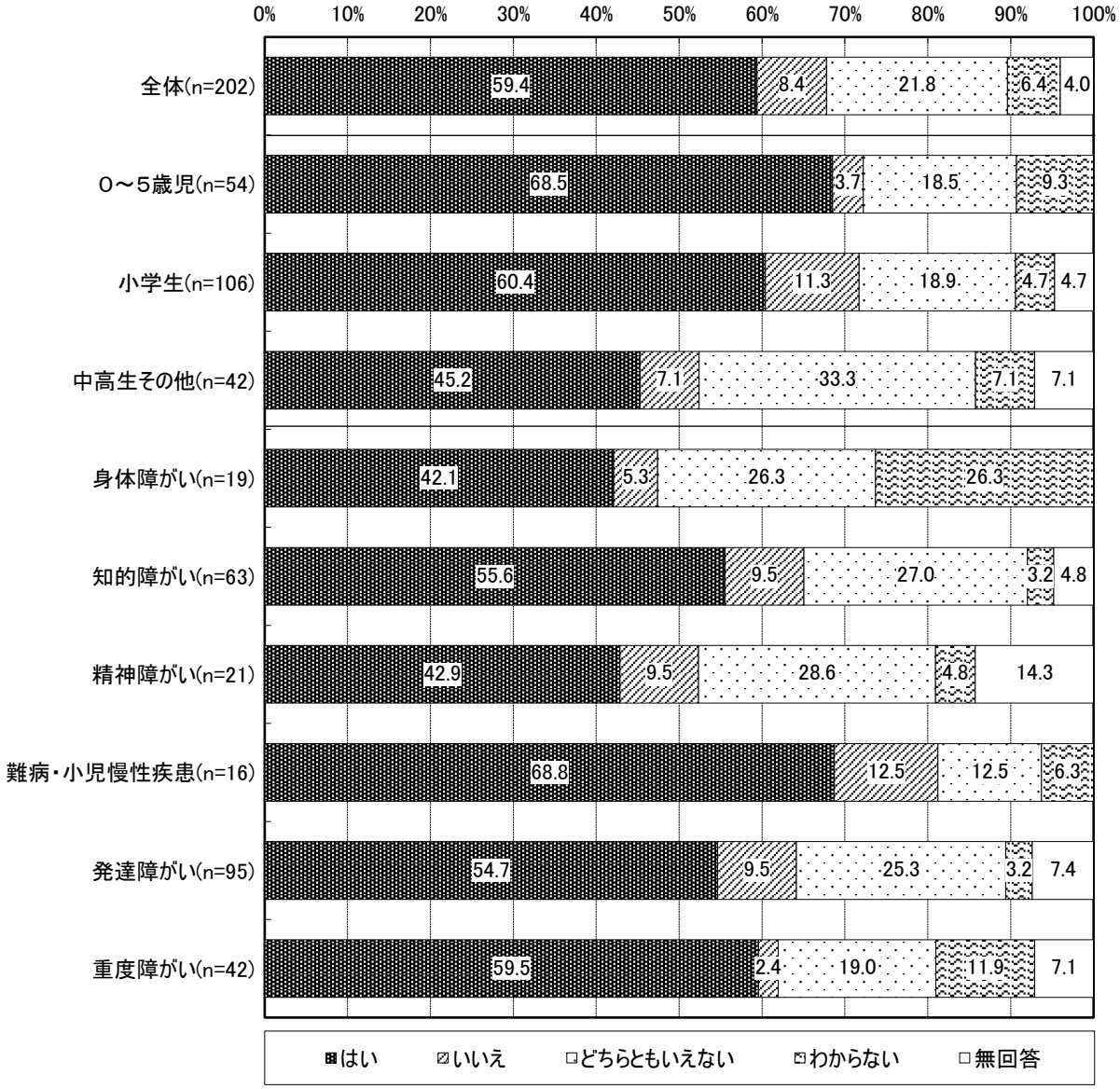
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
困ったときにすぐ相談できるような体制を整えてほしい	30.2	37.0	21.7	**42.9**	36.8	30.2	38.1	31.3	31.6	35.7
１歳６か月児健診や３歳児健診、すこやか健診の結果を正確に伝えてほしい	18.3	13.0	23.6	11.9	5.3	6.3	**33.3**	6.3	18.9	7.1
健診結果をもとにした具体的な手立てがわかる説明をしてほしい	45.0	42.6	42.5	54.8	31.6	33.3	38.1	25.0	47.4	38.1
障がい特性の診断が受けられる医療体制を整えてほしい	29.2	24.1	27.4	**40.5**	21.1	**39.7**	23.8	25.0	35.8	26.2
訪問指導を充実してほしい	5.0	1.9	7.5	2.4	10.5	11.1	4.8	12.5	6.3	7.1
保護者自身や家族の相談、支援体制を充実してほしい	25.7	16.7	26.4	**35.7**	21.1	23.8	**38.1**	12.5	32.6	28.6
福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をしてほしい	32.7	31.5	37.7	21.4	26.3	**46.0**	23.8	18.8	32.6	33.3
通園での療育などを充実してほしい	29.2	31.5	29.2	26.2	36.8	**42.9**	19.0	**43.8**	24.2	**42.9**
療育機関と保護者が作成した「個別の支援計画」が就学先に確実に引き継がれるための支援がほしい	26.2	22.2	29.2	23.8	21.1	25.4	19.0	12.5	29.5	21.4
こども発達支援センターの発達相談を充実してほしい	15.8	16.7	12.3	23.8	5.3	14.3	14.3	6.3	18.9	9.5
その他	5.0	5.6	5.7	2.4	10.5	4.8	14.3	**18.8**	4.2	7.1
無回答	2.5	3.7	0.9	4.8	5.3	1.6	4.8	6.3	2.1	4.8

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

③ 療育内容への満足度

◆現在、児童発達支援や放課後等デイサービスなどの通所で受けている療育の内容に満足していますか。（あてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



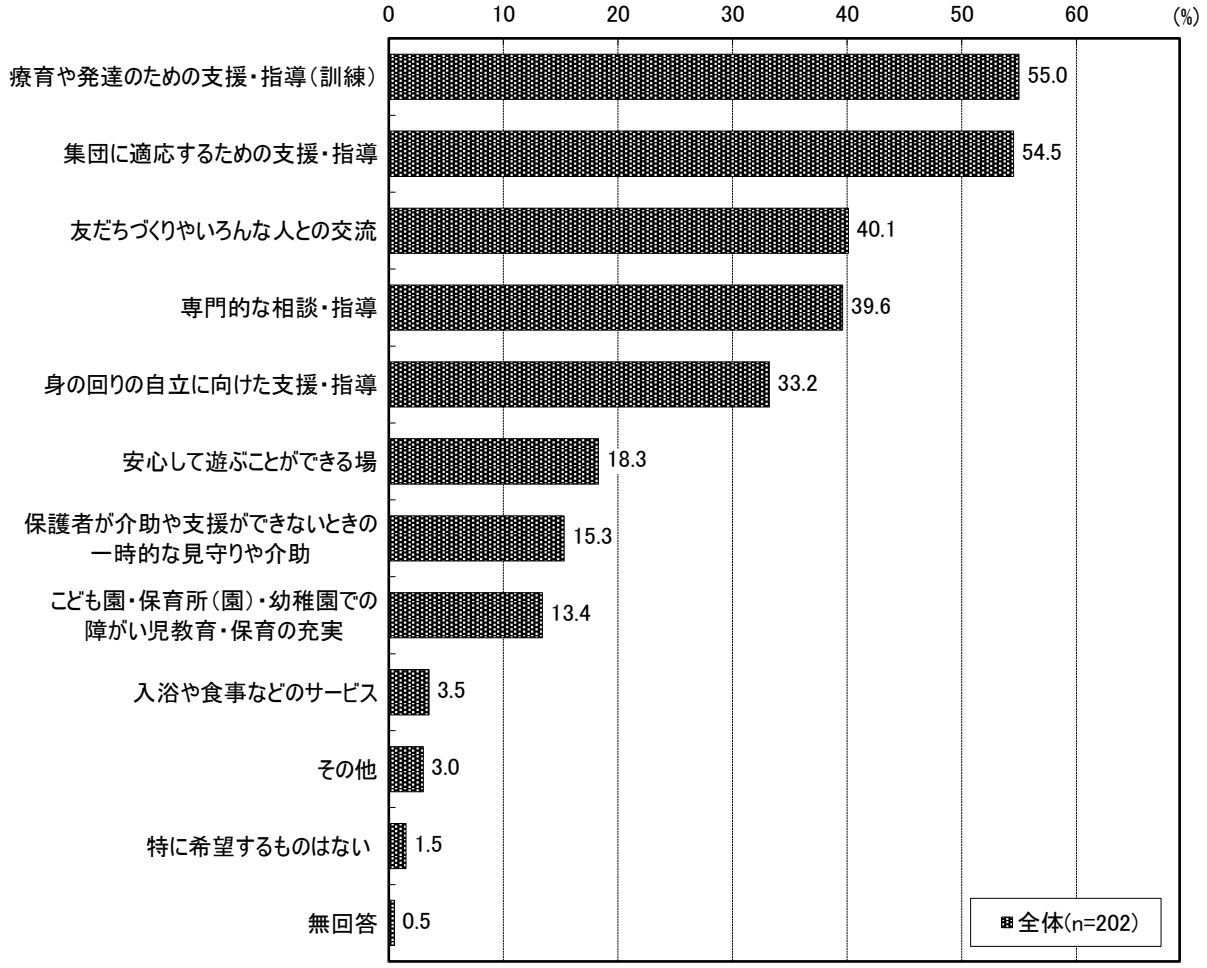
○「はい」が59.4%と一定の評価を得ていますが、「どちらともいえない」も21.8%みられます。

○年齢別にみると、０～５歳児で「はい」が68.5%と多く、早期療育に対する満足度は比較的高い傾向となっています。中高生その他では「はい」が45.2%にとどまり、「どちらともいえない」が33.3%と多くみられます。

④ 希望する療育やサービスの内容

◆どのような療育やサービスを受けることを希望しますか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「療育や発達のための支援・指導（訓練）」が55.0%、「集団に適応するための支援・指導」が54.5%とそれぞれ過半数を占めているほか、「友だちづくりやいろんな人との交流」が40.1%、「専門的な相談・指導」が39.6%、「身の回りの自立に向けた支援・指導」が33.2%と続いています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０～５歳児で「療育や発達のための支援・指導（訓練）」が68.5%、「専門的な相談・指導」が50.0%と多く、中高生その他では「保護者が介助や支援ができないときの一時的な見守りや介助」が28.6%と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「身の回りの自立に向けた支援・指導」は知的障がいで54.0%、重度障がいで52.4%と多くみられます。

（属性別クロス集計）

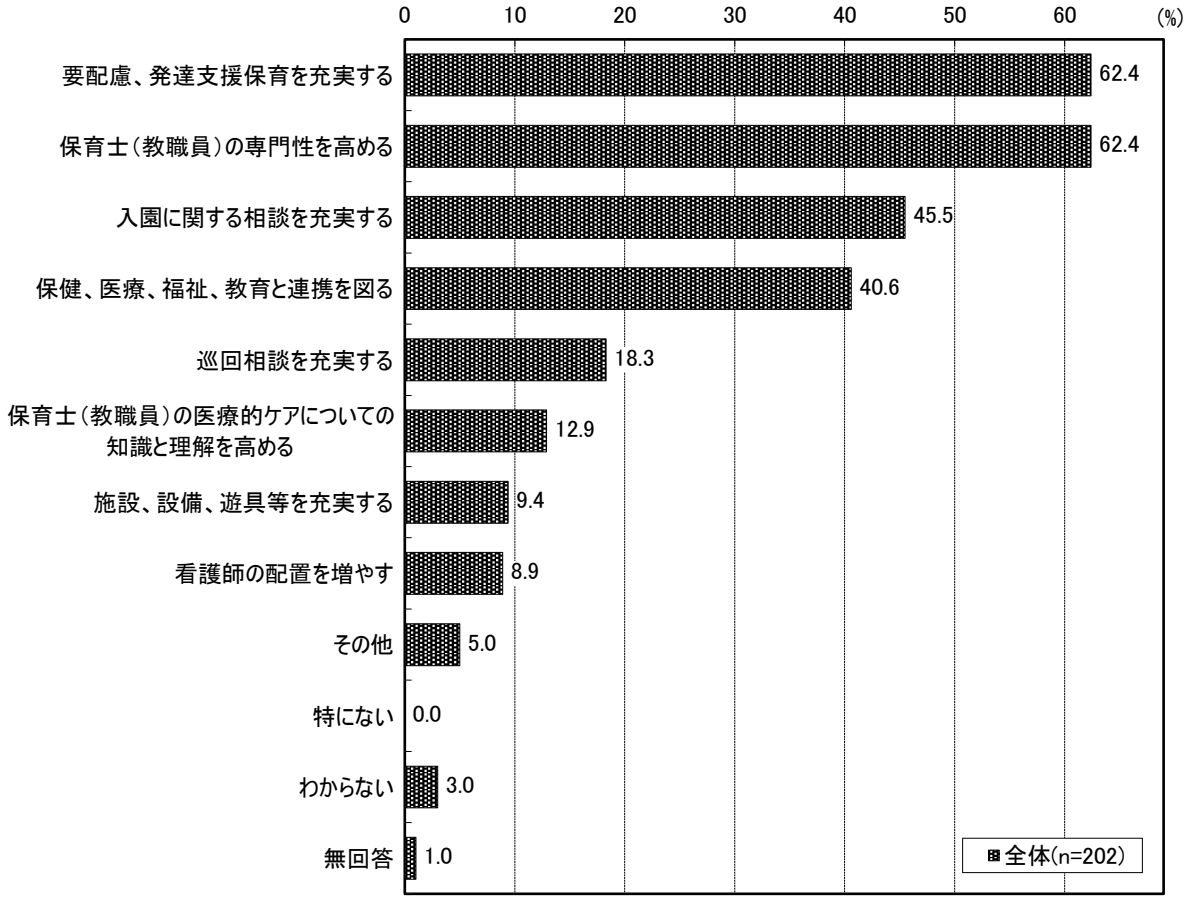
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
専門的な相談・指導	39.6	**50.0**	37.7	31.0	42.1	36.5	28.6	37.5	38.9	33.3
こども園・保育所（園）・幼稚園での障がい児教育・保育の充実	13.4	22.2	10.4	9.5	26.3	9.5	9.5	12.5	10.5	16.7
療育や発達のための支援・指導（訓練）	55.0	**68.5**	54.7	38.1	47.4	52.4	47.6	50.0	52.6	45.2
集団に適応するための支援・指導	54.5	53.7	55.7	52.4	21.1	34.9	52.4	6.3	57.9	31.0
身の回りの自立に向けた支援・指導	33.2	22.2	34.9	42.9	31.6	**54.0**	**47.6**	37.5	33.7	**52.4**
友だちづくりやいろんな人との交流	40.1	38.9	37.7	47.6	26.3	38.1	38.1	18.8	46.3	28.6
安心して遊ぶことができる場	18.3	14.8	23.6	9.5	5.3	25.4	23.8	18.8	20.0	21.4
入浴や食事などのサービス	3.5	0.0	1.9	11.9	10.5	9.5	4.8	**18.8**	4.2	11.9
保護者が介助や支援ができないときの一時的な見守りや介助	15.3	5.6	15.1	**28.6**	21.1	**27.0**	**28.6**	25.0	24.2	**31.0**
その他	3.0	1.9	4.7	0.0	5.3	1.6	4.8	12.5	3.2	4.8
特に希望するものはない	1.5	1.9	0.9	2.4	5.3	0.0	0.0	**12.5**	0.0	2.4
無回答	0.5	0.0	0.0	2.4	0.0	1.6	4.8	0.0	1.1	2.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

⑤ こども園等に必要なこと

◆あなたは、障がいのある児童がこども園、保育所（園）、幼稚園へ通うためにどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「要配慮、発達支援保育を充実する」と「保育士（教職員）の専門性を高める」がそれぞれ62.4%と高い割合となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで「保育士（教職員）の専門性を高める」が74.6%と多く、重度障がいでは「要配慮、発達支援保育を充実する」が73.8%と多くみられます。

（属性別クロス集計）

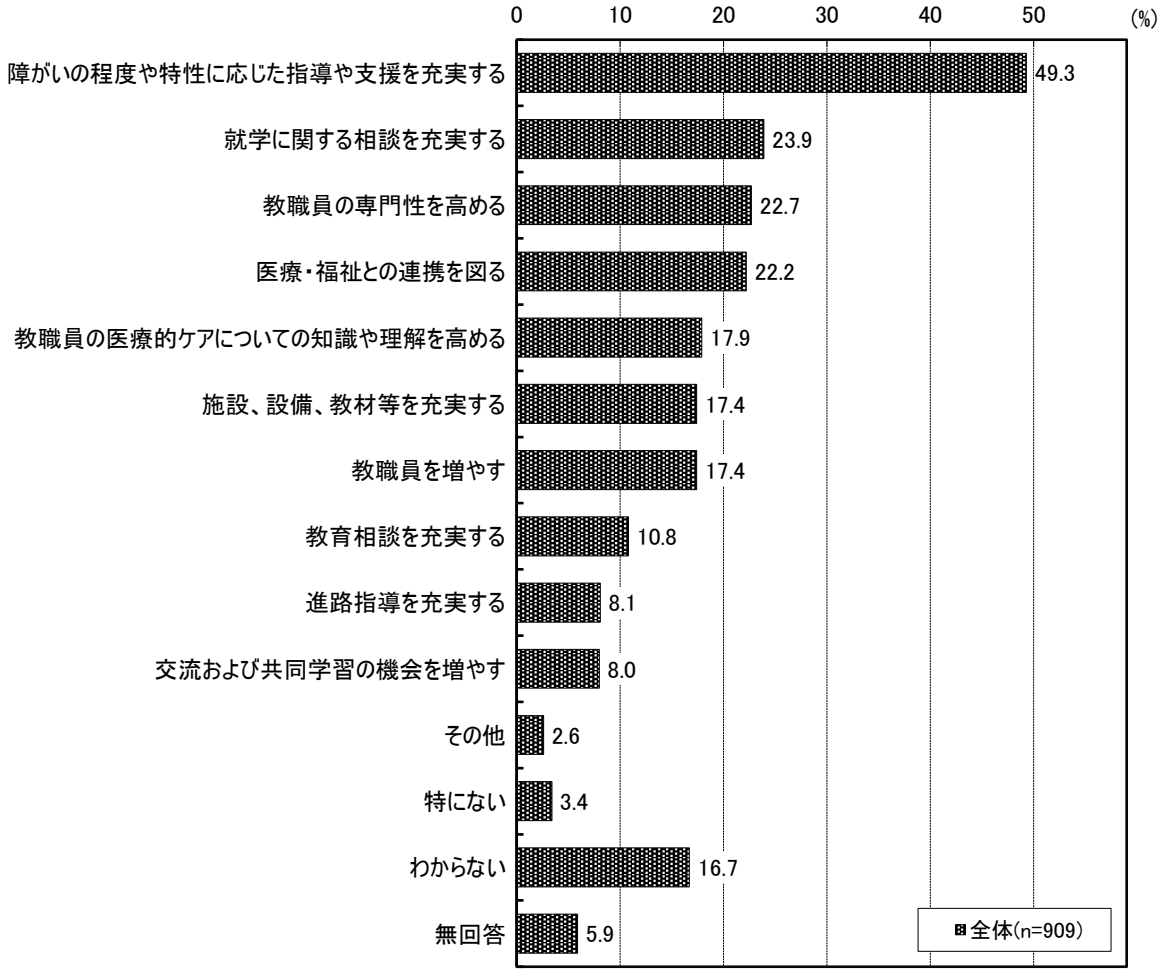
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
入園に関する相談を充実する	45.5	48.1	34.9	**69.0**	42.1	42.9	**61.9**	37.5	48.4	42.9
巡回相談を充実する	18.3	25.9	14.2	19.0	10.5	17.5	**28.6**	12.5	20.0	9.5
要配慮、発達支援保育を充実する	62.4	66.7	58.5	66.7	63.2	68.3	**81.0**	50.0	65.3	**73.8**
施設、設備、遊具等を充実する	9.4	7.4	11.3	7.1	15.8	9.5	4.8	18.8	7.4	14.3
保育士（教職員）の専門性を高める	62.4	57.4	65.1	61.9	47.4	**74.6**	61.9	50.0	70.5	64.3
保育士（教職員）の医療的ケアについての知識と理解を高める	12.9	7.4	15.1	14.3	21.1	12.7	9.5	**25.0**	12.6	16.7
看護師の配置を増やす	8.9	13.0	7.5	7.1	**21.1**	14.3	4.8	**25.0**	5.3	**19.0**
保健、医療、福祉、教育と連携を図る	40.6	31.5	44.3	42.9	36.8	36.5	42.9	43.8	43.2	38.1
その他	5.0	7.4	4.7	2.4	10.5	4.8	0.0	0.0	2.1	9.5
特にない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	3.0	1.9	2.8	4.8	5.3	1.6	4.8	6.3	3.2	2.4
無回答	1.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

⑥ 校区の小・中学校へ通うために必要なこと

◆あなたは、障がいのある人が校区の小・中学校へ通うためにどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの３つまでに○）

障がい者計画アンケート



○「障がいの程度や特性に応じた指導や支援を充実する」が49.3％と最も多く、次いで「就学に関する相談を充実する」が23.9％、「教職員の専門性を高める」が22.7％、「医療・福祉との連携を図る」が22.2％、「教職員の医療的ケアについての知識や理解を高める」が17.9％、「施設、設備、教材等を充実する」と「教職員を増やす」がそれぞれ17.4％となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０歳～17歳で「障がいの程度や特性に応じた指導や支援を充実する」が70.7％、「教職員の専門性を高める」が44.0％、「教職員を増やす」が37.9％、18歳～29歳で「施設、設備、教材等を充実する」が29.0％、「教職員を増やす」が27.5％と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「障がいの程度や特性に応じた指導や支援を充実する」は知的障がいで62.4％、発達障がいで62.3％と多く、同様に「教職員の専門性を高める」「教職員を増やす」も知的障がいと発達障がいで多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
就学に関する相談を充実する	23.9	28.4	20.3	29.1	25.6	18.3
教育相談を充実する	10.8	9.5	13.0	11.7	12.8	8.1
進路指導を充実する	8.1	7.8	10.1	12.6	9.1	4.8
障がいの程度や特性に応じた指導や支援を充実する	49.3	**70.7**	58.0	46.6	50.0	39.9
施設、設備、教材等を充実する	17.4	23.3	**29.0**	18.4	16.5	12.8
交流および共同学習の機会を増やす	8.0	11.2	11.6	5.8	8.5	6.6
教職員を増やす	17.4	**37.9**	**27.5**	17.5	14.6	9.9
教職員の専門性を高める	22.7	**44.0**	27.5	29.1	18.3	16.5
医療・福祉との連携を図る	22.2	20.7	31.9	23.3	24.1	18.3
教職員の医療的ケアについての知識や理解を高める	17.9	14.7	17.4	19.4	18.9	18.3
その他	2.6	4.3	8.7	3.9	2.1	0.7
特にない	3.4	0.9	0.0	4.9	3.0	5.5
わからない	16.7	6.0	8.7	8.7	17.4	24.9
無回答	5.9	0.0	1.4	2.9	4.3	11.7

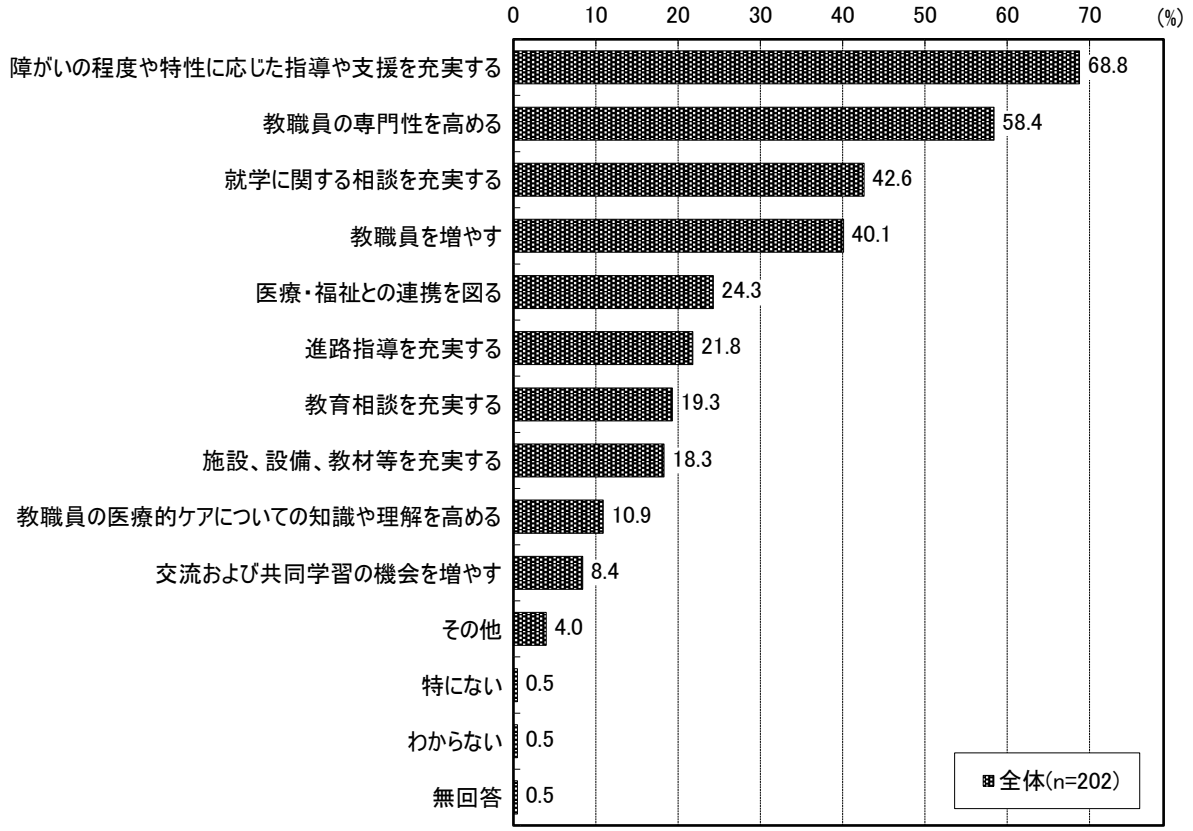
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
就学に関する相談を充実する	22.4	22.2	24.8	19.9	22.6	18.3
教育相談を充実する	9.0	9.5	14.8	6.2	13.7	8.9
進路指導を充実する	6.8	5.3	9.1	5.6	8.2	5.5
障がいの程度や特性に応じた指導や支援を充実する	46.9	**62.4**	48.3	47.8	**62.3**	50.5
施設、設備、教材等を充実する	20.2	18.5	13.1	22.4	14.4	22.0
交流および共同学習の機会を増やす	8.2	11.6	6.7	8.7	12.3	8.6
教職員を増やす	15.0	**29.1**	15.4	18.6	**29.5**	16.8
教職員の専門性を高める	17.6	**41.8**	19.8	21.7	**42.5**	22.3
医療・福祉との連携を図る	23.6	22.8	23.2	26.7	20.5	26.0
教職員の医療的ケアについての知識や理解を高める	20.4	13.2	17.4	26.1	11.6	19.3
その他	2.8	3.2	3.0	3.7	4.8	2.8
特にない	3.6	2.6	3.4	1.9	1.4	3.1
わからない	17.8	9.5	19.1	18.0	9.6	13.5
無回答	7.4	3.7	4.0	5.0	1.4	9.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆あなたは、障がいのある人が校区の小・中学校へ通うためにどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「障がいの程度や特性に応じた指導や支援を充実する」が68.8％と最も多く、次いで「教職員の専門性を高める」が58.4％、「就学に関する相談を充実する」が42.6％、「教職員を増やす」が40.1％、「医療・福祉との連携を図る」が24.3％の順となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、中高生その他で「進路指導を充実する」が47.6％と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「障がいの程度や特性に応じた指導や支援を充実する」は精神障がいで85.7％、重度障がいで81.0％、知的障がいで79.4％と特に多くみられます。

（属性別クロス集計）

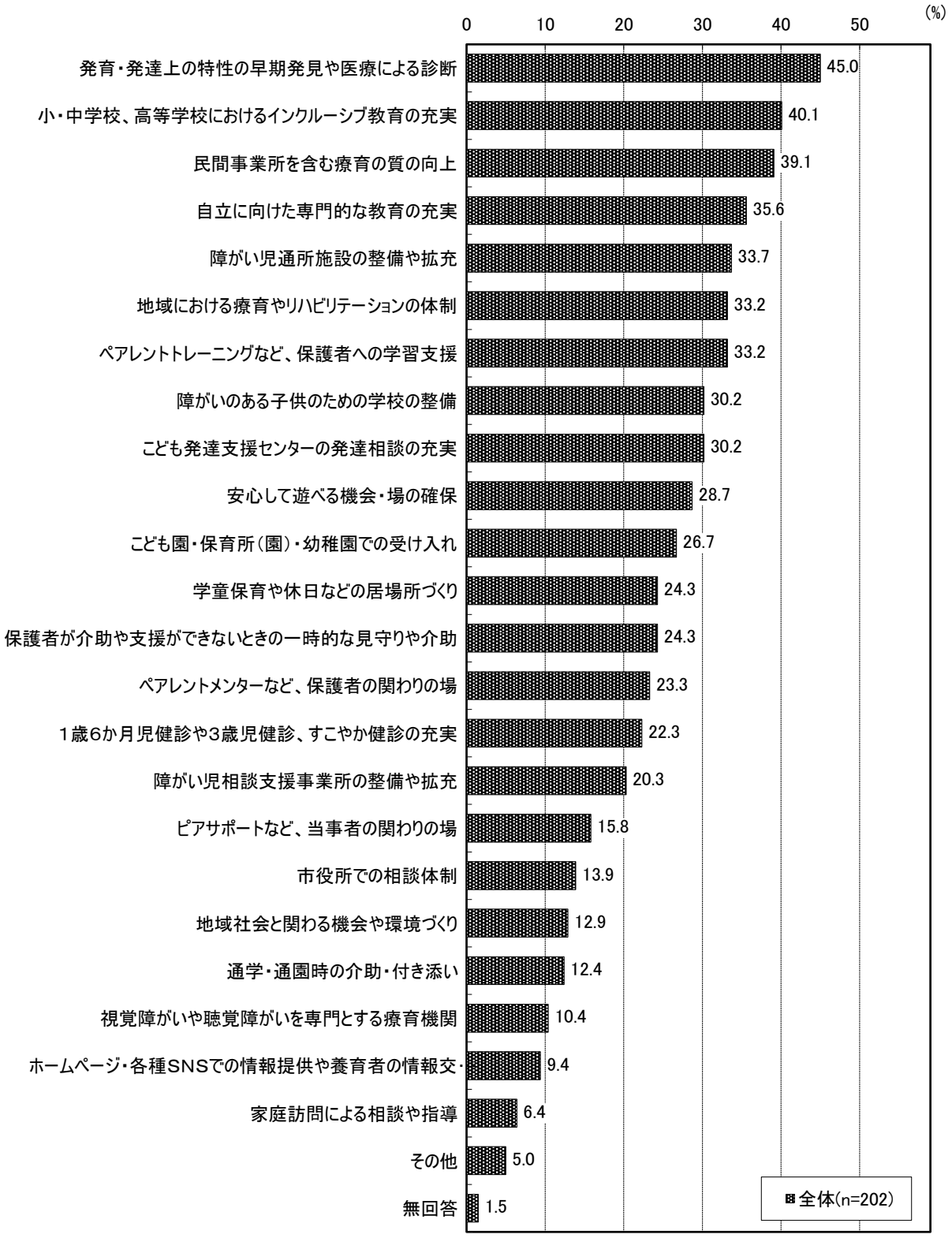
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
就学に関する相談を充実する	42.6	51.9	34.9	50.0	36.8	36.5	52.4	37.5	41.1	28.6
教育相談を充実する	19.3	20.4	17.0	23.8	5.3	12.7	28.6	0.0	22.1	14.3
進路指導を充実する	21.8	5.6	19.8	**47.6**	26.3	27.0	**33.3**	18.8	29.5	21.4
障がいの程度や特性に応じた指導や支援を充実する	68.8	74.1	64.2	73.8	73.7	**79.4**	**85.7**	75.0	77.9	**81.0**
施設、設備、教材等を充実する	18.3	22.2	15.1	21.4	**31.6**	27.0	19.0	**37.5**	17.9	**35.7**
交流および共同学習の機会を増やす	8.4	5.6	8.5	11.9	0.0	11.1	9.5	0.0	11.6	11.9
教職員を増やす	40.1	37.0	42.5	38.1	26.3	41.3	38.1	37.5	36.8	31.0
教職員の専門性を高める	58.4	38.9	67.0	61.9	52.6	66.7	61.9	43.8	66.3	61.9
教職員の医療的ケアについての知識や理解を高める	10.9	11.1	11.3	9.5	**31.6**	11.1	**23.8**	18.8	6.3	19.0
医療・福祉との連携を図る	24.3	18.5	27.4	23.8	26.3	30.2	**42.9**	18.8	28.4	31.0
その他	4.0	5.6	4.7	0.0	0.0	3.2	4.8	0.0	5.3	0.0
特にない	0.5	0.0	0.0	2.4	5.3	0.0	0.0	6.3	0.0	2.4
わからない	0.5	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	1.1	0.0
無回答	0.5	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

⑦ 特に充実が必要な障がい児施策

◆障がいや発達に特性のある子供のための施策やサービスなどで、特に充実が必要と思うものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「発育・発達上の特性の早期発見や医療による診断」が45.0％と最も多く、次いで「小・中学校、高等学校におけるインクルーシブ教育の充実」が40.1％、「民間事業所を含む療育の質の向上」が39.1％、「自立に向けた専門的な教育の充実」が35.6％、「障がい児通所施設の整備や拡充」が33.7％、「地域における療育やリハビリテーションの体制」と「ペアレントトレーニングなど、保護者への学習支援」がそれぞれ33.2％、「障がいのある子供のための学校の整備」と「こども発達支援センターの発達相談の充実」がそれぞれ30.2％と、多様な施策が重要視されています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、中高生その他で、「自立に向けた専門的な教育の充実」が47.6％、「学童保育や休日などの居場所づくり」が40.5％、「ペアレントメンターなど、保護者の関わりの場」が38.1％と多いほか、０～５歳児では「こども園・保育所（園）・幼稚園での受け入れ」が42.6％となっています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで「自立に向けた専門的な教育の充実」が50.8％、「障がい児通所施設の整備や拡充」が49.2％、「障がいのある子供のための学校の整備」が47.6％と多くみられます。発達障がいでは「民間事業所を含む療育の質の向上」が50.5％、重度障がいでは「障がいのある子供のための学校の整備」が52.4％、「障がい児通所施設の整備や拡充」が50.0％、「地域における療育やリハビリテーションの体制」が47.6％と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
１歳６か月児健診や３歳児健診、すこやか健診の充実	22.3	22.2	23.6	19.0	0.0	19.0	23.8	6.3	27.4	16.7
発育・発達上の特性の早期発見や医療による診断	45.0	40.7	46.2	47.6	36.8	41.3	**61.9**	37.5	47.4	42.9
市役所での相談体制	13.9	9.3	12.3	23.8	5.3	22.2	23.8	12.5	17.9	14.3
家庭訪問による相談や指導	6.4	3.7	8.5	4.8	0.0	9.5	9.5	12.5	7.4	2.4
視覚障がいや聴覚障がいを専門とする療育機関	10.4	11.1	8.5	14.3	**42.1**	7.9	4.8	12.5	7.4	**23.8**
地域における療育やリハビリテーションの体制	33.2	35.2	34.9	26.2	42.1	42.9	**61.9**	**43.8**	36.8	**47.6**
障がい児通所施設の整備や拡充	33.7	29.6	35.8	33.3	26.3	**49.2**	**47.6**	**50.0**	40.0	**50.0**
障がい児相談支援事業所の整備や拡充	20.3	13.0	19.8	**31.0**	21.1	**34.9**	**38.1**	25.0	22.1	23.8
民間事業所を含む療育の質の向上	39.1	29.6	42.5	42.9	21.1	42.9	**57.1**	43.8	**50.5**	35.7
こども園・保育所（園）・幼稚園での受け入れ	26.7	**42.6**	19.8	23.8	26.3	25.4	28.6	25.0	25.3	28.6
小・中学校、高等学校におけるインクルーシブ教育の充実	40.1	37.0	42.5	38.1	21.1	34.9	47.6	25.0	46.3	31.0
障がいのある子供のための学校の整備	30.2	22.2	34.9	28.6	**47.4**	**47.6**	**42.9**	**43.8**	34.7	**52.4**
自立に向けた専門的な教育の充実	35.6	44.4	26.4	**47.6**	26.3	**50.8**	**57.1**	31.3	41.1	40.5
通学・通園時の介助・付き添い	12.4	5.6	16.0	11.9	26.3	20.6	**23.8**	**25.0**	12.6	**23.8**
学童保育や休日などの居場所づくり	24.3	24.1	17.9	**40.5**	0.0	33.3	33.3	6.3	32.6	28.6
安心して遊べる機会・場の確保	28.7	33.3	25.5	31.0	5.3	36.5	28.6	18.8	31.6	26.2
地域社会と関わる機会や環境づくり	12.9	9.3	13.2	16.7	5.3	20.6	9.5	6.3	18.9	16.7
ペアレントメンターなど、保護者の関わりの場	23.3	14.8	21.7	**38.1**	10.5	23.8	**47.6**	0.0	30.5	19.0
ピアサポートなど、当事者の関わりの場	15.8	11.1	12.3	**31.0**	5.3	20.6	19.0	0.0	21.1	14.3
ホームページ・各種ＳＮＳでの情報提供や養育者の情報交換の場	9.4	7.4	10.4	9.5	10.5	11.1	4.8	12.5	9.5	7.1
ペアレントトレーニングなど、保護者への学習支援	33.2	24.1	34.0	42.9	21.1	27.0	**52.4**	31.3	**44.2**	26.2
保護者が介助や支援ができないときの一時的な見守りや介助	24.3	9.3	28.3	33.3	26.3	**42.9**	**47.6**	31.3	**34.7**	**50.0**
こども発達支援センターの発達相談の充実	30.2	22.2	33.0	33.3	15.8	28.6	**52.4**	18.8	**41.1**	28.6
その他	5.0	1.9	5.7	7.1	10.5	9.5	14.3	**25.0**	5.3	7.1
無回答	1.5	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0

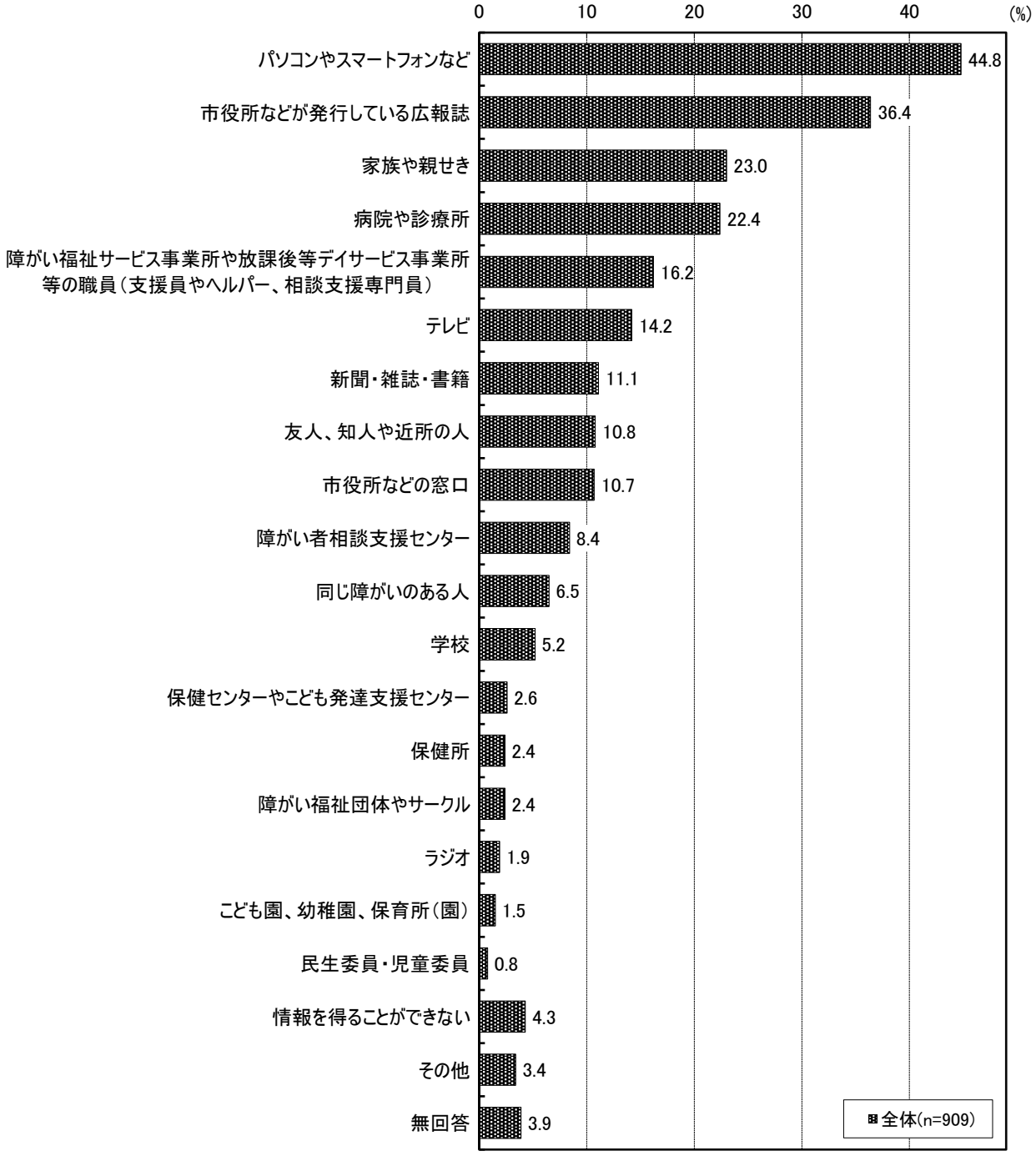
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

8　情報に関する状況

① 情報の入手先

◆あなたは、保健や福祉サービスに関する情報をどのように入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者計画アンケート



○「パソコンやスマートフォンなど」が44.8%と最も多く、次いで「市役所などが発行している広報誌」が36.4%、「家族や親せき」が23.0%、「病院や診療所」が22.4%、「障がい福祉サービス事業所や放課後等デイサービス事業所等の職員（支援員やヘルパー、相談支援専門員)」が16.2%、「テレビ」が14.2%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「パソコンやスマートフォンなど」は18歳から64歳までで60%前後となっており、65歳以上では「市役所などが発行している広報誌」が50.2%、０歳～17歳では「障がい福祉サービス事業所や放課後等デイサービス事業所等の職員（支援員やヘルパー、相談支援専門員)」が39.7%、「家族や親せき」が36.2%、「学校」が33.6%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで「障がい福祉サービス事業所や放課後等デイサービス事業所等の職員（支援員やヘルパー、相談支援専門員)」が38.6%、精神障がいで「病院や診療所」が32.9%、発達障がいで「家族や親せき」が34.2%とそれぞれ多くみられます。

（属性別クロス集計）

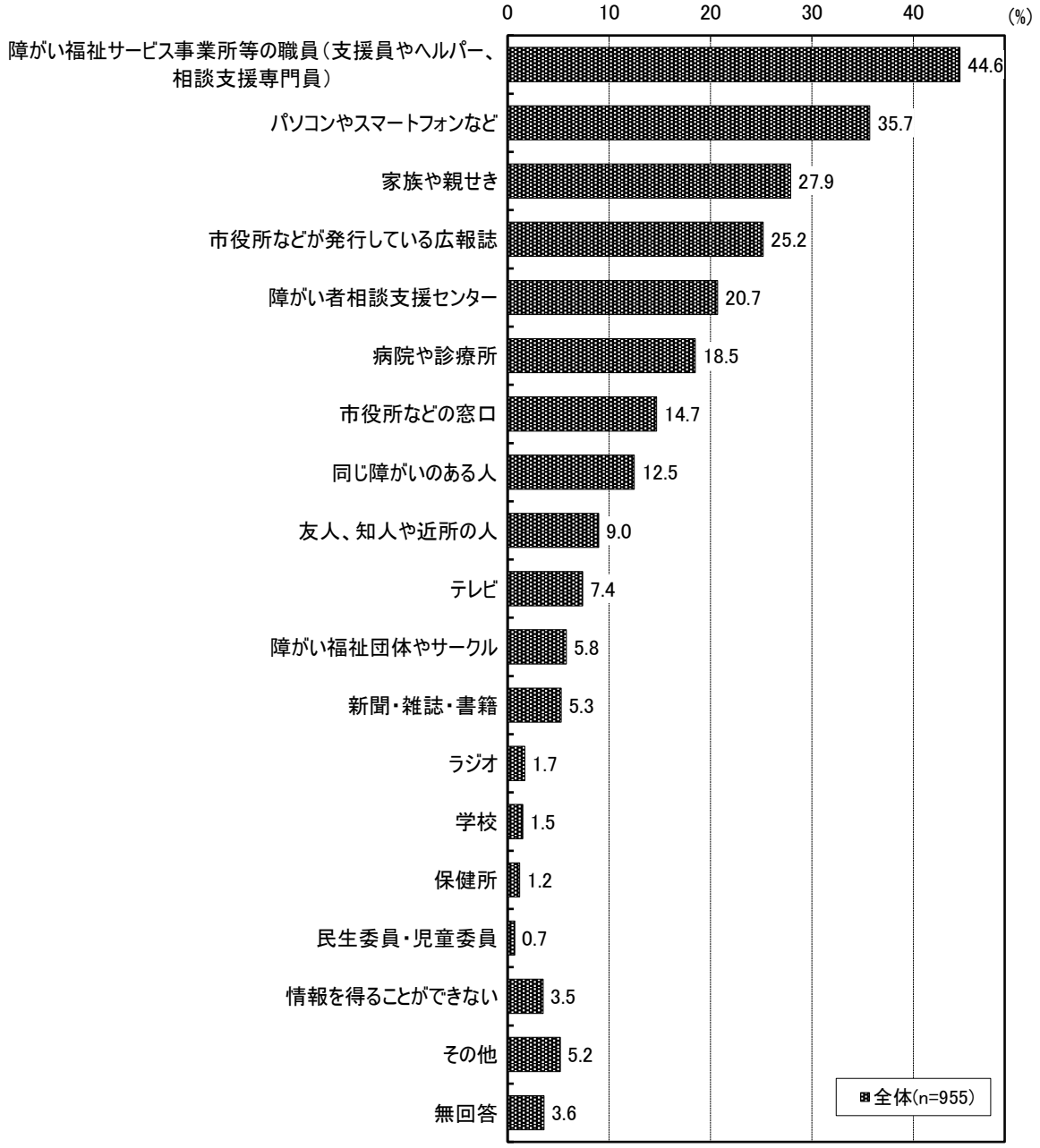
単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
パソコンやスマートフォンなど	44.8	38.8	**62.3**	**57.3**	**58.8**	22.3
市役所などが発行している広報誌	36.4	15.5	24.6	24.3	39.9	**50.2**
市役所などの窓口	10.7	9.5	14.5	8.7	12.8	8.4
障がい者相談支援センター	8.4	7.8	11.6	12.6	9.8	4.8
障がい福祉サービス事業所や放課後等デイサービス事業所等の職員（支援員やヘルパー、相談支援専門員）	16.2	**39.7**	17.4	13.6	10.7	13.6
病院や診療所	22.4	16.4	18.8	19.4	24.7	23.4
保健所	2.4	1.7	1.4	1.0	1.8	4.4
保健センターやこども発達支援センター	2.6	**19.8**	0.0	0.0	0.3	0.0
こども園、幼稚園、保育所（園）	1.5	8.6	0.0	2.9	0.3	0.0
学校	5.2	**33.6**	4.3	1.9	0.9	0.0
障がい福祉団体やサークル	2.4	3.4	4.3	3.9	2.4	1.1
同じ障がいのある人	6.5	14.7	5.8	12.6	5.5	2.6
民生委員・児童委員	0.8	0.0	0.0	0.0	0.3	2.2
家族や親せき	23.0	**36.2**	**39.1**	21.4	16.5	21.2
友人、知人や近所の人	10.8	15.5	7.2	4.9	7.6	14.3
テレビ	14.2	3.4	2.9	3.9	11.9	**28.2**
ラジオ	1.9	0.9	1.4	0.0	1.8	2.9
新聞・雑誌・書籍	11.1	2.6	1.4	4.9	9.5	**22.0**
情報を得ることができない	4.3	5.2	2.9	7.8	3.0	4.0
その他	3.4	0.9	0.0	3.9	3.0	5.9
無回答	3.9	1.7	5.8	1.0	2.1	7.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
パソコンやスマートフォンなど	45.3	28.0	53.7	50.3	42.5	39.8
市役所などが発行している広報誌	41.1	16.9	35.2	44.1	19.9	33.0
市役所などの窓口	11.8	9.5	11.4	11.2	9.6	10.4
障がい者相談支援センター	5.0	15.9	13.1	6.8	15.8	8.0
障がい福祉サービス事業所や放課後等デイサービス事業所等の職員（支援員やヘルパー、相談支援専門員）	16.2	**38.6**	14.4	21.1	23.3	24.8
病院や診療所	18.6	10.1	**32.9**	26.7	19.2	19.0
保健所	2.0	1.6	1.0	11.8	0.0	2.8
保健センターやこども発達支援センター	2.4	11.1	0.3	7.5	5.5	4.3
こども園、幼稚園、保育所（園）	0.8	4.8	0.7	1.2	4.1	1.2
学校	3.6	**19.6**	2.3	6.2	**17.1**	7.3
障がい福祉団体やサークル	2.8	7.4	2.7	1.2	4.8	4.9
同じ障がいのある人	6.6	16.4	4.4	7.5	6.2	10.4
民生委員・児童委員	1.0	0.5	0.0	0.6	0.0	0.3
家族や親せき	21.0	31.2	21.8	21.7	**34.2**	22.0
友人、知人や近所の人	13.6	13.8	6.4	13.0	8.2	10.7
テレビ	17.2	4.2	12.8	16.8	4.8	13.5
ラジオ	2.2	0.5	1.7	1.9	0.0	2.1
新聞・雑誌・書籍	13.8	3.7	8.4	14.3	5.5	9.2
情報を得ることができない	3.4	6.9	3.7	3.7	8.9	5.2
その他	4.0	2.1	2.3	4.3	1.4	5.5
無回答	4.4	5.3	2.0	1.9	4.8	6.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー、相談支援専門員)」が44.6%と最も多く、次いで「パソコンやスマートフォンなど」が35.7%、「家族や親せき」が27.9%、「市役所などが発行している広報誌」が25.2%、「障がい者相談支援センター」が20.7%、「病院や診療所」が18.5%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、30歳～39歳で「パソコンやスマートフォンなど」が46.8%、18歳～29歳では「家族や親せき」が45.2%、65歳以上では「市役所などが発行している広報誌」が40.7%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、強度行動障がいで「障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー、相談支援専門員)」が62.3%、知的障がいで「家族や親せき」が40.2%、精神障がいで「病院や診療所」が29.0%とそれぞれ多くなっています。

（属性別クロス集計）

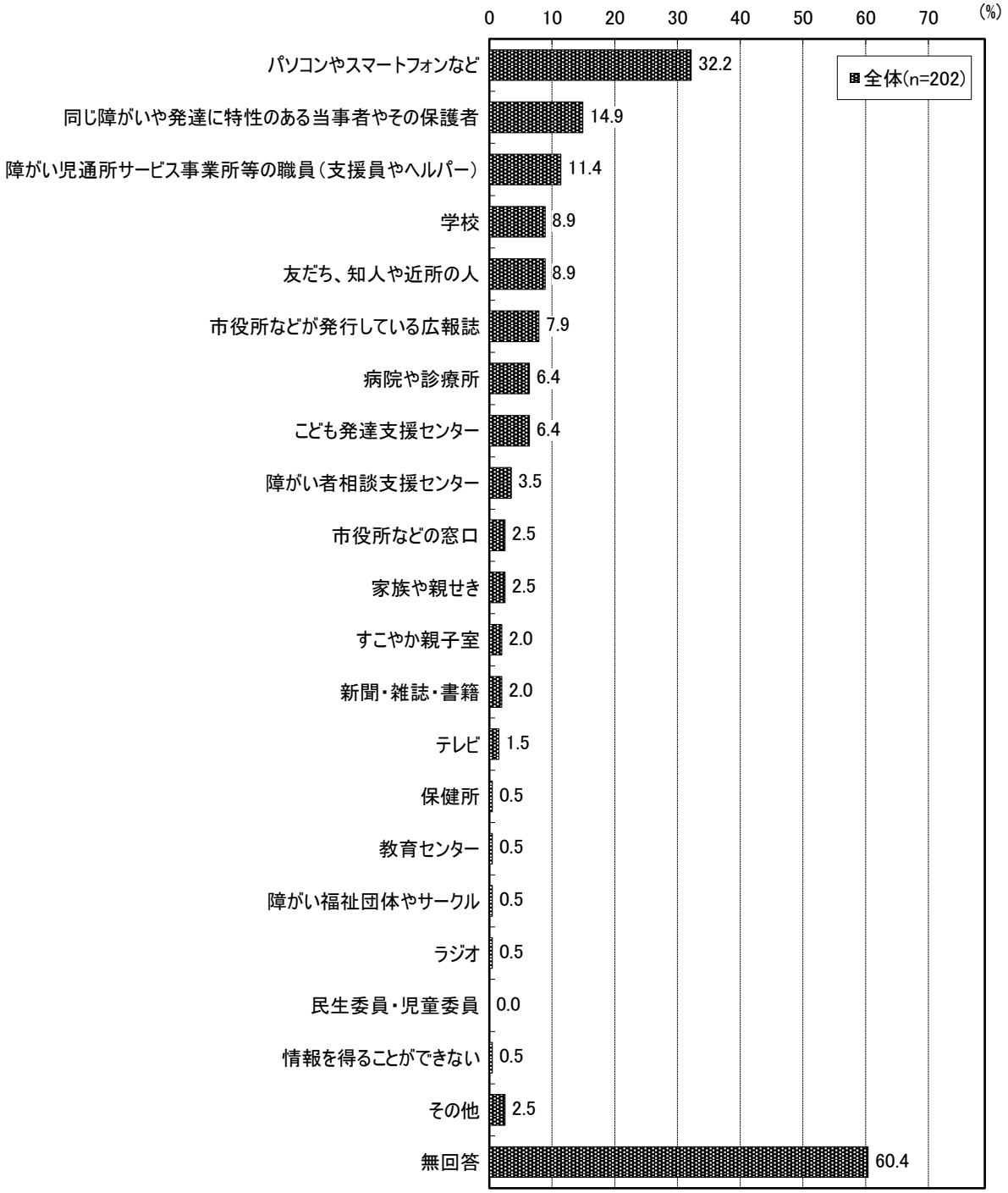
単位：％	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
パソコンやスマートフォンなど	35.7	36.7	**46.8**	35.3	22.0
市役所などが発行している広報誌	25.2	12.7	22.6	28.7	**40.7**
市役所などの窓口	14.7	11.8	12.6	15.9	16.3
障がい者相談支援センター	20.7	19.9	20.5	21.7	17.9
障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー、相談支援専門員）	44.6	42.1	45.3	46.1	42.3
病院や診療所	18.5	13.1	20.0	23.4	11.4
保健所	1.2	0.9	1.6	1.0	1.6
学校	1.5	4.1	1.6	0.5	0.0
障がい福祉団体やサークル	5.8	3.6	10.5	4.5	7.3
同じ障がいのある人	12.5	10.9	17.9	10.6	14.6
民生委員・児童委員	0.7	0.5	0.5	0.8	1.6
家族や親せき	27.9	**45.2**	30.5	18.9	22.0
友人、知人や近所の人	9.0	9.0	11.1	7.1	13.8
テレビ	7.4	2.7	5.8	8.8	15.4
ラジオ	1.7	0.0	0.5	1.8	6.5
新聞・雑誌・書籍	5.3	2.3	5.8	5.8	9.8
情報を得ることができない	3.5	5.0	4.2	3.3	0.8
その他	5.2	4.5	5.8	5.5	5.7
無回答	3.6	2.7	1.1	3.8	5.7

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=257)	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい (n=388)
パソコンやスマートフォンなど	33.5	20.7	43.0	44.3	38.7	27.9	25.3
市役所などが発行している広報誌	30.7	18.8	25.3	31.8	19.7	16.4	24.2
市役所などの窓口	16.7	11.6	16.6	15.9	14.4	14.8	14.4
障がい者相談支援センター	17.1	25.9	23.7	11.4	25.0	23.0	21.6
障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー、相談支援専門員）	39.3	49.9	51.0	30.7	53.2	**62.3**	47.7
病院や診療所	13.6	8.1	**29.0**	22.7	20.1	16.4	11.1
保健所	0.8	0.5	1.6	5.7	0.0	0.0	1.0
学校	1.2	2.2	1.3	1.1	2.5	3.3	2.1
障がい福祉団体やサークル	5.4	7.7	4.0	3.4	7.4	8.2	8.2
同じ障がいのある人	17.1	11.1	12.9	17.0	11.6	**23.0**	17.0
民生委員・児童委員	0.4	0.5	0.7	0.0	0.7	0.0	0.3
家族や親せき	30.4	**40.2**	21.3	29.5	37.7	37.7	35.6
友人、知人や近所の人	15.6	9.1	6.0	14.8	8.8	9.8	13.7
テレビ	12.5	4.4	6.9	11.4	5.3	6.6	8.2
ラジオ	3.9	0.2	1.3	4.5	1.1	0.0	2.3
新聞・雑誌・書籍	6.2	3.2	5.3	8.0	6.0	8.2	5.9
情報を得ることができない	3.5	5.7	2.2	1.1	4.2	4.9	5.4
その他	6.2	3.5	5.3	11.4	3.2	3.3	5.9
無回答	2.7	3.5	3.1	1.1	2.1	4.9	2.6

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「パソコンやスマートフォンなど」が32.2%と最も多く、次いで「同じ障がいや発達に特性のある当事者やその保護者」が14.9%、「障がい児通所サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー)」が11.4%、「学校」と「友だち、知人や近所の人」がそれぞれ8.9%となっています。本設問については無回答が60.4%と非常に多い結果となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○障がい種別ごとにみると、重度障がいで「無回答」が71.4%と多く、情報取得手段の把握が難しい状況もみられます。

（属性別クロス集計）

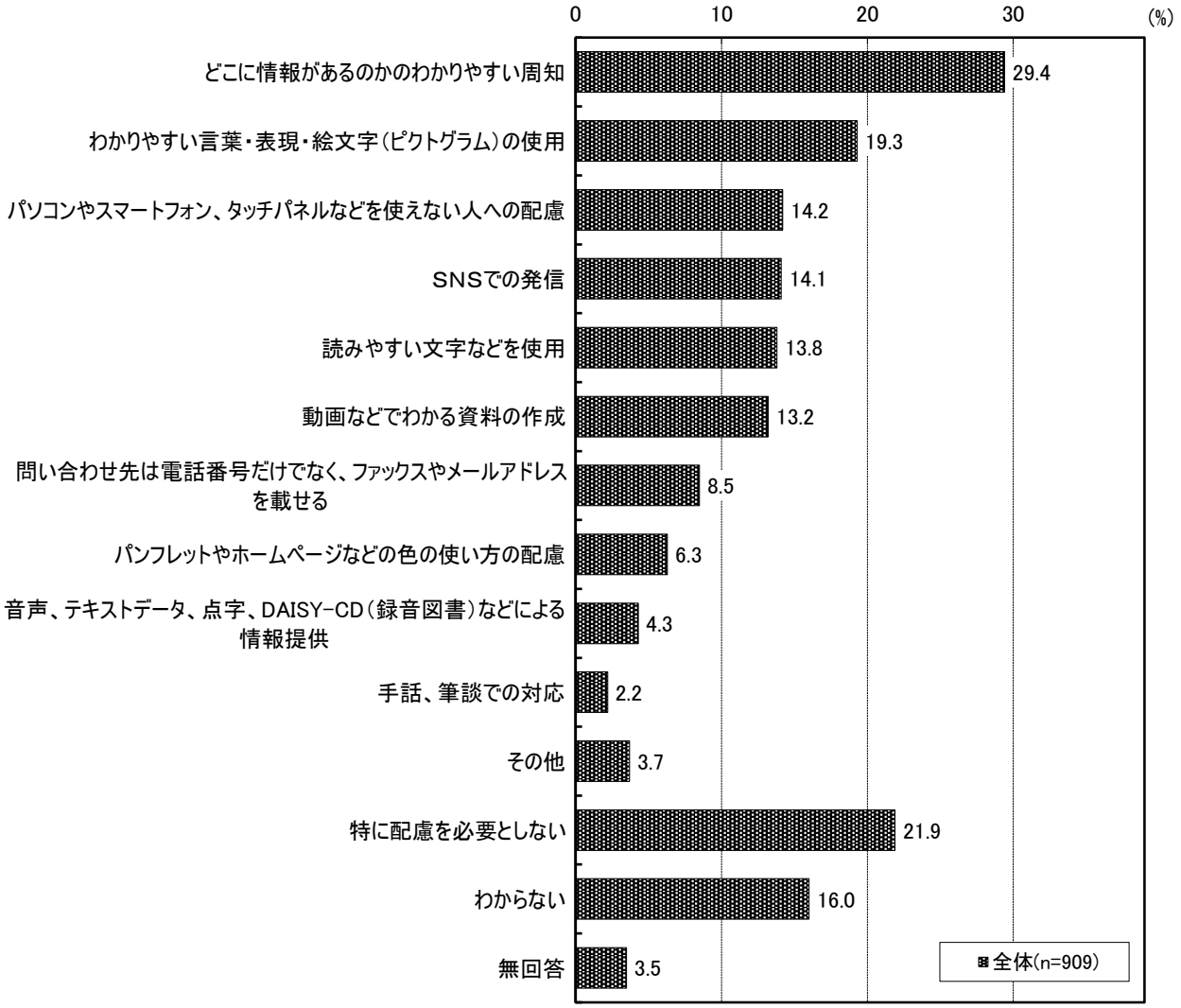
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
パソコンやスマートフォンなど	32.2	27.8	34.9	31.0	31.6	31.7	23.8	**50.0**	29.5	23.8
市役所などが発行している広報誌	7.9	7.4	6.6	11.9	**21.1**	9.5	9.5	**18.8**	8.4	11.9
市役所などの窓口	2.5	0.0	4.7	0.0	5.3	1.6	0.0	6.3	1.1	2.4
障がい者相談支援センター	3.5	3.7	4.7	0.0	0.0	3.2	4.8	0.0	4.2	0.0
障がい児通所サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）	11.4	11.1	11.3	11.9	10.5	11.1	4.8	12.5	10.5	11.9
病院や診療所	6.4	3.7	7.5	7.1	0.0	6.3	9.5	0.0	5.3	4.8
保健所	0.5	0.0	0.9	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0
すこやか親子室	2.0	1.9	2.8	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	2.1	0.0
こども発達支援センター	6.4	5.6	8.5	2.4	0.0	3.2	0.0	6.3	5.3	2.4
教育センター	0.5	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0
学校	8.9	9.3	7.5	11.9	5.3	11.1	**19.0**	6.3	8.4	7.1
障がい福祉団体やサークル	0.5	0.0	0.0	2.4	5.3	1.6	0.0	6.3	0.0	2.4
同じ障がいや発達に特性のある当事者やその保護者	14.9	13.0	15.1	16.7	15.8	12.7	4.8	**31.3**	14.7	11.9
民生委員・児童委員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族や親せき	2.5	1.9	3.8	0.0	0.0	1.6	0.0	6.3	0.0	2.4
友だち、知人や近所の人	8.9	14.8	6.6	7.1	0.0	7.9	9.5	6.3	5.3	0.0
テレビ	1.5	0.0	1.9	2.4	0.0	3.2	4.8	0.0	1.1	0.0
ラジオ	0.5	0.0	0.9	0.0	0.0	1.6	4.8	0.0	1.1	0.0
新聞・雑誌・書籍	2.0	0.0	2.8	2.4	0.0	1.6	4.8	0.0	1.1	0.0
情報を得ることができない	0.5	1.9	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	1.1	2.4
その他	2.5	0.0	3.8	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0
無回答	60.4	63.0	58.5	61.9	68.4	61.9	66.7	50.0	61.1	**71.4**

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

② コミュニケーションに関する配慮や支援

◆あなたがコミュニケーションをとるうえで、どのような配慮があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者計画アンケート



○「どこに情報があるのかのわかりやすい周知」が29.4%、「わかりやすい言葉・表現・絵文字（ピクトグラム）の使用」が19.3%、「パソコンやスマートフォン、タッチパネルなどを使えない人への配慮」が14.2%、「ＳＮＳでの発信」が14.1%、「読みやすい文字などを使用」が13.8%、「動画などで分かる資料の作成」が13.2%などとなっています。「特に配慮を必要としない」は21.9%、「わからない」は16.0%でした。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０歳～17歳で「わかりやすい言葉・表現・絵文字（ピクトグラム）の使用」が51.7%、「動画などでわかる資料の作成」が28.4%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「わかりやすい言葉・表現・絵文字（ピクトグラム）の使用」は知的障がいで46.6%、発達障がいで43.2%、「動画などでわかる資料の作成」は知的障がいで27.5%、発達障がいで26.7%と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：％	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
音声、テキストデータ、点字、DAISY-CD（録音図書）などによる情報提供	4.3	5.2	7.2	8.7	2.7	2.9
どこに情報があるのかのわかりやすい周知	29.4	18.1	26.1	28.2	35.1	28.2
読みやすい文字などを使用	13.8	25.9	14.5	15.5	7.6	15.4
パンフレットやホームページなどの色の使い方の配慮	6.3	2.6	10.1	9.7	7.3	4.8
問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せる	8.5	3.4	4.3	8.7	15.2	3.7
ＳＮＳでの発信	14.1	12.9	11.6	22.3	21.0	3.7
手話、筆談での対応	2.2	6.0	4.3	3.9	1.5	0.4
わかりやすい言葉・表現・絵文字（ピクトグラム）の使用	19.3	**51.7**	21.7	**31.1**	10.4	11.7
動画などでわかる資料の作成	13.2	**28.4**	11.6	19.4	14.0	3.7
パソコンやスマートフォン、タッチパネルなどを使えない人への配慮	14.2	6.9	8.7	12.6	11.3	23.1
その他	3.7	5.2	7.2	2.9	4.0	2.2
特に配慮を必要としない	21.9	4.3	24.6	26.2	26.8	22.7
わからない	16.0	23.3	14.5	9.7	13.1	17.9
無回答	3.5	0.9	5.8	1.0	1.8	6.6

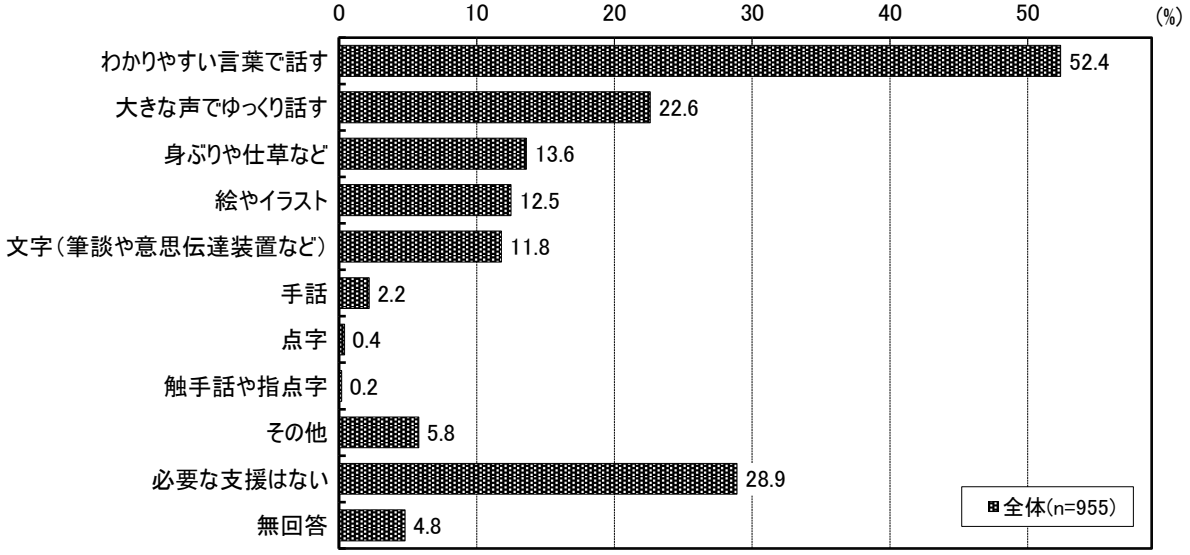
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患(n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
音声、テキストデータ、点字、DAISY-CD（録音図書）などによる情報提供	4.4	4.8	5.0	5.0	6.2	5.2
どこに情報があるのかのわかりやすい周知	27.3	22.8	36.2	28.0	26.7	24.5
読みやすい文字などを使用	12.6	22.2	11.7	7.5	22.6	13.1
パンフレットやホームページなどの色の使い方の配慮	5.2	4.8	9.7	5.0	6.2	5.5
問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せる	6.8	4.8	14.1	9.3	8.9	6.1
ＳＮＳでの発信	12.4	9.5	18.5	11.2	13.0	9.8
手話、筆談での対応	2.2	2.6	2.0	1.9	4.8	2.1
わかりやすい言葉・表現・絵文字（ピクトグラム）の使用	14.2	**46.6**	17.8	13.7	**43.2**	21.1
動画などでわかる資料の作成	8.4	**27.5**	15.1	6.2	**26.7**	12.5
パソコンやスマートフォン、タッチパネルなどを使えない人への配慮	16.0	12.2	13.4	11.2	10.3	14.7
その他	4.4	5.8	3.7	4.3	5.5	6.1
特に配慮を必要としない	24.0	4.2	22.1	19.9	10.3	16.2
わからない	16.6	24.3	12.8	24.2	13.7	19.6
無回答	4.6	3.7	2.0	2.5	3.4	6.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆あなたが、コミュニケーションを取るとき、必要な支援は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「わかりやすい言葉で話す」が52.4%、「大きな声でゆっくり話す」が22.6%となっており、配慮ある対話が求められています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、18歳～29歳で「わかりやすい言葉で話す」が66.1%、「絵やイラスト」が23.1%、65歳以上で「大きな声でゆっくり話す」が34.1%とそれぞれ多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「わかりやすい言葉で話す」は強度行動障がいで75.4%、知的障がいで75.3%、発達障がいで68.3%と高い割合を示しています。聴覚・平衡機能障がいでは「文字（筆談や意思伝達装置など）」と「大きな声でゆっくり話す」が50.0%、「手話」が42.9%と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=955)	男性 (n=481)	女性 (n=435)	その他・答えたくない (n=15)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
文字（筆談や意思伝達装置など）	11.8	14.1	9.7	20.0	15.4	11.6	9.1	17.1
絵やイラスト	12.5	15.8	8.5	26.7	**23.1**	15.8	6.5	8.1
身ぶりや仕草など	13.6	15.8	11.0	13.3	19.9	20.0	9.3	6.5
手話	2.2	2.3	2.3	0.0	3.2	1.6	1.5	4.1
点字	0.4	0.8	0.0	0.0	0.5	0.5	0.3	0.8
触手話や指点字	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0
大きな声でゆっくり話す	22.6	24.5	21.4	13.3	22.2	19.5	21.4	**34.1**
わかりやすい言葉で話す	52.4	55.3	50.6	40.0	**66.1**	61.1	46.1	39.0
その他	5.8	5.2	6.0	6.7	5.4	6.3	5.0	6.5
必要な支援はない	28.9	25.8	32.4	33.3	19.9	24.7	35.8	30.9
無回答	4.8	3.1	5.5	13.3	1.4	2.1	4.8	10.6

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=257)	身体障がい (18～64歳) (n=182)	身体障がい (65歳以上) (n=68)	視覚障がい (n=70)	聴覚・平衡機能障がい (n=42)	音声・言語、そしゃく機能障がい(n=18)	肢体不自由 (n=111)	内部障がい (n=33)
文字（筆談や意思伝達装置など）	17.5	15.9	**23.5**	10.0	**50.0**	38.9	13.5	9.1
絵やイラスト	7.8	7.1	10.3	2.9	9.5	11.1	8.1	9.1
身ぶりや仕草など	16.0	18.7	8.8	5.7	**35.7**	44.4	17.1	3.0
手話	7.0	7.1	7.4	1.4	**42.9**	11.1	0.0	0.0
点字	1.6	1.6	1.5	5.7	2.4	0.0	0.0	0.0
触手話や指点字	0.8	0.5	0.0	1.4	2.4	0.0	0.9	0.0
大きな声でゆっくり話す	26.8	23.6	**38.2**	27.1	**50.0**	50.0	18.9	24.2
わかりやすい言葉で話す	44.0	46.2	39.7	38.6	28.6	44.4	47.7	57.6
その他	8.2	9.3	5.9	8.6	4.8	5.6	10.8	6.1
必要な支援はない	24.1	24.7	23.5	31.4	4.8	16.7	27.0	24.2
無回答	5.4	1.6	11.8	4.3	7.1	0.0	5.4	6.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	高次脳機能障がい (n=26)	強度行動障がい (n=61)	重度障がい (n=388)
文字（筆談や意思伝達装置など）	12.3	9.5	8.0	13.0	15.4	**24.6**	16.2
絵やイラスト	22.0	8.2	6.8	23.9	3.8	**44.3**	22.9
身ぶりや仕草など	20.7	9.1	9.1	18.7	7.7	**37.7**	23.5
手話	1.5	0.4	4.5	0.7	3.8	1.6	3.9
点字	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	1.0
触手話や指点字	0.2	0.2	1.1	0.0	0.0	0.0	0.5
大きな声でゆっくり話す	27.9	19.5	21.6	23.6	**38.5**	31.1	28.6
わかりやすい言葉で話す	**75.3**	47.5	37.5	**68.3**	50.0	**75.4**	**64.2**
その他	4.9	5.8	5.7	5.3	11.5	3.3	7.0
必要な支援はない	9.9	37.3	**42.0**	18.7	19.2	6.6	13.4
無回答	3.5	4.4	6.8	2.5	3.8	6.6	4.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

9　相談に関する状況

① 相談したいこと・気にかかっていること

◆あなたが、日ごろの生活の中で相談したいことは何ですか。（あてはまるもの５つまでに○）

障がい者計画アンケート



○「自分自身が高齢になり、体力の低下や障がいの重度化することの心配」が37.3%と最も多く、次いで「生活していくのに必要な収入について」が29.0%、「自分の病状が急変したり、再発したときのことの心配」が24.6%、「親亡き後の生活と住まい」が22.9%、「特にない」が18.9%、「必要な医療を受けること」が18.3%となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、０歳～17歳で「親亡き後の生活と住まい」が53.4%、「自分に合った（必要な）療育を受ける場所」が39.7%、「自分に合った生活訓練や就労に向けた訓練を受けるところについて」が29.3%、「校区の小・中学校に通い学ぶこと」が28.4%、「身の回りの世話を頼める人の紹介」が25.0%と多くなっています。40歳～64歳では「生活していくのに必要な収入について」が39.0%、65歳以上では「自分自身が高齢になり、体力の低下や障がいの重度化することの心配」が52.7%と特に多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「親亡き後の生活と住まい」は知的障がいで58.2%、発達障がいで49.3%と多く、「生活していくのに必要な収入について」は精神障がいで41.6%と多くみられます。知的障がいでは「自分に合った（必要な）療育を受ける場所」が28.6%、「身の回りの世話を頼める人の紹介」が25.9%、「自分に合った生活訓練や就労に向けた訓練を受けるところについて」が23.8%と多くなっています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
身の回りの世話を頼める人の紹介	12.0	**25.0**	13.0	11.7	10.4	8.4
親しい友人がいないこと	10.3	2.6	7.2	18.4	14.9	5.1
地域の人などとうまくつきあえないこと	5.1	0.9	2.9	8.7	6.4	4.8
同じ障がいのある相談相手の紹介（ピアサポーターなど）	5.0	10.3	11.6	6.8	4.0	1.5
生活していくのに必要な収入について	29.0	25.9	33.3	32.0	**39.0**	16.5
必要な医療を受けること	18.3	19.0	26.1	14.6	20.7	14.3
恋愛や結婚について	4.4	4.3	**15.9**	10.7	4.0	0.0
出産や子育てについて	2.6	0.0	**14.5**	7.8	1.8	0.0
障がいがあることで差別や必要以上の配慮などをされることの心配	6.8	7.8	8.7	7.8	9.8	2.2
親や身内の病気・介護について	14.9	7.8	10.1	12.6	24.1	8.8
自分に合った（必要な）療育を受ける場所	9.5	**39.7**	2.9	3.9	5.5	5.5
こども園、幼稚園、保育所（園）などの集団生活について	2.2	**15.5**	0.0	1.9	0.0	0.0
校区の小・中学校に通い学ぶこと	3.9	**28.4**	0.0	1.0	0.3	0.0
自分に合った生活訓練や就労に向けた訓練を受けるところについて	9.0	**29.3**	11.6	11.7	6.1	2.2
自分の病状が急変したり、再発したときのことの心配	24.6	6.9	18.8	20.4	27.7	31.5
自分自身が高齢になり、体力の低下や障がいの重度化することの心配	37.3	5.2	18.8	23.3	44.2	**52.7**
親亡き後の生活と住まい	22.9	**53.4**	**37.7**	**43.7**	20.4	2.2
その他	5.1	2.6	11.6	6.8	6.1	1.8
特にない	18.9	10.3	7.2	21.4	18.3	25.6
無回答	2.5	2.6	1.4	0.0	0.9	5.5

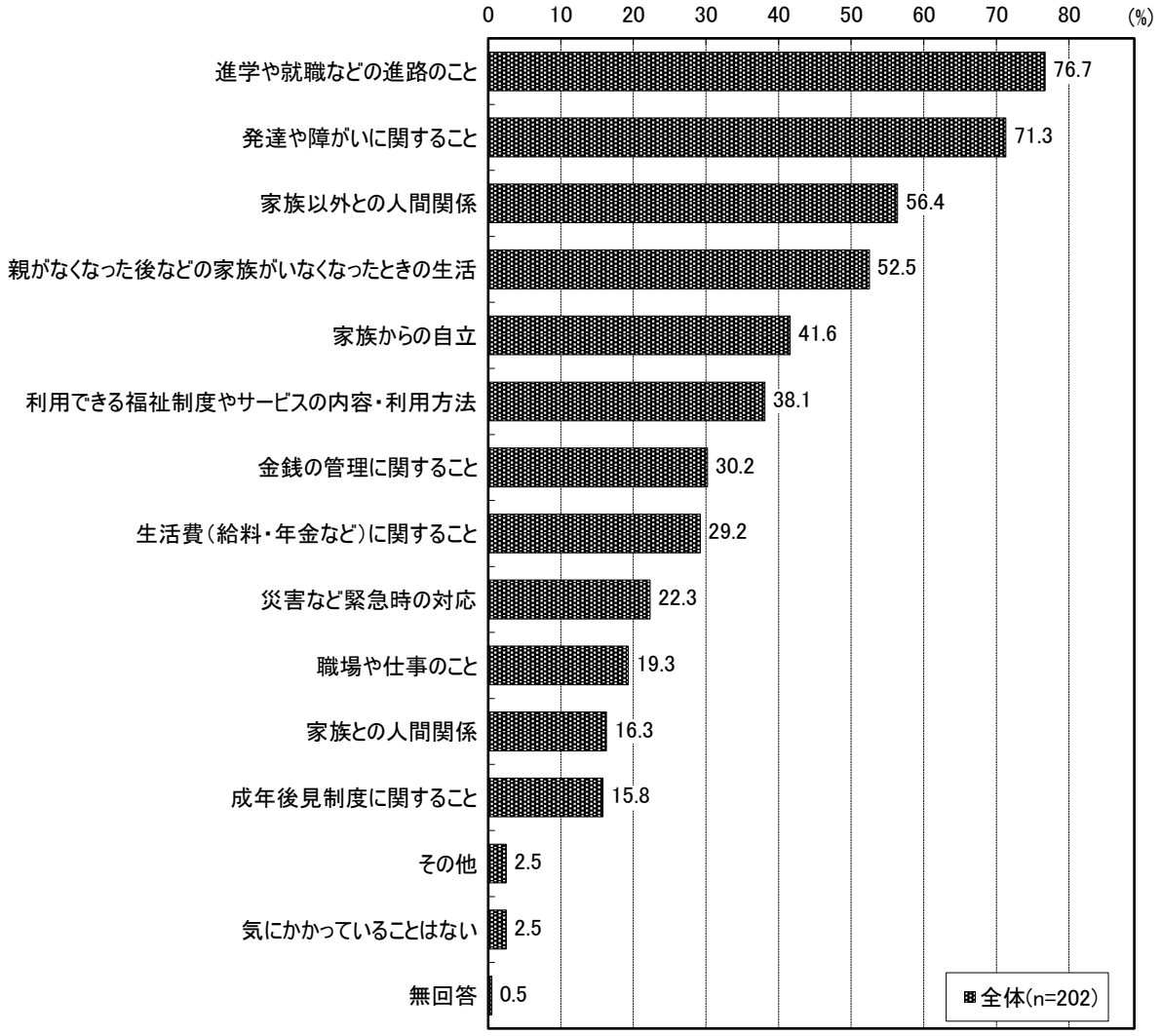
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
身の回りの世話を頼める人の紹介	11.0	**25.9**	12.8	14.3	15.8	15.9
親しい友人がいないこと	6.0	7.4	19.5	3.7	15.1	8.0
地域の人などとうまくつきあえないこと	3.6	2.6	8.1	3.1	4.1	4.3
同じ障がいのある相談相手の紹介（ピアサポーターなど）	4.6	7.9	6.0	5.6	6.8	4.6
生活していくのに必要な収入について	23.2	27.5	**41.6**	21.7	35.6	24.5
必要な医療を受けること	19.2	20.6	17.8	22.4	14.4	20.5
恋愛や結婚について	2.2	4.2	8.1	3.1	7.5	1.5
出産や子育てについて	2.4	1.6	3.0	3.1	4.8	2.1
障がいがあることで差別や必要以上の配慮などをされることの心配	3.8	9.5	10.7	5.6	12.3	4.9
親や身内の病気・介護について	12.4	10.6	21.5	13.0	14.4	12.8
自分に合った（必要な）療育を受ける場所	8.2	**28.6**	5.7	16.1	17.1	12.8
こども園、幼稚園、保育所（園）などの集団生活について	2.0	7.4	0.0	3.1	4.8	3.1
校区の小・中学校に通い学ぶこと	2.4	11.6	1.0	5.6	10.3	2.1
自分に合った生活訓練や就労に向けた訓練を受けるところについて	7.0	**23.8**	9.1	5.6	17.1	11.0
自分の病状が急変したり、再発したときのことの心配	26.7	12.2	30.2	32.9	11.6	25.1
自分自身が高齢になり、体力の低下や障がいの重度化することの心配	44.3	19.0	38.6	36.0	18.5	41.0
親亡き後の生活と住まい	16.0	**58.2**	26.5	20.5	**49.3**	26.3
その他	3.6	5.3	7.7	6.8	8.9	5.2
特にない	21.2	9.5	13.4	18.0	9.6	18.7
無回答	3.8	2.1	1.0	0.6	2.1	3.7

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆お子さん（ご本人）のことで、気にかかっていることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「進学や就職などの進路のこと」が76.7%と最も多く、次いで「発達や障がいに関すること」が71.3%、「家族以外との人間関係」が56.4%、「親がなくなった後などの家族がいなくなったときの生活」が52.5%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、「進学や就職などの進路のこと」は中高生その他で92.9%に達するほか、「親がなくなった後などの家族がいなくなったときの生活」が66.7%、「家族からの自立」が64.3%と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「親がなくなった後などの家族がいなくなったときの生活」は知的障がいで87.3%、精神障がいで85.7%、重度障がいで78.6%と非常に多くみられます。また、発達障がいでは「進学や就職などの進路のこと」が88.4%、と多くなっています。

（属性別クロス集計）

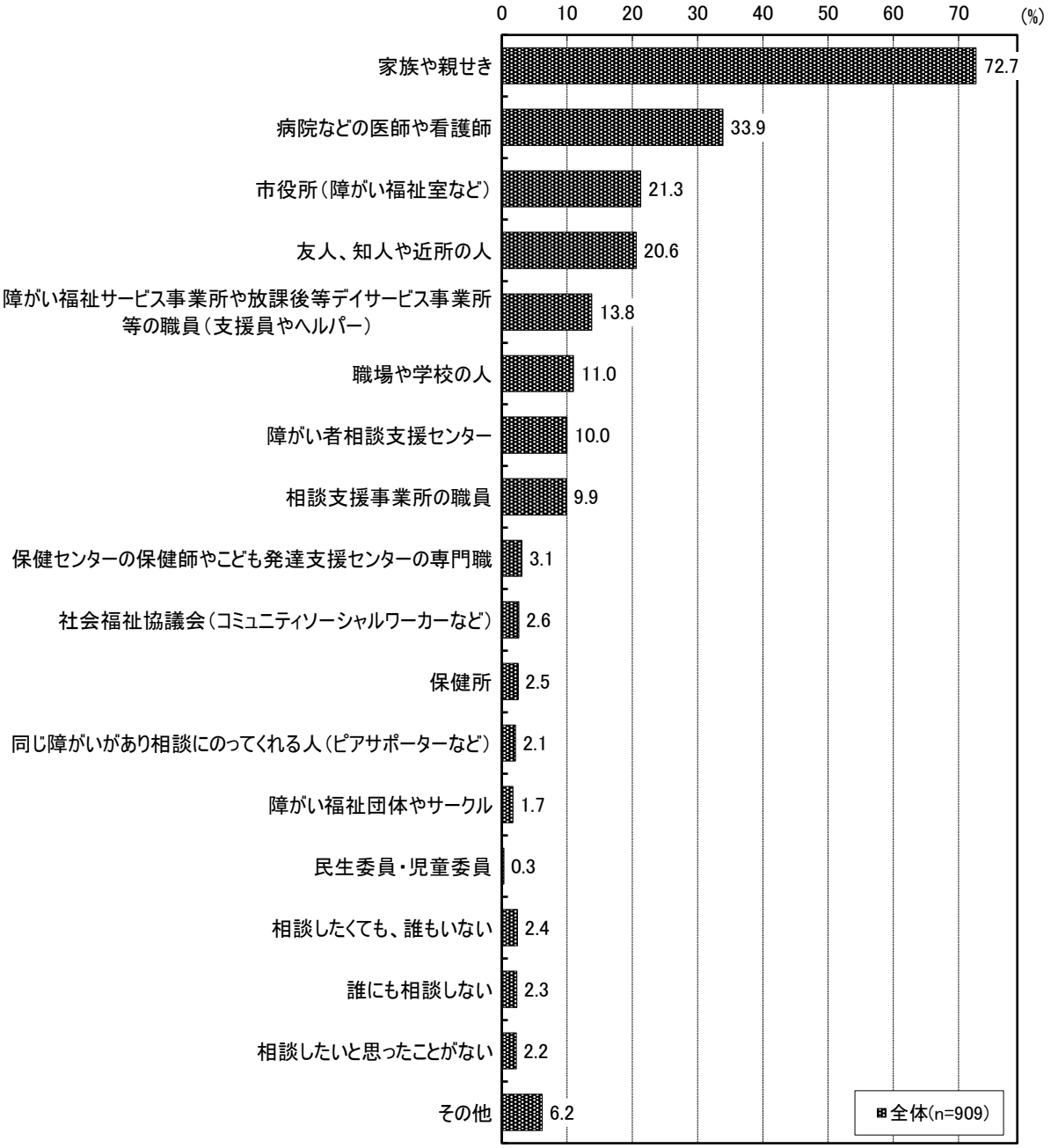
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
発達や障がいに関すること	71.3	68.5	78.3	57.1	31.6	65.1	76.2	43.8	80.0	52.4
利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法	38.1	35.2	37.7	42.9	42.1	**57.1**	47.6	43.8	45.3	**54.8**
家族からの自立	41.6	16.7	45.3	**64.3**	21.1	**60.3**	**61.9**	25.0	**55.8**	47.6
親がなくなった後などの家族がいなくなったときの生活	52.5	31.5	57.5	**66.7**	**63.2**	**87.3**	**85.7**	**75.0**	**65.3**	**78.6**
生活費（給料・年金など）に関すること	29.2	16.7	30.2	**42.9**	21.1	**54.0**	**57.1**	31.3	36.8	**42.9**
金銭の管理に関すること	30.2	11.1	34.0	**45.2**	10.5	**54.0**	**57.1**	18.8	**42.1**	**40.5**
進学や就職などの進路のこと	76.7	63.0	77.4	**92.9**	84.2	81.0	85.7	50.0	**88.4**	73.8
職場や仕事のこと	19.3	14.8	19.8	23.8	15.8	28.6	28.6	18.8	24.2	14.3
災害など緊急時の対応	22.3	13.0	25.5	26.2	31.6	**44.4**	**47.6**	**50.0**	28.4	**50.0**
家族との人間関係	16.3	7.4	23.6	9.5	5.3	6.3	**38.1**	0.0	21.1	2.4
家族以外との人間関係	56.4	46.3	60.4	59.5	31.6	55.6	**76.2**	43.8	64.2	38.1
成年後見制度に関すること	15.8	11.1	14.2	**26.2**	15.8	**41.3**	**33.3**	25.0	22.1	**40.5**
その他	2.5	0.0	2.8	4.8	5.3	3.2	4.8	0.0	2.1	2.4
気にかかっていることはない	2.5	5.6	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.5	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

② 相談先

◆あなたは、相談したいことがあるときに、どこ（誰）に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者計画アンケート



○「家族や親せき」が72.7％と最も多く、次いで「病院などの医師や看護師」が33.9％、「市役所（障がい福祉室など）」が21.3％、「友人、知人や近所の人」が20.6％、「障がい福祉サービス事業所や放課後等デイサービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）」が13.8％の順となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、18歳～29歳で「家族や親せき」が87.0％と特に多く、「友人、知人や近所の人」が33.3％となっています。０歳～17歳では「障がい福祉サービス事業所や放課後等デイサービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）」が35.3％、「職場や学校の人」が27.6％、「相談支援事業所の職員」が24.1％、「保健センターの保健師やこども発達支援センターの専門職」が18.1％と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、精神障がいで「病院などの医師や看護師」が48.3％と特に多く、難病・小児慢性疾患でも44.7％と多くみられます。知的障がいでは「障がい福祉サービス事業所や放課後等デイサービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）」が32.3％、「相談支援事業所の職員」が24.3％と多くなっています。

（属性別クロス集計）

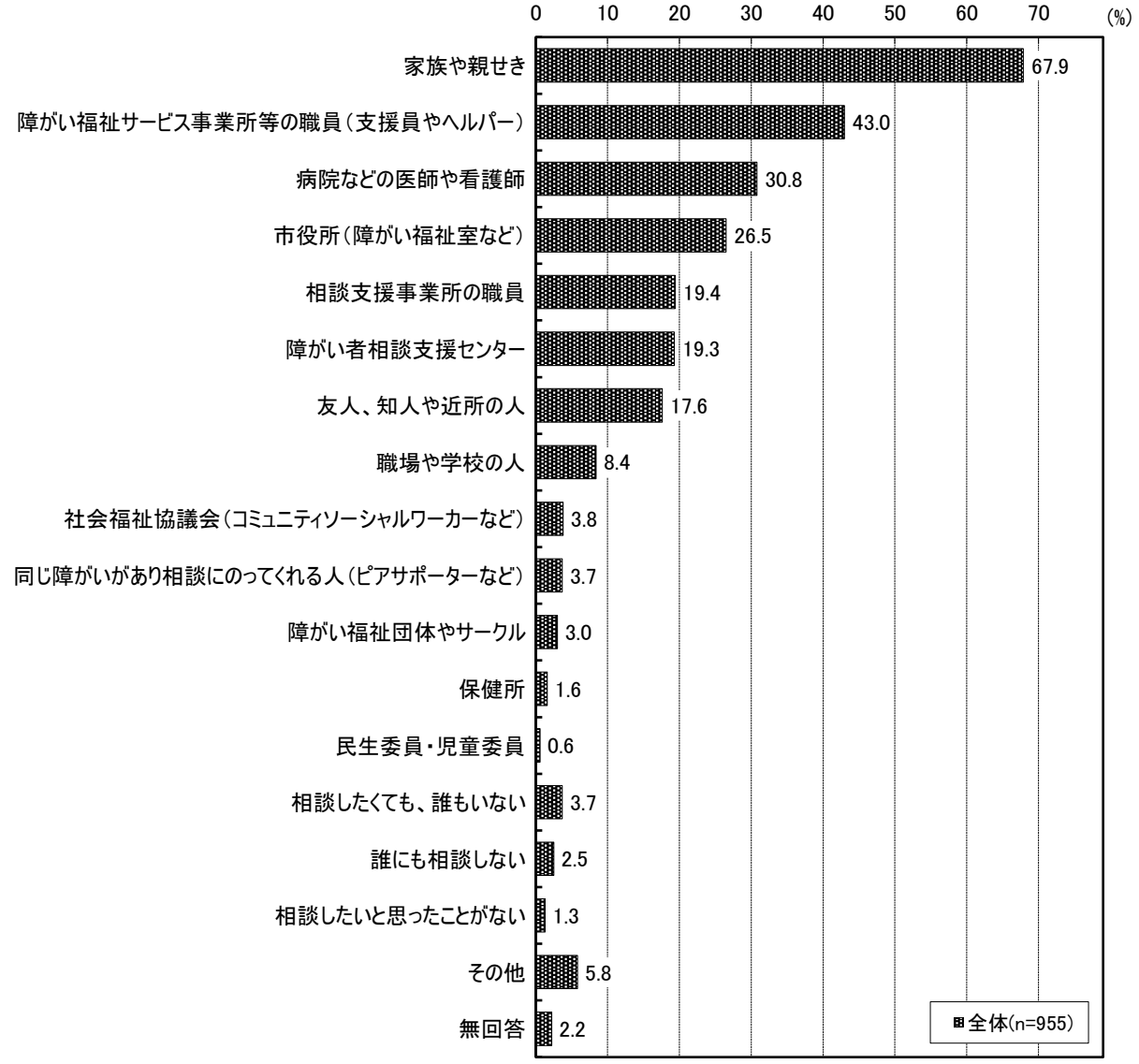
単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
家族や親せき	72.7	74.1	**87.0**	74.8	69.8	71.8
市役所（障がい福祉室など）	21.3	11.2	11.6	19.4	24.4	25.6
障がい者相談支援センター	10.0	6.0	4.3	11.7	14.3	7.3
社会福祉協議会（コミュニティソーシャルワーカーなど）	2.6	0.9	1.4	1.9	1.2	5.9
保健所	2.5	2.6	2.9	0.0	1.8	4.4
保健センターの保健師やこども発達支援センターの専門職	3.1	**18.1**	0.0	2.9	0.3	1.1
障がい福祉サービス事業所や放課後等デイサービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）	13.8	**35.3**	11.6	11.7	10.4	9.9
相談支援事業所の職員	9.9	**24.1**	10.1	9.7	7.0	7.3
病院などの医師や看護師	33.9	22.4	29.0	26.2	38.4	37.7
職場や学校の人	11.0	**27.6**	**23.2**	17.5	9.8	0.7
障がい福祉団体やサークル	1.7	0.0	4.3	4.9	1.2	1.1
同じ障がいがあり相談にのってくれる人（ピアサポーターなど）	2.1	1.7	4.3	1.9	2.1	1.8
民生委員・児童委員	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7
友人、知人や近所の人	20.6	11.2	**33.3**	19.4	22.3	19.0
相談したくても、誰もいない	2.4	0.0	1.4	1.9	4.3	1.1
誰にも相談しない	2.3	1.7	1.4	4.9	2.7	1.5
相談したいと思ったことがない	2.2	0.0	0.0	4.9	2.1	2.9
その他	6.2	7.8	8.7	2.9	4.9	7.7
無回答	2.1	0.9	2.9	0.0	0.6	4.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
家族や親せき	73.7	69.8	68.8	68.3	76.7	71.3
市役所（障がい福祉室など）	23.8	13.2	25.8	20.5	11.0	23.5
障がい者相談支援センター	8.2	13.2	14.4	8.1	10.3	11.3
社会福祉協議会（コミュニティソーシャルワーカーなど）	3.6	3.2	2.3	3.7	0.7	4.3
保健所	2.4	1.6	1.7	8.1	0.0	2.8
保健センターの保健師やこども発達支援センターの専門職	2.4	11.6	1.0	6.2	5.5	4.0
障がい福祉サービス事業所や放課後等デイサービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）	14.2	**32.3**	12.4	20.5	17.1	21.1
相談支援事業所の職員	9.8	**24.3**	9.1	16.1	13.0	14.7
病院などの医師や看護師	30.9	16.9	**48.3**	**44.7**	21.9	31.8
職場や学校の人	8.8	18.5	9.7	11.2	19.9	10.1
障がい福祉団体やサークル	1.8	4.2	1.3	0.6	4.1	2.8
同じ障がいがあり相談にのってくれる人（ピアサポーターなど）	2.4	2.6	3.0	2.5	0.0	1.5
民生委員・児童委員	0.6	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3
友人、知人や近所の人	23.2	9.5	20.1	20.5	10.3	16.2
相談したくても、誰もいない	2.2	0.5	3.4	1.2	3.4	2.4
誰にも相談しない	2.0	3.2	3.7	2.5	2.1	1.5
相談したいと思ったことがない	3.2	0.5	0.7	2.5	0.0	2.1
その他	5.4	6.9	7.7	6.2	9.6	6.7
無回答	2.6	2.1	0.7	2.5	2.7	3.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「家族や親せき」が67.9％と最も多く、次いで「障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）」が43.0％、「病院などの医師や看護師」が30.8％、「市役所（障がい福祉室など）」が26.5％、「相談支援事業所の職員」が19.4％、「障がい者相談支援センター」が19.3％、「友人、知人や近所の人」が17.6％の順となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、18歳～29歳で「家族や親せき」が80.1％、65歳以上で「市役所（障がい福祉室など）」が38.2％と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、難病で「病院などの医師や看護師」が48.9％、精神障がいでも43.0％と多くみられます。

（属性別クロス集計）

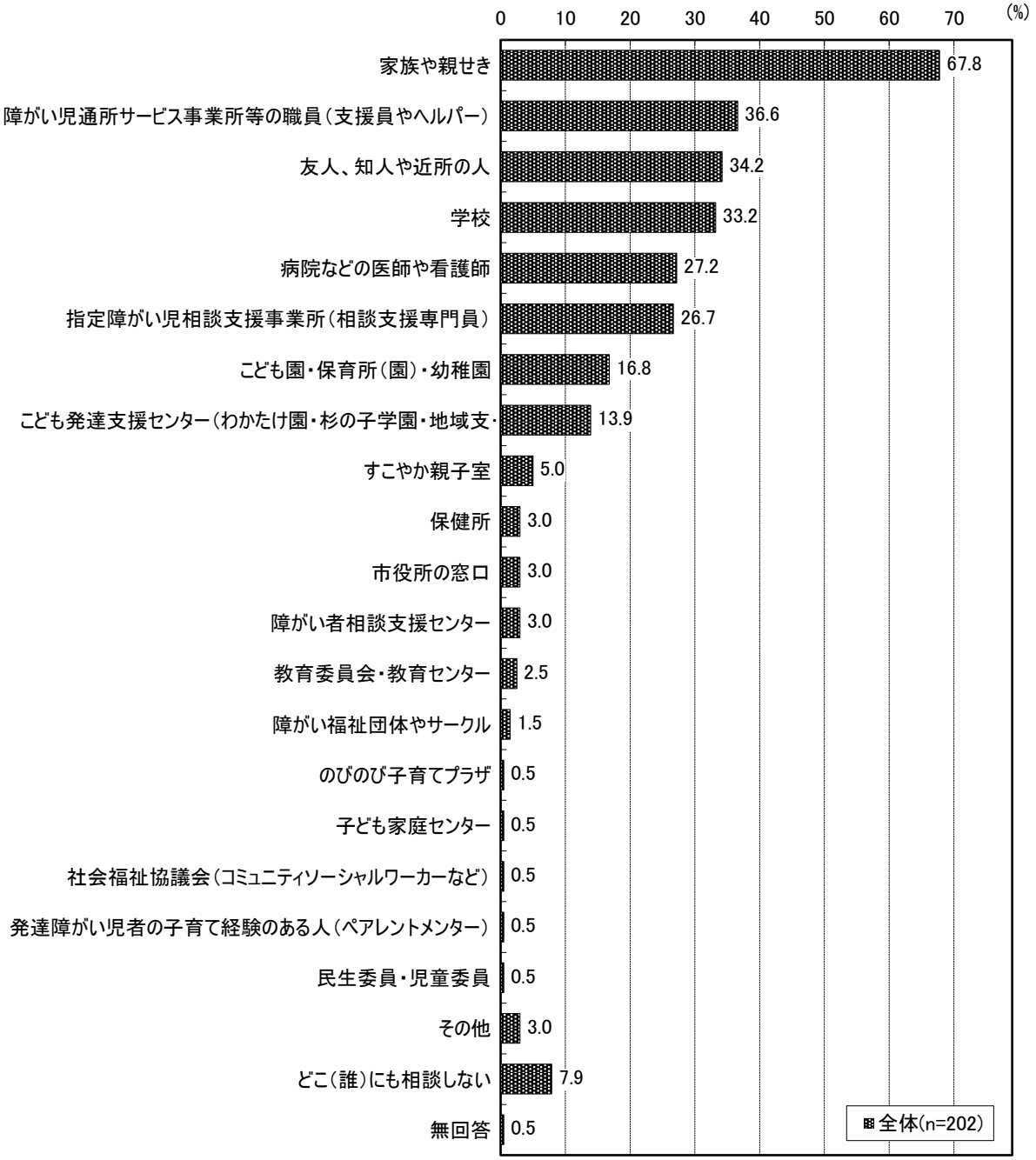
単位：%	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
家族や親せき	67.9	80.1	72.1	62.7	58.5
市役所（障がい福祉室など）	26.5	12.7	26.8	31.2	38.2
障がい者相談支援センター	19.3	11.3	15.8	24.9	21.1
社会福祉協議会（コミュニティソーシャルワーカーなど）	3.8	0.5	1.6	5.0	8.9
保健所	1.6	1.4	0.5	2.0	2.4
障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）	43.0	34.8	50.0	45.3	39.0
相談支援事業所の職員	19.4	19.5	18.9	20.9	14.6
病院などの医師や看護師	30.8	20.4	28.4	36.0	35.8
職場や学校の人	8.4	10.4	11.1	7.8	4.1
障がい福祉団体やサークル	3.0	1.8	4.7	2.8	4.1
同じ障がいがあり相談にのってくれる人（ピアサポーターなど）	3.7	0.9	3.7	4.5	5.7
民生委員・児童委員	0.6	0.0	0.0	0.8	2.4
友人、知人や近所の人	17.6	17.2	23.2	17.1	13.8
相談したくても、誰もいない	3.7	2.7	2.6	5.5	1.6
誰にも相談しない	2.5	3.2	4.2	1.5	2.4
相談したいと思ったことがない	1.3	0.9	1.6	1.0	1.6
その他	5.8	4.5	5.8	6.5	6.5
無回答	2.2	0.9	1.1	2.3	1.6

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい(n=257)	知的障がい(n=405)	精神障がい(n=451)	難病(n=88)	発達障がい(n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい(n=388)
家族や親せき	65.0	73.1	66.1	70.5	73.2	73.8	68.6
市役所（障がい福祉室など）	33.1	21.0	27.3	29.5	21.1	24.6	28.1
障がい者相談支援センター	19.8	21.5	22.0	13.6	17.3	18.0	19.3
社会福祉協議会（コミュニティソーシャルワーカーなど）	4.3	2.2	5.3	3.4	2.5	1.6	2.1
保健所	1.2	0.2	1.8	6.8	1.1	0.0	1.0
障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）	37.0	49.1	45.5	30.7	49.6	**59.0**	46.1
相談支援事業所の職員	15.6	20.5	23.1	12.5	22.2	**37.7**	20.4
病院などの医師や看護師	28.8	18.5	**43.0**	**48.9**	28.2	27.9	22.9
職場や学校の人	8.2	7.4	8.6	12.5	9.2	3.3	5.4
障がい福祉団体やサークル	1.9	4.2	2.0	2.3	3.5	1.6	4.6
同じ障がいがあり相談にのってくれる人（ピアサポーターなど）	4.7	2.0	5.1	9.1	3.2	6.6	3.1
民生委員・児童委員	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0
友人、知人や近所の人	21.8	11.1	20.0	23.9	15.1	11.5	16.0
相談したくても、誰もいない	3.9	1.5	5.5	4.5	2.8	1.6	1.8
誰にも相談しない	2.3	2.7	2.7	0.0	3.2	3.3	3.1
相談したいと思ったことがない	1.6	1.2	0.7	1.1	0.4	0.0	1.3
その他	4.7	5.2	6.9	4.5	5.3	8.2	5.9
無回答	2.3	2.0	1.8	1.1	1.8	3.3	2.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「家族や親せき」が67.8％と最も多く、次いで「障がい児通所サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）」が36.6％、「友人、知人や近所の人」が34.2％、「学校」が33.2％、「病院などの医師や看護師」が27.2％の順となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、中高生その他で「病院などの医師や看護師」が40.5％、小学生では「指定障がい児相談支援事業所（相談支援専門員）」が37.7％と比較的多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「病院などの医師や看護師」は身体障がいの52.6％、重度障がいの50.0％、精神障がいの47.6％と多くみられます。

（属性別クロス集計）

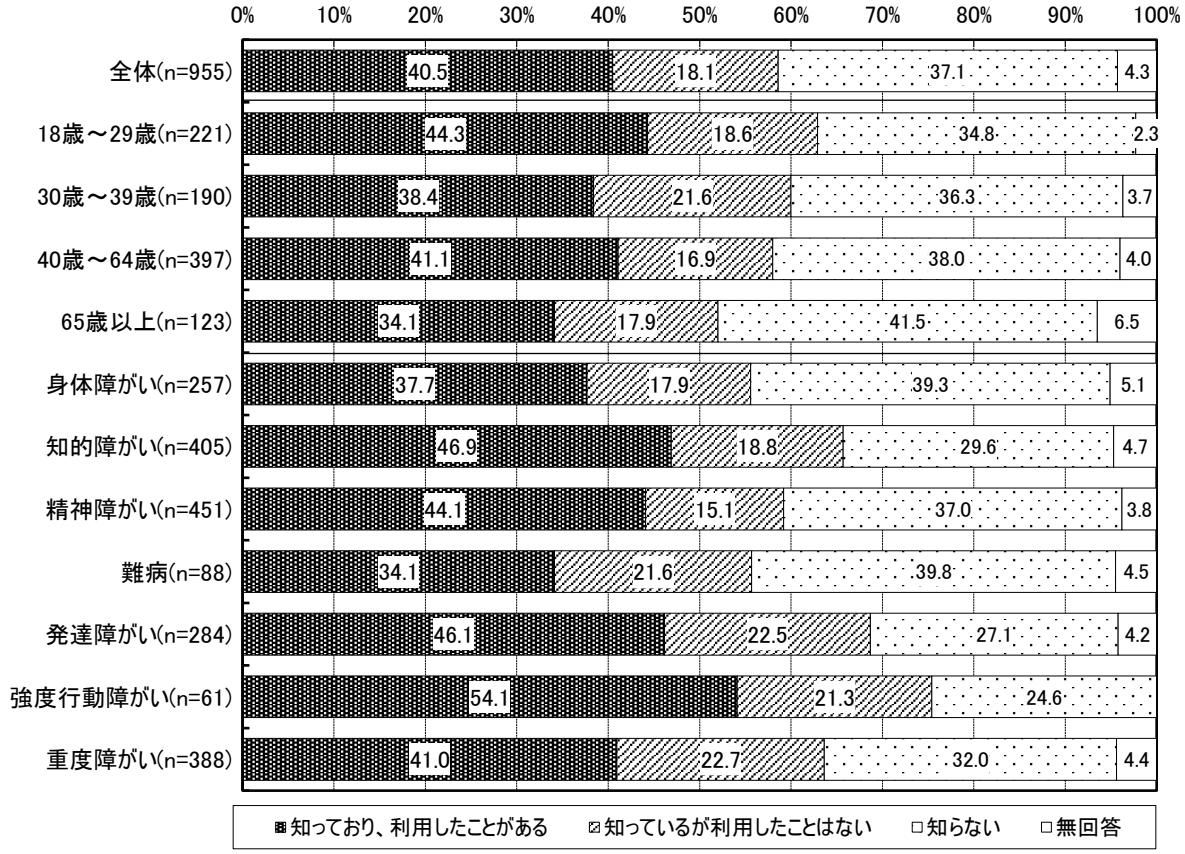
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
家族や親せき	67.8	72.2	67.9	61.9	63.2	65.1	42.9	56.3	63.2	64.3
友人、知人や近所の人	34.2	25.9	37.7	35.7	31.6	33.3	23.8	43.8	27.4	31.0
保健所	3.0	3.7	0.9	7.1	0.0	3.2	0.0	0.0	3.2	4.8
すこやか親子室	5.0	13.0	2.8	0.0	0.0	1.6	0.0	6.3	0.0	0.0
こども発達支援センター（わかたけ園・杉の子学園・地域支援センター（親子教室を含む））	13.9	18.5	13.2	9.5	21.1	20.6	4.8	**31.3**	10.5	19.0
のびのび子育てプラザ	0.5	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
こども園・保育所（園）・幼稚園	16.8	**51.9**	4.7	2.4	10.5	11.1	0.0	0.0	12.6	7.1
学校	33.2	1.9	**46.2**	40.5	31.6	31.7	38.1	18.8	36.8	35.7
教育委員会・教育センター	2.5	0.0	2.8	4.8	0.0	0.0	4.8	0.0	5.3	0.0
市役所の窓口	3.0	3.7	1.9	4.8	5.3	6.3	0.0	0.0	2.1	4.8
子ども家庭センター	0.5	0.0	0.9	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4
病院などの医師や看護師	27.2	24.1	23.6	**40.5**	**52.6**	30.2	**47.6**	31.3	33.7	**50.0**
指定障がい児相談支援事業所（相談支援専門員）	26.7	7.4	**37.7**	23.8	15.8	33.3	**38.1**	31.3	28.4	28.6
障がい者相談支援センター	3.0	1.9	3.8	2.4	10.5	6.3	0.0	0.0	3.2	7.1
社会福祉協議会（コミュニティソーシャルワーカーなど）	0.5	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	2.4
障がい児通所サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）	36.6	35.2	38.7	33.3	15.8	42.9	38.1	25.0	42.1	35.7
障がい福祉団体やサークル	1.5	0.0	0.0	7.1	0.0	1.6	9.5	0.0	3.2	2.4
発達障がい児者の子育て経験のある人（ペアレントメンター）	0.5	0.0	0.0	2.4	0.0	1.6	0.0	0.0	1.1	0.0
民生委員・児童委員	0.5	0.0	0.0	2.4	0.0	1.6	0.0	0.0	1.1	0.0
その他	3.0	3.7	3.8	0.0	5.3	1.6	4.8	0.0	4.2	2.4
どこ（誰）にも相談しない	7.9	3.7	11.3	4.8	10.5	3.2	**23.8**	6.3	9.5	4.8
無回答	0.5	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

③ 障がい者相談支援センターの認知・利用状況

◆あなたは、市内６か所に設置されている障がい者相談支援センターを知っていますか。利用したことがありますか。（あてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳以上）アンケート



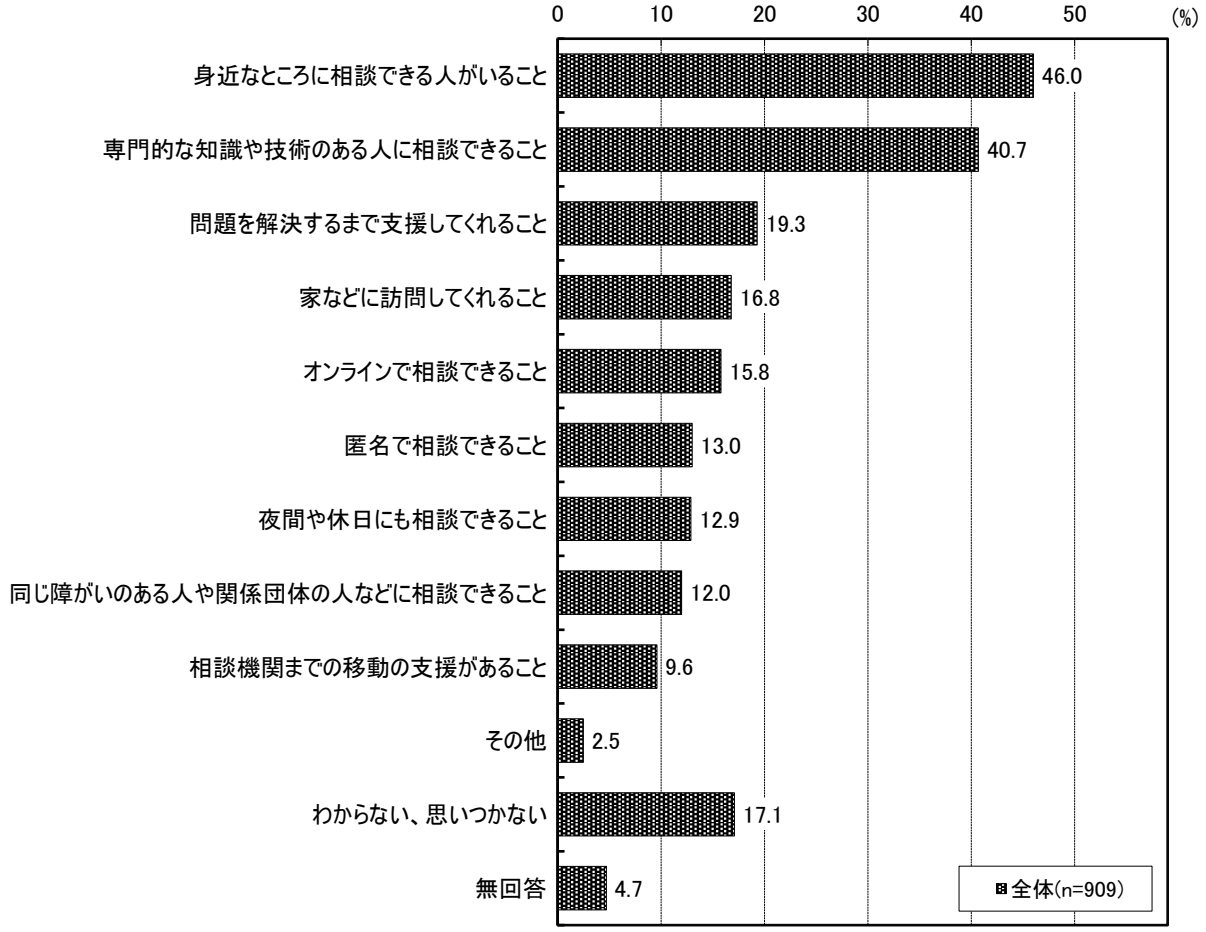
○障がい者相談支援センターについては、「知っており利用したことがある」が40.5%、「知らない」が37.1%、「知っているが利用したことはない」が18.1%となっています。

○障がい種別ごとにみると、強度行動障がいで「利用したことがある」が54.1%、知的障がいで46.9%、発達障がいで46.1%となっています。

④ 気軽に相談するために必要なこと

◆どんなことがあれば今よりも気軽に相談できますか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者計画アンケート



○身近なところに相談できる人がいること」が46.0%と最も多く、次いで「専門的な知識や技術のある人に相談できること」が40.7%、「問題を解決するまで支援してくれること」が19.3%、「わからない、思いつかない」が17.1%、「家などに訪問してくれること」が16.8%、「オンラインで相談できること」が15.8%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、18歳～29歳で「問題を解決するまで支援してくれること」が30.4%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、難病・小児慢性疾患で「専門的な知識や技術のある人に相談できること」が52.2%と特に多くなっています。発達障がいでは「問題を解決するまで支援してくれること」が32.9%、知的障がいでも31.2%と多くなっています。

（属性別クロス集計）

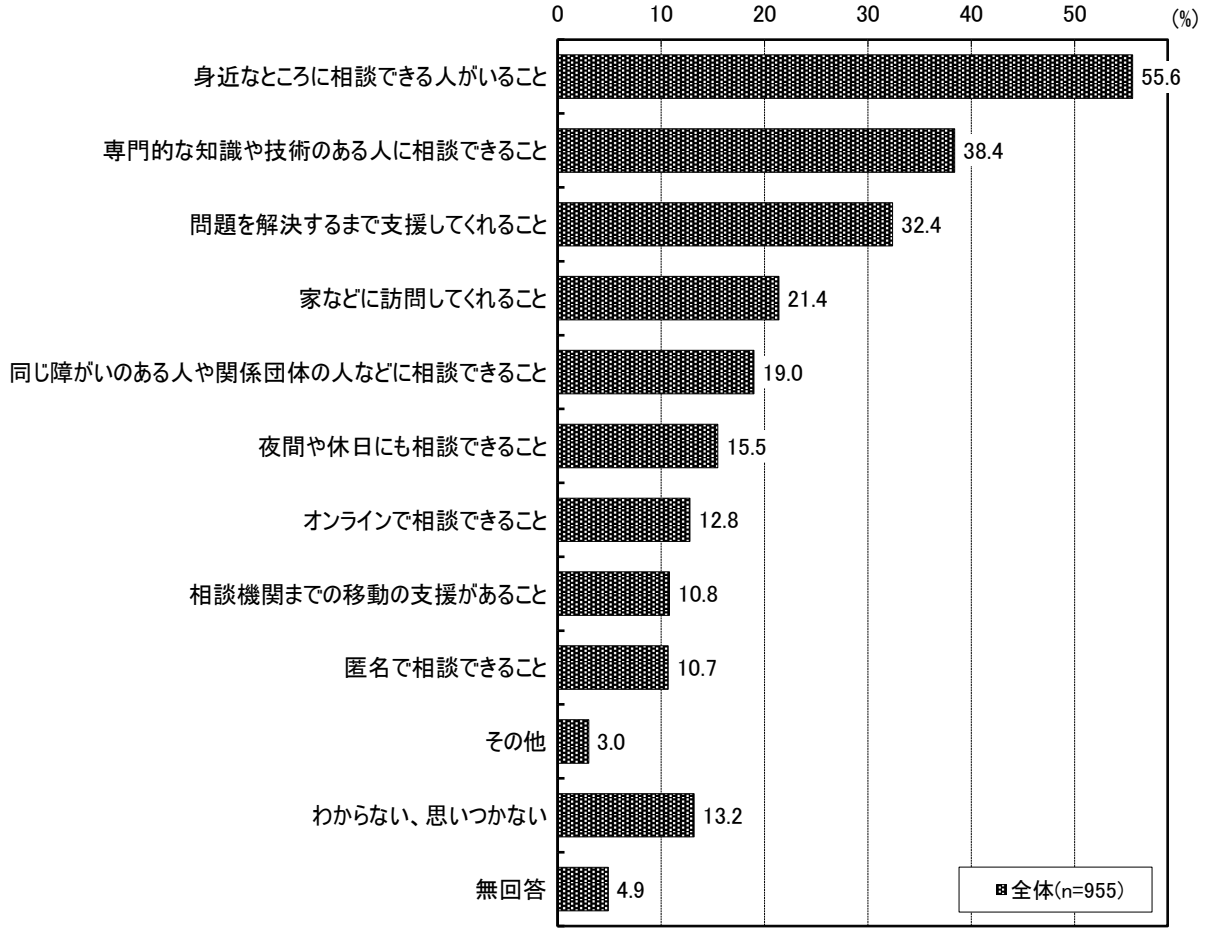
単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
身近なところに相談できる人がいること	46.0	50.9	53.6	47.6	44.8	44.0
専門的な知識や技術のある人に相談できること	40.7	50.0	39.1	45.6	45.1	30.8
相談機関までの移動の支援があること	9.6	13.8	15.9	9.7	8.2	8.1
家などに訪問してくれること	16.8	22.4	18.8	15.5	12.8	19.8
同じ障がいのある人や関係団体の人などに相談できること	12.0	19.0	17.4	15.5	13.1	5.5
夜間や休日にも相談できること	12.9	7.8	20.3	16.5	14.3	10.6
問題を解決するまで支援してくれること	19.3	25.9	**30.4**	23.3	18.6	13.6
オンラインで相談できること	15.8	15.5	21.7	20.4	22.6	5.1
匿名で相談できること	13.0	5.2	14.5	22.3	16.8	8.1
その他	2.5	3.4	5.8	1.0	2.4	1.8
わからない、思いつかない	17.1	16.4	13.0	15.5	15.2	21.2
無回答	4.7	0.9	2.9	0.0	3.0	9.9

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
身近なところに相談できる人がいること	45.1	48.1	48.0	43.5	48.6	44.3
専門的な知識や技術のある人に相談できること	40.7	43.9	44.3	**52.2**	39.7	39.8
相談機関までの移動の支援があること	9.0	14.3	10.7	8.1	15.1	11.6
家などに訪問してくれること	16.6	22.8	19.1	19.9	19.9	22.3
同じ障がいのある人や関係団体の人などに相談できること	11.2	19.0	14.4	17.4	17.1	13.5
夜間や休日にも相談できること	10.8	10.6	16.4	13.0	13.7	11.6
問題を解決するまで支援してくれること	15.2	**31.2**	22.5	12.4	**32.9**	17.4
オンラインで相談できること	13.8	8.5	22.5	16.8	15.1	13.8
匿名で相談できること	12.4	7.4	17.1	8.1	15.1	10.1
その他	2.6	3.7	2.3	1.2	5.5	3.1
わからない、思いつかない	16.6	18.0	15.1	19.9	17.8	17.7
無回答	6.8	3.2	1.3	2.5	2.7	5.5

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「身近なところに相談できる人がいること」が55.6%と最も多く、次いで「専門的な知識や技術のある人に相談できること」が38.4%、「問題を解決するまで支援してくれること」が32.4%、「家などに訪問してくれること」が21.4%、「同じ障がいのある人や関係団体の人などに相談できること」が19.0%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、65歳以上で「家などに訪問してくれること」が31.7%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、強度行動障がいで「問題を解決するまで支援してくれること」が45.9%と特に多くなっています。

（属性別クロス集計）

単位：％	全体 (n=955)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
身近なところに相談できる人がいること	55.6	57.0	59.5	55.7	48.0
専門的な知識や技術のある人に相談できること	38.4	33.5	45.8	39.0	35.8
相談機関までの移動の支援があること	10.8	6.8	11.1	11.8	13.0
家などに訪問してくれること	21.4	11.3	15.8	26.7	**31.7**
同じ障がいのある人や関係団体の人などに相談できること	19.0	19.5	20.0	18.6	17.1
夜間や休日にも相談できること	15.5	6.3	16.3	20.4	15.4
問題を解決するまで支援してくれること	32.4	34.4	35.8	30.7	30.9
オンラインで相談できること	12.8	10.0	16.3	15.1	6.5
匿名で相談できること	10.7	9.5	12.1	12.6	4.1
その他	3.0	3.2	4.7	2.3	3.3
わからない、思いつかない	13.2	16.7	13.2	11.8	11.4
無回答	4.9	3.2	2.6	4.8	9.8

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

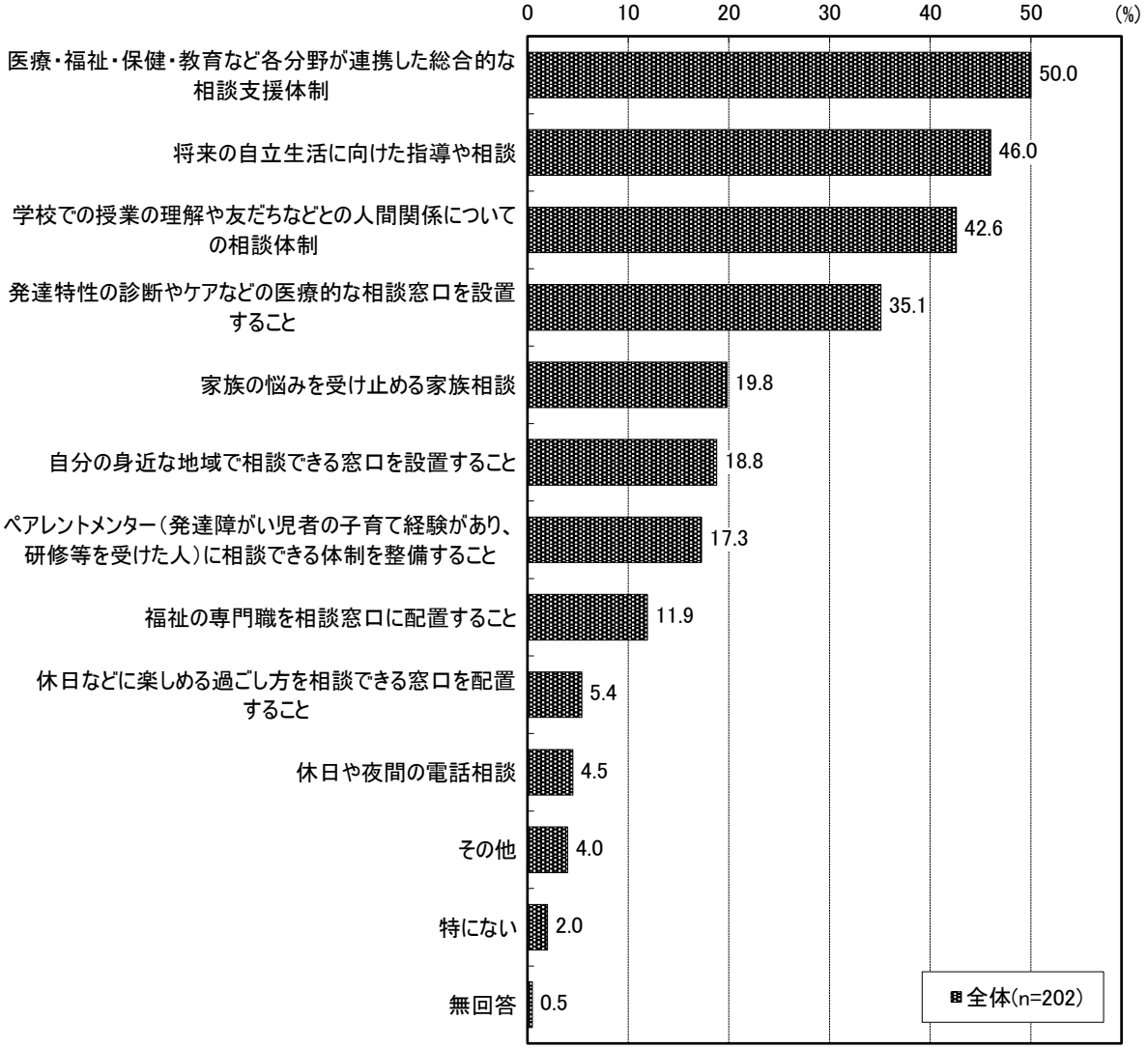
単位：%	身体障がい(n=257)	知的障がい(n=405)	精神障がい(n=451)	難病(n=88)	発達障がい(n=284)	強度行動障がい(n=61)	重度障がい(n=388)
身近なところに相談できる人がいること	54.5	58.3	55.9	46.6	57.0	59.0	58.0
専門的な知識や技術のある人に相談できること	42.0	31.4	43.2	45.5	37.3	47.5	37.9
相談機関までの移動の支援があること	12.1	10.6	12.2	15.9	13.0	16.4	11.3
家などに訪問してくれること	25.7	20.5	24.6	27.3	15.5	23.0	22.2
同じ障がいのある人や関係団体の人などに相談できること	21.8	18.5	18.6	18.2	17.6	23.0	21.9
夜間や休日にも相談できること	9.3	12.8	22.6	9.1	18.0	19.7	10.8
問題を解決するまで支援してくれること	30.7	37.0	33.9	29.5	38.0	**45.9**	33.2
オンラインで相談できること	11.3	4.7	17.1	18.2	13.7	8.2	7.7
匿名で相談できること	7.8	4.4	16.2	9.1	12.0	11.5	4.9
その他	2.3	3.7	3.1	3.4	2.8	1.6	3.4
わからない、思いつかない	9.3	14.8	12.9	11.4	15.1	6.6	10.3
無回答	5.8	4.9	2.7	10.2	3.2	4.9	5.9

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

⑤ 相談支援体制への希望

◆あなたが、相談支援体制について、希望することは何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的な相談支援体制」が50.0％と最も多く、次いで「将来の自立生活に向けた指導や相談」が46.0％、「学校での授業の理解や友だちなどとの人間関係についての相談体制」が42.6％、「発達特性の診断やケアなどの医療的な相談窓口を設置すること」が35.1％の順となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○年齢別にみると、中高生その他で「将来の自立生活に向けた指導や相談」が66.7％、０～５歳児で「発達特性の診断やケアなどの医療的な相談窓口を設置すること」が50.0％と多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的な相談支援体制」は発達障がいを除いて各種別で多く、精神障がいでは「将来の自立生活に向けた指導や相談」が76.2％、知的障がいでも71.4％と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的な相談支援体制	50.0	50.0	48.1	54.8	**78.9**	**60.3**	**66.7**	**68.8**	49.5	**69.0**
発達特性の診断やケアなどの医療的な相談窓口を設置すること	35.1	**50.0**	31.1	26.2	21.1	27.0	28.6	31.3	34.7	21.4
学校での授業の理解や友だちなどとの人間関係についての相談体制	42.6	38.9	48.1	33.3	10.5	23.8	38.1	12.5	45.3	19.0
将来の自立生活に向けた指導や相談	46.0	37.0	42.5	**66.7**	31.6	**71.4**	**76.2**	31.3	55.8	**57.1**
家族の悩みを受け止める家族相談	19.8	14.8	19.8	26.2	10.5	20.6	28.6	6.3	24.2	19.0
ペアレントメンター（発達障がい児者の子育て経験があり、研修等を受けた人）に相談できる体制を整備すること	17.3	7.4	23.6	14.3	5.3	12.7	23.8	6.3	21.1	7.1
福祉の専門職を相談窓口に配置すること	11.9	7.4	11.3	19.0	10.5	20.6	19.0	**25.0**	14.7	19.0
自分の身近な地域で相談できる窓口を設置すること	18.8	18.5	17.0	23.8	10.5	20.6	14.3	12.5	16.8	14.3
休日や夜間の電話相談	4.5	3.7	3.8	7.1	10.5	7.9	4.8	12.5	4.2	11.9
休日などに楽しめる過ごし方を相談できる窓口を配置すること	5.4	3.7	4.7	9.5	5.3	12.7	4.8	0.0	9.5	11.9
その他	4.0	3.7	4.7	2.4	10.5	6.3	4.8	6.3	5.3	7.1
特にない	2.0	1.9	1.9	2.4	5.3	0.0	0.0	6.3	1.1	2.4
無回答	0.5	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0

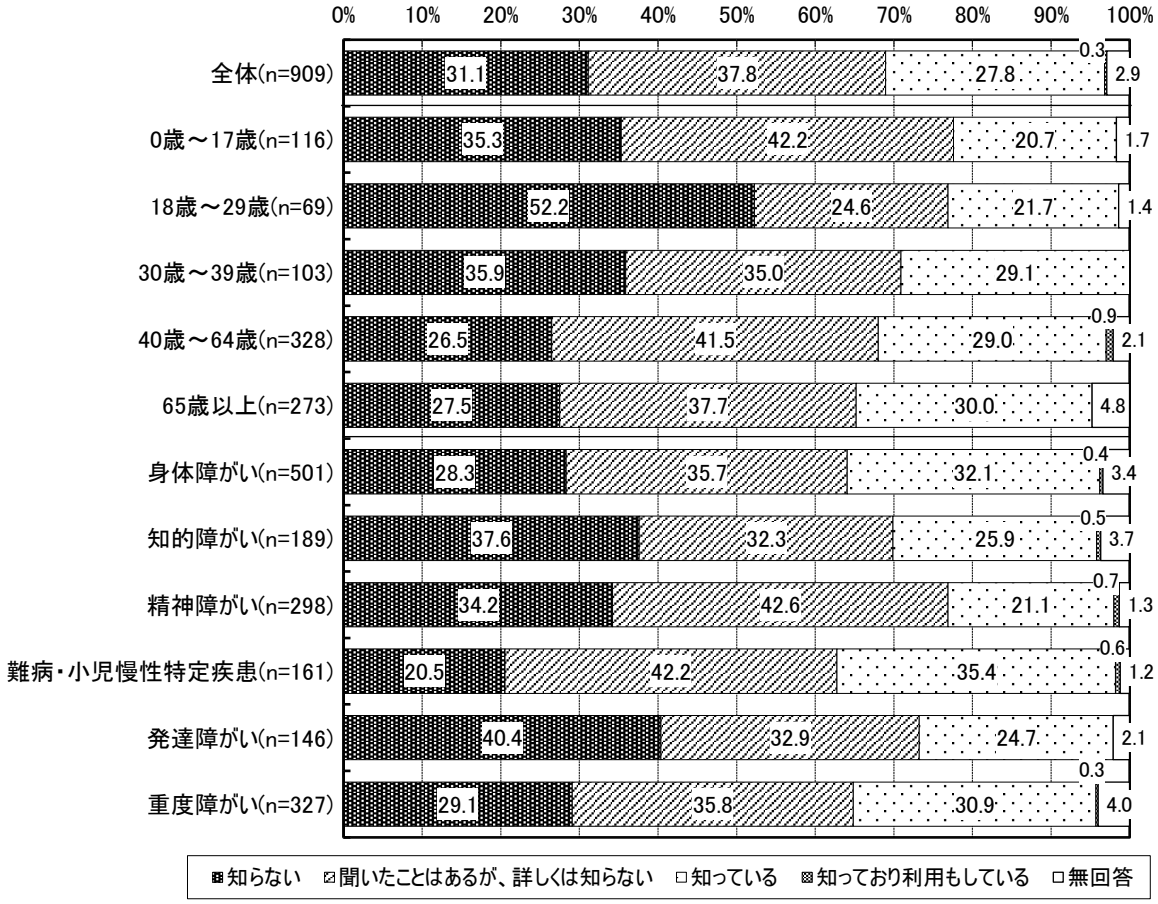
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

10　障がい者の人権や障がい者理解

① 成年後見制度の認知度

◆あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。（あてはまるもの１つに○）

障がい者計画アンケート

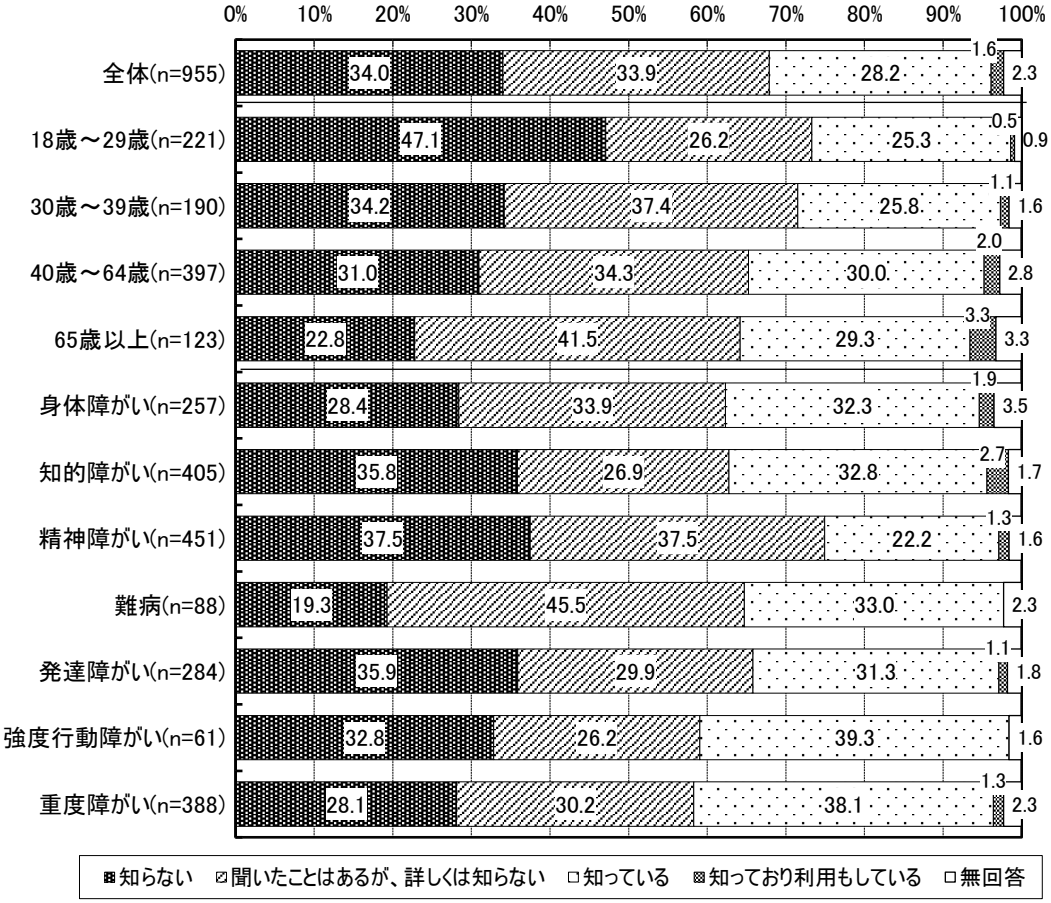


○「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が37.8%、「知らない」が31.1%、「知っている」が27.8%となっています。「知っており利用もしている」は0.3%にとどまっており、制度の認知は一定程度進んでいるものの、内容まで十分理解している人や実際に利用している人は少ない状況となっています。

○年齢別にみると、18歳～29歳で「知らない」が52.2%と特に多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、発達障がいでは「知らない」が40.4%と多くなっています。

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「知らない」が34.0%、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が33.9%、「知っている」が28.2%となっています。「知っており利用もしている」は1.6%となっており、制度を認知している人は一定数いるものの、実際の利用にはつながっていない状況がみられます。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

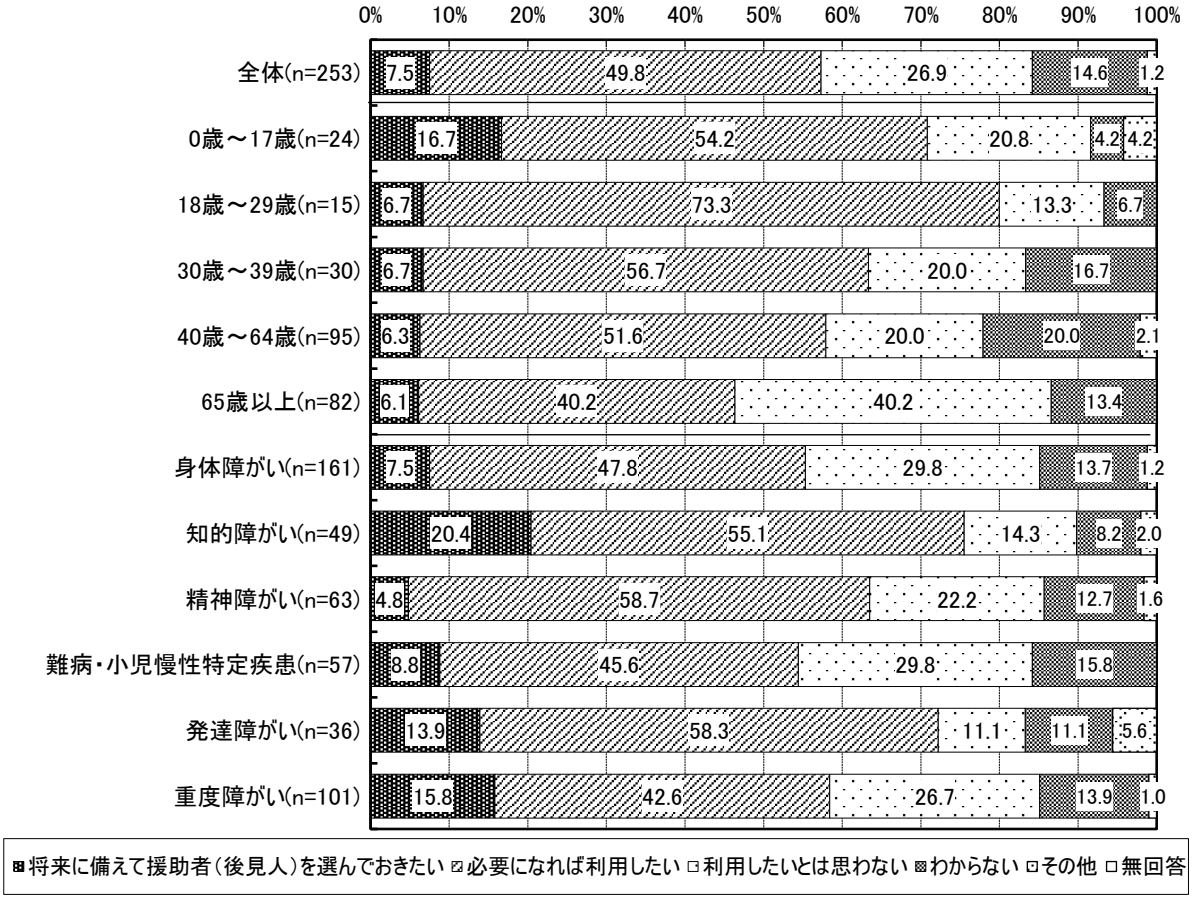
○年齢別にみると、18歳～29歳で「知らない」が47.1%と特に多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、強度行動障がいでは「知っている」が39.3%、重度障がいでも38.1%と多くなっています。

② 成年後見制度の利用意向と利用にあたっての不安

◆あなたは、支援が必要になったときに、成年後見制度を利用したいと思いますか。（あてはまるもの１つに○）

障がい者計画アンケート



※成年後見制度のことを知っていると答えた人に対する設問

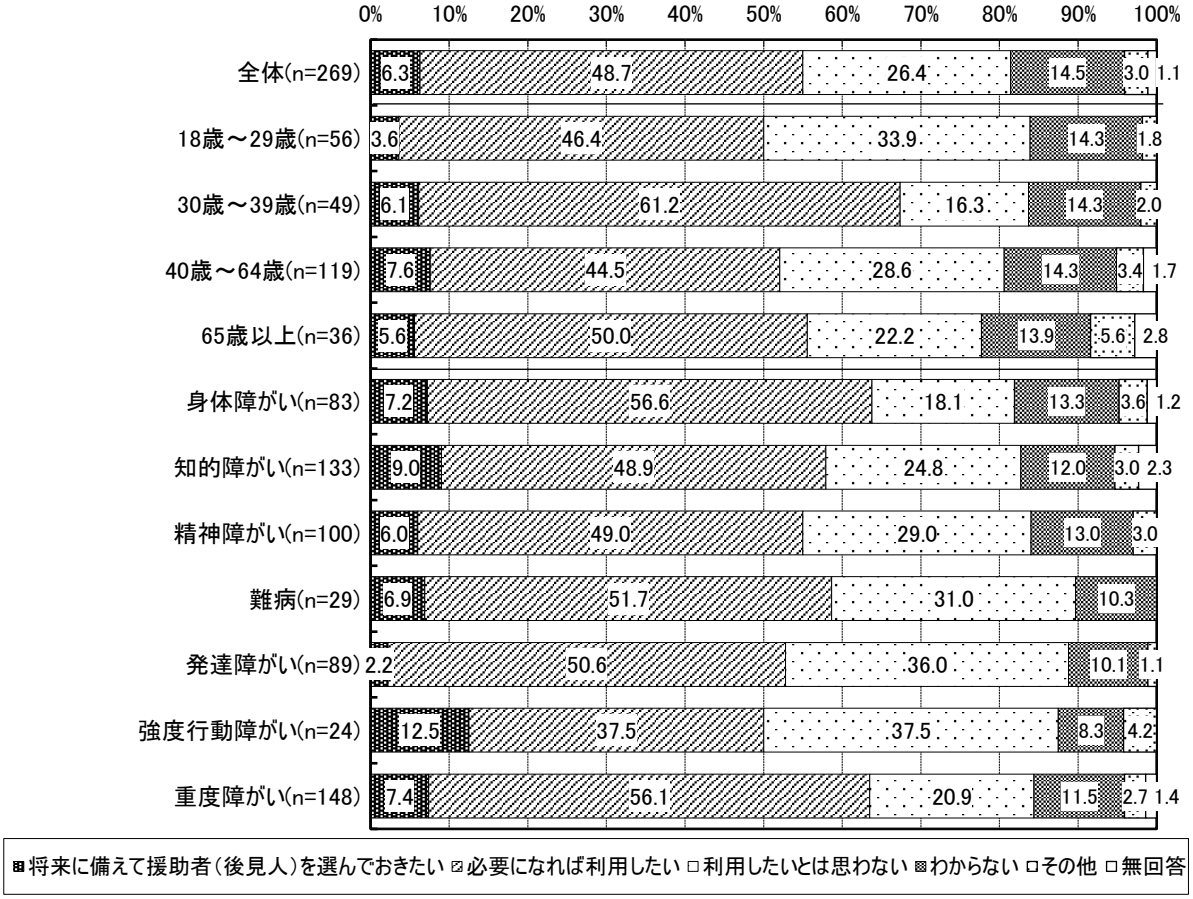
○「必要になれば利用したい」が49.8%、「利用したいとは思わない」が26.9%、「わからない」が14.6%、「将来に備えて援助者（後見人）を選んでおきたい」が7.5%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、18歳～29歳で「必要になれば利用したい」が73.3%と特に多くなっています。０歳～17歳では「将来に備えて援助者（後見人）を選んでおきたい」が16.7%と比較的多くなっています。65歳以上では「利用したいとは思わない」が40.2%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、精神障がいで「必要になれば利用したい」が58.7%、発達障がいでも58.3%と多くなっています。知的障がいでは「将来に備えて援助者（後見人）を選んでおきたい」が20.4%と比較的多くなっています。

支援プラン（18歳以上）アンケート



※成年後見制度のことを知っていると答えた人に対する設問

○「必要になれば利用したい」が48.7%、「利用したいとは思わない」が26.4%、「わからない」が14.5%、「将来に備えて援助者（後見人）を選んでおきたい」が6.3%となっています。

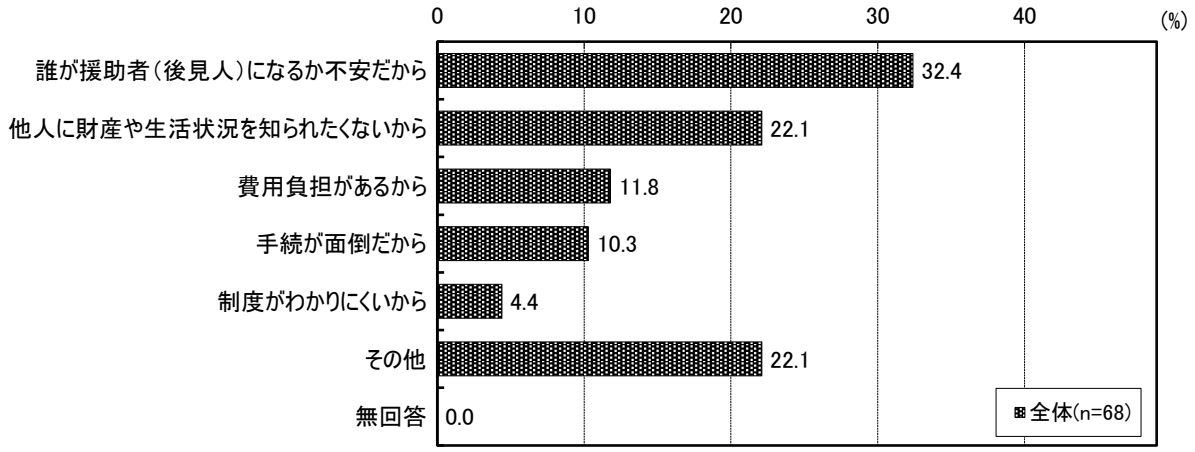
[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、30歳～39歳で「必要になれば利用したい」が61.2%と全体と比べて多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、身体障がいで「必要になれば利用したい」が56.6%、重度障がいでも56.1%と多くなっています。

◆利用したいと思わない理由は何ですか。（最もあてはまるもの１つに○）

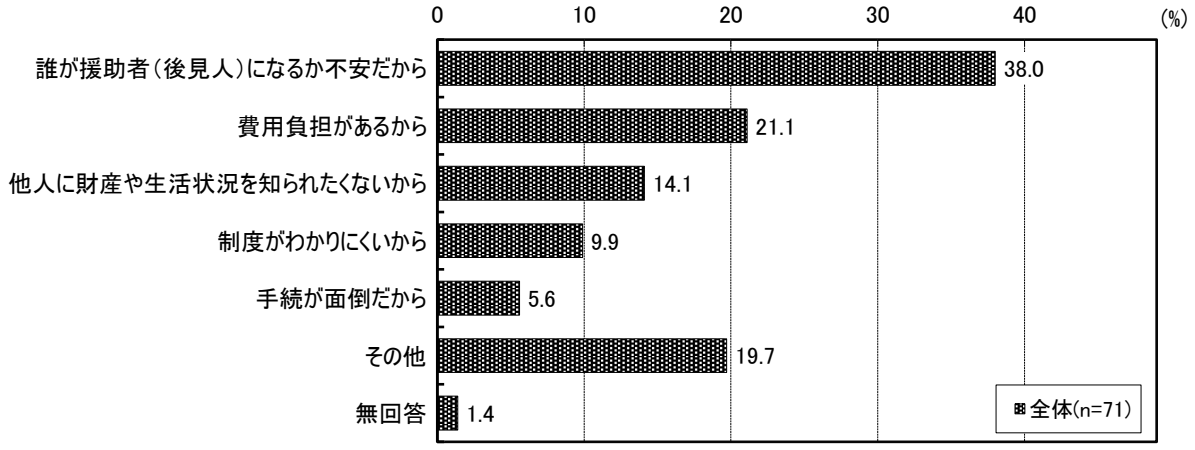
障がい者計画アンケート



※成年後見制度を利用したいと思わないと答えた人に対する設問

○「誰が援助者（後見人）になるか不安だから」が32.4%、「他人に財産や生活状況を知られたくないから」が22.1%、「費用負担があるから」が11.8%となっています。

支援プラン（18歳以上）アンケート



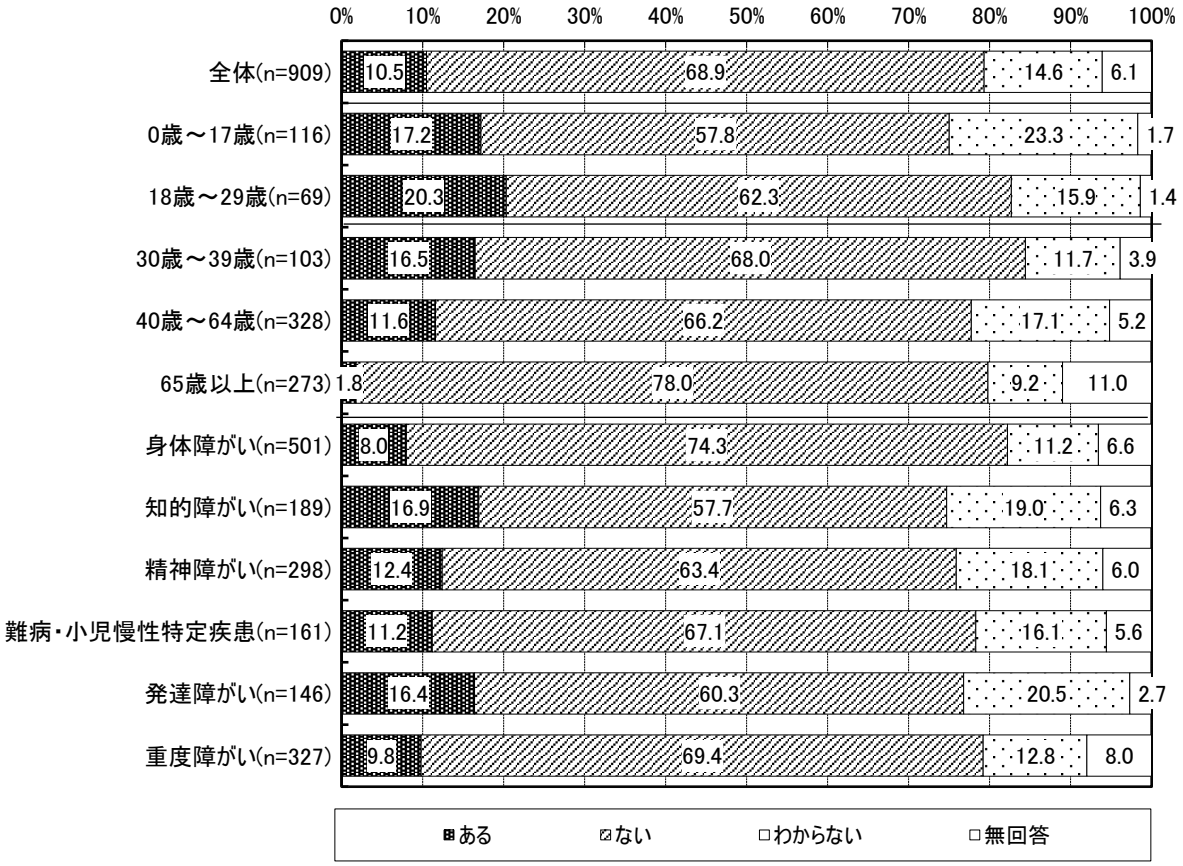
※成年後見制度を利用したいと思わないと答えた人に対する設問

○「誰が援助者（後見人）になるか不安だから」が38.0%、「費用負担があるから」が21.1%、「他人に財産や生活状況を知られたくないから」が14.1%となっています。

③ 差別や偏見を感じた経験

◆最近３年以内に、正当な理由なく、障がいを理由として拒否されたり、場所や時間帯などを制限されたり、障がいのない人にはつけない条件をつけられたりするなどの差別を受けたり、偏見を感じたことはありますか。（あてはまるもの１つに○）

障がい者計画アンケート



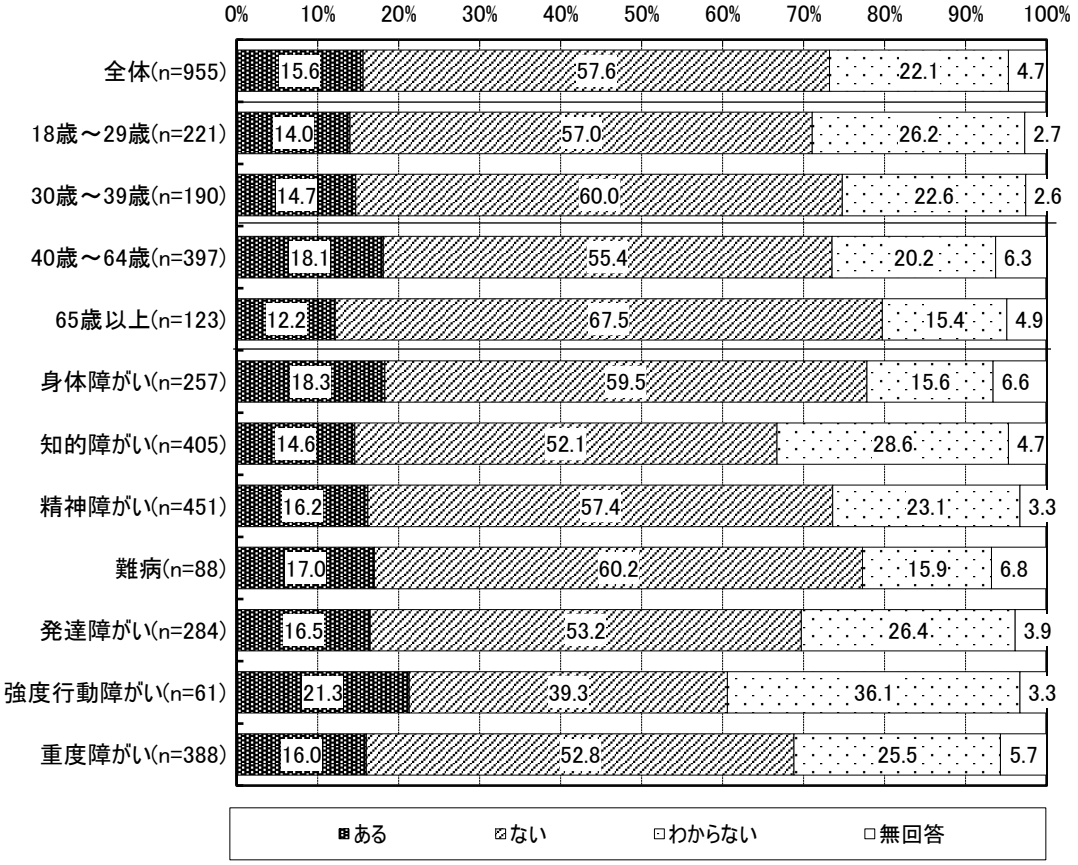
○「ない」が68.9%、「ある」が10.5%、「わからない」が14.6%となっており、一定数の人が差別や偏見を感じた経験を持っていることがうかがえます。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、18歳～29歳で「ある」が20.3%、30歳～39歳でも16.5%と全体と比べて多くなっています。65歳以上では「ない」が78.0%と多く、「ある」は1.8%と少なくなっています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで「ある」が16.9%、身体障がいでは「ない」が74.3%と多くなっています。

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「ない」が57.6%、「ある」が15.6%、「わからない」が22.1%となっており、差別や偏見を感じた経験がある人や、判断に迷う人も一定数みられます。

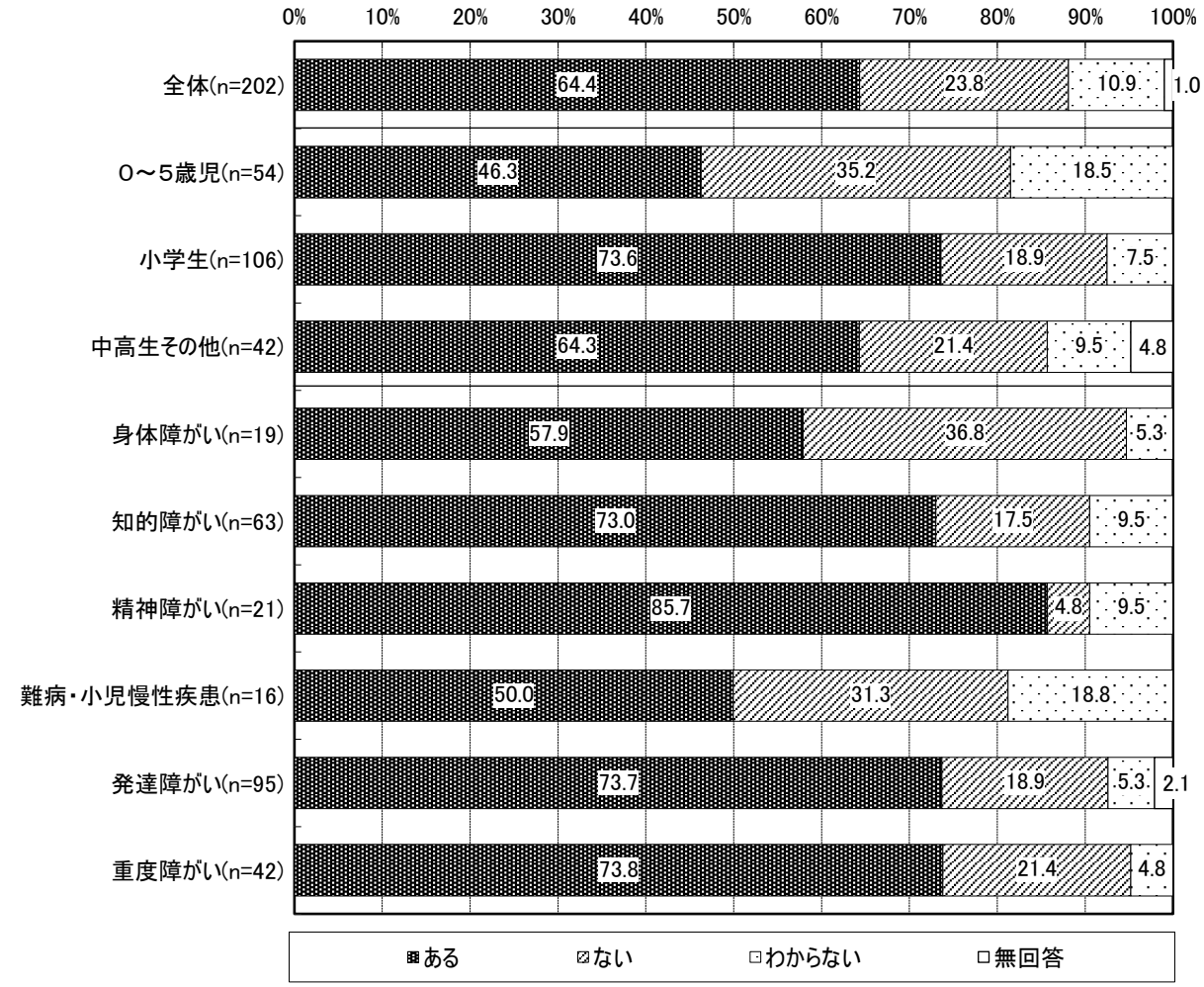
[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、40歳～64歳で「ある」が18.1%と全体と比べて多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、強度行動障がいで「ある」が21.3%と全体と比べて多く、「ない」は39.3%と少なくなっています。

◆お子さん（ご本人）に障がいや発達に特性があることで、嫌な思いをしたことがありますか。
（あてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「ある」が64.4%、「ない」が23.8%、「わからない」が10.9%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

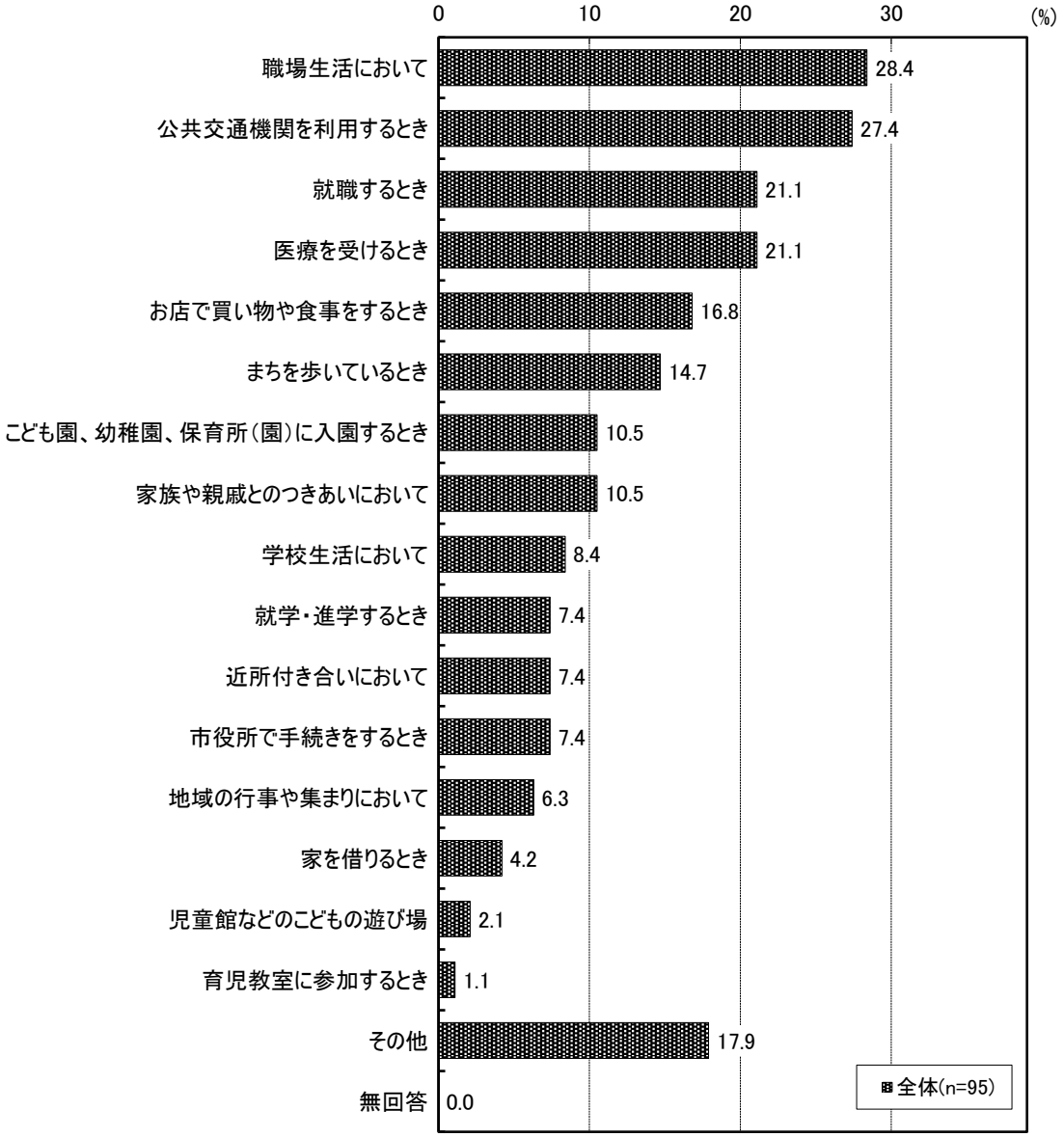
○年齢別にみると、小学生で「ある」が73.6%と全体と比べて多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、「ある」は精神障がいで85.7%、重度障がいで73.8%、発達障がいで73.7%。知的障がいで73.0%となっています。

④ 差別や偏見を感じた場面

◆どのようなときに差別を受けたり、偏見を感じましたか。（あてはまるものすべてに○）

障がい者計画アンケート



※障がいや発達に特性があることで、嫌な思いをしたことがあると答えた人に対する設問

○「職場生活において」が28.4%と最も多く、次いで「公共交通機関を利用するとき」が27.4%、「就職するとき」と「医療を受けるとき」がそれぞれ21.1%、「お店で買い物や食事をするとき」が16.8%、「まちを歩いているとき」が14.7%となっています。

（属性別クロス集計）

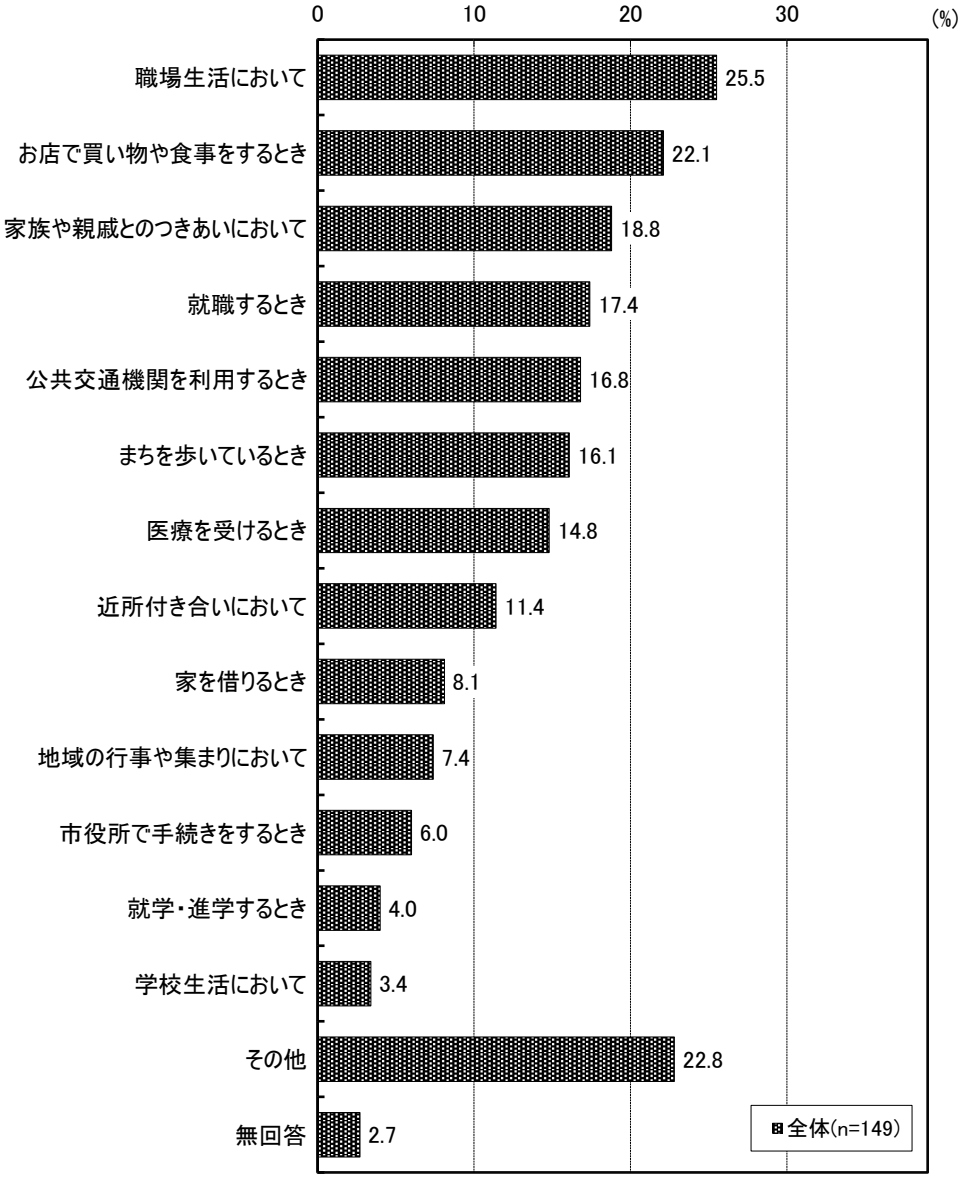
単位：％	全体 (n=95)	0歳～17歳 (n=20)	18歳～29歳 (n=14)	30歳～39歳 (n=17)	40歳～64歳 (n=38)	65歳以上 (n=5)
こども園、幼稚園、保育所（園）に入園するとき	10.5	**40.0**	0.0	5.9	2.6	0.0
児童館などのこどもの遊び場	2.1	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
育児教室に参加するとき	1.1	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就学・進学するとき	7.4	**20.0**	7.1	5.9	2.6	0.0
学校生活において	8.4	15.0	**28.6**	0.0	2.6	0.0
就職するとき	21.1	0.0	**35.7**	23.5	26.3	20.0
職場生活において	28.4	0.0	28.6	35.3	**39.5**	20.0
近所付き合いにおいて	7.4	5.0	0.0	11.8	7.9	**20.0**
地域の行事や集まりにおいて	6.3	10.0	0.0	11.8	5.3	0.0
お店で買い物や食事をするとき	16.8	20.0	14.3	17.6	15.8	0.0
家を借りるとき	4.2	0.0	7.1	5.9	5.3	0.0
医療を受けるとき	21.1	20.0	21.4	29.4	18.4	0.0
公共交通機関を利用するとき	27.4	35.0	28.6	23.5	26.3	20.0
まちを歩いているとき	14.7	20.0	14.3	23.5	7.9	0.0
市役所で手続きをするとき	7.4	5.0	0.0	5.9	10.5	0.0
家族や親戚とのつきあいにおいて	10.5	10.0	14.3	5.9	10.5	20.0
その他	17.9	10.0	14.3	23.5	18.4	**40.0**
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=40)	知的障がい (n=32)	精神障がい (n=37)	難病 (n=18)	発達障がい (n=24)	重度障がい (n=32)
こども園、幼稚園、保育所（園）に入園するとき	12.5	**25.0**	0.0	**33.3**	4.2	9.4
児童館などのこどもの遊び場	2.5	6.3	0.0	5.6	0.0	3.1
育児教室に参加するとき	2.5	3.1	0.0	5.6	0.0	0.0
就学・進学するとき	12.5	12.5	2.7	16.7	4.2	9.4
学校生活において	12.5	12.5	0.0	16.7	12.5	6.3
就職するとき	17.5	3.1	**32.4**	16.7	16.7	9.4
職場生活において	32.5	9.4	37.8	16.7	29.2	28.1
近所付き合いにおいて	0.0	9.4	10.8	0.0	8.3	9.4
地域の行事や集まりにおいて	7.5	9.4	5.4	11.1	4.2	9.4
お店で買い物や食事をするとき	15.0	**28.1**	10.8	16.7	20.8	**28.1**
家を借りるとき	2.5	3.1	8.1	0.0	4.2	3.1
医療を受けるとき	25.0	**34.4**	18.9	27.8	8.3	28.1
公共交通機関を利用するとき	32.5	25.0	24.3	22.2	25.0	**40.6**
まちを歩いているとき	15.0	21.9	10.8	16.7	16.7	**25.0**
市役所で手続きをするとき	10.0	6.3	5.4	5.6	0.0	6.3
家族や親戚とのつきあいにおいて	10.0	12.5	16.2	**22.2**	12.5	9.4
その他	15.0	9.4	21.6	5.6	12.5	15.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

支援プラン（18歳以上）アンケート



※障がいや発達に特性があることで、嫌な思いをしたことがあると答えた人に対する設問

○職場生活において」が25.5%と最も多く、次いで「お店で買い物や食事をするとき」が22.1%、「家族や親戚とのつきあいにおいて」が18.8%、「就職するとき」が17.4%、「公共交通機関を利用するとき」が16.8%となっており、日常生活や就労に関わる場面で差別や偏見を感じる人が多くみられます。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○障がい種別ごとにみると、身体障がいで「お店で買い物や食事をするとき」が34.0%、重度障がいも32.3%と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：％	全体 (n=149)	18歳～29歳 (n=31)	30歳～39歳 (n=28)	40歳～64歳 (n=72)	65歳以上 (n=15)
就学・進学するとき	4.0	3.2	0.0	5.6	6.7
学校生活において	3.4	9.7	0.0	1.4	6.7
就職するとき	17.4	22.6	14.3	19.4	6.7
職場生活において	25.5	16.1	25.0	31.9	20.0
近所付き合いにおいて	11.4	6.5	3.6	18.1	6.7
地域の行事や集まりにおいて	7.4	6.5	0.0	9.7	13.3
お店で買い物や食事をするとき	22.1	19.4	14.3	23.6	**33.3**
家を借りるとき	8.1	6.5	14.3	5.6	13.3
医療を受けるとき	14.8	3.2	14.3	16.7	20.0
公共交通機関を利用するとき	16.8	22.6	14.3	13.9	26.7
まちを歩いているとき	16.1	16.1	25.0	16.7	0.0
市役所で手続きをするとき	6.0	0.0	0.0	12.5	0.0
家族や親戚とのつきあいにおいて	18.8	22.6	28.6	15.3	13.3
その他	22.8	25.8	25.0	18.1	**33.3**
無回答	2.7	0.0	0.0	4.2	6.7

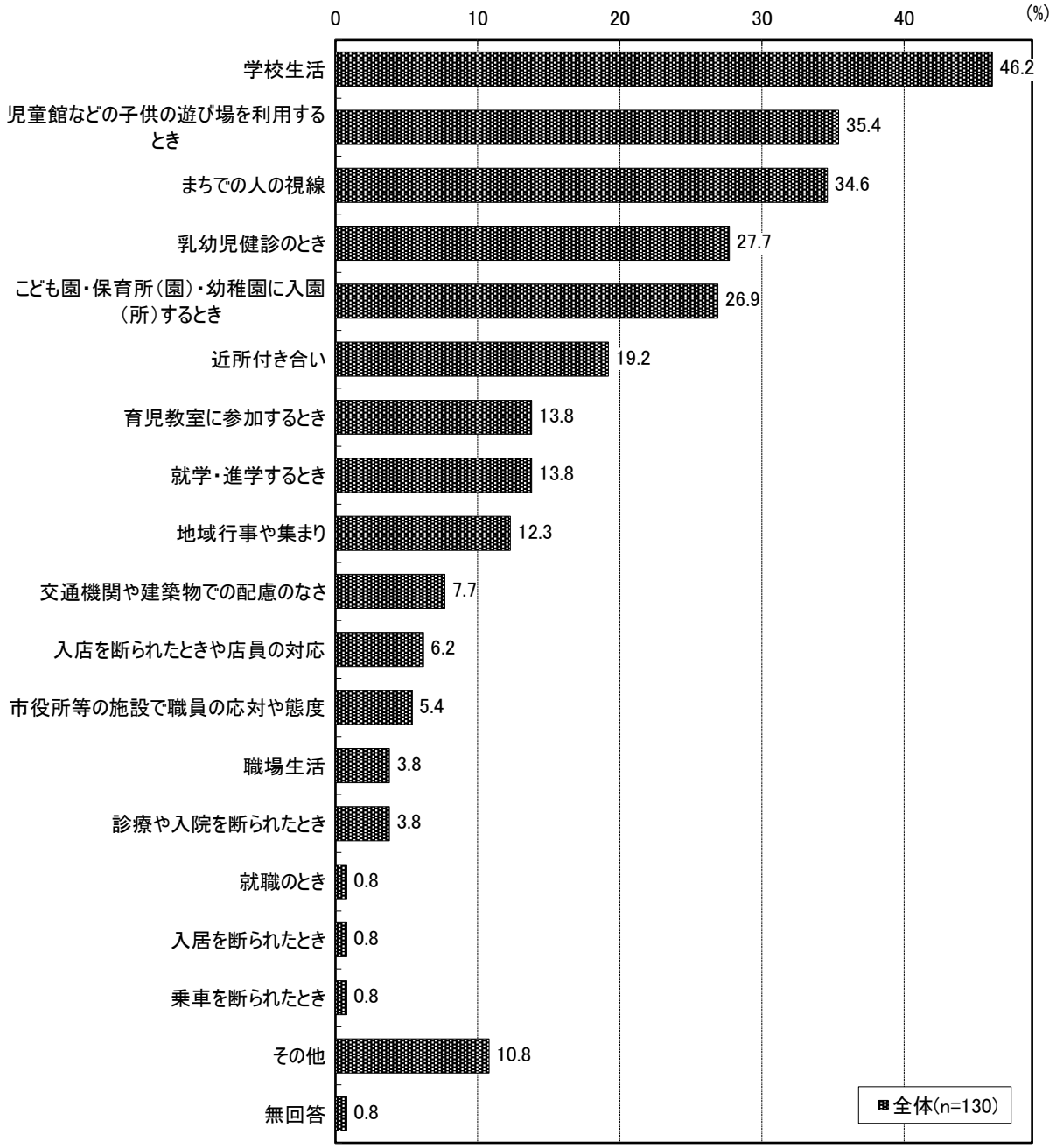
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：％	身体障がい (n=47)	知的障がい (n=59)	精神障がい (n=73)	難病 (n=15)	発達障がい (n=47)	強度行動障がい(n=13)	重度障がい (n=62)
就学・進学するとき	4.3	3.4	5.5	0.0	4.3	7.7	3.2
学校生活において	2.1	5.1	2.7	0.0	6.4	0.0	1.6
就職するとき	10.6	13.6	21.9	20.0	19.1	0.0	8.1
職場生活において	23.4	18.6	28.8	26.7	21.3	7.7	17.7
近所付き合いにおいて	6.4	10.2	15.1	6.7	6.4	0.0	9.7
地域の行事や集まりにおいて	8.5	5.1	5.5	13.3	2.1	7.7	8.1
お店で買い物や食事をするとき	**34.0**	28.8	15.1	20.0	17.0	23.1	**32.3**
家を借りるとき	2.1	5.1	13.7	6.7	8.5	15.4	6.5
医療を受けるとき	21.3	11.9	12.3	20.0	8.5	7.7	17.7
公共交通機関を利用するとき	23.4	16.9	9.6	**33.3**	12.8	15.4	22.6
まちを歩いているとき	17.0	15.3	13.7	**26.7**	14.9	0.0	19.4
市役所で手続きをするとき	4.3	1.7	9.6	6.7	4.3	7.7	3.2
家族や親戚とのつきあいにおいて	10.6	16.9	21.9	6.7	19.1	**38.5**	12.9
その他	23.4	23.7	21.9	20.0	27.7	**53.8**	24.2
無回答	0.0	5.1	2.7	0.0	4.3	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆嫌な思いをしたのは、どのようなときですか。（あてはまるものすべてに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



※障がいや発達に特性があることで、嫌な思いをしたことがあると答えた人に対する設問

○「学校生活」が46.2%と最も多く、次いで「児童館などの子供の遊び場を利用するとき」が35.4%、「まちでの人の視線」が34.6%、「乳幼児健診のとき」が27.7%、「こども園・保育所（園）・幼稚園に入園（所）するとき」が26.9%となっており、成長過程のさまざまな場面で嫌な思いを経験していることがうかがえます。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、中高生その他で「まちでの人の視線」が48.1%と特に多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、精神障がいで「学校生活」が61.1%、「まちでの人の視線」が55.6%と特に多くなっています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=130)	0～5歳児 (n=25)	小学生 (n=78)	中高生その他 (n=27)	身体障がい (n=11)	知的障がい (n=46)	精神障がい (n=18)	難病・小児慢性疾患 (n=8)	発達障がい (n=70)	重度障がい (n=31)
乳幼児健診のとき	27.7	32.0	25.6	29.6	18.2	34.8	22.2	37.5	24.3	25.8
こども園・保育所（園）・幼稚園に入園（所）するとき	26.9	32.0	26.9	22.2	27.3	23.9	27.8	25.0	17.1	19.4
児童館などの子供の遊び場を利用するとき	35.4	44.0	33.3	33.3	27.3	32.6	33.3	37.5	42.9	35.5
育児教室に参加するとき	13.8	16.0	15.4	7.4	0.0	13.0	11.1	**25.0**	14.3	6.5
就学・進学するとき	13.8	8.0	12.8	22.2	9.1	19.6	**27.8**	**25.0**	14.3	16.1
学校生活	46.2	16.0	53.8	51.9	27.3	21.7	**61.1**	25.0	52.9	22.6
就職のとき	0.8	4.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	1.4	3.2
職場生活	3.8	4.0	3.8	3.7	0.0	6.5	0.0	0.0	4.3	6.5
近所付き合い	19.2	4.0	24.4	18.5	18.2	8.7	**33.3**	12.5	20.0	12.9
地域行事や集まり	12.3	12.0	11.5	14.8	0.0	8.7	11.1	0.0	15.7	3.2
入店を断られたときや店員の対応	6.2	4.0	5.1	11.1	9.1	8.7	**16.7**	12.5	8.6	6.5
入居を断られたとき	0.8	0.0	0.0	3.7	9.1	2.2	0.0	**12.5**	0.0	3.2
診療や入院を断られたとき	3.8	0.0	5.1	3.7	0.0	4.3	11.1	0.0	4.3	9.7
乗車を断られたとき	0.8	0.0	0.0	3.7	9.1	2.2	0.0	**12.5**	0.0	3.2
交通機関や建築物での配慮のなさ	7.7	8.0	7.7	7.4	**18.2**	15.2	16.7	**25.0**	8.6	9.7
まちでの人の視線	34.6	28.0	32.1	**48.1**	**45.5**	43.5	**55.6**	37.5	42.9	**51.6**
市役所等の施設で職員の応対や態度	5.4	8.0	2.6	11.1	9.1	8.7	5.6	12.5	5.7	9.7
その他	10.8	20.0	9.0	7.4	0.0	17.4	11.1	0.0	11.4	6.5
無回答	0.8	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	1.4	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆差し支えなければ、あなたが経験されたことを具体的に記入してください。

支援プラン（18歳未満）アンケート

1　保育所・幼稚園・学校での受け入れに関する出来事

「障がい児を受け入れていないため、きょうだいで別々の園になった」「個別支援はできないと言われ続けた」など、保育所や幼稚園、学校において、障がいや特性への配慮の必要性を感じたという意見がありました。

一方、「良い先生に出会えた」「多くの人は温かく見守ってくれた」など、障がい特性への理解と寄り添った対応に関する意見もありました。

2　健診・診療・入院時における出来事

「診療時に普通高校や大学は厳しい」「医療的ケアが必要なためレスパイト利用を断られ続けた」など、医療機関や健診、相談機関での配慮不足や不適切な言動についての意見がありました。

一方で、こども発達支援センターなどが親身に相談に乗ってくれたとの意見もありました。

3　まちでの人の視線に関する出来事

外出先でのかんしゃくや大きな声、多動などの行動について、「しつけが悪い」「甘やかしている」と、発達障がいや知的障がい、医療的ケア児などについて周囲の理解が十分ではなく、本人や保護者が冷たい視線や心ない言葉を受けたという意見がありました。

4　保護者自身に関する出来事

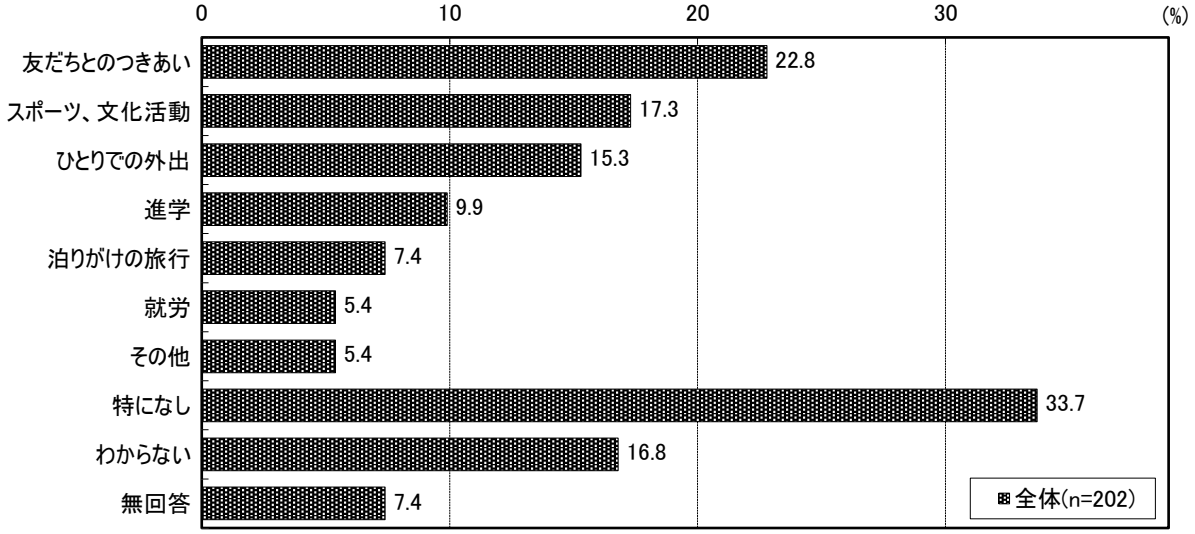
「周囲と比べて落ち込む」「参観日や健診がつらい」「白い目でみられている気がする」「子供の行動が場にそぐわず恥ずかしいと感じてしまった」など、保護者自身が精神的負担を抱えているという意見がありました。

⑤ あきらめや我慢の経験

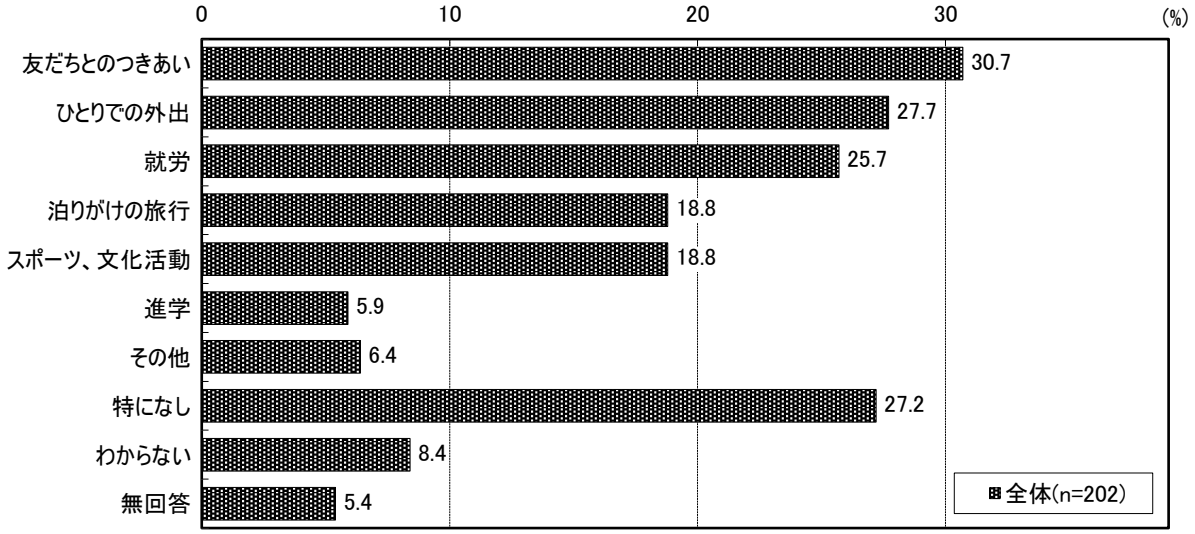
◆お子さん（ご本人）に障がいや発達に特性があるために、①お子さん（ご本人）や②あなたが、あきらめたり、仕方なくがまんしたりしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート

（子供本人）



（保護者）



○子供本人では「特になし」が33.7%である一方、「友だちとのつきあい」が22.8%、「スポーツ、文化活動」が17.3%となっています。障がい種別ごとにみると、精神障がいで「ひとりでの外出」「友だちとのつきあい」が42.9%と全体値を大きく上回っています。

○保護者では「友だちとのつきあい」が30.7%、「ひとりでの外出」が27.7%、「就労」が25.7%と多くなっています。障がい種別ごとにみると、「就労」は重度障がいで42.9%、身体障がいで42.1%と全体値を大きく上回っています。

（属性別クロス集計）子供本人

単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
進学	9.9	3.7	9.4	19.0	5.3	19.0	**23.8**	0.0	13.7	7.1
就労	5.4	1.9	2.8	**16.7**	10.5	**17.5**	4.8	6.3	8.4	14.3
泊りがけの旅行	7.4	5.6	8.5	7.1	5.3	6.3	**19.0**	6.3	9.5	7.1
ひとりでの外出	15.3	3.7	19.8	19.0	**31.6**	17.5	**42.9**	25.0	22.1	21.4
友だちとのつきあい	22.8	11.1	26.4	28.6	31.6	28.6	**42.9**	18.8	30.5	28.6
スポーツ、文化活動	17.3	9.3	20.8	19.0	**42.1**	22.2	**28.6**	25.0	18.9	**31.0**
その他	5.4	3.7	6.6	4.8	5.3	6.3	14.3	6.3	7.4	4.8
特になし	33.7	**44.4**	32.1	23.8	26.3	17.5	28.6	31.3	25.3	19.0
わからない	16.8	24.1	15.1	11.9	10.5	14.3	4.8	18.8	11.6	14.3
無回答	7.4	11.1	6.6	4.8	10.5	11.1	0.0	18.8	9.5	16.7

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

（属性別クロス集計）保護者

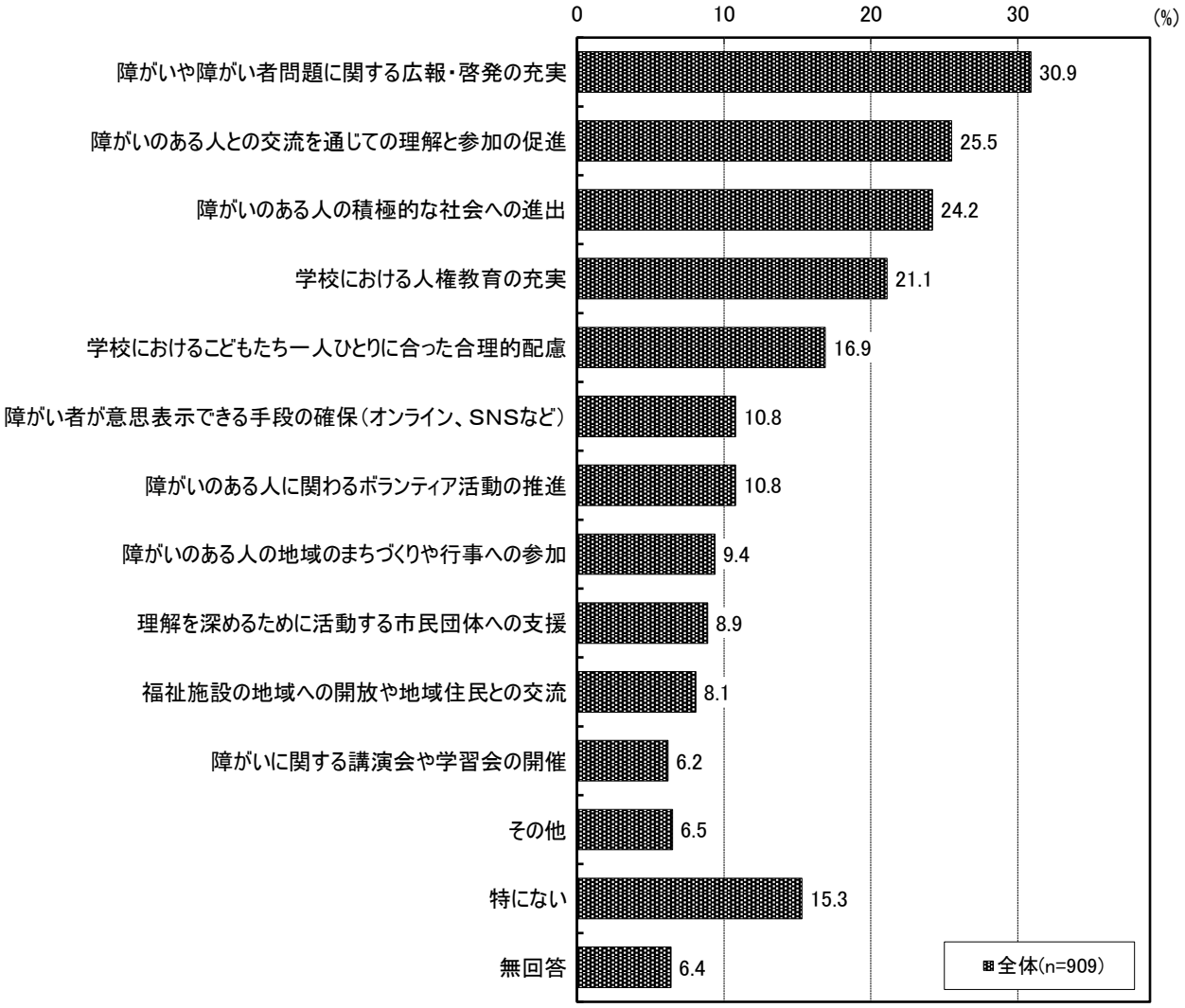
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
進学	5.9	1.9	5.7	11.9	0.0	9.5	**23.8**	0.0	9.5	2.4
就労	25.7	20.4	28.3	26.2	**42.1**	**36.5**	28.6	25.0	28.4	**42.9**
泊りがけの旅行	18.8	11.1	19.8	26.2	21.1	27.0	**42.9**	**31.3**	26.3	**33.3**
ひとりでの外出	27.7	22.2	27.4	35.7	31.6	**38.1**	**42.9**	37.5	**37.9**	35.7
友だちとのつきあい	30.7	29.6	30.2	33.3	21.1	30.2	38.1	25.0	**41.1**	28.6
スポーツ、文化活動	18.8	18.5	17.0	23.8	10.5	23.8	**42.9**	25.0	27.4	28.6
その他	6.4	7.4	6.6	4.8	5.3	9.5	14.3	6.3	11.6	7.1
特になし	27.2	**38.9**	24.5	19.0	31.6	19.0	14.3	37.5	17.9	19.0
わからない	8.4	7.4	11.3	2.4	0.0	1.6	4.8	0.0	6.3	0.0
無回答	5.4	3.7	5.7	7.1	5.3	6.3	9.5	0.0	6.3	4.8

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

⑥ 分け隔てなく暮らせる社会に必要なこと

◆今よりも、障がいのある人もない人も分け隔てなく一緒に暮らせる社会になるには、何が必要だと思いますか。（あてはまるもの３つまでに○）

障がい者計画アンケート



○「障がいや障がい者問題に関する広報・啓発の充実」が30.9％と最も多く、次いで「障がいのある人との交流を通じての理解と参加の促進」が25.5％、「障がいのある人の積極的な社会への進出」が24.2％、「学校における人権教育の充実」が21.1％となっており、障がい理解を深めるための教育や交流、社会参加の促進が重要と考えられていることがうかがえます。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０歳～17歳で「学校におけるこどもたち一人ひとりに合った合理的配慮」が52.6％と特に多く、「学校における人権教育の充実」も37.9％と全体と比べて多くなっています。30歳～39歳では「障がいのある人の積極的な社会への進出」が34.0％と多くみられます。18歳～29歳では「障がいのある人の積極的な社会への進出」が31.9％となっています。65歳以上では「特にない」が21.6％と比較的多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「学校におけるこどもたち一人ひとりに合った合理的配慮」は発達障がいで41.8%、知的障がいで35.4%と多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
障がいや障がい者問題に関する広報・啓発の充実	30.9	24.1	29.0	31.1	32.6	31.5
障がいのある人との交流を通じての理解と参加の促進	25.5	32.8	30.4	29.1	22.0	25.3
学校におけるこどもたち一人ひとりに合った合理的配慮	16.9	**52.6**	**27.5**	25.2	8.8	6.2
学校における人権教育の充実	21.1	**37.9**	24.6	25.2	18.6	15.8
障がいに関する講演会や学習会の開催	6.2	5.2	8.7	5.8	6.7	5.5
障がい者が意思表示できる手段の確保（オンライン、ＳＮＳなど）	10.8	6.0	15.9	14.6	14.3	6.2
福祉施設の地域への開放や地域住民との交流	8.1	9.5	14.5	5.8	4.0	11.7
障がいのある人の積極的な社会への進出	24.2	26.7	31.9	34.0	27.7	13.9
障がいのある人の地域のまちづくりや行事への参加	9.4	11.2	10.1	13.6	10.4	6.2
理解を深めるために活動する市民団体への支援	8.9	10.3	8.7	11.7	10.1	6.6
障がいのある人に関わるボランティア活動の推進	10.8	13.8	11.6	9.7	11.0	9.9
その他	6.5	5.2	8.7	8.7	8.8	3.3
特にない	15.3	8.6	7.2	8.7	16.2	21.6
無回答	6.4	0.0	1.4	1.0	4.0	13.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
障がいや障がい者問題に関する広報・啓発の充実	30.7	22.8	34.9	32.3	31.5	27.5
障がいのある人との交流を通じての理解と参加の促進	25.3	31.2	25.8	23.6	29.5	26.3
学校におけるこどもたち一人ひとりに合った合理的配慮	13.0	**35.4**	15.1	17.4	**41.8**	16.2
学校における人権教育の充実	19.0	29.6	19.1	24.8	28.8	20.8
障がいに関する講演会や学習会の開催	5.0	5.3	8.7	3.1	8.9	5.5
障がい者が意思表示できる手段の確保（オンライン、ＳＮＳなど）	10.2	6.9	12.8	11.8	11.6	10.1
福祉施設の地域への開放や地域住民との交流	9.8	14.8	3.7	6.8	8.2	11.9
障がいのある人の積極的な社会への進出	24.2	24.3	24.5	26.1	28.1	21.1
障がいのある人の地域のまちづくりや行事への参加	11.0	14.3	6.4	11.2	8.9	13.5
理解を深めるために活動する市民団体への支援	8.0	14.8	7.7	6.2	11.0	10.7
障がいのある人に関わるボランティア活動の推進	10.6	18.5	8.4	10.6	11.6	10.7
その他	5.6	5.8	10.1	6.8	8.9	6.4
特にない	15.2	11.6	17.1	13.0	8.9	13.1
無回答	7.8	3.2	3.7	3.7	0.7	7.0

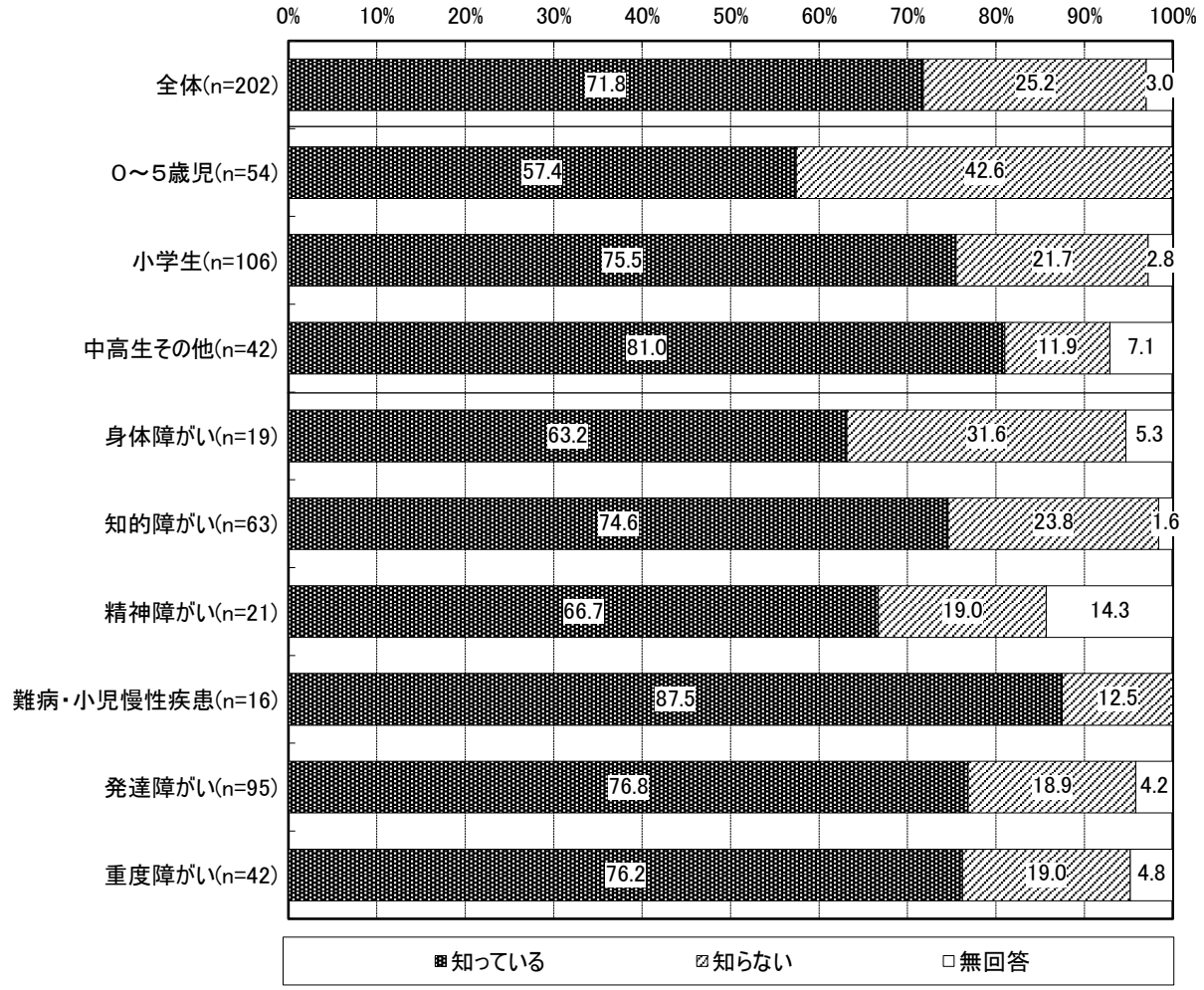
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

11　災害時の対応

① 避難所の認知状況

◆あなた、お子さん（ご本人）は、地震などの災害時の、最寄りの避難所を知っていますか。
（あてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「知っている」が71.8%、「知らない」が25.2%と、約４人に１人は認知していない状況となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

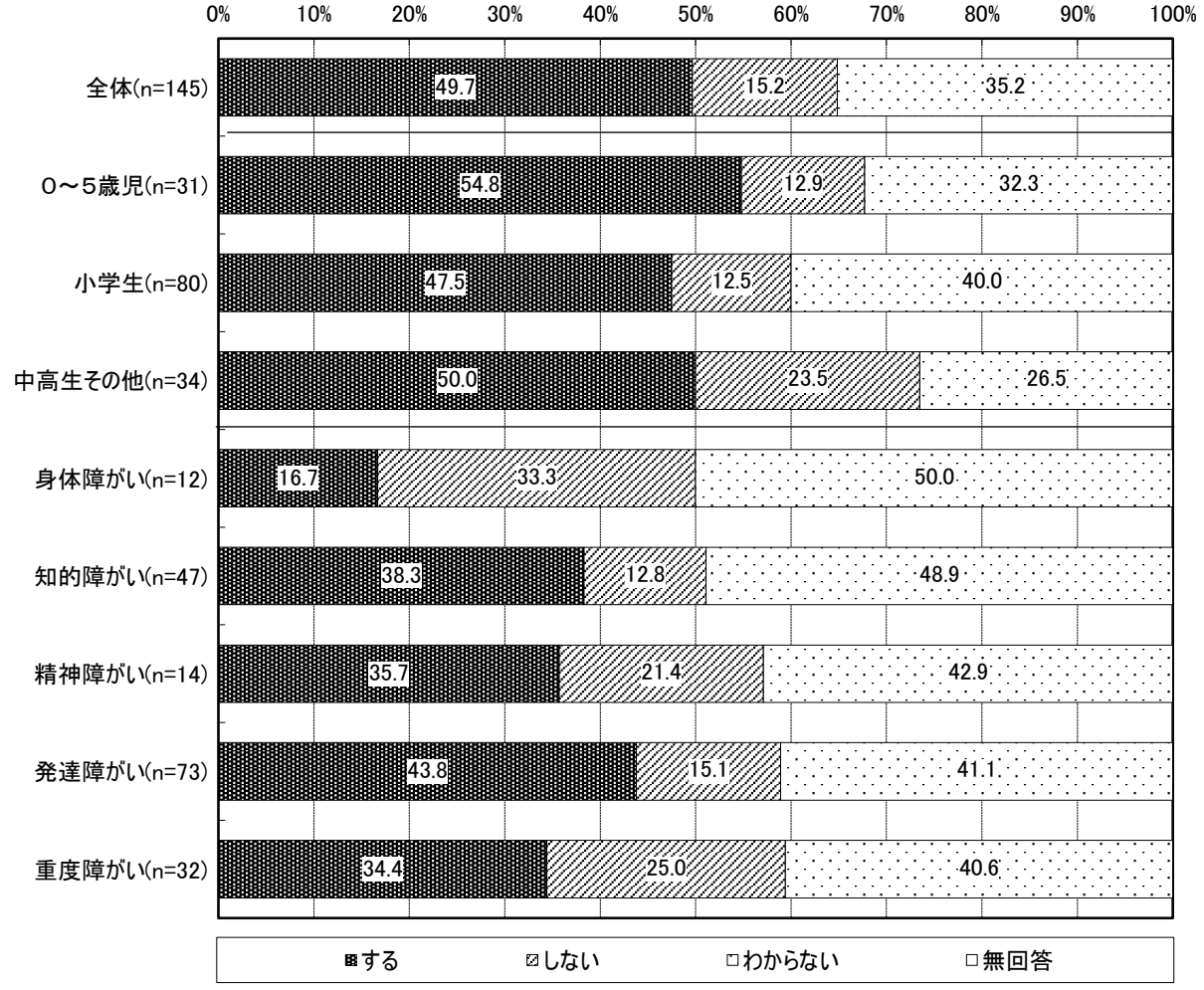
○年齢別にみると、０～５歳児で「知らない」が42.6%と多いのに対し、中高生その他では「知っている」が81.0%と全体を上回っており、年齢が上がるにつれて認知度が高まる傾向がみられます。

○障がい種別ごとにみると、発達障がいで「知っている」が76.8%と防災意識の高さがうかがえます。

② 災害時の避難意向と避難しない理由

◆災害が発生した時、あなたは避難所に避難しますか。（あてはまるもの１つに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



※最寄りの避難所を知っていると答えた人に対する設問

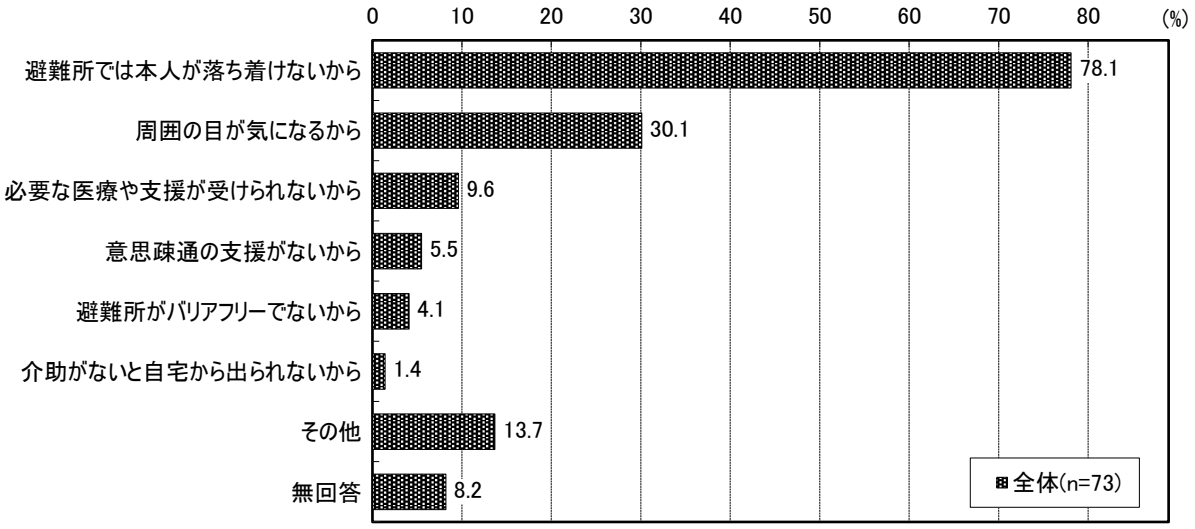
○「する」が49.7%、「しない」が15.2%、「わからない」が35.2%となっており、避難行動の判断が定まっていない層が一定数存在していることがうかがえます。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、小学生で「わからない」が40.0%と全体より多く、判断に迷いがある傾向がみられます。０～５歳児では「する」が54.8%とやや多い一方で、「わからない」も32.3%と３割を超えています。

◆避難所に避難しない理由は何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



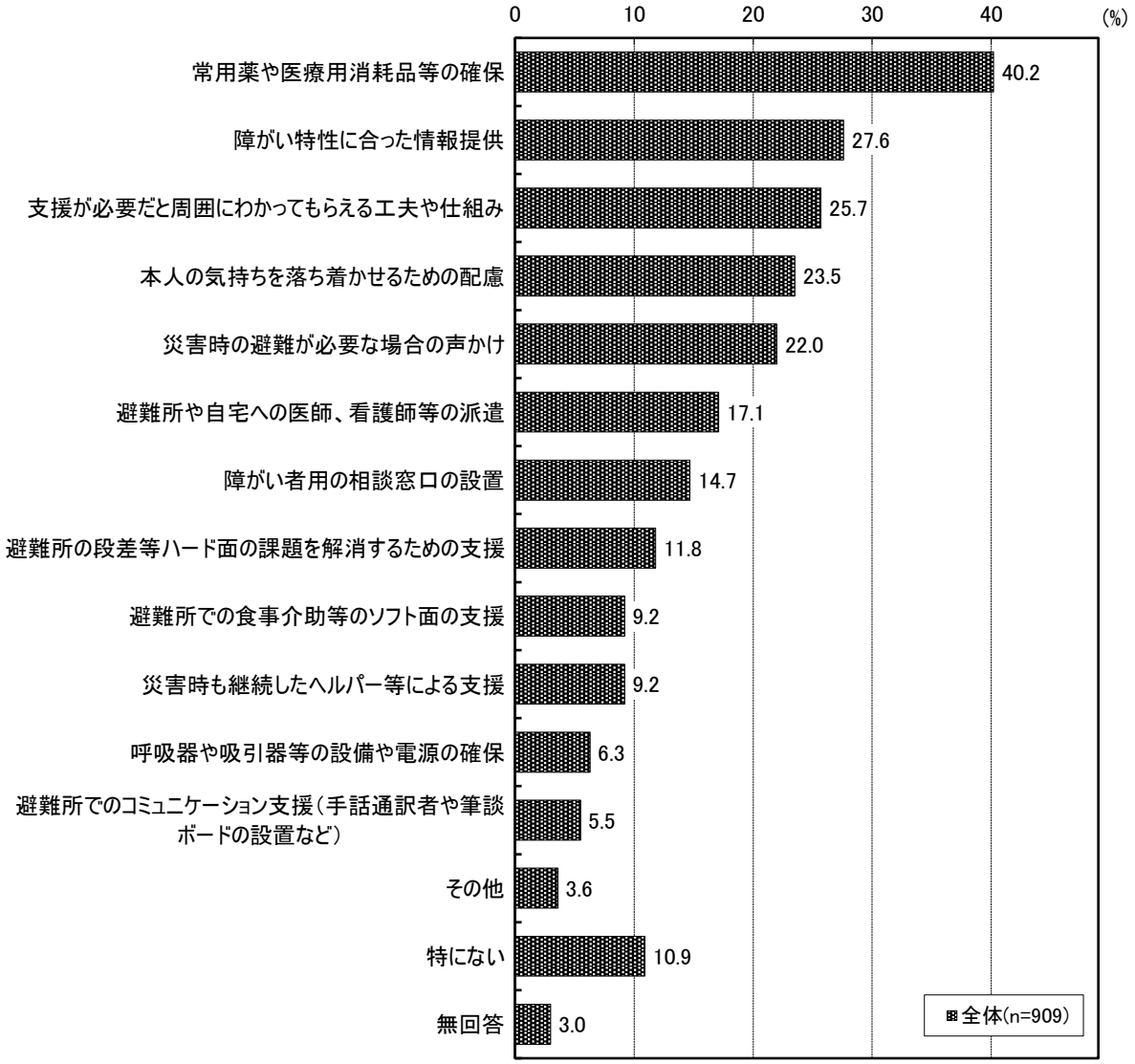
※避難所に避難しないと答えた人に対する設問

○「避難所では本人が落ち着けないから」が78.1％と多く、次いで「周囲の目が気になるから」が30.1％となっています。

③ 災害時に必要な支援

◆あなたにとって、地震などの災害時に、必要な支援は何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

障がい者計画アンケート



○「常用薬や医療用消耗品等の確保」が40.2%と最も多く、次いで「障がい特性に合った情報提供」が27.6%、「支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫や仕組み」が25.7%、「本人の気持ちを落ち着かせるための配慮」が23.5%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０歳～17歳で「支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫や仕組み」が48.3%、「本人の気持ちを落ち着かせるための配慮」が40.5%と多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで「支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫や仕組み」が45.0%、「本人の気持ちを落ち着かせるための配慮」が43.4%と多く、発達障がいでも「本人の気持ちを落ち着かせるための配慮」が50.0%と半数に達しています。難病・小児慢性疾患では「常用薬や医療用消耗品等の確保」が50.9%と多くなっています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=909)	0歳～17歳 (n=116)	18歳～29歳 (n=69)	30歳～39歳 (n=103)	40歳～64歳 (n=328)	65歳以上 (n=273)
障がい特性に合った情報提供	27.6	31.0	27.5	27.2	30.5	23.1
支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫や仕組み	25.7	**48.3**	**37.7**	28.2	19.5	21.2
災害時の避難が必要な場合の声かけ	22.0	19.8	18.8	17.5	17.1	31.1
避難所でのコミュニケーション支援（手話通訳者や筆談ボードの設置など）	5.5	12.9	7.2	5.8	4.6	2.9
避難所での食事介助等のソフト面の支援	9.2	14.7	7.2	8.7	6.7	11.0
避難所の段差等ハード面の課題を解消するための支援	11.8	6.9	14.5	6.8	11.3	15.0
本人の気持ちを落ち着かせるための配慮	23.5	**40.5**	31.9	27.2	24.4	12.8
避難所や自宅への医師、看護師等の派遣	17.1	16.4	18.8	7.8	16.8	21.6
災害時も継続したヘルパー等による支援	9.2	11.2	8.7	5.8	7.0	12.8
障がい者用の相談窓口の設置	14.7	16.4	13.0	16.5	16.8	12.1
常用薬や医療用消耗品等の確保	40.2	25.9	37.7	35.9	47.6	39.9
呼吸器や吸引器等の設備や電源の確保	6.3	8.6	7.2	6.8	4.6	6.6
その他	3.6	2.6	5.8	2.9	4.9	2.6
特にない	10.9	5.2	8.7	18.4	10.1	11.7
無回答	3.0	0.0	2.9	1.0	1.8	5.9

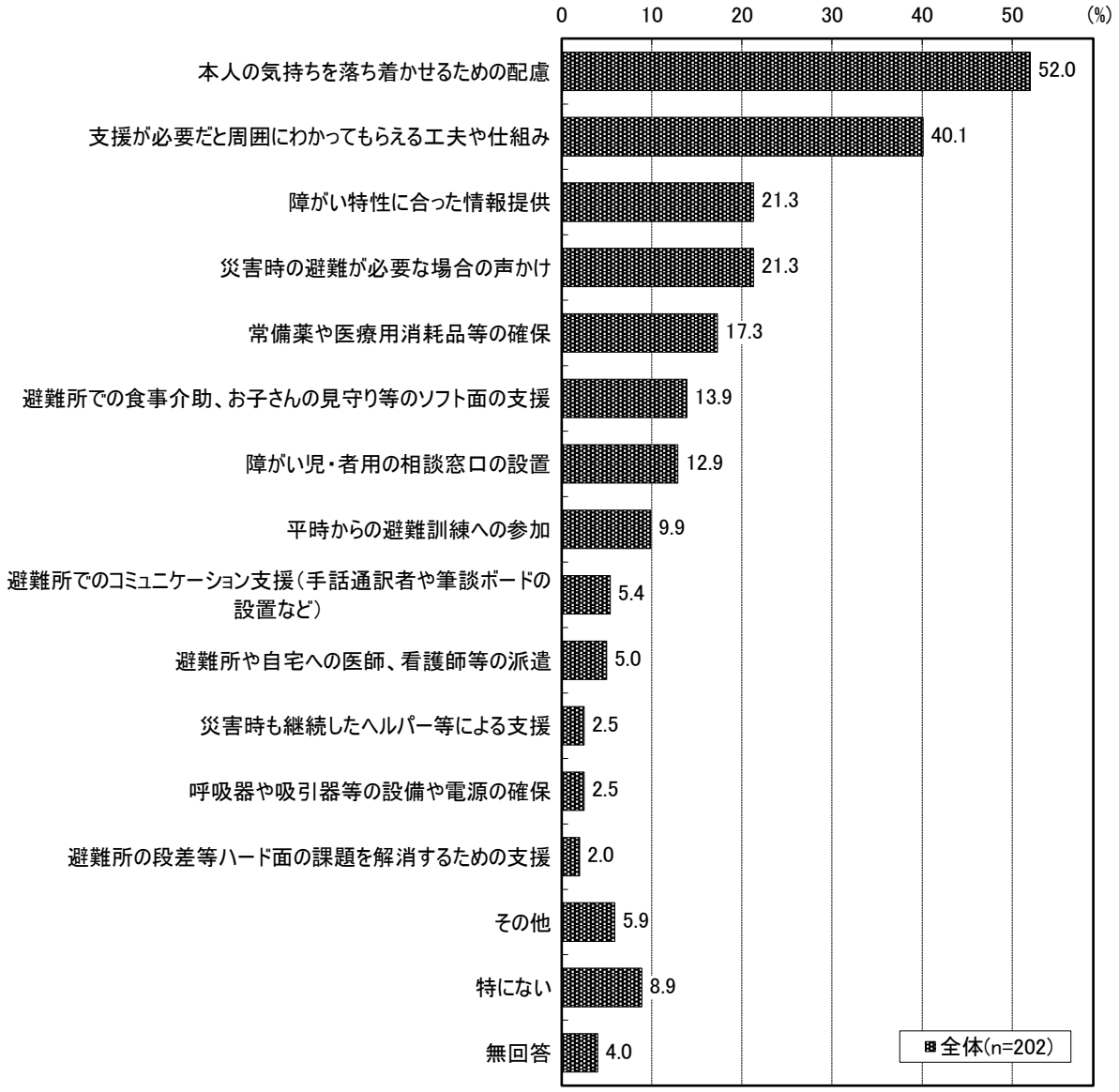
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=501)	知的障がい (n=189)	精神障がい (n=298)	難病・小児慢性疾患 (n=161)	発達障がい (n=146)	重度障がい (n=327)
障がい特性に合った情報提供	31.1	28.0	25.5	30.4	29.5	30.0
支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫や仕組み	25.1	**45.0**	22.8	22.4	**41.8**	26.9
災害時の避難が必要な場合の声かけ	23.4	25.9	18.1	19.3	19.9	21.4
避難所でのコミュニケーション支援（手話通訳者や筆談ボードの設置など）	4.0	9.5	6.0	4.3	11.6	4.9
避難所での食事介助等のソフト面の支援	10.4	16.4	6.0	11.2	9.6	15.3
避難所の段差等ハード面の課題を解消するための支援	19.0	7.9	4.0	14.9	3.4	17.4
本人の気持ちを落ち着かせるための配慮	11.8	**43.4**	32.9	11.8	**50.0**	17.4
避難所や自宅への医師、看護師等の派遣	19.0	14.3	16.1	23.0	11.6	21.1
災害時も継続したヘルパー等による支援	10.4	15.9	6.0	9.9	11.6	15.0
障がい者用の相談窓口の設置	14.4	17.5	18.1	6.8	21.9	13.8
常用薬や医療用消耗品等の確保	44.1	24.9	44.0	**50.9**	20.5	44.3
呼吸器や吸引器等の設備や電源の確保	9.4	8.5	3.0	**16.8**	3.4	11.0
その他	3.6	3.7	4.7	3.7	4.1	4.0
特にない	8.6	5.8	13.8	10.6	7.5	5.5
無回答	3.8	2.6	1.7	0.6	1.4	4.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

◆あなた、お子さん（ご本人）にとって、地震などの災害時に必要な支援は何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「本人の気持ちを落ち着かせるための配慮」が52.0％と最も多く、次いで「支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫や仕組み」が40.1％、「障がい特性に合った情報提供」が21.3％、「災害時の避難が必要な場合の声かけ」が21.3％、「常備薬や医療用消耗品等の確保」が17.3％となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○障がい種別ごとにみると、「本人の気持ちを落ち着かせるための配慮」は発達障がいで66.3％と多く、「支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫や仕組み」も重度障がいで52.4％、知的障がいで50.8％、発達障がいで50.5％と多くなっています。また、「避難所での食事介助、お子さんの見守り等のソフト面の支援」は重度障がいで26.2％、知的障がいで25.4％と比較的多くみられます。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
障がい特性に合った情報提供	21.3	22.2	21.7	19.0	**31.6**	15.9	**38.1**	12.5	23.2	23.8
支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫や仕組み	40.1	37.0	45.3	31.0	26.3	**50.8**	38.1	31.3	**50.5**	**52.4**
災害時の避難が必要な場合の声かけ	21.3	16.7	22.6	23.8	21.1	22.2	19.0	12.5	17.9	19.0
避難所でのコミュニケーション支援（手話通訳者や筆談ボードの設置など）	5.4	5.6	4.7	7.1	10.5	9.5	4.8	0.0	6.3	11.9
避難所での食事介助、お子さんの見守り等のソフト面の支援	13.9	13.0	16.0	9.5	10.5	**25.4**	9.5	**31.3**	10.5	**26.2**
避難所の段差等ハード面の課題を解消するための支援	2.0	1.9	0.9	4.8	10.5	4.8	0.0	**12.5**	1.1	7.1
本人の気持ちを落ち着かせるための配慮	52.0	42.6	53.8	59.5	15.8	50.8	57.1	12.5	**66.3**	38.1
避難所や自宅への医師、看護師等の派遣	5.0	5.6	1.9	11.9	10.5	7.9	4.8	12.5	6.3	7.1
災害時も継続したヘルパー等による支援	2.5	1.9	0.9	7.1	5.3	6.3	0.0	6.3	4.2	7.1
障がい児・者用の相談窓口の設置	12.9	14.8	8.5	21.4	0.0	**23.8**	14.3	6.3	16.8	11.9
常備薬や医療用消耗品等の確保	17.3	16.7	17.9	16.7	**31.6**	22.2	19.0	**37.5**	15.8	23.8
呼吸器や吸引器等の設備や電源の確保	2.5	1.9	2.8	2.4	10.5	6.3	0.0	**12.5**	2.1	4.8
平時からの避難訓練への参加	9.9	7.4	11.3	9.5	5.3	6.3	9.5	0.0	11.6	7.1
その他	5.9	3.7	6.6	7.1	10.5	7.9	4.8	12.5	5.3	9.5
特にない	8.9	14.8	6.6	7.1	0.0	3.2	14.3	0.0	7.4	0.0
無回答	4.0	1.9	3.8	7.1	10.5	1.6	9.5	6.3	4.2	7.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

12　障がい福祉サービス

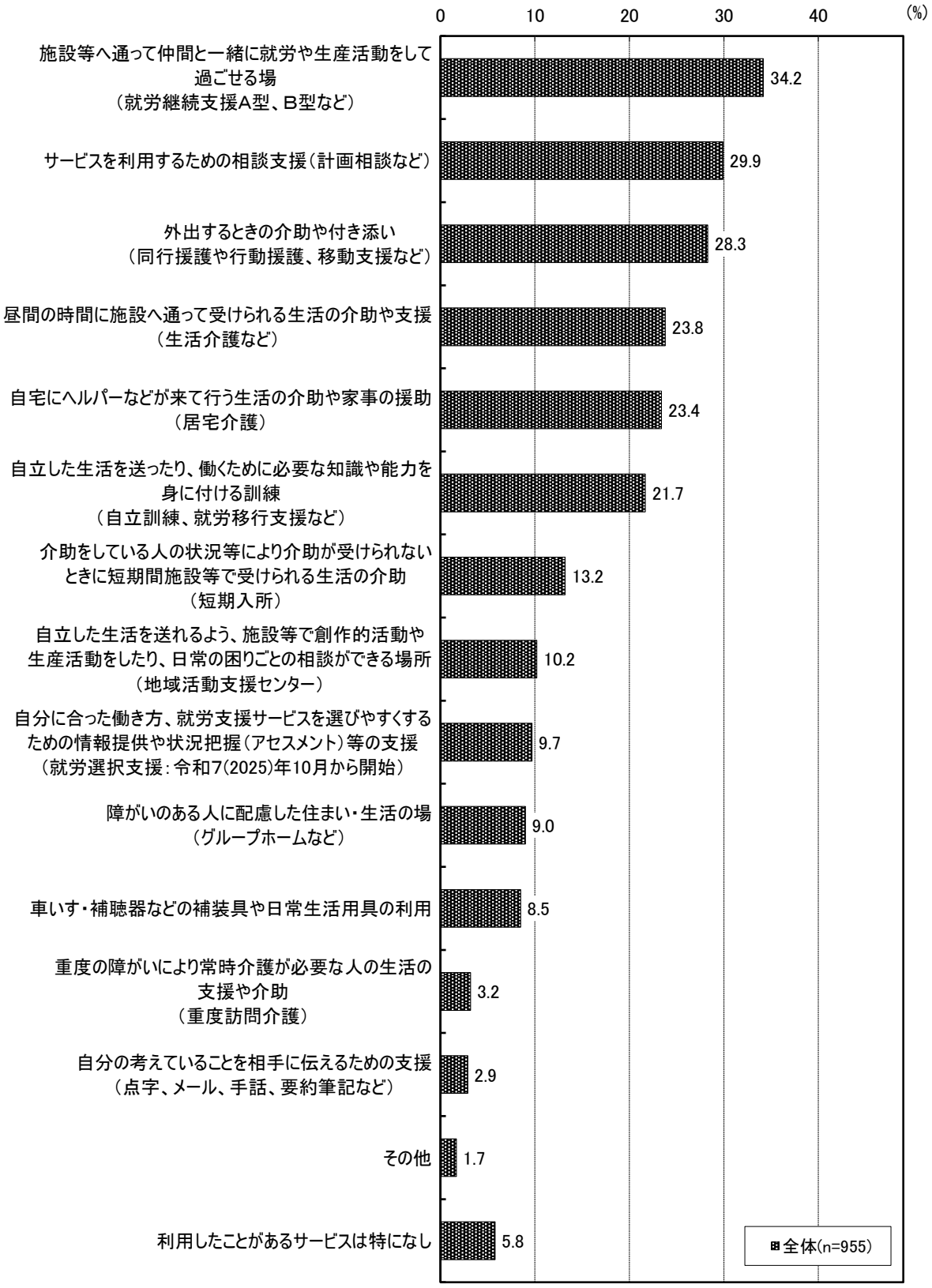
① 障がい福祉サービスの利用状況と今後の利用希望

◆この１年間に利用したことがある福祉サービスは何ですか。また、今後３年以内に利用したいと思うサービスは何ですか。((1)利用したことがある、(2)利用したいと思うのそれぞれについて、あてはまるものすべてに○)

(1)利用したことがある

支援プラン18歳以上

○過去１年間に利用したサービスは、「施設等へ通って仲間と一緒に就労や生産活動をして過ごせる場（就労継続支援Ａ型、Ｂ型など)」が34.2%、「サービスを利用するための相談支援（計画相談など)」が29.9%、「外出するときの介助や付き添い（同行援護や行動援護、移動支援など)」が28.3%、「昼間の時間に施設へ通って受けられる生活の介助や支援（生活介護など)」が23.8%、「自宅にヘルパーなどが来て行う生活の介助や家事の援助（居宅介護)」が23.4%、「自立した生活を送ったり、働くために必要な知識や能力を身に付ける訓練（自立訓練、就労移行支援など)」が21.7%の順となっています。


0
10
20
30
40
(%)
施設等へ通って仲間と一緒に就労や生産活動をして過ごせる場（就労継続支援A型、B型など）
34.2
サービスを利用するための相談支援（計画相談など）
29.9
外出するときの介助や付き添い（同行援護や行動援護、移動支援など）
28.3
昼間の時間に施設へ通って受けられる生活の介助や支援（生活介護など）
23.8
自宅にヘルパーなどが来て行う生活の介助や家事の援助（居宅介護）
23.4
自立した生活を送ったり、働くために必要な知識や能力を身に付ける訓練（自立訓練、就労移行支援など）
21.7
介助をしている人の状況等により介助が受けられないときに短期間施設等で受けられる生活の介助（短期入所）
13.2
自立した生活を送れるよう、施設等で創作的活動や生産活動をしたり、日常の困りごとの相談ができる場所（地域活動支援センター）
10.2
自分に合った働き方、就労支援サービスを選びやすくするための情報提供や状況把握（アセスメント）等の支援（就労選択支援：令和7(2025)年10月から開始）
9.7
障がいのある人に配慮した住まい・生活の場（グループホームなど）
9.0
車いす・補聴器などの補装具や日常生活用具の利用
8.5
重度の障がいにより常時介護が必要な人の生活の支援や介助（重度訪問介護）
3.2
自分の考えていることを相手に伝えるための支援（点字、メール、手話、要約筆記など）
2.9
その他
1.7
利用したことがあるサービスは特になし
5.8
全体(n=955)

（属性別クロス集計）

単位：％	全体 (n=955)	男性 (n=481)	女性 (n=435)	その他・答えたくない (n=15)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
障がいのある人に配慮した住まい・生活の場（グループホームなど）	9.0	10.4	7.6	0.0	7.7	8.9	10.3	6.5
自宅にヘルパーなどが来て行う生活の介助や家事の援助（居宅介護）	23.4	21.2	25.7	6.7	10.0	21.6	28.5	32.5
重度の障がいにより常時介護が必要な人の生活の支援や介助（重度訪問介護）	3.2	3.1	3.7	0.0	2.3	4.2	2.8	5.7
外出するときの介助や付き添い（同行援護や行動援護、移動支援など）	28.3	31.4	24.8	13.3	31.7	32.6	25.2	23.6
昼間の時間に施設へ通って受けられる生活の介助や支援（生活介護など）	23.8	27.9	19.5	6.7	25.8	**34.2**	20.7	13.0
自分に合った働き方、就労支援サービスを選びやすくするための情報提供や状況把握（アセスメント）等の支援（就労選択支援：令和7(2025)年10月から開始）	9.7	9.4	9.0	33.3	10.4	10.0	10.6	4.1
自立した生活を送ったり、働くために必要な知識や能力を身に付ける訓練（自立訓練、就労移行支援など）	21.7	21.0	22.1	33.3	**32.1**	24.7	19.4	5.7
施設等へ通って仲間と一緒に就労や生産活動をして過ごせる場（就労継続支援Ａ型、Ｂ型など）	34.2	33.1	35.6	53.3	30.8	39.5	38.5	21.1
自立した生活を送れるよう、施設等で創作的活動や生産活動をしたり、日常の困りごとの相談ができる場所（地域活動支援センター）	10.2	9.8	10.6	13.3	6.8	11.6	12.1	8.1
介助をしている人の状況等により介助が受けられないときに短期間施設等で受けられる生活の介助（短期入所）	13.2	15.0	12.0	0.0	20.4	21.6	8.3	4.1
自分の考えていることを相手に伝えるための支援（点字、メール、手話、要約筆記など）	2.9	3.3	2.3	13.3	1.8	3.7	3.5	2.4
車いす・補聴器などの補装具や日常生活用具の利用	8.5	6.9	10.1	6.7	6.8	6.3	7.6	17.1
サービスを利用するための相談支援（計画相談など）	29.9	30.4	29.7	13.3	35.3	30.0	29.0	22.0
その他	1.7	1.0	2.5	0.0	0.5	1.6	3.0	0.0
利用したことがあるサービスは特になし	5.8	6.0	5.3	6.7	3.6	5.8	6.5	7.3
無回答	16.5	18.3	14.7	13.3	9.0	14.7	15.6	**34.1**

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

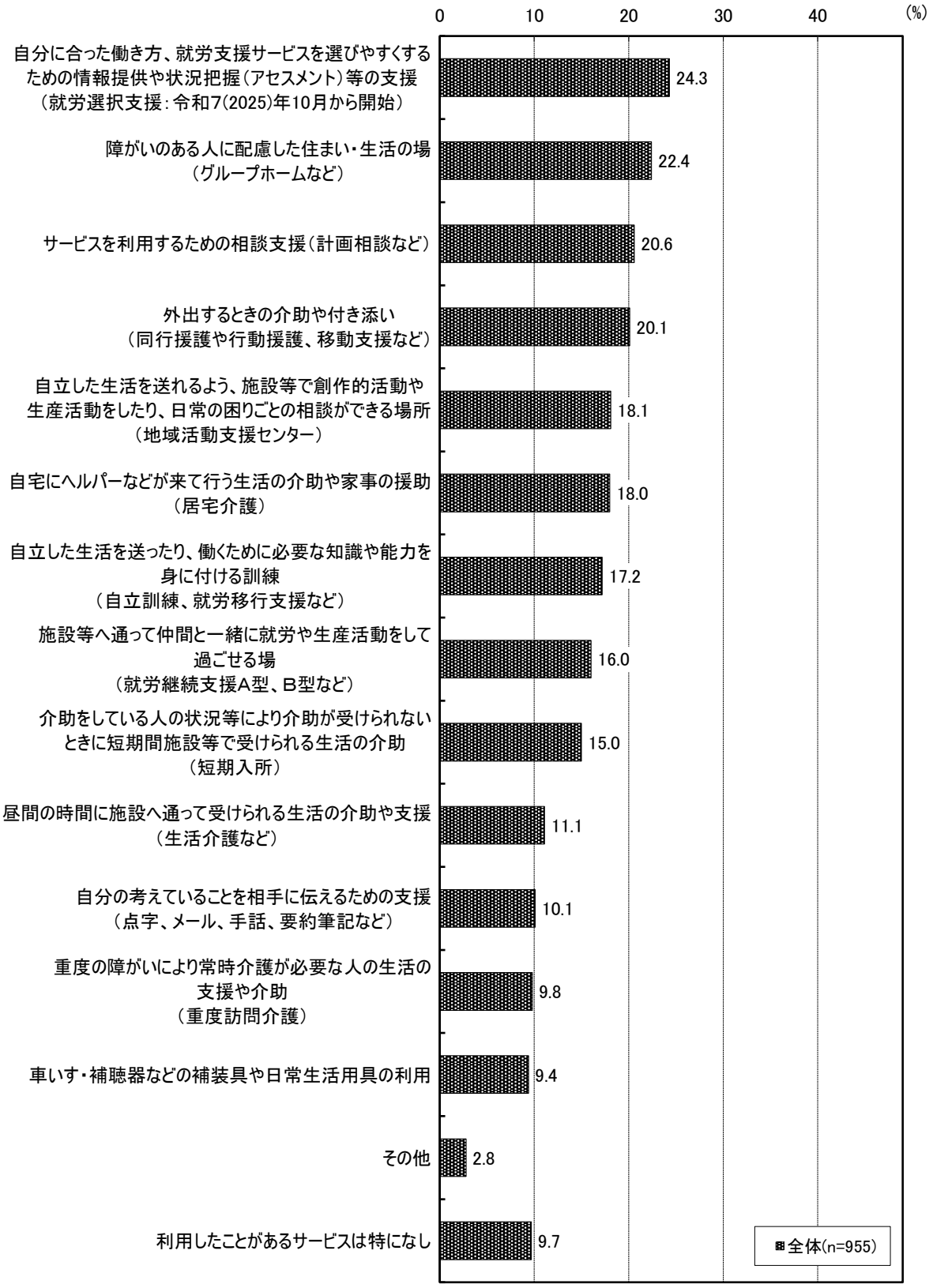
単位：%	身体障がい (n=257)	身体障がい (18～64歳) (n=182)	身体障がい (65歳以上) (n=68)	視覚障がい (n=70)	聴覚・平衡機能障がい (n=42)	音声・言語、そしゃく機能障がい(n=18)	肢体不自由 (n=111)	内部障がい (n=33)
障がいのある人に配慮した住まい・生活の場（グループホームなど）	8.6	9.9	5.9	5.7	4.8	11.1	8.1	18.2
自宅にヘルパーなどが来て行う生活の介助や家事の援助（居宅介護）	29.2	27.5	**35.3**	24.3	0.0	33.3	**44.1**	24.2
重度の障がいにより常時介護が必要な人の生活の支援や介助（重度訪問介護）	7.8	7.7	8.8	4.3	2.4	16.7	**13.5**	6.1
外出するときの介助や付き添い（同行援護や行動援護、移動支援など）	36.2	**39.0**	27.9	31.4	7.1	22.2	**54.1**	30.3
昼間の時間に施設へ通って受けられる生活の介助や支援（生活介護など）	25.7	29.7	14.7	11.4	7.1	16.7	**45.0**	24.2
自分に合った働き方、就労支援サービスを選びやすくするための情報提供や状況把握（アセスメント）等の支援（就労選択支援：令和7(2025)年10月から開始）	7.0	8.8	2.9	1.4	4.8	16.7	9.9	9.1
自立した生活を送ったり、働くために必要な知識や能力を身に付ける訓練（自立訓練、就労移行支援など）	8.2	10.4	1.5	5.7	4.8	11.1	9.9	15.2
施設等へ通って仲間と一緒に就労や生産活動をして過ごせる場（就労継続支援Ａ型、Ｂ型など）	23.3	26.9	16.2	14.3	21.4	16.7	26.1	33.3
自立した生活を送れるよう、施設等で創作的活動や生産活動をしたり、日常の困りごとの相談ができる場所（地域活動支援センター）	8.2	9.9	4.4	4.3	2.4	22.2	11.7	9.1
介助をしている人の状況等により介助が受けられないときに短期間施設等で受けられる生活の介助（短期入所）	12.5	16.5	2.9	7.1	4.8	16.7	**23.4**	6.1
自分の考えていることを相手に伝えるための支援（点字、メール、手話、要約筆記など）	5.1	5.5	4.4	5.7	**16.7**	5.6	0.9	0.0
車いす・補聴器などの補装具や日常生活用具の利用	**26.1**	**26.9**	**26.5**	17.1	**33.3**	33.3	**39.6**	12.1
サービスを利用するための相談支援（計画相談など）	28.0	30.8	19.1	15.7	14.3	22.2	**44.1**	33.3
その他	1.2	1.6	0.0	1.4	0.0	0.0	1.8	0.0
利用したことがあるサービスは特になし	8.6	9.3	5.9	15.7	**21.4**	5.6	0.0	6.1
無回答	22.2	15.9	**38.2**	**28.6**	**28.6**	33.3	15.3	21.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	高次脳機能障がい (n=26)	強度行動障がい (n=61)	重度障がい (n=388)
障がいのある人に配慮した住まい・生活の場（グループホームなど）	15.6	7.8	4.5	8.5	19.2	16.4	12.9
自宅にヘルパーなどが来て行う生活の介助や家事の援助（居宅介護）	20.0	28.4	21.6	17.6	19.2	19.7	24.7
重度の障がいにより常時介護が必要な人の生活の支援や介助（重度訪問介護）	4.4	1.8	2.3	1.8	0.0	6.6	6.4
外出するときの介助や付き添い（同行援護や行動援護、移動支援など）	**46.4**	17.5	23.9	32.4	34.6	**57.4**	**49.2**
昼間の時間に施設へ通って受けられる生活の介助や支援（生活介護など）	**40.2**	15.7	13.6	31.3	26.9	**72.1**	**44.3**
自分に合った働き方、就労支援サービスを選びやすくするための情報提供や状況把握（アセスメント）等の支援（就労選択支援：令和7(2025)年10月から開始）	9.1	13.3	5.7	11.6	19.2	13.1	8.0
自立した生活を送ったり、働くために必要な知識や能力を身に付ける訓練（自立訓練、就労移行支援など）	19.8	31.0	10.2	33.8	15.4	16.4	10.6
施設等へ通って仲間と一緒に就労や生産活動をして過ごせる場（就労継続支援Ａ型、Ｂ型など）	36.3	41.0	15.9	40.8	50.0	34.4	29.1
自立した生活を送れるよう、施設等で創作的活動や生産活動をしたり、日常の困りごとの相談ができる場所（地域活動支援センター）	10.9	13.3	1.1	13.4	11.5	18.0	10.3
介助をしている人の状況等により介助が受けられないときに短期間施設等で受けられる生活の介助（短期入所）	**28.6**	5.1	8.0	20.1	7.7	**44.3**	**26.3**
自分の考えていることを相手に伝えるための支援（点字、メール、手話、要約筆記など）	2.2	3.1	3.4	2.5	3.8	3.3	4.1
車いす・補聴器などの補装具や日常生活用具の利用	7.2	3.1	**20.5**	1.8	19.2	8.2	16.5
サービスを利用するための相談支援（計画相談など）	37.0	33.7	22.7	38.7	38.5	**50.8**	34.8
その他	1.0	2.7	0.0	1.4	7.7	0.0	1.3
利用したことがあるサービスは特になし	2.7	2.9	**18.2**	2.1	3.8	0.0	3.1
無回答	15.3	11.8	23.9	10.6	15.4	3.3	14.7

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

(2)利用したいと思う


0
10
20
30
40
(%)
自分に合った働き方、就労支援サービスを選びやすくするための情報提供や状況把握(アセスメント)等の支援（就労選択支援：令和7(2025)年10月から開始）
24.3
障がいのある人に配慮した住まい・生活の場（グループホームなど）
22.4
サービスを利用するための相談支援（計画相談など）
20.6
外出するときの介助や付き添い（同行援護や行動援護、移動支援など）
20.1
自立した生活を送れるよう、施設等で創作的活動や生産活動をしたり、日常の困りごとの相談ができる場所（地域活動支援センター）
18.1
自宅にヘルパーなどが来て行う生活の介助や家事の援助（居宅介護）
18.0
自立した生活を送ったり、働くために必要な知識や能力を身に付ける訓練（自立訓練、就労移行支援など）
17.2
施設等へ通って仲間と一緒に就労や生産活動をして過ごせる場（就労継続支援A型、B型など）
16.0
介助をしている人の状況等により介助が受けられないときに短期間施設等で受けられる生活の介助（短期入所）
15.0
昼間の時間に施設へ通って受けられる生活の介助や支援（生活介護など）
11.1
自分の考えていることを相手に伝えるための支援（点字、メール、手話、要約筆記など）
10.1
重度の障がいにより常時介護が必要な人の生活の支援や介助（重度訪問介護）
9.8
車いす・補聴器などの補装具や日常生活用具の利用
9.4
その他
2.8
利用したことがあるサービスは特になし
9.7
全体(n=955)

○今後利用したいサービスで、「自分に合った働き方を選びやすくするための支援（就労選択支援）」が24.3％と最も多く、次いで「障がいのある人に配慮した住まい・生活の場（グループホームなど）」が22.4％、「サービスを利用するための相談支援（計画相談など）」が20.6％、「外出するときの介助や付き添い（同行援護や行動援護、移動支援など）」が20.1％、「自立した生活を送れるよう、施設等で創作的活動や生産活動をしたり、日常の困りごとの相談ができる場所（地域活動支援センター）」が18.1％、「自宅にヘルパーなどが来て行う生活の介助や家事の援助（居宅介護）」が18.0％、「自立した生活を送ったり、働くために必要な知識や能力を身に付ける訓練（自立訓練、就労移行支援など）」が17.2％の順となっています。

［属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴］

○障がい種別ごとにみると、「障がいのある人に配慮した住まい・生活の場（グループホームなど）」は強度行動障がいで47.5％、知的障がいで34.8％、発達障がいで29.2％と多いほか重度障がいのある人で31.4％となっています。

（属性別クロス集計）

単位：％	全体 (n=955)	男性 (n=481)	女性 (n=435)	その他・答えたくない (n=15)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
障がいのある人に配慮した住まい・生活の場（グループホームなど）	25.6	20.0	6.7	27.1	27.4	20.7	13.8	25.6
自宅にヘルパーなどが来て行う生活の介助や家事の援助（居宅介護）	16.0	20.2	6.7	10.4	18.9	19.6	23.6	16.0
重度の障がいにより常時介護が必要な人の生活の支援や介助（重度訪問介護）	9.8	10.1	0.0	9.0	9.5	10.1	11.4	9.8
外出するときの介助や付き添い（同行援護や行動援護、移動支援など）	21.2	19.8	6.7	22.2	20.5	17.6	26.0	21.2
昼間の時間に施設へ通って受けられる生活の介助や支援（生活介護など）	12.1	10.8	0.0	13.6	7.4	9.3	19.5	12.1
自分に合った働き方、就労支援サービスを選びやすくするための情報提供や状況把握（アセスメント）等の支援（就労選択支援：令和7(2025)年10月から開始）	24.7	23.9	**53.3**	28.5	25.8	24.9	17.1	24.7
自立した生活を送ったり、働くために必要な知識や能力を身に付ける訓練（自立訓練、就労移行支援など）	16.8	18.6	0.0	18.6	17.4	19.6	8.9	16.8
施設等へ通って仲間と一緒に就労や生産活動をして過ごせる場（就労継続支援Ａ型、Ｂ型など）	15.8	17.0	0.0	16.3	17.9	18.6	5.7	15.8
自立した生活を送れるよう、施設等で創作的活動や生産活動をしたり、日常の困りごとの相談ができる場所（地域活動支援センター）	18.5	18.4	6.7	20.8	18.9	18.9	10.6	18.5
介助をしている人の状況等により介助が受けられないときに短期間施設等で受けられる生活の介助（短期入所）	17.0	13.6	0.0	18.1	14.7	14.4	13.0	17.0
自分の考えていることを相手に伝えるための支援（点字、メール、手話、要約筆記など）	8.9	10.8	**20.0**	11.8	9.5	9.8	8.9	8.9
車いす・補聴器などの補装具や日常生活用具の利用	8.9	10.3	0.0	4.5	6.3	10.1	**22.0**	8.9
サービスを利用するための相談支援（計画相談など）	19.5	22.5	6.7	19.5	20.5	20.2	26.0	19.5
その他	3.5	2.3	0.0	1.8	4.2	3.3	1.6	3.5
利用したことがあるサービスは特になし	11.4	7.6	13.3	8.6	10.0	9.8	11.4	11.4
無回答	26.2	26.2	13.3	19.9	22.1	28.0	35.0	26.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=257)	身体障がい (18～64歳) (n=182)	身体障がい (65歳以上) (n=68)	視覚障がい (n=70)	聴覚・平衡機能障がい (n=42)	音声・言語、そしゃく機能障がい(n=18)	肢体不自由 (n=111)	内部障がい (n=33)
障がいのある人に配慮した住まい・生活の場（グループホームなど）	19.1	22.0	11.8	20.0	14.3	5.6	22.5	18.2
自宅にヘルパーなどが来て行う生活の介助や家事の援助（居宅介護）	21.4	20.3	25.0	22.9	21.4	22.2	20.7	18.2
重度の障がいにより常時介護が必要な人の生活の支援や介助（重度訪問介護）	14.0	14.8	13.2	11.4	16.7	22.2	17.1	12.1
外出するときの介助や付き添い（同行援護や行動援護、移動支援など）	23.7	24.2	25.0	**34.3**	21.4	22.2	19.8	27.3
昼間の時間に施設へ通って受けられる生活の介助や支援（生活介護など）	12.1	11.5	14.7	11.4	9.5	11.1	11.7	18.2
自分に合った働き方、就労支援サービスを選びやすくするための情報提供や状況把握（アセスメント）等の支援（就労選択支援：令和7(2025)年10月から開始）	21.8	25.8	13.2	15.7	21.4	11.1	18.9	27.3
自立した生活を送ったり、働くために必要な知識や能力を身に付ける訓練（自立訓練、就労移行支援など）	15.6	18.1	8.8	15.7	16.7	16.7	12.6	12.1
施設等へ通って仲間と一緒に就労や生産活動をして過ごせる場（就労継続支援Ａ型、Ｂ型など）	13.2	16.5	5.9	7.1	11.9	5.6	13.5	18.2
自立した生活を送れるよう、施設等で創作的活動や生産活動をしたり、日常の困りごとの相談ができる場所（地域活動支援センター）	19.1	22.0	13.2	17.1	23.8	11.1	15.3	18.2
介助をしている人の状況等により介助が受けられないときに短期間施設等で受けられる生活の介助（短期入所）	15.2	16.5	11.8	12.9	19.0	22.2	17.1	15.2
自分の考えていることを相手に伝えるための支援（点字、メール、手話、要約筆記など）	12.1	13.2	8.8	12.9	**31.0**	16.7	9.0	9.1
車いす・補聴器などの補装具や日常生活用具の利用	17.1	14.3	**26.5**	18.6	**26.2**	16.7	17.1	3.0
サービスを利用するための相談支援（計画相談など）	21.0	19.8	26.5	**31.4**	23.8	5.6	16.2	12.1
その他	3.1	3.3	2.9	2.9	7.1	5.6	0.9	3.0
利用したことがあるサービスは特になし	8.9	8.2	10.3	12.9	16.7	16.7	2.7	15.2
無回答	25.3	20.3	35.3	17.1	23.8	44.4	31.5	24.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

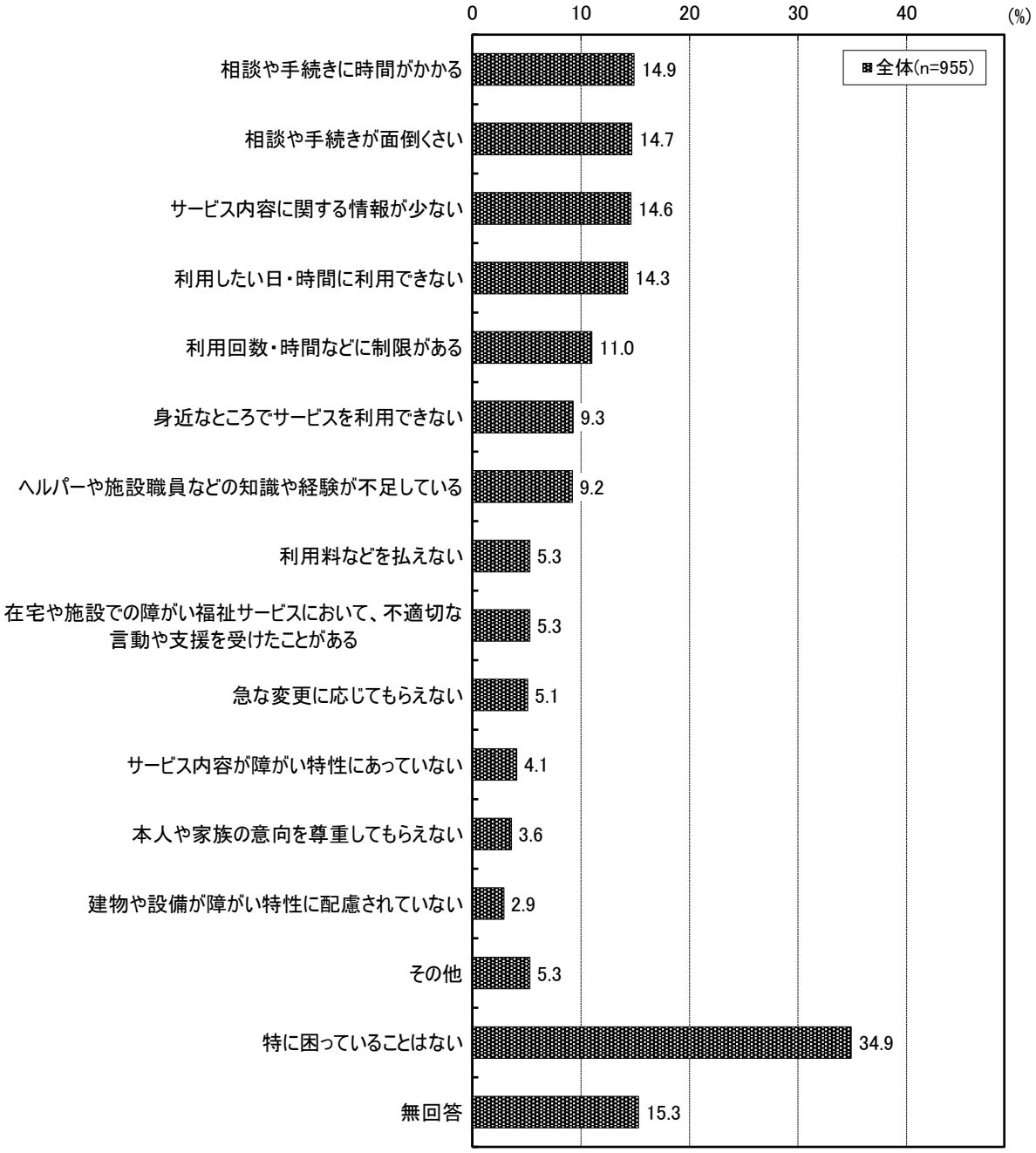
単位：%	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	高次脳機能障がい (n=26)	強度行動障がい (n=61)	重度障がい (n=388)
障がいのある人に配慮した住まい・生活の場（グループホームなど）	34.8	16.0	14.8	29.2	15.4	**47.5**	31.4
自宅にヘルパーなどが来て行う生活の介助や家事の援助（居宅介護）	18.0	18.2	20.5	15.8	26.9	23.0	19.8
重度の障がいにより常時介護が必要な人の生活の支援や介助（重度訪問介護）	11.6	7.3	14.8	8.5	15.4	**26.2**	13.7
外出するときの介助や付き添い（同行援護や行動援護、移動支援など）	22.5	15.7	26.1	20.8	23.1	27.9	26.0
昼間の時間に施設へ通って受けられる生活の介助や支援（生活介護など）	12.3	8.6	12.5	7.7	23.1	14.8	13.7
自分に合った働き方、就労支援サービスを選びやすくするための情報提供や状況把握（アセスメント）等の支援（就労選択支援：令和7(2025)年10月から開始）	20.0	29.5	23.9	27.8	38.5	18.0	17.0
自立した生活を送ったり、働くために必要な知識や能力を身に付ける訓練（自立訓練、就労移行支援など）	13.3	20.2	11.4	18.3	23.1	9.8	13.1
施設等へ通って仲間と一緒に就労や生産活動をして過ごせる場（就労継続支援Ａ型、Ｂ型など）	14.1	21.1	14.8	15.1	23.1	11.5	13.1
自立した生活を送れるよう、施設等で創作的活動や生産活動をしたり、日常の困りごとの相談ができる場所（地域活動支援センター）	19.8	17.5	18.2	18.3	34.6	18.0	18.3
介助をしている人の状況等により介助が受けられないときに短期間施設等で受けられる生活の介助（短期入所）	22.2	10.4	13.6	16.9	26.9	**29.5**	21.9
自分の考えていることを相手に伝えるための支援（点字、メール、手話、要約筆記など）	10.9	9.5	9.1	8.8	15.4	16.4	13.4
車いす・補聴器などの補装具や日常生活用具の利用	6.7	6.9	8.0	3.2	19.2	3.3	10.6
サービスを利用するための相談支援（計画相談など）	19.0	20.0	19.3	16.9	23.1	19.7	20.4
その他	2.0	3.5	3.4	2.5	7.7	1.6	1.8
利用したことがあるサービスは特になし	4.4	10.4	15.9	7.7	3.8	0.0	4.4
無回答	27.2	26.4	19.3	23.6	34.6	23.0	24.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

② 福祉サービス利用にあたって困っていること

◆福祉サービスを利用するにあたって何か困っていることがありますか。（あてはまるものすべてに○）

支援プラン（18歳以上）アンケート



○「特に困っていることはない」が34.9%と最も多く、困っていることとしては「相談や手続きに時間がかかる」が14.9%、「相談や手続きが面倒くさい」が14.7%、「サービス内容に関する情報が少ない」が14.6%、「利用したい日・時間に利用できない」が14.3%、「利用回数・時間などに制限がある」が11.0%となっています。

（属性別クロス集計）

単位：％	全体 (n=955)	男性 (n=481)	女性 (n=435)	その他・答えたくない (n=15)	18歳～29歳 (n=221)	30歳～39歳 (n=190)	40歳～64歳 (n=397)	65歳以上 (n=123)
サービス内容が障がい特性にあっていない	4.1	4.8	3.7	0.0	3.2	3.2	5.8	2.4
身近なところでサービスを利用できない	9.3	8.1	11.0	13.3	7.2	8.4	10.6	11.4
利用したい日・時間に利用できない	14.3	14.3	14.9	13.3	17.2	15.3	13.6	12.2
利用回数・時間などに制限がある	11.0	11.2	10.6	20.0	9.0	9.5	11.6	15.4
利用料などを払えない	5.3	4.4	6.4	13.3	4.1	1.6	7.1	8.1
急な変更に応じてもらえない	5.1	5.2	5.1	6.7	5.4	4.7	5.3	4.9
ヘルパーや施設職員などの知識や経験が不足している	9.2	9.4	9.7	6.7	8.6	12.1	9.6	6.5
在宅や施設での障がい福祉サービスにおいて、不適切な言動や支援を受けたことがある	5.3	4.4	6.2	20.0	3.2	5.8	6.5	5.7
本人や家族の意向を尊重してもらえない	3.6	4.4	3.0	0.0	2.3	5.3	3.3	4.9
建物や設備が障がい特性に配慮されていない	2.9	2.9	3.2	0.0	2.3	1.1	2.8	8.1
サービス内容に関する情報が少ない	14.6	11.6	18.4	13.3	14.0	19.5	14.1	11.4
相談や手続きに時間がかかる	14.9	11.4	17.9	26.7	18.1	13.2	13.9	13.8
相談や手続きが面倒くさい	14.7	10.2	19.8	13.3	15.8	15.8	14.9	10.6
その他	5.3	4.6	6.0	20.0	7.7	5.8	4.5	4.1
特に困っていることはない	34.9	37.8	31.5	20.0	34.8	27.4	37.0	38.2
無回答	15.3	15.8	14.5	0.0	10.0	16.3	14.6	22.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=257)	身体障がい (18～64歳) (n=182)	身体障がい (65歳以上) (n=68)	視覚障がい (n=70)	聴覚・平衡機能障がい (n=42)	音声・言語、そしゃく機能障がい(n=18)	肢体不自由 (n=111)	内部障がい (n=33)
サービス内容が障がい特性にあっていない	4.7	6.0	1.5	4.3	7.1	0.0	4.5	3.0
身近なところでサービスを利用できない	14.0	15.4	11.8	17.1	14.3	5.6	13.5	15.2
利用したい日・時間に利用できない	14.8	14.8	14.7	12.9	11.9	5.6	22.5	12.1
利用回数・時間などに制限がある	10.5	7.7	17.6	10.0	2.4	5.6	15.3	9.1
利用料などを払えない	6.2	5.5	8.8	7.1	11.9	5.6	7.2	0.0
急な変更に応じてもらえない	5.1	4.9	4.4	5.7	2.4	5.6	6.3	3.0
ヘルパーや施設職員などの知識や経験が不足している	10.1	11.5	7.4	7.1	2.4	5.6	18.0	9.1
在宅や施設での障がい福祉サービスにおいて、不適切な言動や支援を受けたことがある	4.7	3.8	7.4	4.3	0.0	0.0	8.1	3.0
本人や家族の意向を尊重してもらえない	3.5	2.7	5.9	4.3	4.8	5.6	5.4	0.0
建物や設備が障がい特性に配慮されていない	6.2	4.9	10.3	5.7	0.0	5.6	9.9	3.0
サービス内容に関する情報が少ない	12.1	13.7	7.4	11.4	14.3	5.6	10.8	21.2
相談や手続きに時間がかかる	18.3	17.6	19.1	24.3	7.1	5.6	20.7	15.2
相談や手続きが面倒くさい	19.1	23.1	7.4	20.0	11.9	11.1	21.6	12.1
その他	5.8	6.0	5.9	5.7	4.8	0.0	5.4	9.1
特に困っていることはない	32.7	33.5	30.9	31.4	35.7	50.0	27.9	36.4
無回答	14.0	8.2	**26.5**	14.3	21.4	38.9	13.5	18.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	知的障がい (n=405)	精神障がい (n=451)	難病 (n=88)	発達障がい (n=284)	高次脳機能障がい (n=26)	強度行動障がい (n=61)	重度障がい (n=388)
サービス内容が障がい特性にあっていない	3.5	4.9	3.4	4.6	11.5	3.3	3.6
身近なところでサービスを利用できない	9.4	8.0	8.0	7.4	19.2	13.1	11.6
利用したい日・時間に利用できない	20.7	11.8	14.8	17.3	19.2	**37.7**	21.1
利用回数・時間などに制限がある	13.1	10.9	11.4	11.3	3.8	**23.0**	13.7
利用料などを払えない	3.7	6.0	1.1	3.9	7.7	4.9	3.4
急な変更に応じてもらえない	6.4	5.1	4.5	4.9	0.0	11.5	6.7
ヘルパーや施設職員などの知識や経験が不足している	9.9	9.3	6.8	10.9	15.4	**21.3**	11.9
在宅や施設での障がい福祉サービスにおいて、不適切な言動や支援を受けたことがある	5.2	7.3	2.3	4.9	3.8	9.8	4.1
本人や家族の意向を尊重してもらえない	4.4	2.9	2.3	2.8	3.8	6.6	3.9
建物や設備が障がい特性に配慮されていない	2.5	2.2	5.7	0.7	11.5	3.3	4.1
サービス内容に関する情報が少ない	14.6	16.2	8.0	15.8	19.2	19.7	13.7
相談や手続きに時間がかかる	12.8	17.7	15.9	15.5	19.2	23.0	15.2
相談や手続きが面倒くさい	13.3	15.5	17.0	14.8	23.1	23.0	17.0
その他	4.7	6.0	3.4	6.7	7.7	6.6	4.6
特に困っていることはない	29.1	37.7	42.0	31.0	23.1	13.1	26.0
無回答	17.3	12.9	11.4	14.4	19.2	11.5	18.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

○利用しているサービスごとにみると、「利用したい日・時間に利用できない」は短期入所で34.1%、重度訪問介護で32.3%、生活介護などで30.4%と多くみられます。

単位：%	全体 (n=955)	グループホームなど (n=86)	居宅介護 (n=223)	重度訪問介護 (n=31)	同行援護や行動援護、移動支援など(n=270)	生活介護など (n=227)	就労選択支援 (n=93)	自立訓練、就労移行支援など(n=207)
サービス内容が障がい特性にあっていない	4.1	8.1	7.2	3.2	5.6	4.8	7.5	4.8
身近なところでサービスを利用できない	9.3	16.3	12.6	19.4	14.1	12.8	6.5	7.2
利用したい日・時間に利用できない	14.3	25.6	22.4	32.3	29.3	30.4	10.8	12.1
利用回数・時間などに制限がある	11.0	17.4	20.6	12.9	19.6	21.1	9.7	10.1
利用料などを払えない	5.3	3.5	6.7	9.7	3.7	3.5	4.3	6.3
急な変更に応じてもらえない	5.1	8.1	9.9	16.1	9.3	10.6	1.1	3.9
ヘルパーや施設職員などの知識や経験が不足している	9.2	14.0	15.2	9.7	14.1	15.4	6.5	7.7
在宅や施設での障がい福祉サービスにおいて、不適切な言動や支援を受けたことがある	5.3	9.3	13.0	16.1	8.1	8.8	2.2	5.8
本人や家族の意向を尊重してもらえない	3.6	8.1	9.0	16.1	7.0	6.6	1.1	2.9
建物や設備が障がい特性に配慮されていない	2.9	8.1	4.9	6.5	4.1	4.0	3.2	2.4
サービス内容に関する情報が少ない	14.6	9.3	13.0	9.7	14.4	15.4	11.8	19.3
相談や手続きに時間がかかる	14.9	18.6	17.5	9.7	17.8	17.6	15.1	18.8
相談や手続きが面倒くさい	14.7	18.6	15.7	12.9	15.6	14.5	12.9	16.4
その他	5.3	4.7	4.0	3.2	6.3	4.0	5.4	6.8
特に困っていることはない	34.9	29.1	34.1	38.7	23.0	24.7	35.5	34.8
無回答	15.3	11.6	11.7	16.1	15.2	11.0	17.2	12.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

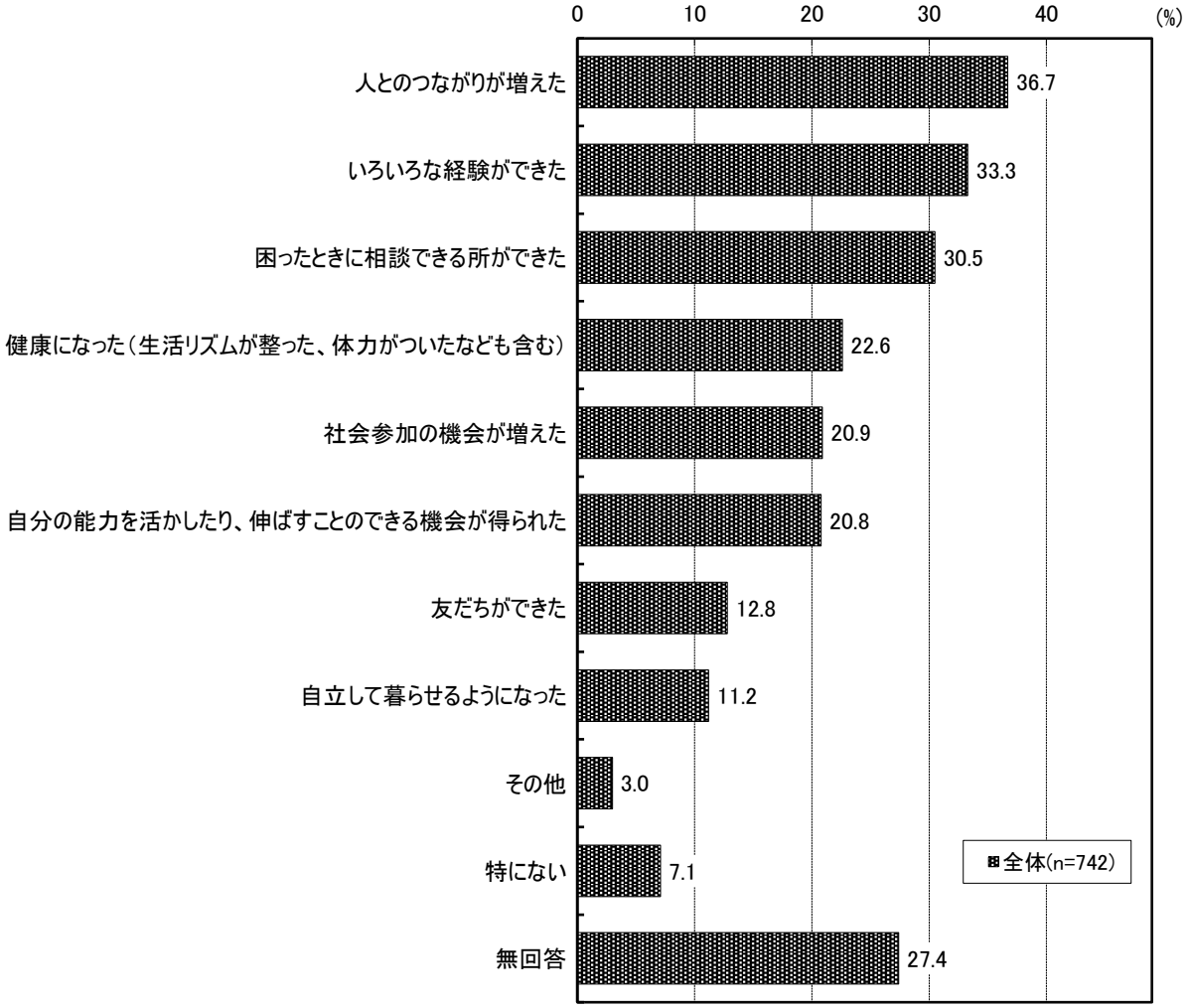
単位：%	就労継続支援A型、B型など (n=327)	地域活動支援センター (n=97)	短期入所 (n=126)	点字、メール、手話、要約筆記など (n=28)	車いす・補聴器などの補装具や日常生活用具の利用(n=81)	計画相談など (n=286)	その他 (n=16)
サービス内容が障がい特性にあっていない	5.5	12.4	2.4	**14.3**	3.7	5.2	12.5
身近なところでサービスを利用できない	8.9	12.4	7.9	14.3	12.3	12.9	**25.0**
利用したい日・時間に利用できない	13.5	22.7	**34.1**	21.4	**29.6**	22.7	18.8
利用回数・時間などに制限がある	10.1	18.6	**21.4**	7.1	14.8	15.0	12.5
利用料などを払えない	6.4	6.2	2.4	0.0	6.2	4.9	6.3
急な変更に応じてもらえない	4.9	5.2	6.3	7.1	6.2	10.1	0.0
ヘルパーや施設職員などの知識や経験が不足している	9.2	16.5	14.3	10.7	13.6	15.7	6.3
在宅や施設での障がい福祉サービスにおいて、不適切な言動や支援を受けたことがある	7.0	**15.5**	8.7	**21.4**	4.9	10.1	6.3
本人や家族の意向を尊重してもらえない	3.7	6.2	5.6	7.1	4.9	5.6	12.5
建物や設備が障がい特性に配慮されていない	2.1	7.2	3.2	3.6	12.3	4.5	**12.5**
サービス内容に関する情報が少ない	14.1	18.6	9.5	10.7	11.1	19.6	12.5
相談や手続きに時間がかかる	14.4	22.7	15.9	21.4	19.8	20.6	12.5
相談や手続きが面倒くさい	12.8	19.6	15.1	14.3	21.0	18.2	12.5
その他	4.9	4.1	7.1	7.1	4.9	4.9	6.3
特に困っていることはない	37.6	27.8	19.0	35.7	37.0	28.0	37.5
無回答	13.5	12.4	16.7	7.1	7.4	13.6	6.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

③ 福祉サービスを利用して良かったこと

◆福祉サービスを利用して良かったことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

支援プラン（18歳以上）アンケート



※何らかの福祉サービスを利用していると答えた人に対する設問

○「人とのつながりが増えた」が36.7％と最も多く、次いで「いろいろな経験ができた」が33.3％、「困ったときに相談できる所ができた」が30.5％、「健康になった（生活リズムが整った、体力がついたなども含む）」が22.6％、「社会参加の機会が増えた」が20.9％、「自分の能力を活かしたり、伸ばすことのできる機会が得られた」が20.8％の順となっています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=742)	男性 (n=364)	女性 (n=348)	その他・答えたくない (n=12)	18歳～29歳 (n=193)	30歳～39歳 (n=151)	40歳～64歳 (n=309)	65歳以上 (n=72)
自立して暮らせるようになった	11.2	10.2	12.4	0.0	6.2	9.9	12.9	18.1
自分の能力を活かしたり、伸ばすことのできる機会が得られた	20.8	19.0	21.8	58.3	20.2	21.2	22.3	18.1
友だちができた	12.8	11.5	14.7	8.3	14.5	11.9	12.3	13.9
人とのつながりが増えた	36.7	37.6	35.6	50.0	38.3	40.4	33.0	43.1
いろいろな経験ができた	33.3	36.3	31.3	41.7	40.4	36.4	30.7	25.0
社会参加の機会が増えた	20.9	23.9	18.7	25.0	22.3	23.8	18.8	25.0
健康になった（生活リズムが整った、体力がついたなども含む）	22.6	23.1	22.1	33.3	20.2	29.8	20.7	23.6
困ったときに相談できる所ができた	30.5	29.4	32.2	33.3	32.1	32.5	30.4	26.4
その他	3.0	3.0	3.2	0.0	1.6	6.6	2.6	1.4
特にない	7.1	6.0	8.6	0.0	4.7	7.9	6.1	**16.7**
無回答	27.4	28.3	25.3	16.7	24.4	21.9	31.4	22.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	身体障がい (n=178)	身体障がい (18～64歳) (n=136)	身体障がい (65歳以上) (n=38)	視覚障がい (n=39)	聴覚・平衡機能障がい (n=21)	音声・言語、そしゃく機能障がい(n=11)	肢体不自由 (n=94)	内部障がい (n=24)
自立して暮らせるようになった	15.7	13.2	**23.7**	12.8	9.5	0.0	19.1	12.5
自分の能力を活かしたり、伸ばすことのできる機会が得られた	15.7	14.0	21.1	15.4	9.5	0.0	13.8	16.7
友だちができた	11.2	11.0	13.2	7.7	14.3	0.0	10.6	12.5
人とのつながりが増えた	34.8	33.8	39.5	25.6	28.6	27.3	43.6	29.2
いろいろな経験ができた	31.5	33.1	26.3	20.5	33.3	18.2	37.2	25.0
社会参加の機会が増えた	16.3	13.2	28.9	15.4	14.3	9.1	20.2	16.7
健康になった（生活リズムが整った、体力がついたなども含む）	17.4	15.4	21.1	12.8	14.3	9.1	18.1	12.5
困ったときに相談できる所ができた	23.6	23.5	26.3	20.5	9.5	9.1	26.6	25.0
その他	2.8	2.9	2.6	2.6	4.8	0.0	3.2	4.2
特にない	13.5	11.8	**18.4**	**20.5**	19.0	9.1	8.5	16.7
無回答	25.8	26.5	23.7	30.8	28.6	63.6	23.4	29.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	知的障がい (n=332)	精神障がい (n=385)	難病 (n=51)	発達障がい (n=248)	高次脳機能障がい (n=21)	強度行動障がい (n=59)	重度障がい (n=319)
自立して暮らせるようになった	4.2	14.5	17.6	7.3	19.0	0.0	7.5
自分の能力を活かしたり、伸ばすことのできる機会が得られた	15.1	24.7	23.5	28.2	33.3	22.0	14.7
友だちができた	13.9	13.5	13.7	14.9	28.6	15.3	11.3
人とのつながりが増えた	36.7	37.1	45.1	40.7	76.2	**50.8**	36.7
いろいろな経験ができた	38.0	31.9	39.2	**44.0**	57.1	**52.5**	37.6
社会参加の機会が増えた	19.6	22.9	23.5	24.2	28.6	23.7	18.2
健康になった（生活リズムが整った、体力がついたなども含む）	17.2	26.8	19.6	23.8	28.6	27.1	17.6
困ったときに相談できる所ができた	24.4	37.9	29.4	29.0	38.1	39.0	23.8
その他	3.6	3.4	3.9	2.8	0.0	1.7	2.8
特にない	5.1	5.7	15.7	4.4	4.8	1.7	7.2
無回答	30.4	26.0	17.6	23.8	9.5	20.3	27.6

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	全体 (n=742)	グループホームなど (n=86)	居宅介護 (n=223)	重度訪問介護 (n=31)	同行援護や行動援護、移動支援など(n=270)	生活介護など (n=227)	就労選択支援 (n=93)	自立訓練、就労移行支援など(n=207)
自立して暮らせるようになった	11.2	17.4	20.2	**25.8**	10.7	7.0	14.0	11.6
自分の能力を活かしたり、伸ばすことのできる機会が得られた	20.8	16.3	14.8	16.1	16.3	15.9	24.7	27.5
友だちができた	12.8	17.4	10.3	12.9	13.3	13.7	12.9	17.4
人とのつながりが増えた	36.7	37.2	38.1	**58.1**	41.1	43.2	32.3	38.6
いろいろな経験ができた	33.3	34.9	28.7	**45.2**	41.9	**43.6**	28.0	36.7
社会参加の機会が増えた	20.9	24.4	17.0	22.6	21.5	22.9	21.5	28.0
健康になった（生活リズムが整った、体力がついたなども含む）	22.6	24.4	24.2	19.4	21.5	20.3	29.0	29.0
困ったときに相談できる所ができた	30.5	39.5	30.5	**45.2**	31.5	30.4	35.5	34.3
その他	3.0	3.5	4.0	0.0	3.3	3.1	0.0	2.9
特にない	7.1	7.0	9.4	6.5	5.9	4.8	6.5	4.3
無回答	27.4	25.6	26.9	25.8	26.7	25.1	32.3	29.5

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

単位：%	就労継続支援A型、B型など (n=327)	地域活動支援センター (n=97)	短期入所 (n=126)	点字、メール、手話、要約筆記など (n=28)	車いす・補聴器などの補装具や日常生活用具の利用(n=81)	計画相談など (n=286)	その他 (n=16)
自立して暮らせるようになった	11.9	15.5	4.8	**25.0**	16.0	15.0	12.5
自分の能力を活かしたり、伸ばすことのできる機会が得られた	26.3	24.7	15.9	**32.1**	14.8	22.4	50.0
友だちができた	17.1	21.6	16.7	14.3	9.9	12.6	25.0
人とのつながりが増えた	36.4	37.1	41.3	39.3	39.5	39.2	43.8
いろいろな経験ができた	33.0	39.2	**53.2**	**46.4**	32.1	38.1	37.5
社会参加の機会が増えた	27.8	26.8	19.0	17.9	18.5	24.5	31.3
健康になった（生活リズムが整った、体力がついたなども含む）	22.6	24.7	19.8	17.9	14.8	24.5	25.0
困ったときに相談できる所ができた	31.5	**42.3**	29.4	25.0	32.1	39.5	37.5
その他	1.2	3.1	3.2	0.0	2.5	3.8	6.3
特にない	4.9	5.2	3.2	**17.9**	9.9	4.9	6.3
無回答	30.9	29.9	23.0	21.4	25.9	27.3	25.0

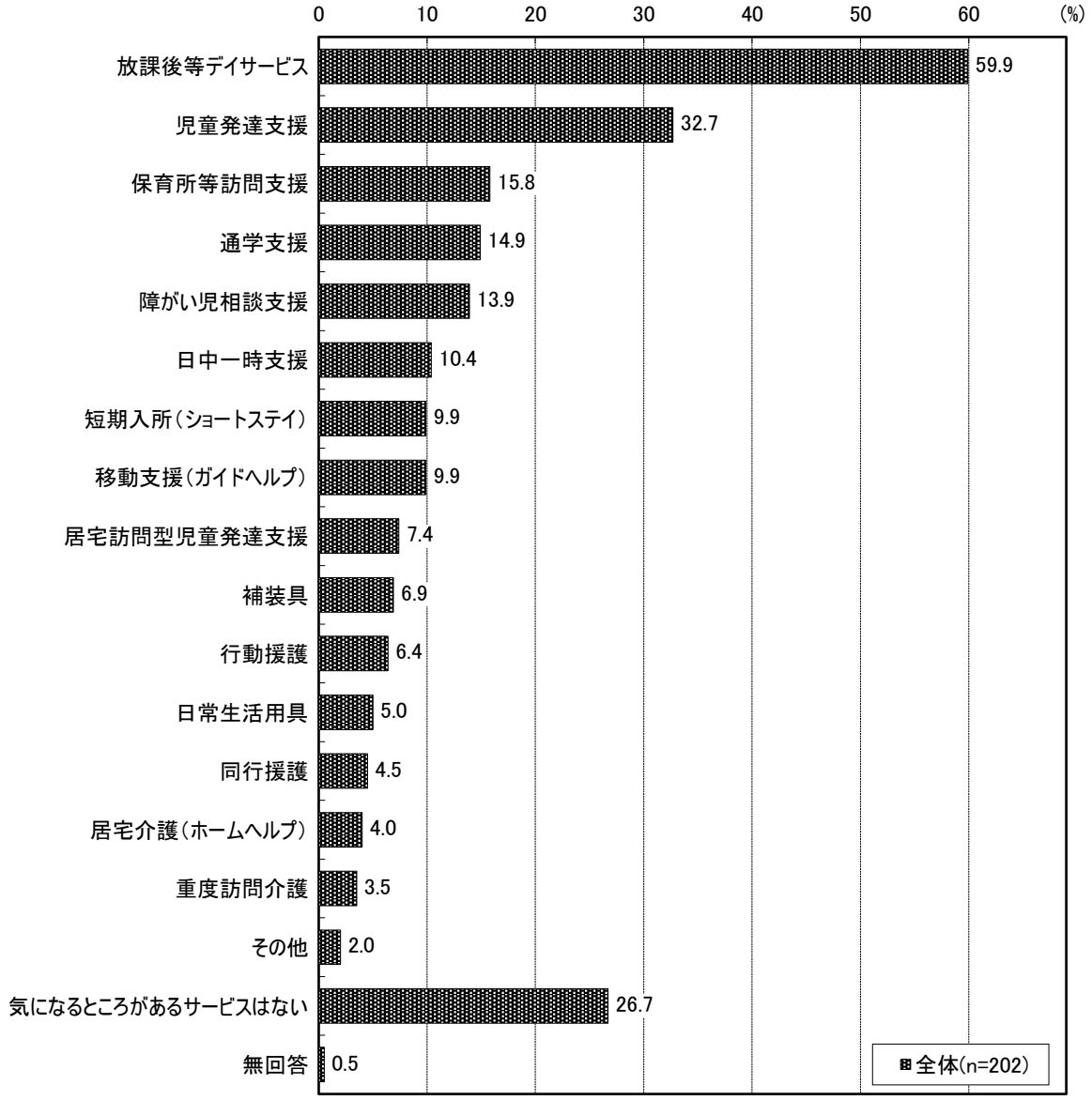
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

13　障がい児通所サービス等

① 気になるところがあるサービス

◆障がい児通所サービス等について、①から③にお答えください。
①気になるところがあるサービス（あてはまるものをすべて選ぶ）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「放課後等デイサービス」が59.9％と最も多く、次いで「児童発達支援」が32.7％となっており、「気になるところがあるサービスはない」は26.7％となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０～５歳児で「児童発達支援」が50.0％、小学生で「放課後等デイサービス」が67.9％と多くみられます。

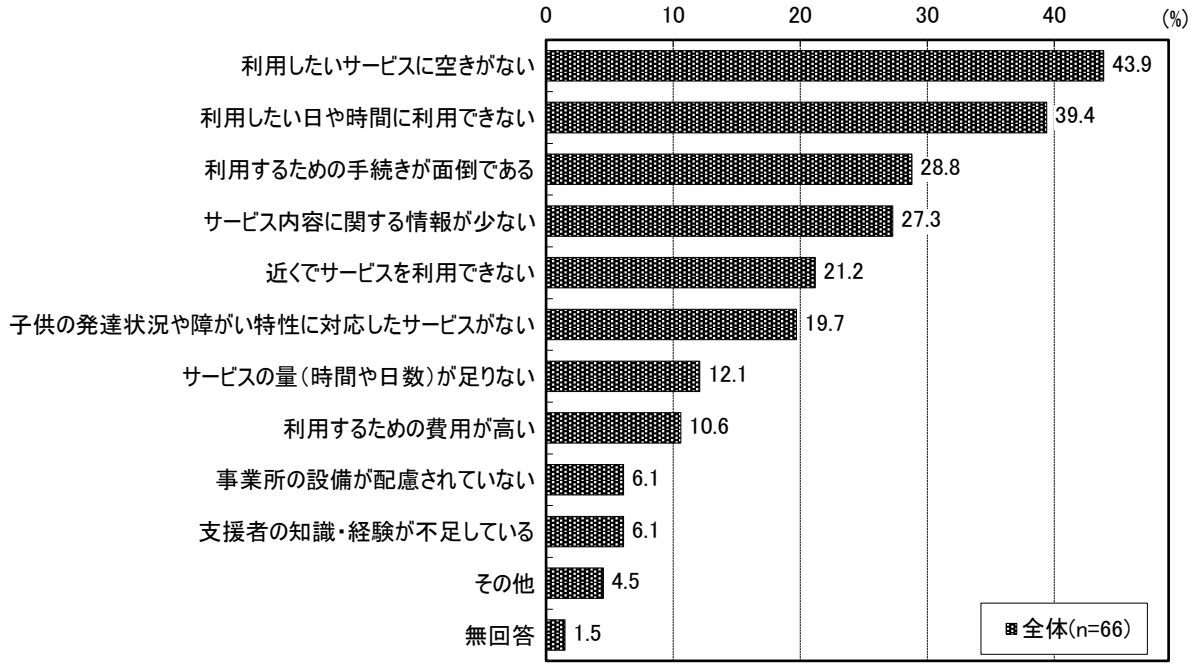
○障がい種別ごとにみると、精神障がいで「放課後等デイサービス」が71.4％と全体値を大きく上回っています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
児童発達支援	32.7	**50.0**	30.2	16.7	15.8	36.5	28.6	6.3	36.8	19.0
居宅訪問型児童発達支援	7.4	3.7	10.4	4.8	5.3	11.1	9.5	0.0	9.5	4.8
放課後等デイサービス	59.9	46.3	67.9	57.1	42.1	65.1	**71.4**	43.8	66.3	42.9
保育所等訪問支援	15.8	14.8	17.9	11.9	15.8	19.0	19.0	18.8	18.9	11.9
障がい児相談支援	13.9	14.8	13.2	14.3	10.5	20.6	**28.6**	18.8	21.1	9.5
居宅介護（ホームヘルプ）	4.0	3.7	3.8	4.8	5.3	6.3	0.0	0.0	6.3	4.8
重度訪問介護	3.5	1.9	3.8	4.8	10.5	4.8	0.0	6.3	4.2	7.1
同行援護	4.5	1.9	4.7	7.1	5.3	9.5	0.0	0.0	7.4	4.8
行動援護	6.4	3.7	7.5	7.1	5.3	12.7	0.0	0.0	11.6	7.1
短期入所（ショートステイ）	9.9	5.6	11.3	11.9	15.8	**23.8**	14.3	12.5	15.8	**23.8**
日常生活用具	5.0	3.7	4.7	7.1	21.1	7.9	0.0	**18.8**	4.2	14.3
補装具	6.9	3.7	8.5	7.1	**31.6**	9.5	4.8	12.5	5.3	16.7
移動支援（ガイドヘルプ）	9.9	5.6	12.3	9.5	**21.1**	**20.6**	19.0	18.8	12.6	**21.4**
通学支援	14.9	22.2	12.3	11.9	21.1	**25.4**	9.5	18.8	16.8	16.7
日中一時支援	10.4	7.4	11.3	11.9	10.5	**20.6**	9.5	12.5	13.7	14.3
その他	2.0	0.0	2.8	2.4	0.0	3.2	4.8	0.0	2.1	2.4
利用したいサービスはない	26.7	35.2	22.6	26.2	31.6	17.5	9.5	31.3	22.1	28.6
無回答	0.5	1.9	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

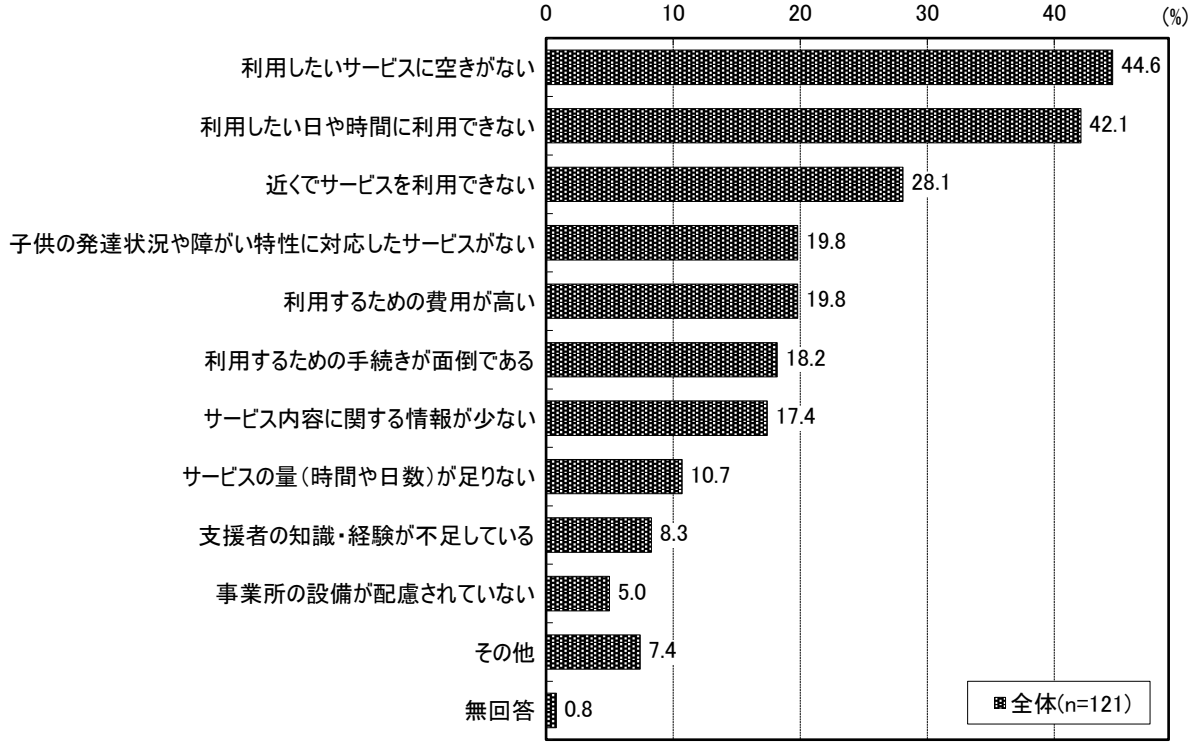
（1）児童発達支援の気になるところ



※児童発達支援について気になることがあると答えた人に対する設問

○「利用したいサービスに空きがない」が43.9%、「利用したい日や時間に利用できない」が39.4%と多く、量的課題が中心となっています。

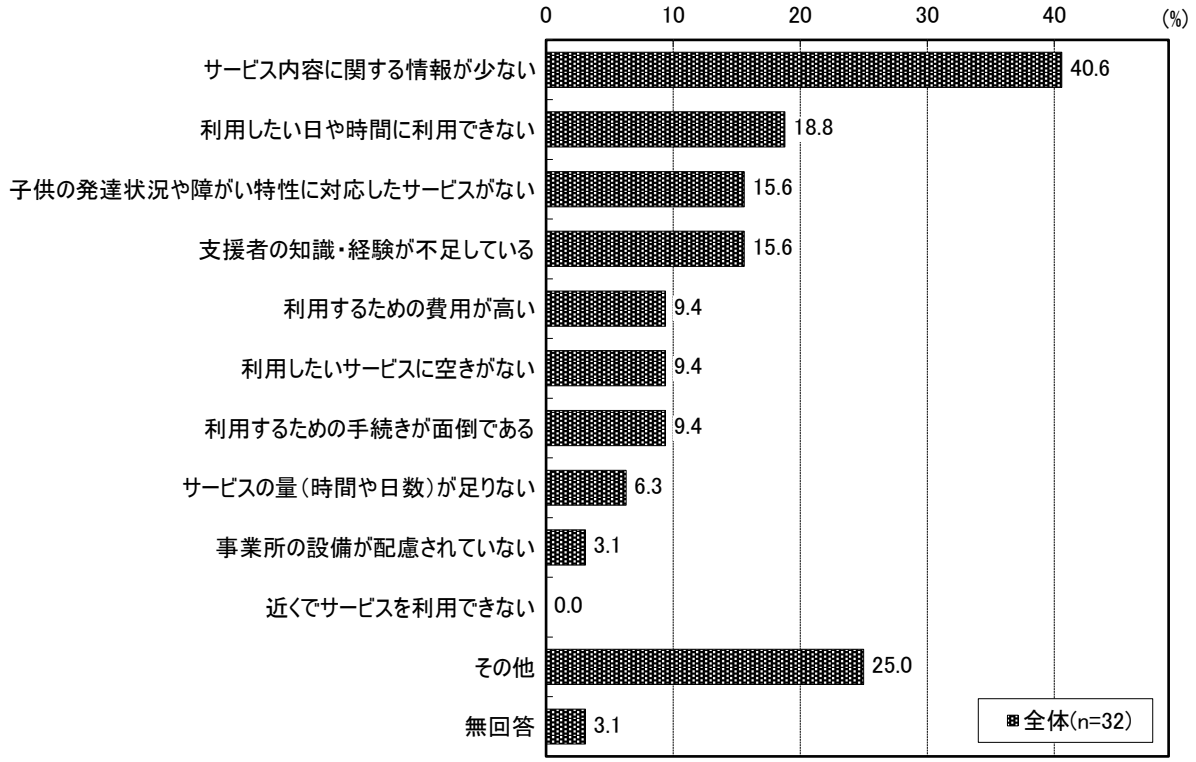
（3）放課後等デイサービスの気になるところ



※放課後等デイサービスについて気になることがあると答えた人に対する設問

○「利用したいサービスに空きがない」が44.6%、「利用したい日や時間に利用できない」が42.1%で、量的課題が中心となっています。

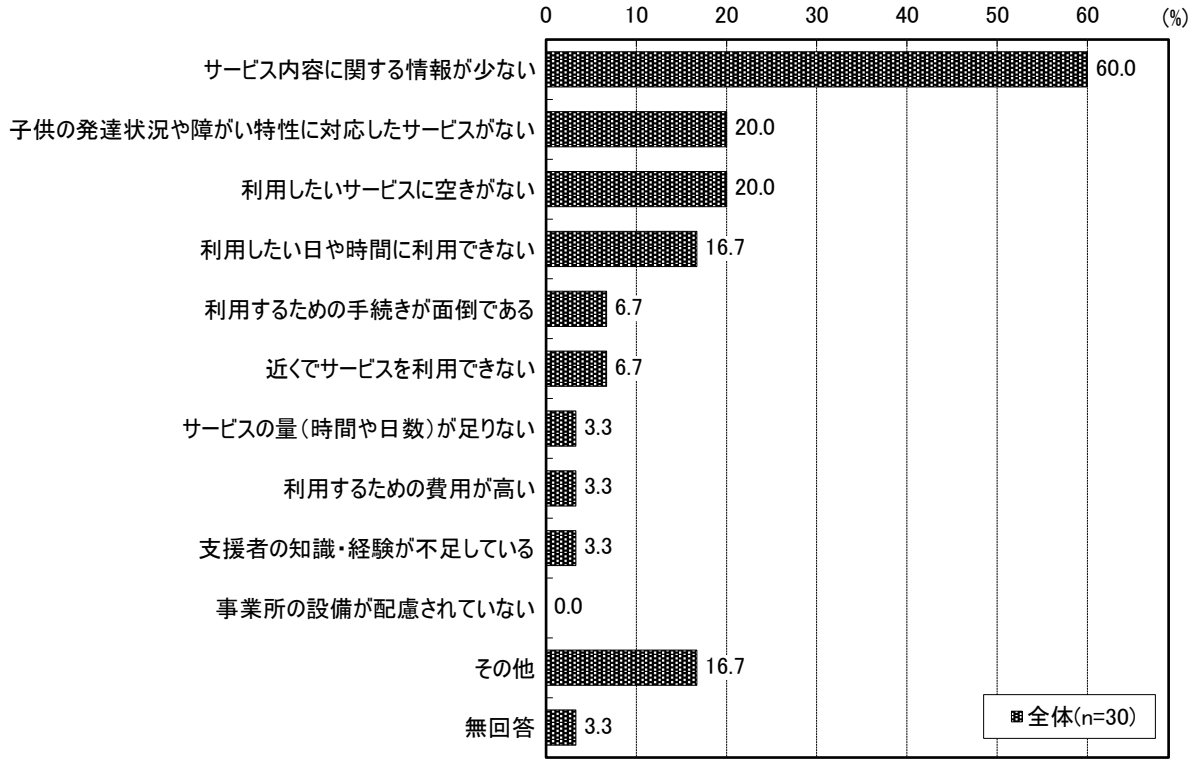
（４）保育所等訪問支援の気になるところ



※保育所等訪問支援について気になることがあると答えた人に対する設問

○「サービス内容に関する情報が少ない」が40.6%となっています。

(14) 通学支援の気になるところ



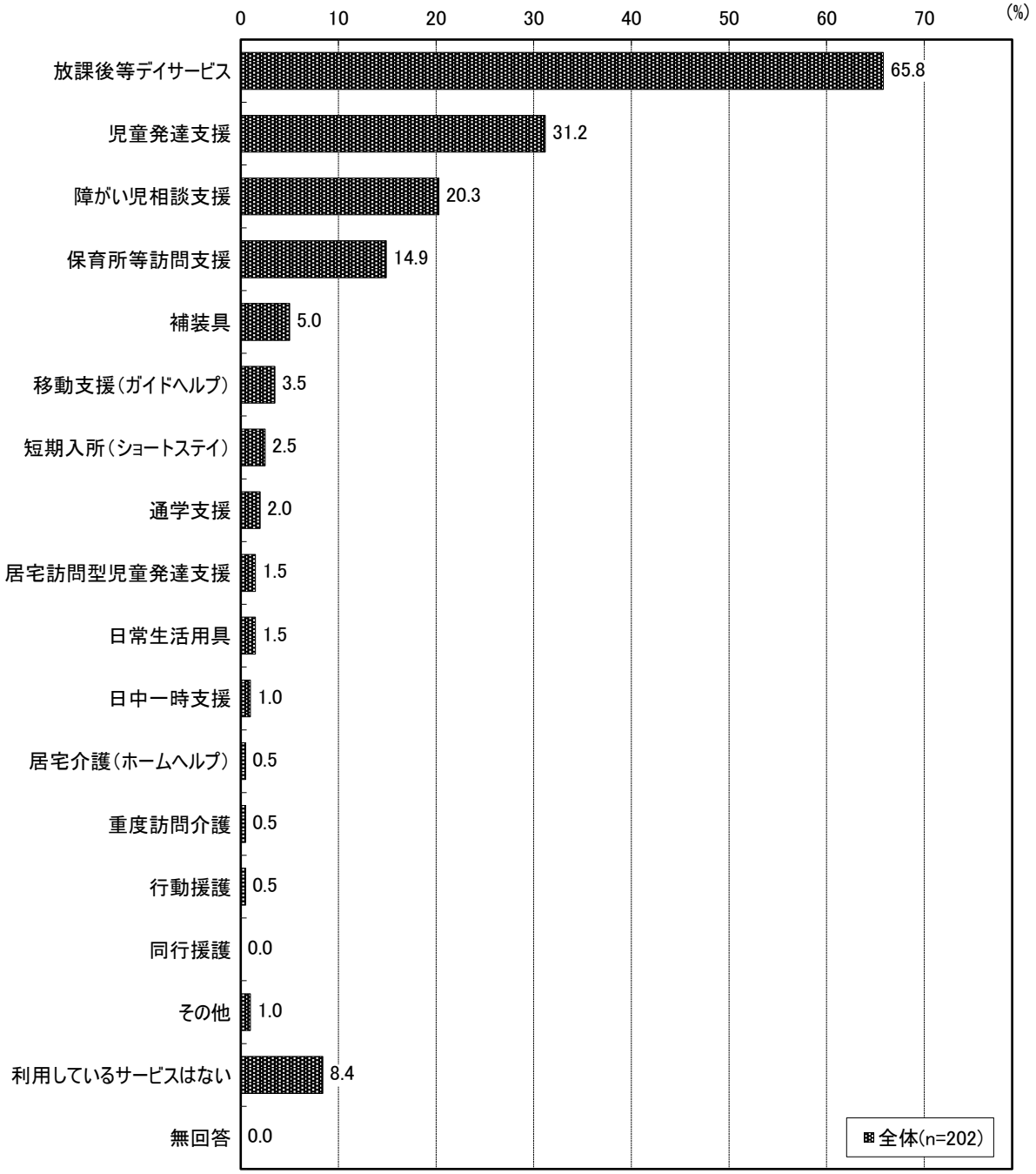
※通学支援について気になることがあると答えた人に対する設問

○「サービス内容に関する情報が少ない」が60.0%となっています。

② 現在利用しているサービス

◆障がい児通所サービス等について、①から③にお答えください。
②現在の利用の有無（利用しているサービスの種類ごとに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「放課後等デイサービス」が65.8%と最も多く、次いで「児童発達支援」が31.2%、「障がい児相談支援」が20.3%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○障がい種別ごとにみると、身体障がいで「補装具」が47.4%と全体値を大きく上回っています。一方、精神障がいでは「利用しているサービスはない」が19.0%となっています。

（属性別クロス集計）

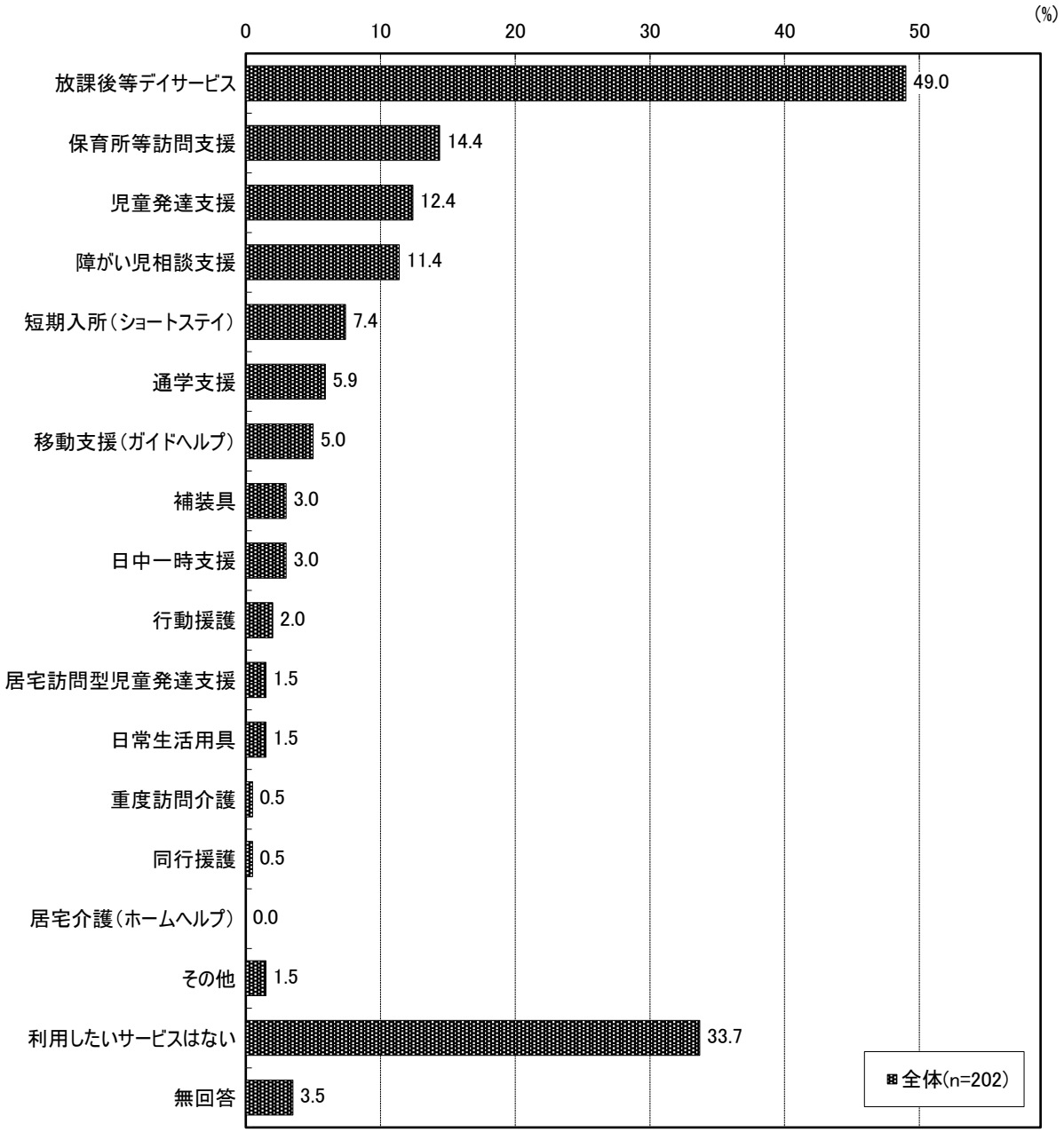
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
児童発達支援	31.2	**83.3**	14.2	7.1	36.8	39.7	19.0	37.5	25.3	33.3
居宅訪問型児童発達支援	1.5	1.9	1.9	0.0	10.5	4.8	4.8	6.3	0.0	4.8
放課後等デイサービス	65.8	7.4	**88.7**	**83.3**	52.6	68.3	**76.2**	68.8	**76.8**	61.9
保育所等訪問支援	14.9	9.3	20.8	7.1	15.8	12.7	23.8	12.5	15.8	9.5
障がい児相談支援	20.3	16.7	21.7	21.4	15.8	**36.5**	23.8	**37.5**	24.2	31.0
居宅介護（ホームヘルプ）	0.5	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	4.8	0.0	1.1	0.0
重度訪問介護	0.5	0.0	0.9	0.0	5.3	0.0	0.0	6.3	0.0	2.4
同行援護	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
行動援護	0.5	0.0	0.9	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	1.1	2.4
短期入所（ショートステイ）	2.5	0.0	3.8	2.4	5.3	7.9	0.0	6.3	3.2	11.9
日常生活用具	1.5	0.0	2.8	0.0	**15.8**	3.2	0.0	**12.5**	0.0	7.1
補装具	5.0	1.9	5.7	7.1	**47.4**	7.9	4.8	**25.0**	0.0	**21.4**
移動支援（ガイドヘルプ）	3.5	0.0	1.9	11.9	**15.8**	9.5	9.5	12.5	5.3	**14.3**
通学支援	2.0	0.0	1.9	4.8	5.3	1.6	**14.3**	6.3	3.2	2.4
日中一時支援	1.0	0.0	0.0	4.8	0.0	1.6	4.8	0.0	2.1	2.4
その他	1.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	1.1	0.0
利用したいサービスはない	8.4	13.0	5.7	9.5	5.3	4.8	**19.0**	6.3	6.3	4.8
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

③ 今後３年以内に利用を希望するサービス

◆障がい児通所サービス等について、①から③にお答えください。
③今後３年以内の利用について（今後３年以内に利用を希望するサービスに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「放課後等デイサービス」が49.0％と最も多く、続いて「利用したいサービスはない」が33.7％、「保育所等訪問支援」が14.4％、「児童発達支援」が12.4％、「障がい児相談支援」が11.4％、「短期入所（ショートステイ）」が7.4％の順となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○障がい種別ごとにみると、精神障がいで「利用したいサービスはない」が52.4％と多く、知的障がいでは「短期入所」が20.6％と全体値を大きく上回っています。

（属性別クロス集計）

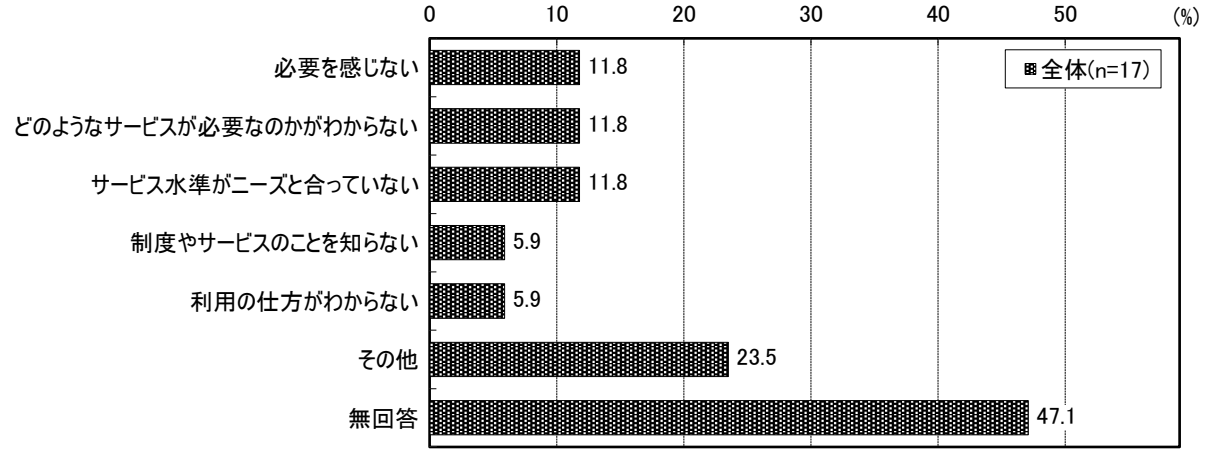
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
児童発達支援	12.4	**35.2**	5.7	0.0	21.1	6.3	0.0	12.5	6.3	9.5
居宅訪問型児童発達支援	1.5	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	2.4
放課後等デイサービス	49.0	51.9	54.7	31.0	26.3	47.6	33.3	43.8	52.6	40.5
保育所等訪問支援	14.4	**25.9**	13.2	2.4	15.8	12.7	14.3	18.8	13.7	11.9
障がい児相談支援	11.4	11.1	13.2	7.1	15.8	20.6	14.3	**31.3**	10.5	19.0
居宅介護（ホームヘルプ）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重度訪問介護	0.5	0.0	0.9	0.0	5.3	0.0	0.0	6.3	0.0	2.4
同行援護	0.5	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	2.4
行動援護	2.0	1.9	1.9	2.4	0.0	4.8	0.0	0.0	3.2	2.4
短期入所（ショートステイ）	7.4	3.7	8.5	9.5	5.3	**20.6**	4.8	**18.8**	10.5	**21.4**
日常生活用具	1.5	1.9	1.9	0.0	**15.8**	3.2	0.0	**18.8**	0.0	7.1
補装具	3.0	1.9	2.8	4.8	**31.6**	4.8	0.0	**31.3**	0.0	**14.3**
移動支援（ガイドヘルプ）	5.0	1.9	4.7	9.5	10.5	9.5	14.3	12.5	7.4	14.3
通学支援	5.9	7.4	6.6	2.4	15.8	**15.9**	4.8	**18.8**	8.4	14.3
日中一時支援	3.0	1.9	4.7	0.0	0.0	4.8	4.8	0.0	4.2	4.8
その他	1.5	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0
利用したいサービスはない	33.7	18.5	35.8	**47.6**	31.6	31.7	**52.4**	6.3	31.6	31.0
無回答	3.5	1.9	3.8	4.8	5.3	3.2	9.5	12.5	4.2	2.4

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

④ 通所サービスを利用しない理由

◆障がい児通所サービス等を利用しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



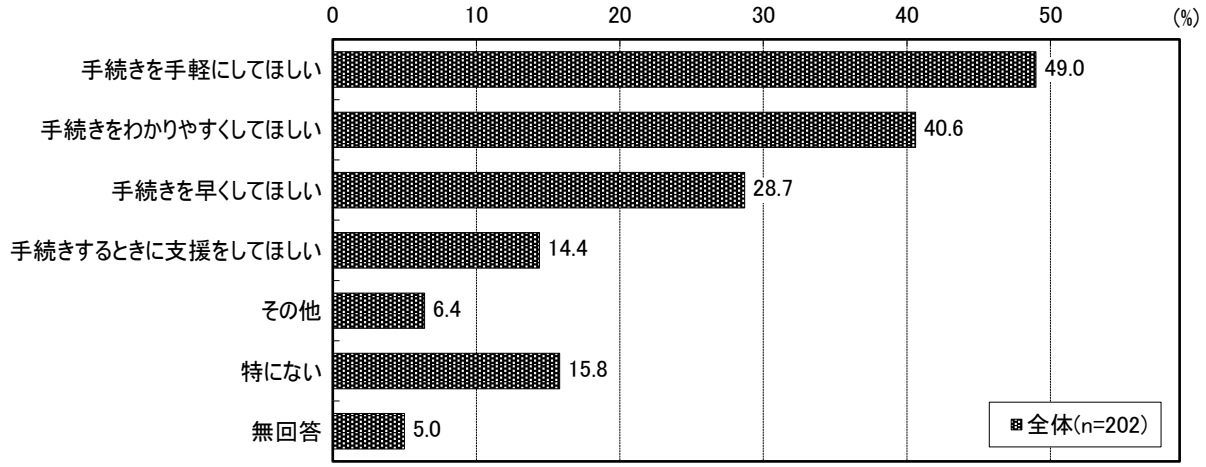
※障がい児通所サービス等を利用していないと答えた人に対する設問

○「必要を感じない」「どのようなサービスが必要かわからない」「サービス水準がニーズと合っていない」がそれぞれ11.8%となっています。

⑤ 障がい児通所受給者証を取得するための手続きへの要望

◆障がい児通所受給者証を取得するための手続きを行うにあたって望むことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「手続きを手軽にしてほしい」が49.0%と最も多く、次いで「手続きをわかりやすくしてほしい」が40.6%となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○障がい種別ごとにみると、精神障がいで「手続きを手軽にしてほしい」が76.2%、「わかりやすくしてほしい」が61.9%と全体値を大きく上回っています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
手続きを早くしてほしい	28.7	31.5	24.5	35.7	26.3	31.7	**42.9**	31.3	27.4	28.6
手続きをわかりやすくしてほしい	40.6	44.4	39.6	38.1	26.3	38.1	**61.9**	25.0	43.2	35.7
手続きを手軽にしてほしい	49.0	40.7	51.9	52.4	42.1	47.6	**76.2**	50.0	52.6	45.2
手続きするときに支援をしてほしい	14.4	11.1	15.1	16.7	5.3	12.7	14.3	6.3	15.8	7.1
その他	6.4	1.9	10.4	2.4	5.3	7.9	9.5	6.3	7.4	2.4
特にない	15.8	22.2	13.2	14.3	21.1	12.7	0.0	37.5	12.6	19.0
無回答	5.0	3.7	3.8	9.5	**15.8**	7.9	0.0	0.0	4.2	11.9

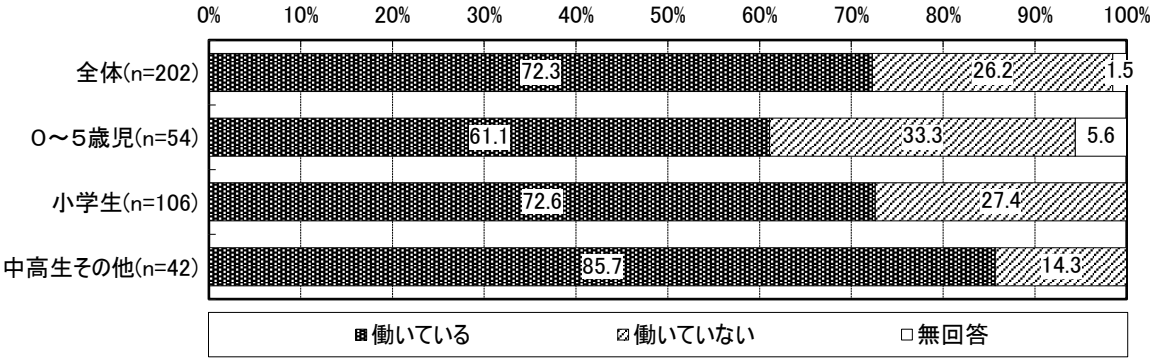
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

14　保護者の社会参加の状況

①　保護者の就労状況

◆あなた（保護者）は現在、働いていますか。（○は１つ）

支援プラン（18歳未満）アンケート

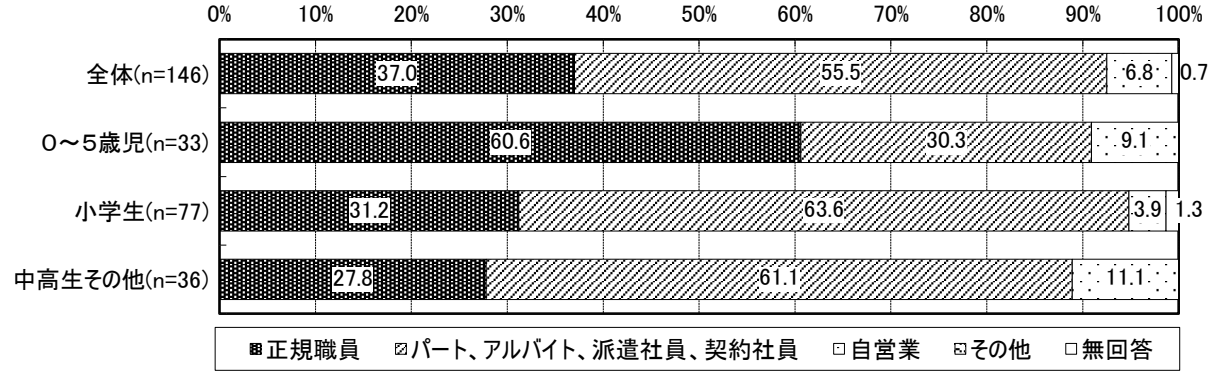


○「働いている」が72.3%、「働いていない」が26.2%となっており、約７割の保護者が就労している状況となっています。

○子供の年齢別にみると、０～５歳児で「働いている」が61.1%、中高生その他では85.7%と、子供の成長に伴い就労率が高まる傾向がみられます。

◆どのような勤務形態ですか。（○は１つ）

支援プラン（18歳未満）アンケート

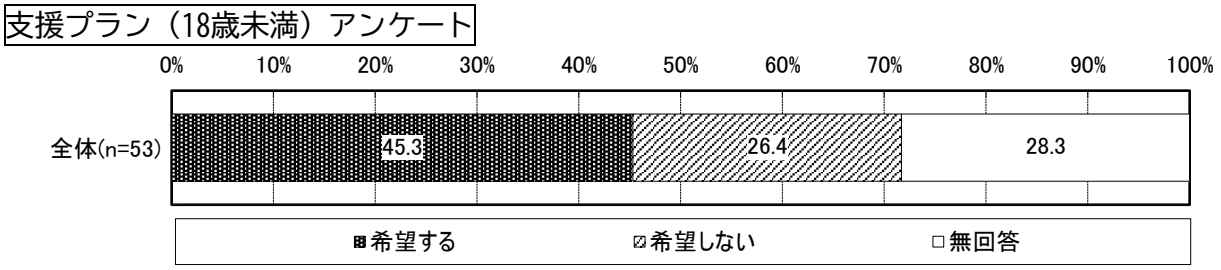


※働いている保護者に対する設問

○「パート、アルバイト、派遣社員、契約社員」が55.5%、「正規職員」は37.0%と、非正規雇用が過半数を占めています。

○子供の年齢別にみると、０～５歳児で「正規職員」が60.6%と全体値を大きく上回っている一方、小学生では「パート、アルバイト、派遣社員、契約社員」が63.6%、中高生その他でも61.1%と多く、学齢期において柔軟な働き方を選択している様子がうかがえます。

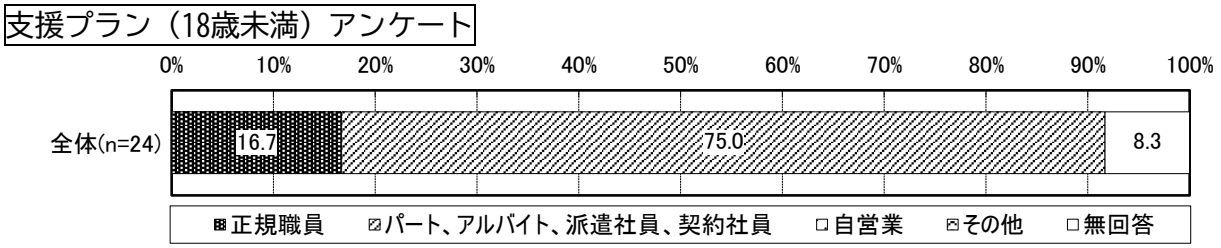
◆あなたは、働くことを希望しますか。（○は１つ）



※働いていない保護者に対する設問

○現在、働いていない人に就労希望を尋ねたところ、「希望する」が45.3%、「希望しない」が26.4%、「無回答」が28.3%となっています。

◆あなたは、どのような勤務形態を希望しますか。（○は１つ）



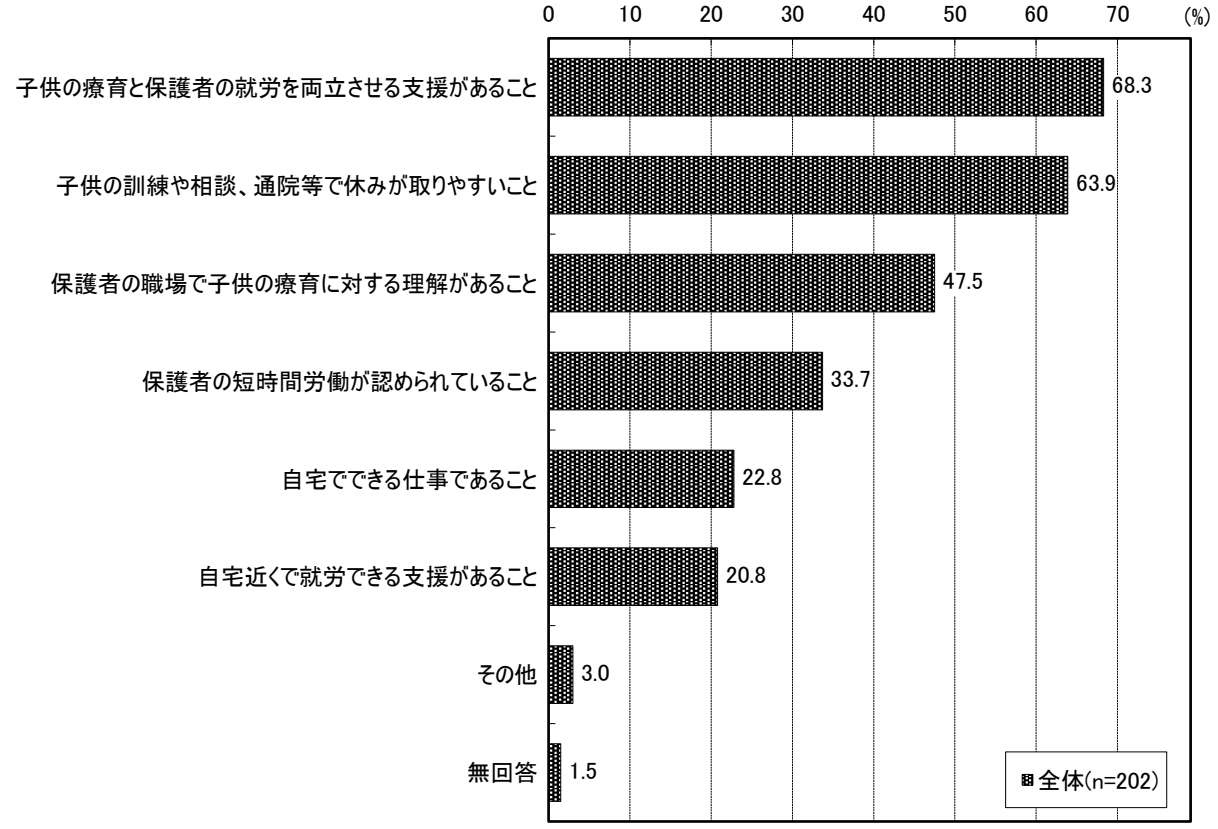
※現在働いておらず、今後働くことを希望する保護者に対する設問

○「パート、アルバイト、派遣社員、契約社員」が75.0%と多く、「正規職員」は16.7%にとどまっています。

② 保護者の就労に必要な支援

◆保護者の就労に関して、必要な支援とは何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「子供の療育と保護者の就労を両立させる支援があること」が68.3%、「子供の訓練や相談、通院等で休みが取りやすいこと」が63.9%と多く、「保護者の職場で子供の療育に対する理解があること」が47.5%と重要視されています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○障がい種別ごとにみると、「子供の訓練や相談、通院等で休みが取りやすいこと」が身体障がいで78.9%、精神障がいで76.2%とそれぞれ多くみられます。

（属性別クロス集計）

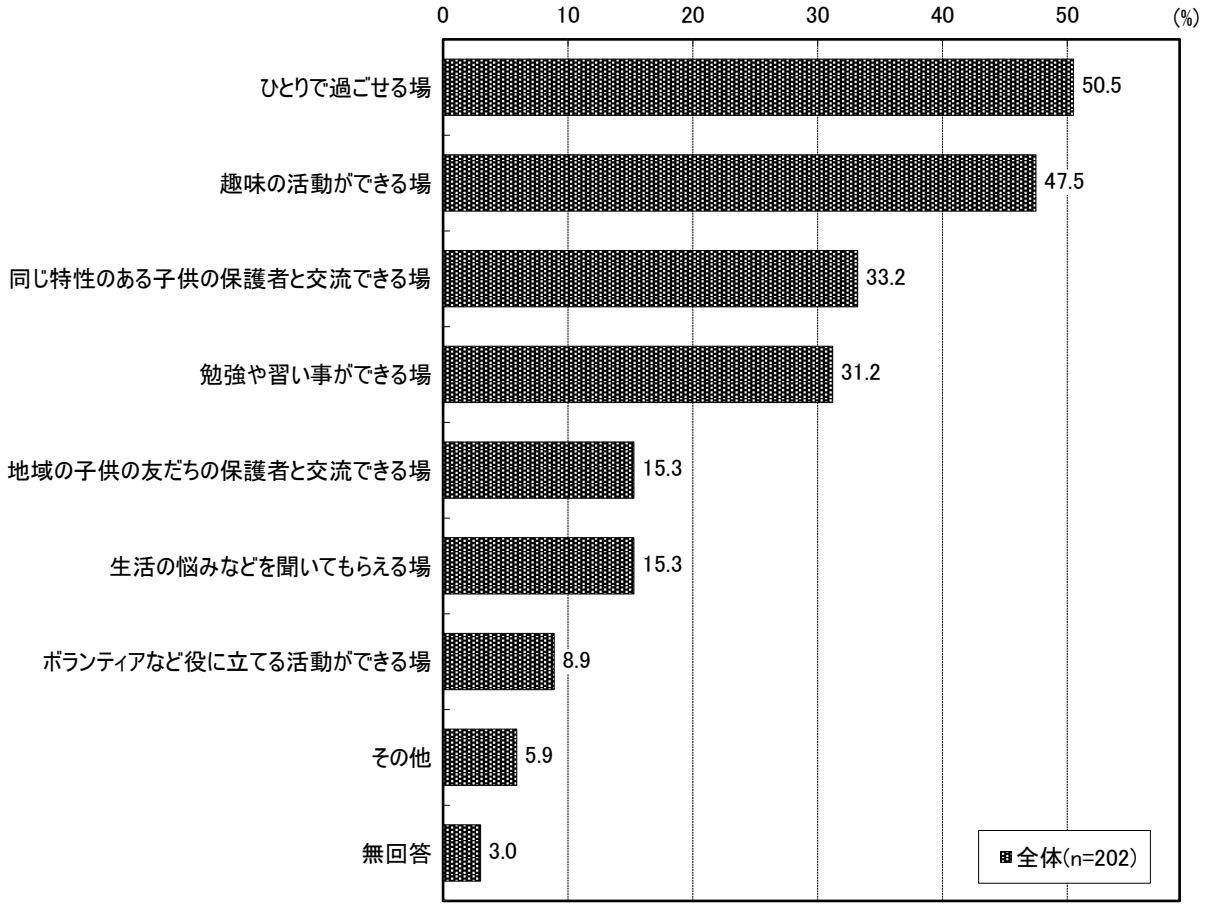
単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
子供の療育と保護者の就労を両立させる支援があること	68.3	68.5	67.9	69.0	63.2	76.2	76.2	56.3	69.5	73.8
子供の訓練や相談、通院等で休みが取りやすいこと	63.9	64.8	61.3	69.0	**78.9**	66.7	**76.2**	56.3	63.2	66.7
保護者の職場で子供の療育に対する理解があること	47.5	46.3	49.1	45.2	**63.2**	47.6	42.9	**62.5**	46.3	57.1
保護者の短時間労働が認められていること	33.7	18.5	38.7	40.5	21.1	34.9	33.3	25.0	41.1	33.3
自宅でできる仕事であること	22.8	31.5	20.8	16.7	15.8	22.2	23.8	18.8	25.3	19.0
自宅近くで就労できる支援があること	20.8	16.7	23.6	19.0	15.8	20.6	9.5	25.0	18.9	19.0
その他	3.0	3.7	1.9	4.8	5.3	6.3	4.8	12.5	2.1	7.1
無回答	1.5	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

③ 休日などに行ってみたい場所

◆あなたは、お休みの日などにどのような場に行ってみたいですか。（あてはまるもの３つまでに○）

支援プラン（18歳未満）アンケート



○「ひとりで過ごせる場」が50.5％と最も多く、次いで「趣味の活動ができる場」が47.5％となっています。

[属性別クロス集計（全体構成比より10ポイント以上高いもの）の特徴]

○年齢別にみると、０～５歳児で「同じ特性のある子供の保護者と交流できる場」が51.9％、小学生で「ひとりで過ごせる場」が54.7％、中高生その他で54.8％とそれぞれ多くみられます。

○障がい種別ごとにみると、「ひとりで過ごせる場」は身体障がいで57.9％、精神障がいで57.1％と全体値を上回っています。

（属性別クロス集計）

単位：%	全体 (n=202)	0～5歳児 (n=54)	小学生 (n=106)	中高生その他 (n=42)	身体障がい (n=19)	知的障がい (n=63)	精神障がい (n=21)	難病・小児慢性疾患 (n=16)	発達障がい (n=95)	重度障がい (n=42)
地域の子供の友だちの保護者と交流できる場	15.3	20.4	15.1	9.5	10.5	9.5	4.8	6.3	10.5	9.5
同じ特性のある子供の保護者と交流できる場	33.2	**51.9**	27.4	23.8	5.3	36.5	28.6	25.0	37.9	19.0
勉強や習い事ができる場	31.2	20.4	36.8	31.0	21.1	34.9	38.1	**43.8**	31.6	26.2
趣味の活動ができる場	47.5	40.7	49.1	52.4	36.8	49.2	57.1	25.0	46.3	42.9
生活の悩みなどを聞いてもらえる場	15.3	14.8	12.3	23.8	10.5	11.1	19.0	12.5	21.1	16.7
ボランティアなど役に立てる活動ができる場	8.9	1.9	10.4	14.3	15.8	11.1	**19.0**	12.5	10.5	16.7
ひとりで過ごせる場	50.5	38.9	54.7	54.8	57.9	54.0	57.1	**62.5**	53.7	59.5
その他	5.9	7.4	6.6	2.4	5.3	7.9	9.5	0.0	8.4	9.5
無回答	3.0	5.6	1.9	2.4	10.5	0.0	0.0	6.3	2.1	4.8

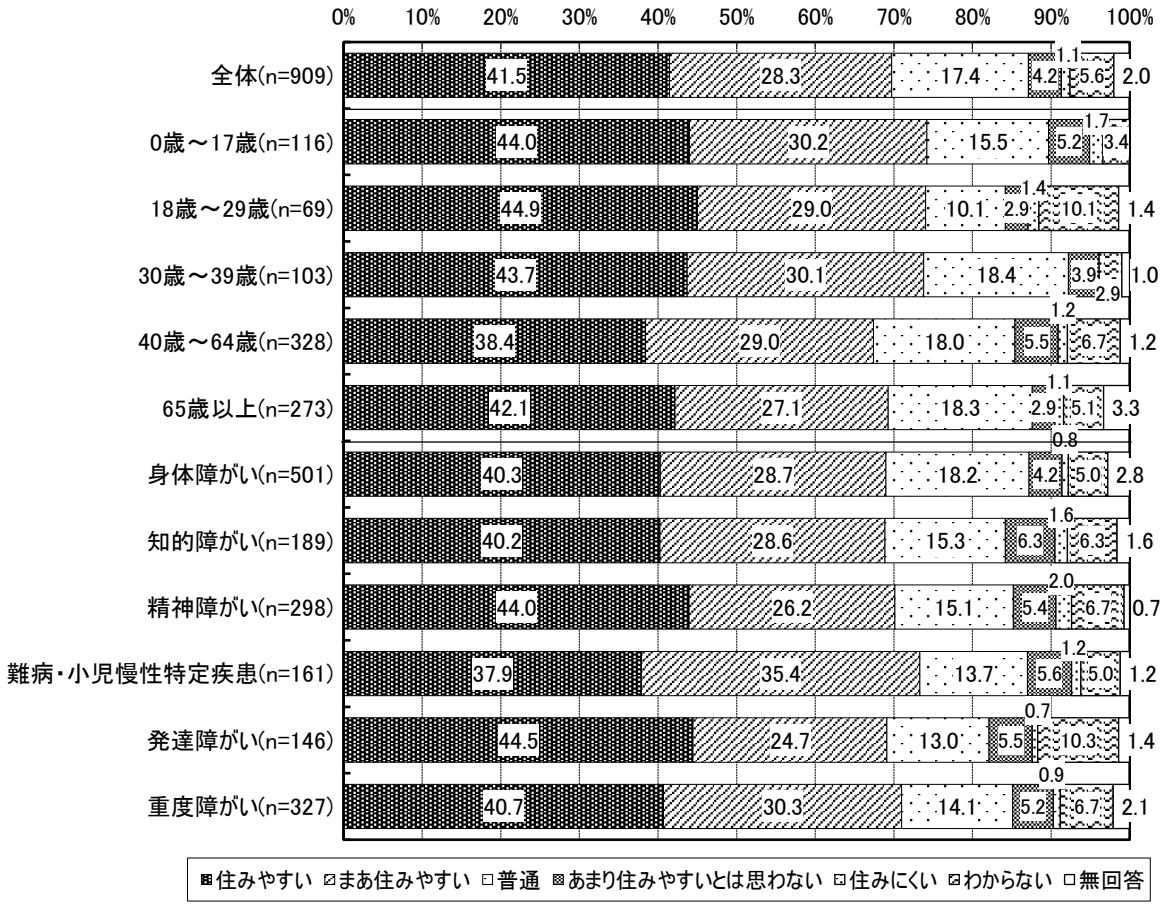
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

15　障がい者施策全般

① 吹田市の住みやすさ

◆あなたは、吹田市が住みやすいまちだと思いますか。（あてはまるものに１つに○）

障がい者計画アンケート



○「住みやすい」と「まあ住みやすい」を合わせた『住みやすい』が69.8%となっており、多くの人が吹田市を暮らしやすいまちと感じています。一方で、「あまり住みやすいとは思わない」と「住みにくい」を合わせた『住みにくい』は5.3%となっています。

◆吹田市が住みにくい、住みやすいとは思わないとお考えになる理由は何ですか。自由にお書きください。

障がい者計画アンケート

1　経済的負担（保険料・利用料等）の高さ（6件）

○国民健康保険料や介護保険料の負担感を訴える声が複数みられました。特に、「他市と比べて高い」「大阪府内でも負担が大きい」と感じている人が多く、日常生活における家計への影響がうかがえます。

○就労支援サービス利用時の自己負担額が高いことや、障がい者手帳を所持していてもバス運賃の負担が生じることへの不満も寄せられています。さらに、入院時の食事代への補助がないことや、生活保護・生活支援制度について「他市より支援が少ない」と感じている声もみられました。

○障がいや疾病による支出が多い中で、保険料や利用料、交通費などの日常的な負担が重なり、生活のしづらさにつながっている様子がうかがえます。

2　移動環境・バリアフリーの課題（15件）

○吹田市特有の坂道や階段の多さについて、「買い物に行くだけでも大変」「バギーを押して外出しにくい」「年齢的に坂道がつらい」などの声が多くみられました。自転車を利用できない人にとっては、日常の買い物や通院そのものが大きな負担となっています。

○歩道環境についても、「狭い」「でこぼこしている」「段差が多い」「整備が不十分」といった指摘が目立ちます。車いすや杖を利用する人からは危険箇所の具体的な指摘もあり、実際に転倒や骨折を経験したという声も寄せられています。

○駅や公共施設におけるエレベーター不足、手すり未設置、地下道の暗さや急勾配なども課題として挙げられています。車いす利用者からは、障がい者用駐車スペースの不足や利用しづらさ、多目的トイレの不足など、外出先での環境整備を求める声もみられました。

○障がいの有無にかかわらず、高齢者や子育て世帯も含めて、安心して移動できる環境づくりが大きな課題となっています。

3　福祉サービス・支援体制の不足（10件）

○特に目立ったのは、重度障がい者が利用できる入所施設や通所施設の不足です。「市内に受け皿がないため他市へ行かざるを得ない」「親亡き後に安心して暮らせる場所が見つからない」といった不安の声が寄せられています。

○補聴器への助成制度の不足や、小児向けの言語聴覚士による支援を市内で受けられないことなど、専門的な支援体制の不足も指摘されています。

○就労支援については、「働く場が少ない」「社会的雇用の仕組みが不十分」といった意見がみられました。さらに、移動支援や生活支援についても十分とは言えず、必要な支援を受けるために市外へ通う負担が生じている状況がうかがえます。

○サービス量だけではなく、障がい特性に応じた柔軟な支援体制の充実が求められています。

4　子育て・家族支援の不足（7件）

○障がい児を育てる家庭からは、子育てや家族全体を支える仕組みの不足を指摘する声が寄せられました。通学支援に看護師の帯同がないため、地域の学校への進学を断念した事例がみられたほか、障がい児保育や就園・就学先の選択肢の少なさに対する不満もみられました。

○きょうだい児への支援がほとんどないことや、保育園入所制度が実態に合っていないことを課題として挙げる声もあります。特に、重度障がい児を育てるために就労できないにもかかわらず、そのことが保育利用の制約につながっているとの指摘がみられました。

○保護者の入院や体調不良時に、家事・食事・子供の預かりなどを支援する仕組みを求める意見も寄せられています。障がい児本人への支援だけではなく、家族全体を支える視点の重要性がうかがえる結果となっています。

5　行政対応・相談支援への不満（8件）

○「手続き時の配慮が不足している」「相談しても親身になってもらえない」「障がい特性への理解が感じられない」といった声がみられます。中には、「相談しても期待できないため、もう相談する気になれない」といった厳しい意見もありました。

○必要な制度や支援に関する情報提供が不十分であるとの指摘もあります。支援制度そのものだけではなく、制度を必要とする人に情報が十分届いていない状況もうかがえます。

○保健師や担当者の交代が多く継続的な支援が受けにくいことや、障がい特性に応じた柔軟な対応が不足していることを課題として挙げる意見もみられました。制度の充実だけではなく、利用者に寄り添った対応や信頼関係の構築が求められています。

6　制度・施策の不十分さ・他市との格差（8件）

○他市との比較を通じて、吹田市の制度や施策に対する不満を示す意見も多くみられました。大阪市や豊中市などの制度を例に挙げながら、「支援内容が少ない」「割引制度や助成制度が十分ではない」といった声が寄せられています。また、以前存在した手当や支援制度がなくなったことへの不満もみられました。

○「施策が後退している」「支援が削減されている」と感じている人もおり、市の障がい者施策に対する期待と現実との間にギャップが生じていることがうかがえます。また、「市としての主体性が感じられない」「障がい者施策に力を入れているように見えない」といった意見もみられ、制度内容だけではなく、市の姿勢に対する評価も課題となっています。

7　地域環境・生活利便性の課題（6件）

○買い物先や病院が遠い地域があることや、コンビニや商店が少ない地域があることから、生活上の不便を感じている人がみられます。また、バス路線や運行本数の不足により移動手段が限られていることや、道路が複雑でわかりにくいことも課題として挙げられています。地域によって利用できる支援や受けられる恩恵に差があると感じている人もおり、生活利便性やサービス利用環境の地域間格差がうかがえます。

8　人間関係・地域の雰囲気（５件）

〇地域の人間関係や地域社会の雰囲気については、「人が冷たい」「助け合いの気持ちが少ない」と感じている声がみられました。また、「何事も健康な人を前提に社会がつくられている」「障がいへの理解が十分ではない」といった意見も寄せられています。

〇困ったときに相談できる人や助けてくれる人が身近にいないという声もあり、制度だけではなく、地域における支え合いや理解の重要性がうかがえる結果となっています。

9　安全・住環境の問題（２件）

〇件数は多くないものの、住環境に関する切実な意見も寄せられました。具体的には、近隣住民による騒音や深夜の生活音への苦情、ベランダでの喫煙による受動喫煙や健康被害を訴える声がみられます。個別の問題ではありますが、障がいや疾病を抱える人にとっては生活の質や健康状態に直接影響するものであり、安心して暮らせる住環境の確保も重要な課題であることがうかがえます。

② 地域環境に対する評価（全15項目）

◆吹田市やあなたが住んでいる地域は、障がいのある人が生活するうえで、どの程度環境が整っていると思いますか。

障がい者計画アンケート

○吹田市や居住地域が、障がいのある人にとってどの程度生活しやすい環境であるか評価を求めた結果、全体的な傾向として、「とてもよい」「まあよい」と評価する肯定的回答が一定数ある一方で、「わからない」と回答する割合が非常に高い項目が多いことが大きな特徴となっています。

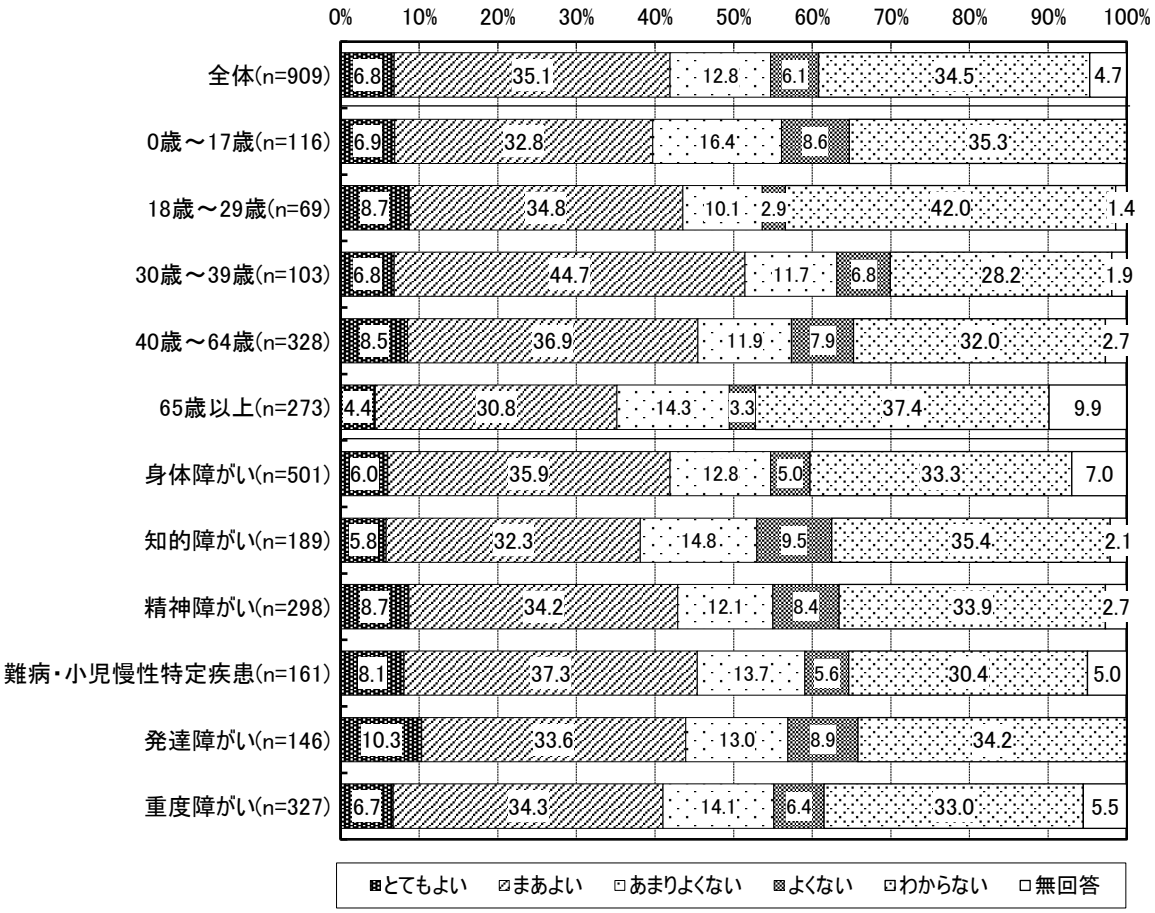
○比較的肯定的評価が高かったのは、『⑫安心して暮らし続けられる住まいがあること』と『⑦費用の心配をせずに、必要な医療を受けられること』で「とてもよい」と「まあよい」を合わせると50％前後を占めています。

○『⑨障がいに配慮した保育や教育が受けられること』『⑪生産活動をしたり、趣味を楽しんだりしながら、障がいのある仲間と過ごす場所が身近にあること』『⑩障がいのある人に適したさまざまな職場があり、自分にあった職場を選べること』『⑥家の中や外出時の介助、家事を助けてくれるサービスがいつでも受けられること』『④障がいがあるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたりしないこと』は「わからない」が半数以上を占めています。

○道路や建物、公共交通機関の利用しやすさについては、「あまりよくない」「よくない」を合わせた否定的評価が約28％となり、肯定的評価（約36％）と拮抗しています。バリアフリー環境については改善の余地があると感じている人が一定数いることがわかります。

○年齢別や障がい種別ごとにみると、総じて若年層では教育・相談・医療に関する肯定的評価が比較的高い一方、中高年層では「わからない」が多くを占めています。

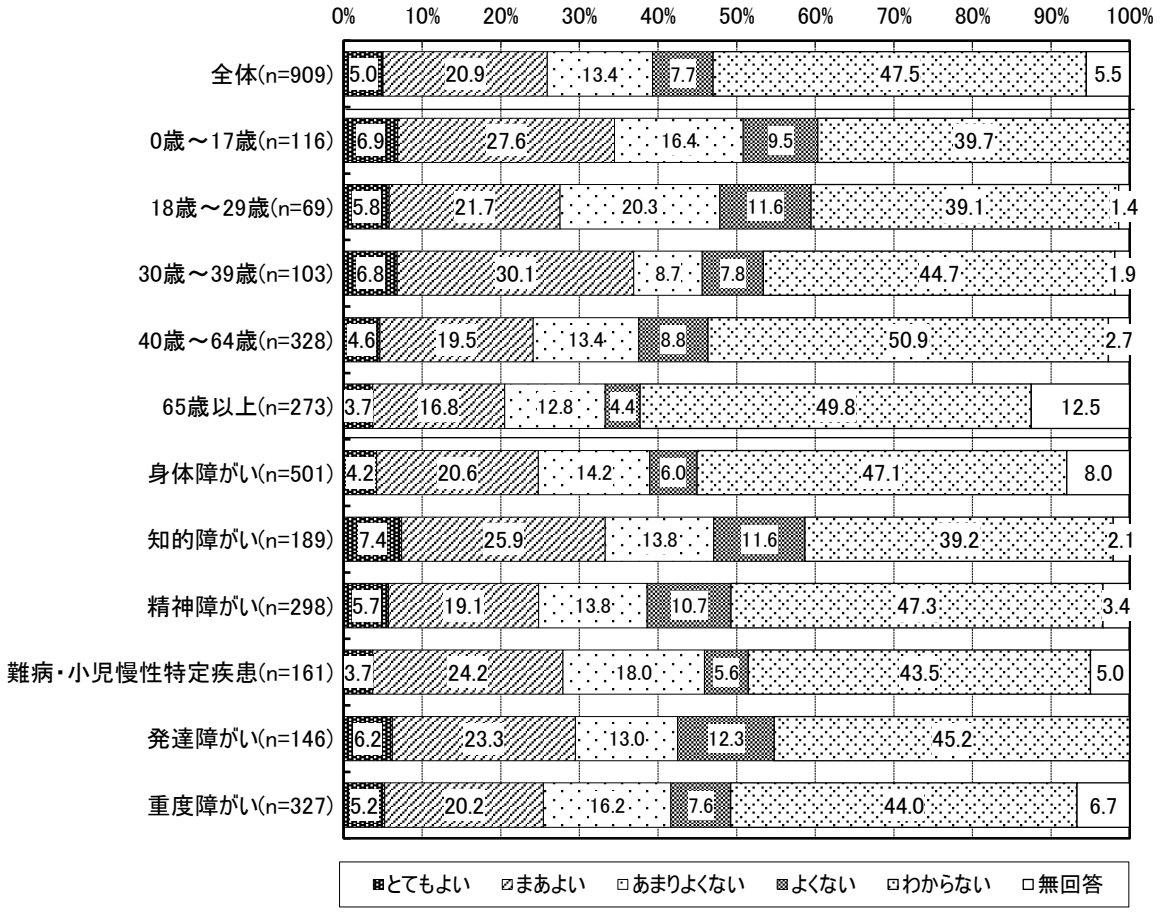
①広報紙やインターネット、まちや建物の案内板などを通じて自分に必要な情報を得やすいこと



○「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』が41.9%、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』が18.9%となっています。また、「わからない」が34.5%と多く、情報取得環境について評価が難しい人も多くみられます。

○年齢別にみると、30歳～39歳で『よい』が51.5%と多くなっています。また、18歳～29歳では「わからない」が42.0%と多くなっています。

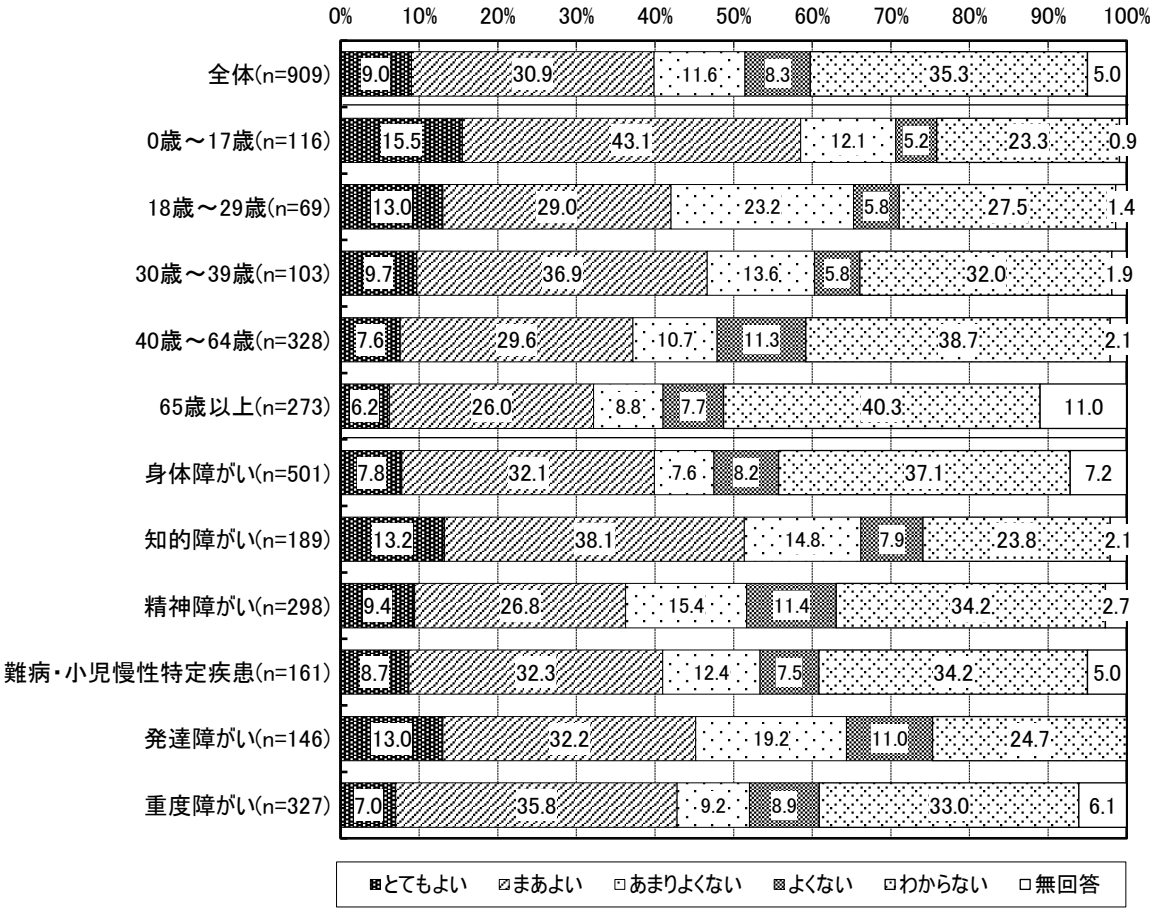
②障がい特性に応じて、いろいろな人とのコミュニケーションがとりやすいこと



○『よい』が25.9%、『よくない』が21.1%、「わからない」が47.5%となっています。

○年齢別にみると、30歳～39歳で『よい』が36.9%、18歳～29歳では『よくない』が31.9%と比較的多くなっています。

③困りごとや悩みを安心して相談できるところが身近にあること

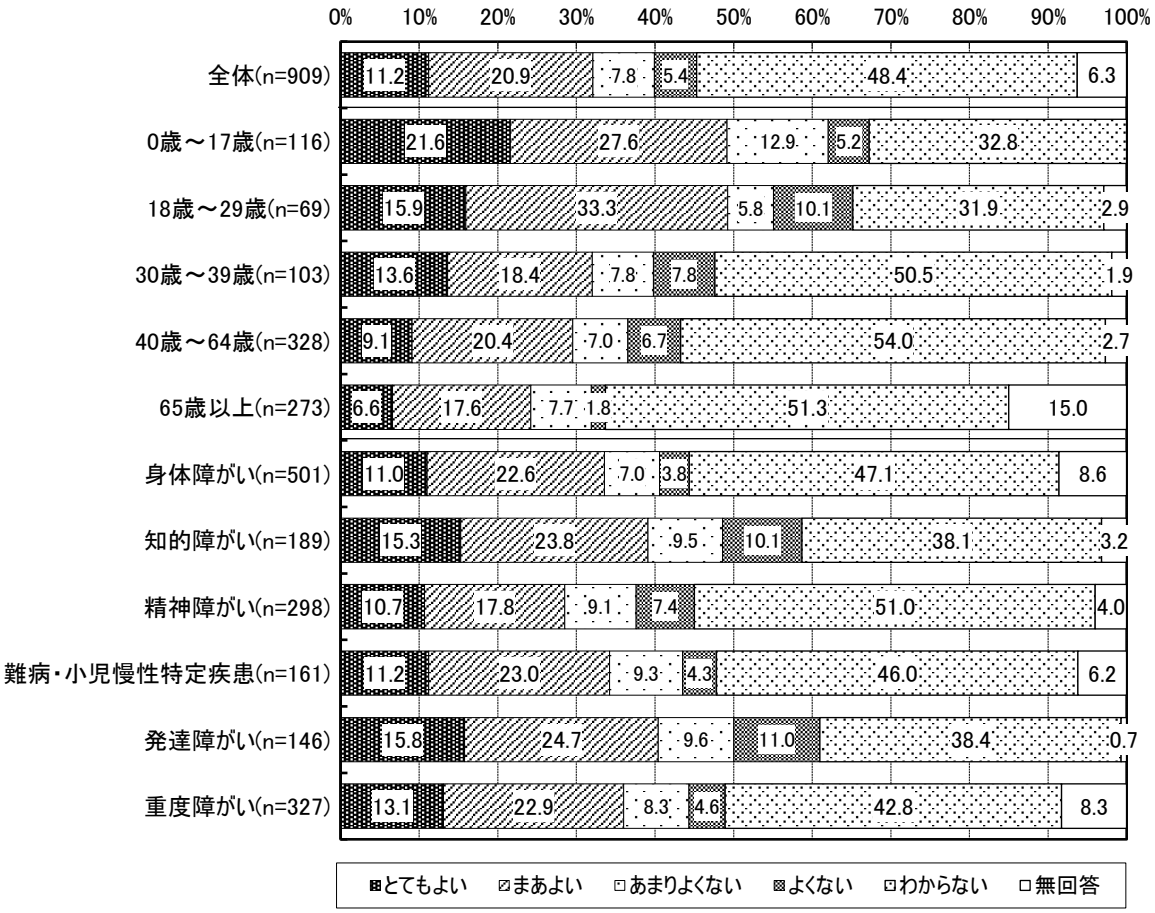


○『よい』が39.9%、『よくない』が19.9%、「わからない」が35.3%となっています。

○年齢別にみると、０歳～17歳で『よい』が58.6%と多くなっています。一方、18歳～29歳では『よくない』が29.0%と比較的多くなっています。

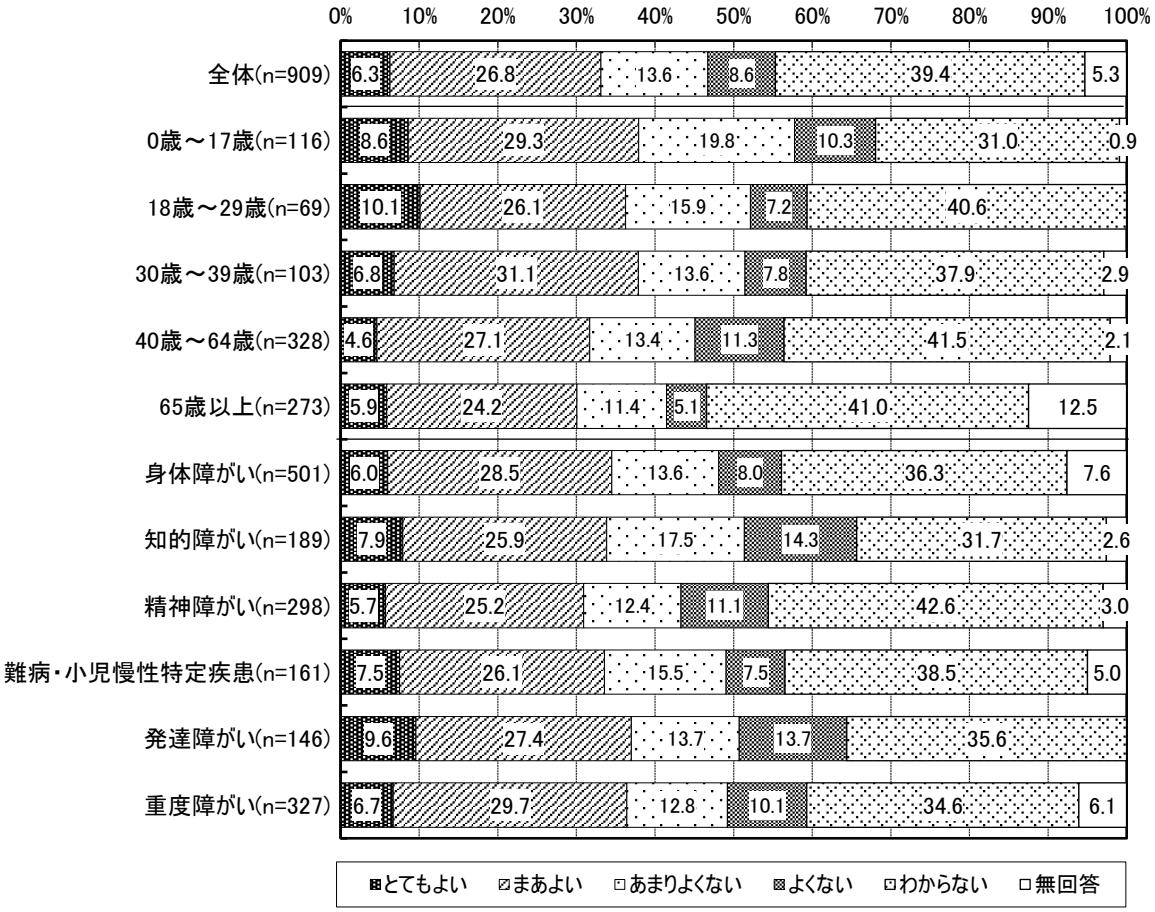
○障がい種別ごとにみると、知的障がいで『よい』が51.3%と多く、発達障がいでは『よくない』が30.2%と多くなっています。

④障がいがあるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたりしないこと



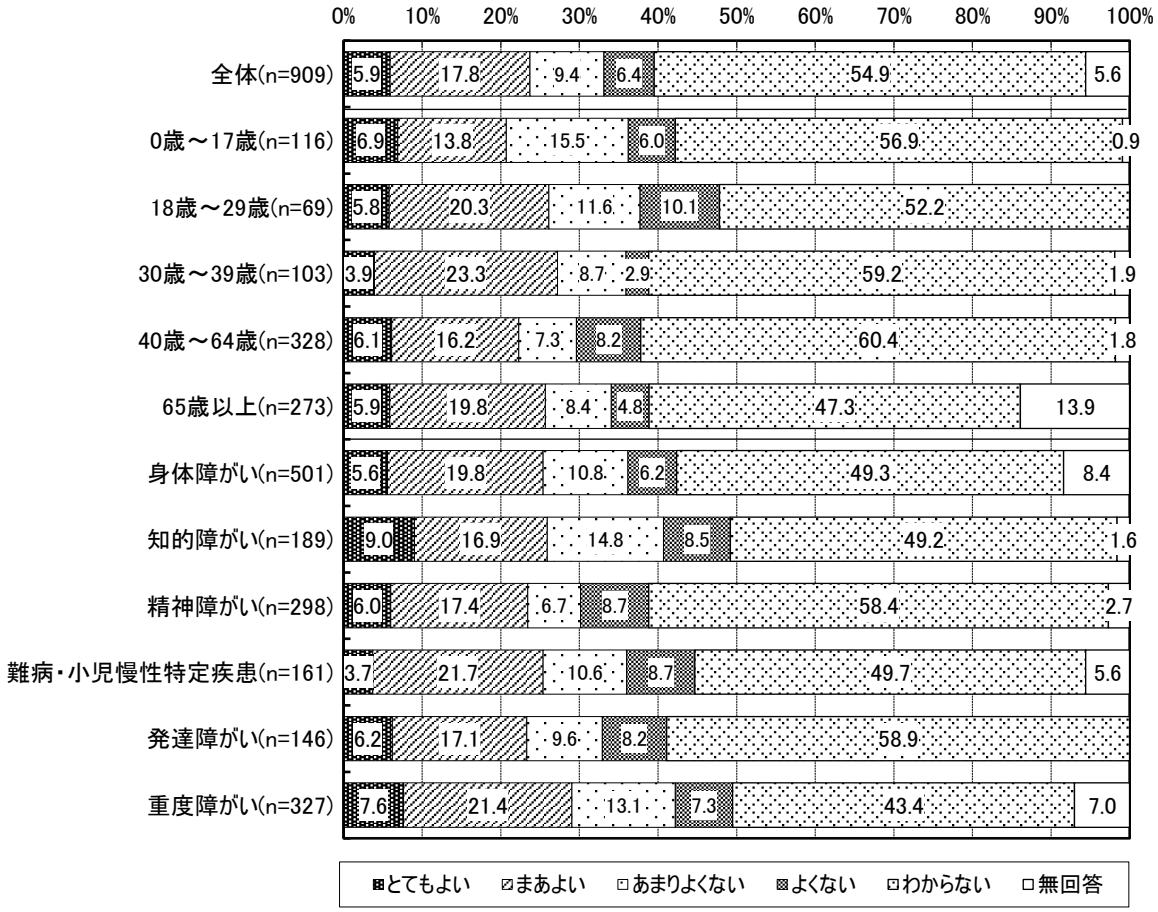
○『よい』が32.1%、『よくない』が13.2%、「わからない」が48.4%となっています。
○年齢別にみると、18歳～29歳で『よい』が49.2%と多くなっています。

⑤生活のさまざまな場面で障がいのある人への配慮が行き届いていること



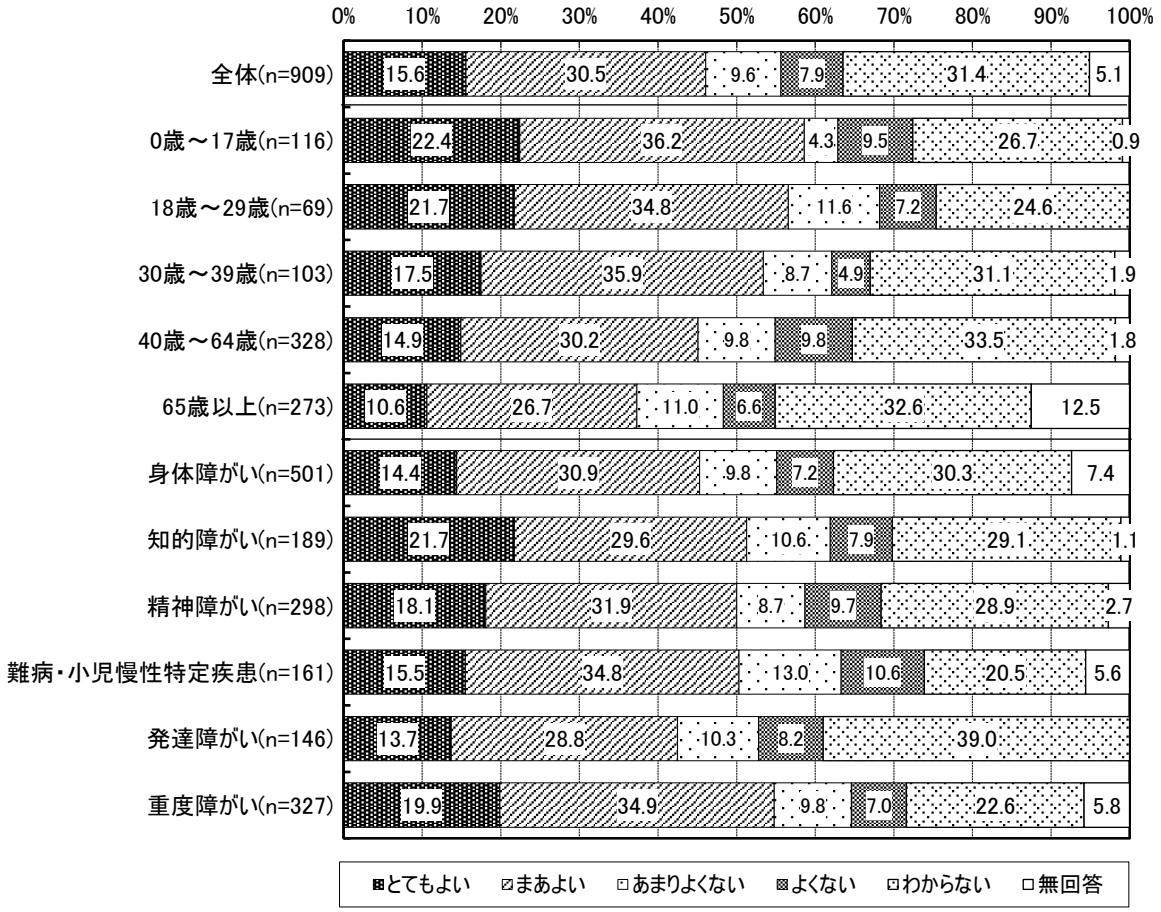
○『よい』が33.1%、『よくない』が22.2%、「わからない」が39.4%となっています。

⑥家の中や外出時の介助、家事を助けてくれるサービスがいつでも受けられること



○『よい』が23.7%、『よくない』が15.8%、「わからない」が54.9%となっています。

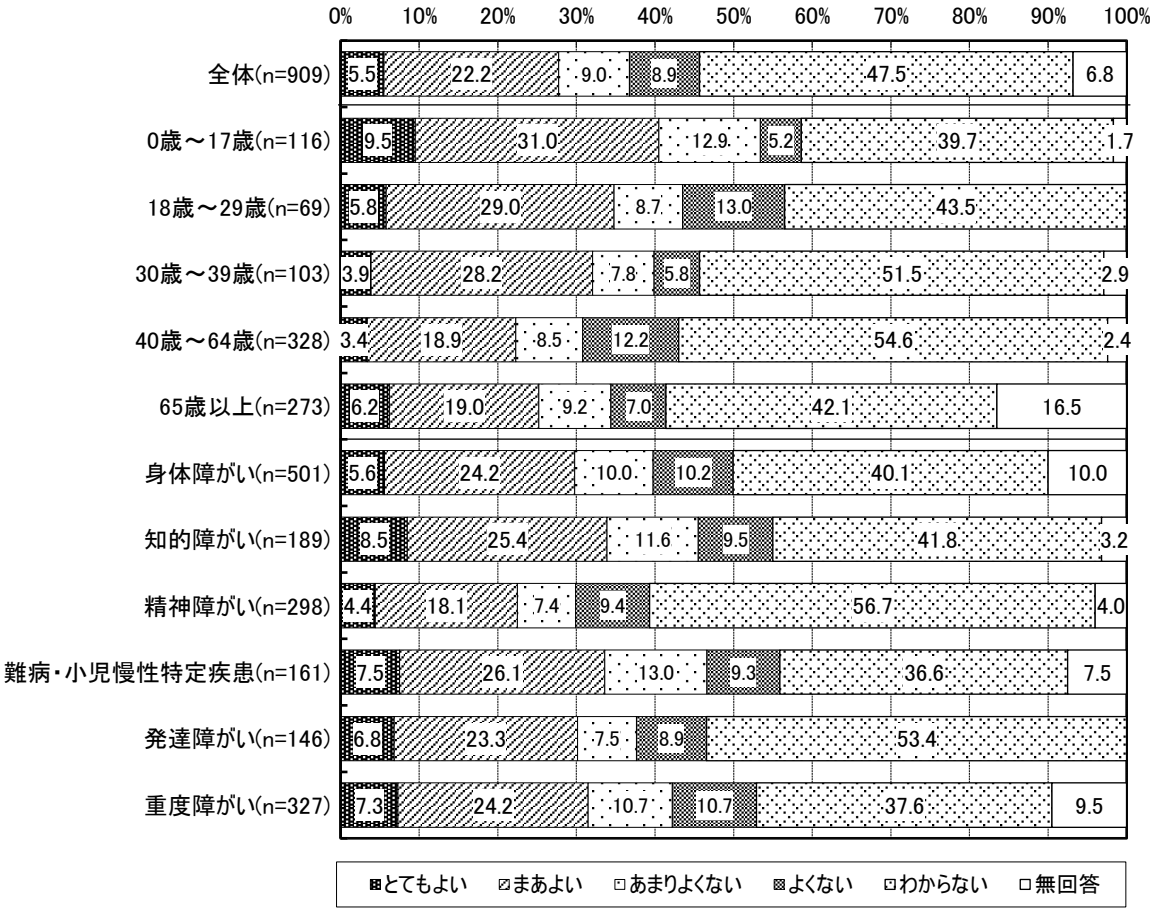
⑦費用の心配をせずに、必要な医療を受けられること



○『よい』が46.1%、『よくない』が17.5%、「わからない」が31.4%となっています。

○年齢別にみると、０歳～17歳で『よい』が58.6%、18歳～29歳でも56.5%と多くなっています。

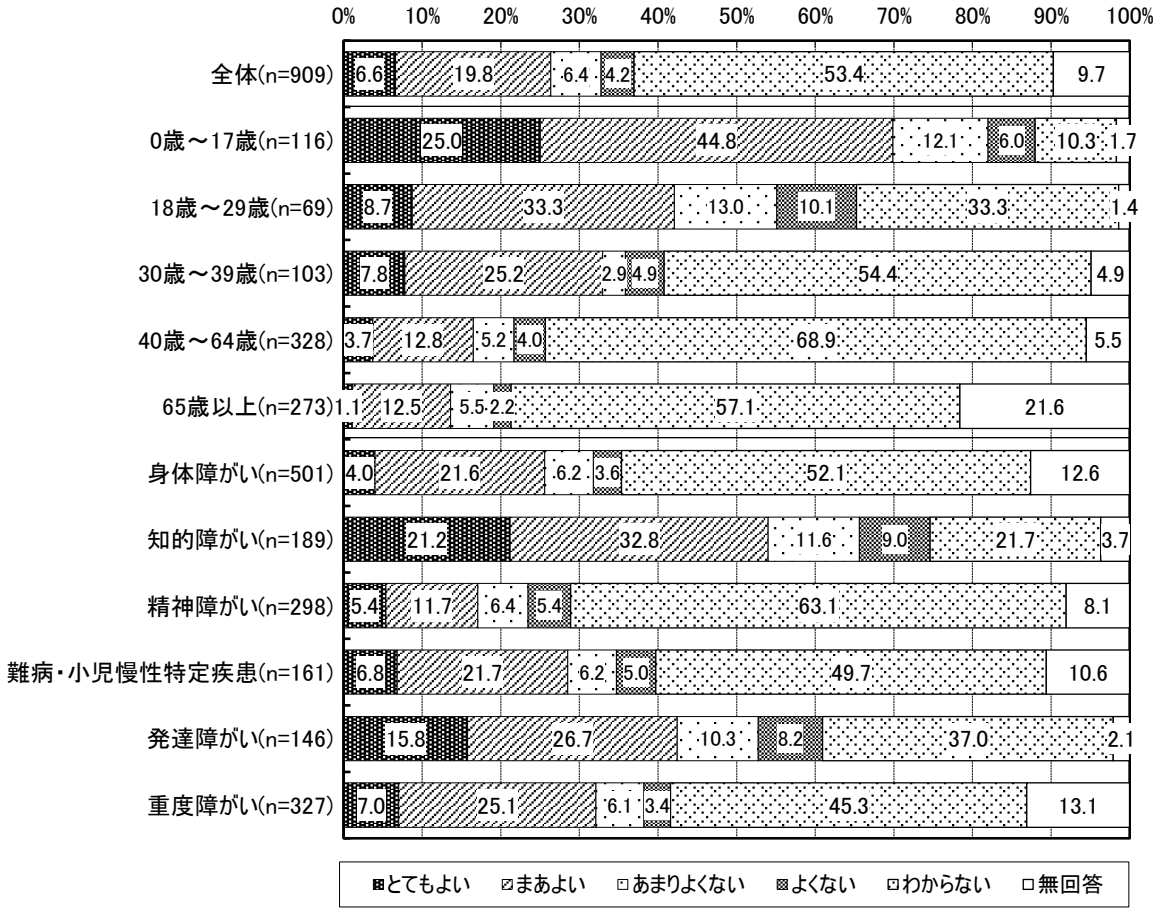
⑧自分にあったリハビリテーションの機会が身近にあること



○『よい』が27.7%、『よくない』が17.9%、「わからない」が47.5%となっています。

○年齢別にみると、０歳～17歳で『よい』が40.5%、18歳～29歳では34.8%と多くなっています。

⑨障がいに配慮した保育や教育が受けられること

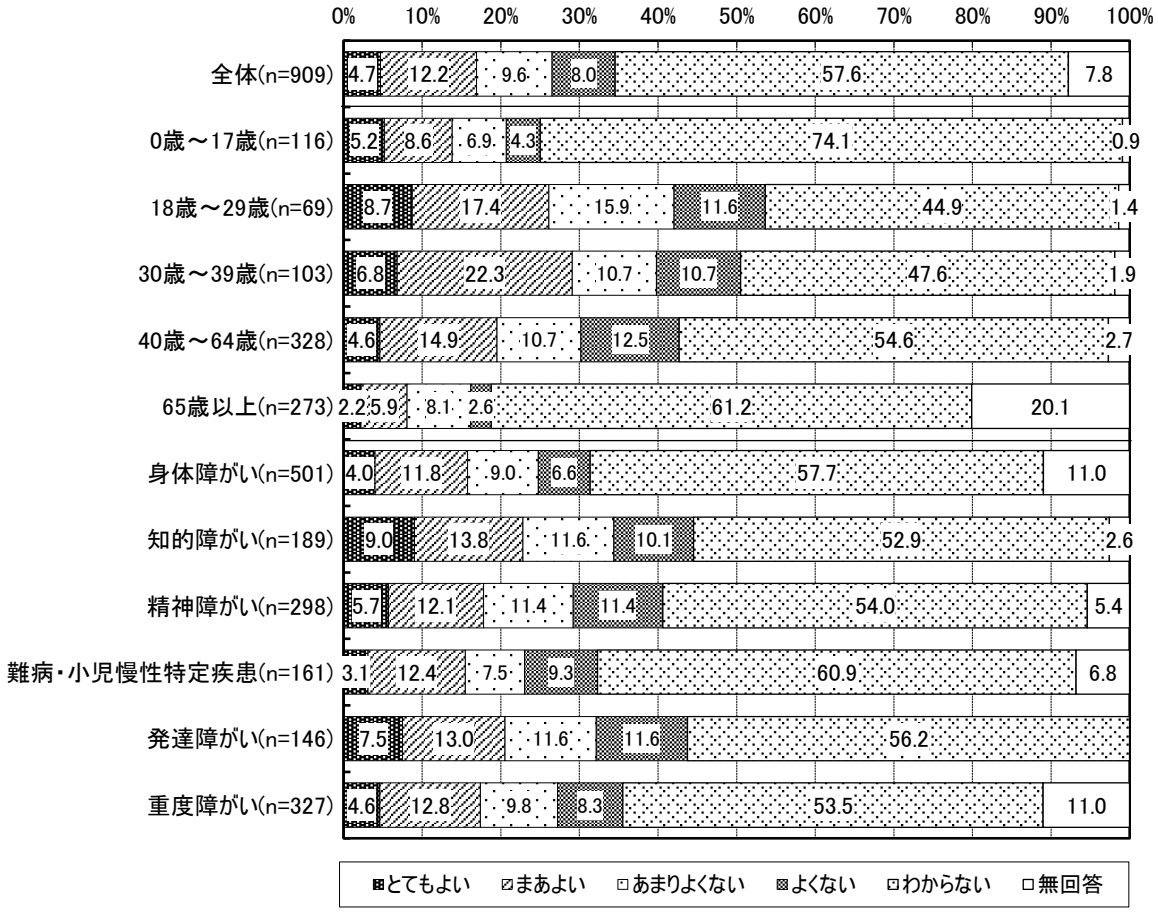


○『よい』が26.4%、『よくない』が10.6%、「わからない」が53.4%となっています。

○年齢別にみると、０歳～17歳で『よい』が69.8%と非常に多く、18歳～29歳でも42.0%と比較的多くなっています。

○障がい種別ごとにみると、知的障がいで『よい』が54.0%、発達障がいでも42.5%と多くなっています。一方、知的障がいでは『よくない』も20.6%と比較的多くなっています。

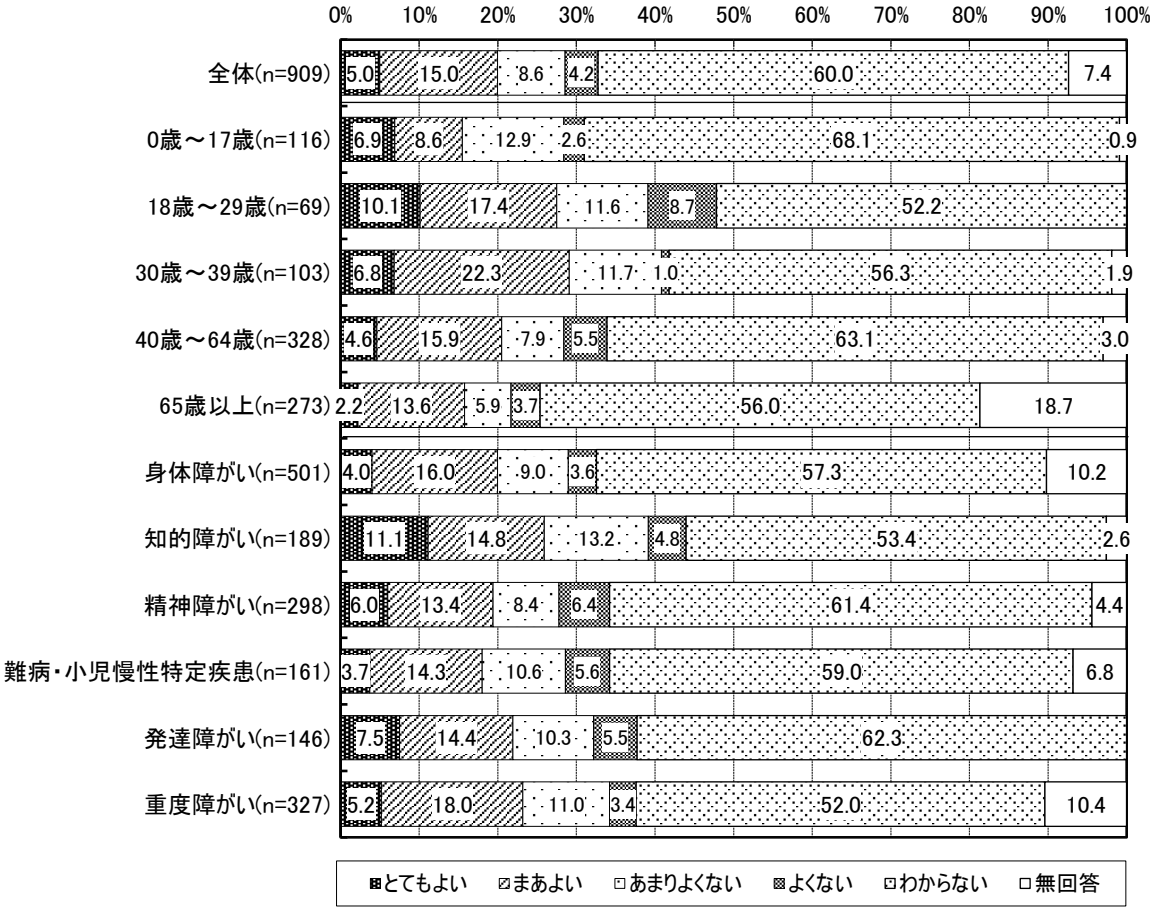
⑩障がいのある人に適したさまざまな職場があり、自分にあった職場を選べること



○『よい』が16.9%、『よくない』が17.6%、「わからない」が57.6%となっています。

○年齢別にみると、30歳～39歳で『よい』が29.1%と多く、40歳～64歳では『よくない』が23.2%と比較的多くなっています。また、０歳～17歳では「わからない」が74.1%と非常に多くなっています。

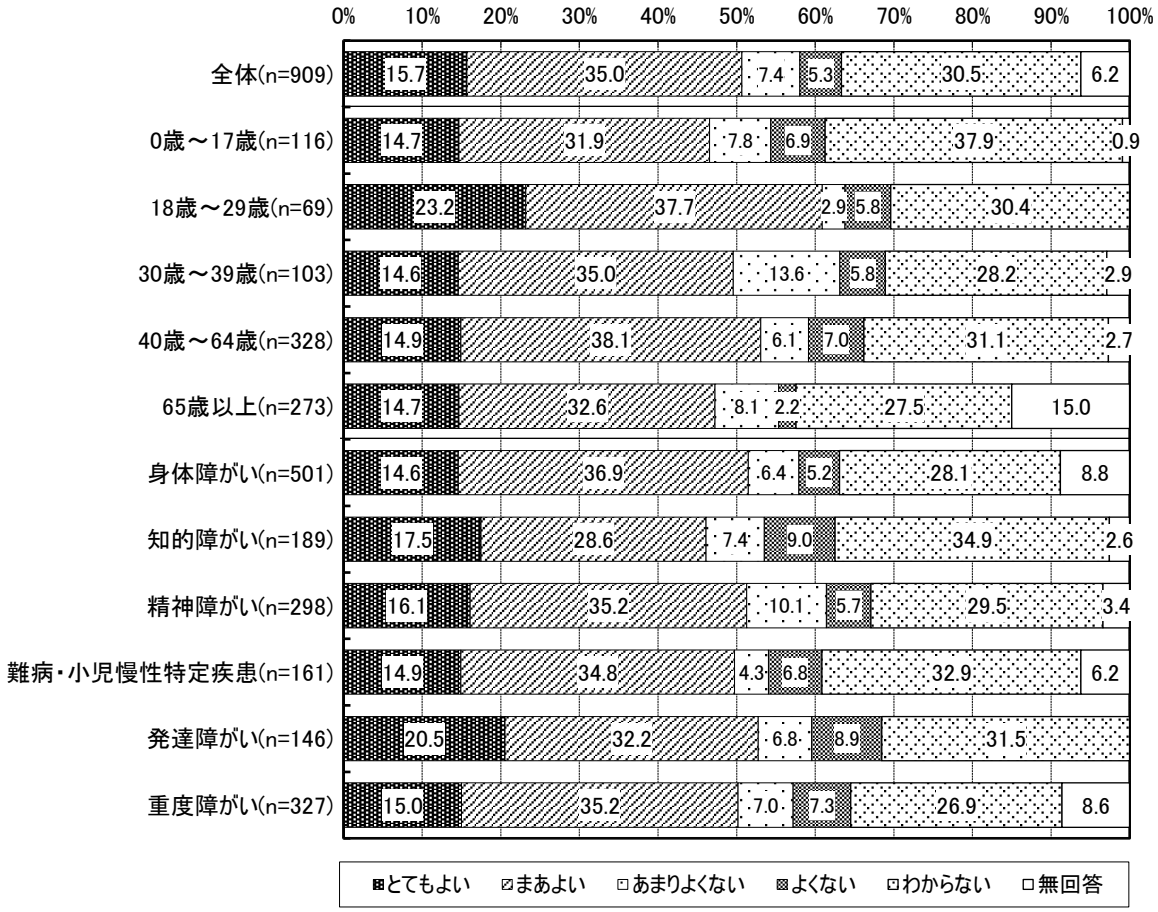
⑪生産活動をしたり、趣味を楽しんだりしながら、障がいのある仲間と過ごす場所が身近にあること



○『よい』が20.0%、『よくない』が12.8%、「わからない」が60.0%となっています。

○年齢別にみると、30歳～39歳で『よい』が29.1%、18歳～29歳では『よくない』が20.3%と比較的多くなっています。

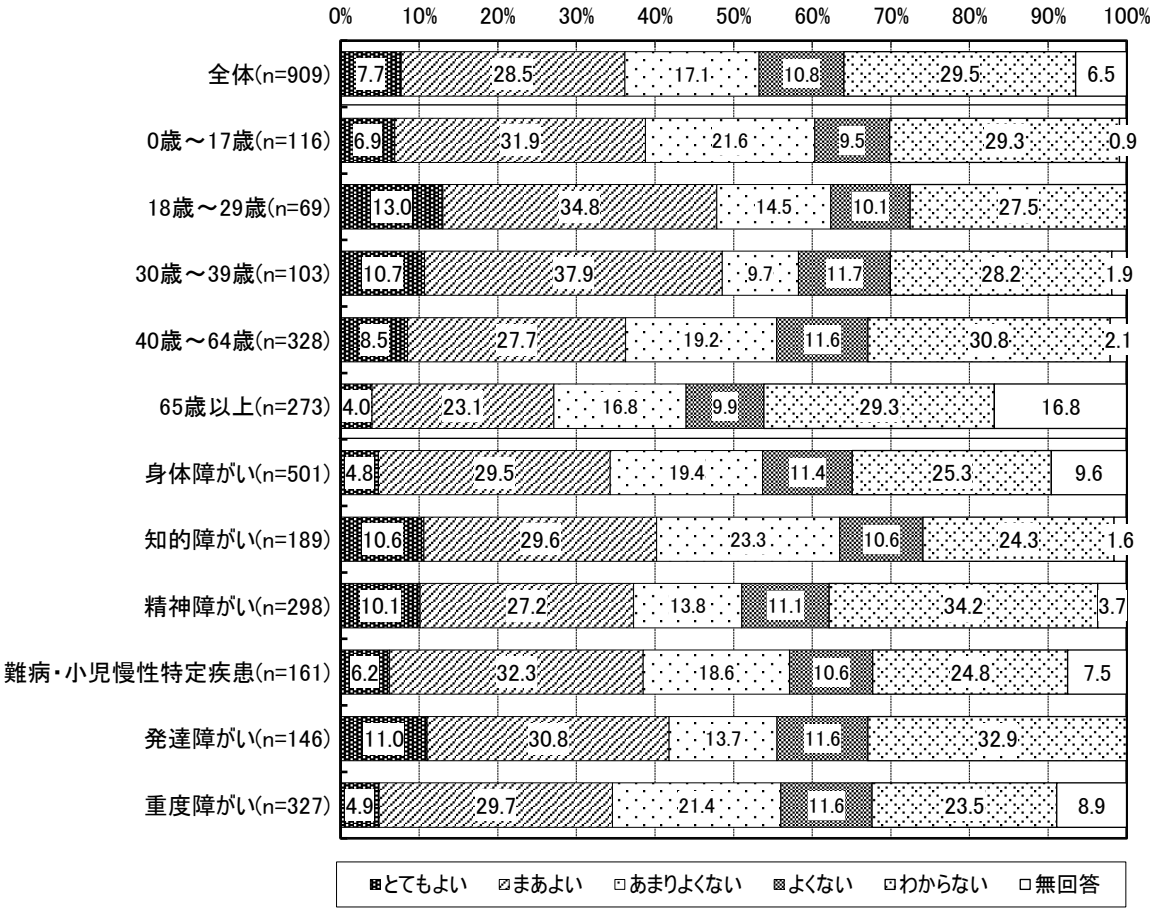
⑫安心して暮らし続けられる住まいがあること



○『よい』が50.7%と半数を占めており、『よくない』は12.7%となっています。

○年齢別にみると、18歳～29歳で『よい』が60.9%と多く、30歳～39歳では『よくない』が19.4%と比較的多くなっています。

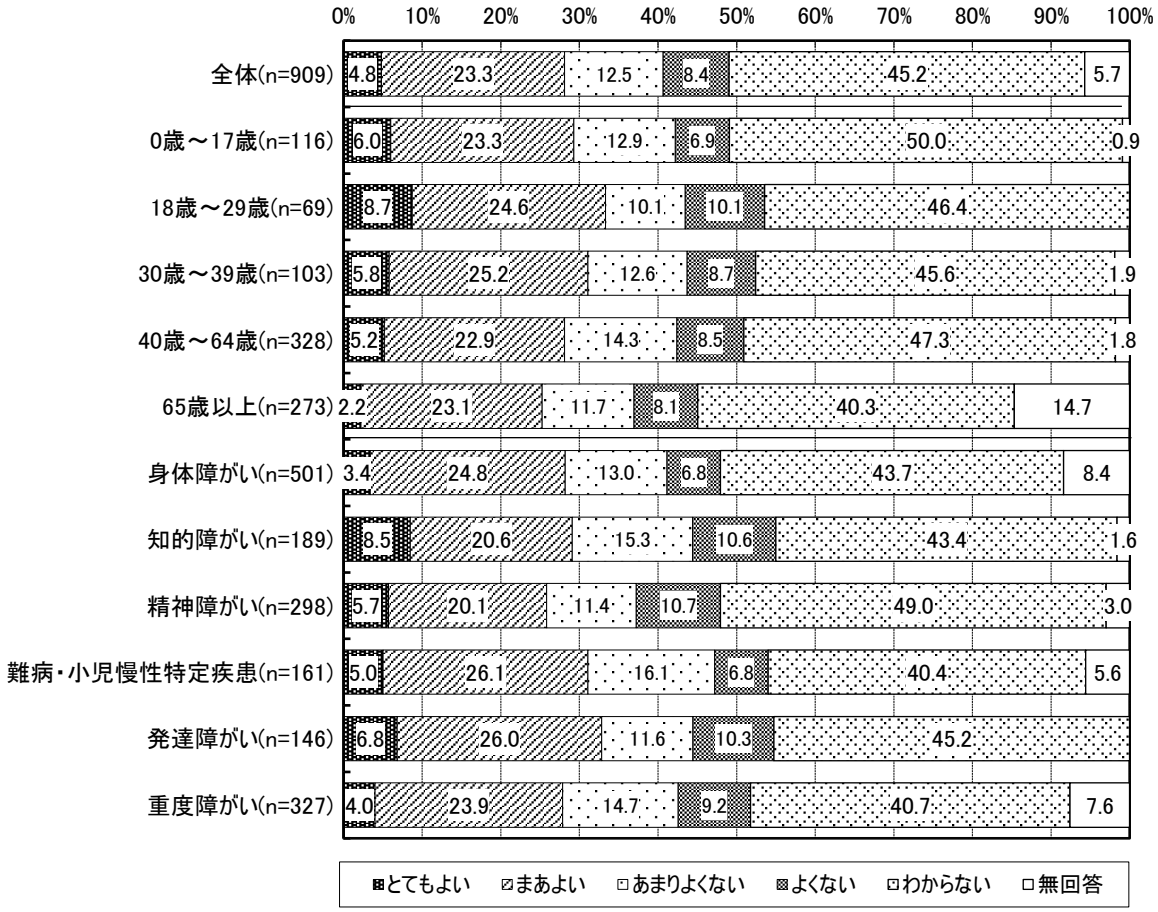
⑬道路や建物、公共交通機関が障がいのある人に配慮されており、利用しやすいこと



○『よい』が36.2%、『よくない』が27.9%と、環境整備に対する課題意識も比較的強くみられます。

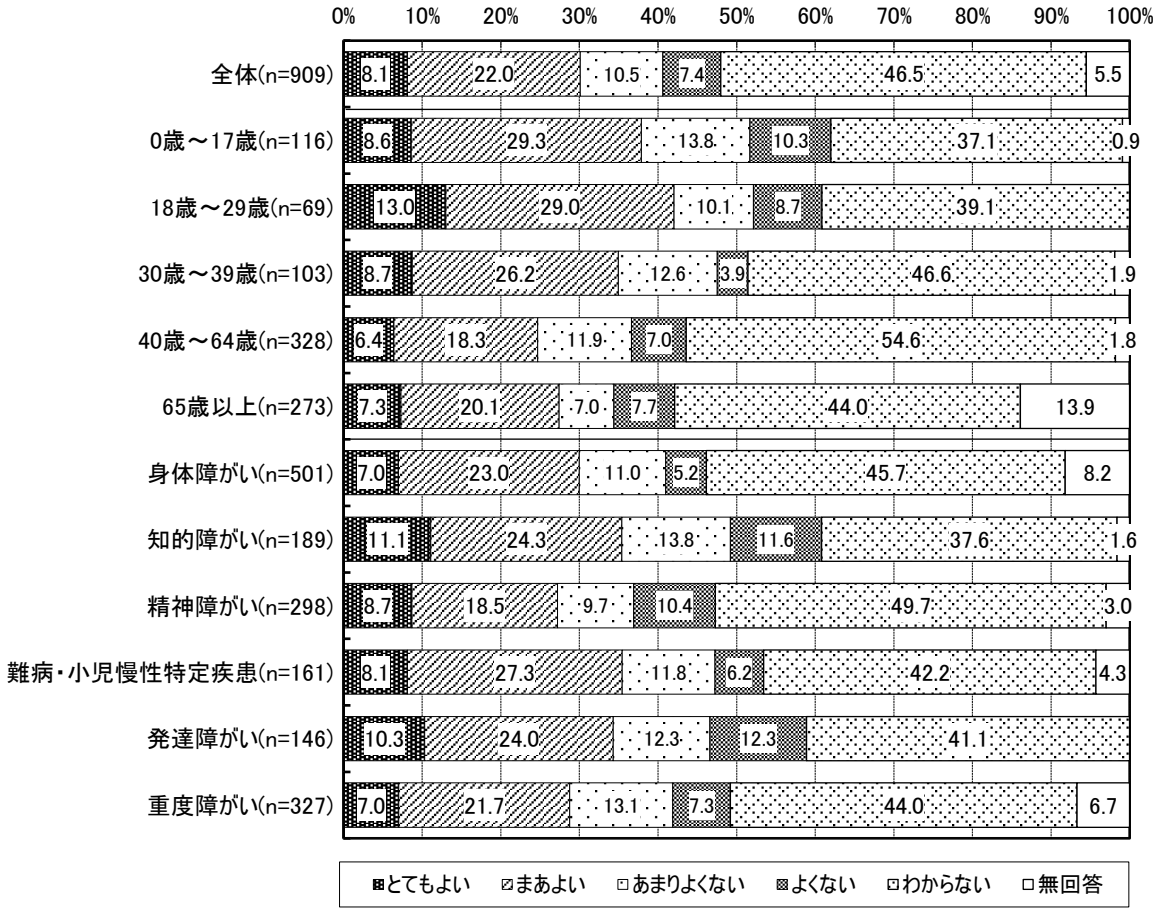
○年齢別にみると、30歳～39歳で『よい』が48.6%と多くなっています。

⑭日ごろから災害に備えた情報が行き届き、災害が発生しても、安全に避難できること



○『よい』が28.1%、『よくない』が20.9%、「わからない」が45.2%となっています。

⑮困ったときに、周囲の人が手助けしてくれること



○『よい』が30.1%、『よくない』が17.9%、「わからない」が46.5%となっています。

○年齢別にみると、18歳～29歳で『よい』が42.0%と多くなっています。一方、０歳～17歳では『よくない』が24.1%と比較的多くなっています。

16　自由回答意見のまとめ

1　障がい者計画アンケート

1　経済的負担・就労・生活不安に関する意見（27件）

最も多く寄せられているのは、経済的負担と就労の不安に関する意見です。

具体的には、「見た目ではわかりにくい障がいのある人について、精神通院以外の内科受診などは医療費が３割負担となるため、作業所の工賃や障害年金だけでは、将来的な医療費負担が不安」「物価高や税負担により生活が圧迫されている」といった、日常生活の維持そのものに関わる切実な声が多くみられます。また、「障がい者枠で働いても賃金が低く、生活の安定につながらない」「突然契約を切られるのではないかと不安である」といった就労の不安定さに対する意見もみられます。

「転職を繰り返している」「家族を養える仕事がほしい」といった意見からは、単なる就労機会の確保だけではなく、生活を支える水準の所得保障や就労の質の向上が求められていることがうかがえます。制度面では、「所得区分が大まかすぎて負担の公平性に欠ける」といった具体的な指摘もあります。

2　福祉サービス・施設整備に関する意見（24件）

福祉サービス、とりわけ居住支援や生活支援体制に関する意見も非常に多くみられます。

「吹田市内のグループホームが不足しており市外に入居せざるを得ない」「親亡き後に住める場所がない」といった意見は、地域生活の継続に対する強い不安を示しています。また、「重度訪問介護の担い手が不足しており地域生活が続けられるか不安」といった声からは、サービス基盤そのものの脆弱性が指摘されています。

「生活介護施設では活動が少なく身体機能の低下が心配」「強度行動障がいや最重度の人の受け入れ先が不足している」といった意見もあり、単に施設数を増やすだけではなく、障がい特性に応じた質の高い支援の確保が求められています。

3　バリアフリー・外出環境・インフラに関する意見（22件）

「歩道がデコボコで水たまりが多く歩きにくい」「車いすやベビーカーでの移動が困難」「エレベーターやエスカレーターがあってもそこまでの動線に段差がある」といった具体的な不便さが多数挙げられています。

また、「ユニバーサルトイレが整備されていない」「駅構内の移動が負担」「道路幅が狭く危険」といった意見もあり、外出そのものが制約されている状況がうかがえます。

4　行政対応・相談支援体制に関する意見（17件）

「市の対応が悪い、相談しにくい」「担当者によって説明や対応に差がある」「手続きのたびに窓口が異なり混乱する」といった、利用者視点での市の窓口の使いにくさが具体的に指摘されています。また、「病院や支援機関の情報を教えてもらえない」「保健師のフォローがない」といった、支援につながるまでの導線の弱さも課題として挙げられています。

一方で、「丁寧に話を聞いてくれる」「実態に応じて支援してもらえる」といった肯定的な評価もみられることから、対応の質についてばらつきがみられます。

5　教育・学校・若年期支援に関する意見（16件）

教育に関する意見は比較的少ないものの、「特別支援学級の専門性の不足」「教員の入れ替わりが多く相談しにくい」といった課題がみられます。

また、「若年期からの支援体制の充実」を求める意見もあり、早期からの支援の重要性が示されています。

6　理解促進・偏見・社会意識に関する意見（15件）

「障がい者という言葉自体に違和感がある」「偏見が一番つらい」「精神障がいは隠さないと生きづらい」といった、当事者の心理的負担が強く表れています。

また、「優先座席が譲られない」「周囲の無理解により日常生活が困難になる」といった具体的な体験もあり、制度整備だけではなく意識啓発の重要性が示されています。

7　将来への不安・親なきあと・地域生活に関する意見（14件）

将来への不安に関する意見も多くみられます。「親がいなくなった後の生活が不安」「住み慣れた地域で暮らし続けられるかわからない」といった声に加え、「障がい者同士でも安心して生活できる環境が必要」といった意見もあります。

8　医療・専門支援体制に関する意見（13件）

「発達相談ができる医療機関が少ない」「診断書費用が高い」「リハビリ機関が不足している」といった意見に加え、「医療的ケアや夜間対応の体制が不十分」といった指摘もあります。また、「難病や複合的障がいへの支援が十分ではない」といった声もあり、医療と福祉の連携や専門性の確保が課題となっています。

9　交通・移動に関する意見（12件）

「市役所や保健所が分散していて移動が大変」「市域が広く高齢になると移動が困難になる」といった具体的な不便さが挙げられています。

10　地域環境・生活利便性に関する意見（10件）

「買い物施設が少ない」「地域によって利便性に差がある」「騒音や喫煙など生活環境の問題がある」といった声がみられます。生活のしやすさという観点から、地域間格差が課題になっています。

11　肯定的意見・評価（10件）

肯定的な意見として、「吹田市は福祉が手厚い」「住みやすい」「相談対応に感謝している」といった声がみられます。

特に他自治体と比較して「福祉のまち」と評価する意見もあります。

12　制度・手続き・アンケートに関する意見（8件）

制度や手続きに関する意見では、「手続き場所が分散している」「制度がわかりにくい」「アンケートが長すぎる」といった具体的な指摘があります。

13　防災・安全に関する意見（4件）

件数は少ないものの、「災害時の対応がわからない」「避難体制を明確にしてほしい」といった意見がみられます。

2　支援プラン（18歳以上）アンケート

1　福祉サービス・施設整備に関する意見（42件）

「グループホームが圧倒的に不足しており、空き待ち状態である」「強度行動障がいのある人は入れる施設がない」「親亡き後に入所できる場所が見つからない」といった切実な声が多数みられます。また、「短期入所や通所施設も満員で利用できない」「送迎付きの施設が少なく通えない」といった、利用機会の制約に関する意見も目立ちます。

さらに、「生活介護や就労継続支援Ｂ型の施設が地域によって偏在している」「市内に働ける場所が少なく他市へ通っている」といった地域格差の問題も指摘されています。

2　将来不安・親なきあと・地域生活に関する意見（28件）

「親が亡くなった後も地域で生活できるのか不安」「一人で生活できるかわからない」「安定した生活が維持できるか心配」といった声が多数寄せられています。

また、「地域で暮らし続けたいが支援体制が不十分」「在宅生活を維持するための医療・介護連携が必要」といった意見もあります。

3　相談支援・行政対応・情報提供に関する意見（27件）

「相談員が見つからずセルフプランが続いた」「相談員の対応にばらつきがあり調整が不十分」「市役所の説明が不正確で混乱した」といった具体的な不満が挙げられています。

また、「どのような支援があるのかわからない」「情報提供が不十分」といった意見も多く、支援につながるまでの導線に課題があります。一方で、「相談員や職員に支えられ助かった」という声もあり、支援の質についてのばらつきがみられます。

4　就労支援・働き方に関する意見（24件）

「自立できるだけの収入を得られる仕事がない」「就労継続支援Ａ型・Ｂ型ではスキルアップにつながらない」「在宅勤務の継続が不安」といった声から、単なる就労機会ではなく質の高い就労支援が求められていることがわかります。

また、「週20時間の柔軟な働き方ができる仕事がほしい」「障がい特性に応じた段階的支援が必要」といった意見もあり、多様な働き方への対応の必要性が示されています。

5　経済的負担・所得・制度設計に関する意見（18件）

「障がい者雇用は賃金が低く、年金と合わせても生活がギリギリ」「物価高で今後の生活が成り立つか不安」「障害年金だけでは暮らせない」といった声が多く、生活の基盤に直結する問題となっています。

また、「見舞金や給付金の廃止に納得できない」「医療費や利用料の負担が重い」「所得区分の設定が不公平」といった制度面への具体的な不満もみられます。さらに、「税や社会保障の壁が健常者と同様に設定されているのは不合理」といった構造的な指摘もあり、所得保障と制度設計の見直しの必要性が示されています。

6　人材不足・支援体制の維持に関する意見（18件）

「ヘルパーや職員が不足している」「介護職の給与を上げて人材を確保してほしい」「相談支援専門員の確保が難しい」といった声があり、サービス提供体制そのものの持続性が懸念されています。

7　肯定的意見・評価（17件）

「職員が親切で安心できる」「サービスに助けられている」「吹田市は福祉が充実している」といった肯定的な意見も一定数みられます。

8　移動支援・交通に関する意見（16件）

「バスの本数が少なく通院や通所が困難」「介護タクシーの予約が取れない」「移動支援が使いにくい」といった具体的な不便さが挙げられています。

また、「公共交通を前提とした制度設計が実態に合っていない」といった指摘もあります。

9　理解促進・偏見・権利意識に関する意見（12件）

「障がい者への偏見がある」「差別のない社会を実現してほしい」といった声に加え、「福祉は施しではなく権利であるべき」といった理念的な意見もあります。

一方で、「福祉に頼りすぎではないか」といった異なる立場からの意見もあり、価値観の多様性がみられます。

10　地域生活・居場所・社会参加に関する意見（11件）

「静かに過ごせる居場所がほしい」「交流の場が少ない」「孤立しやすい」といった声があり、精神障がいの方を中心に居場所の必要性が指摘されています。

また、「自習や作業ができる場所がほしい」といった具体的な提案もみられます。

11　制度のわかりにくさ・手続き負担に関する意見（11件）

「申請手続きが複雑」「年金申請のハードルが高い」「オンライン化が進んでいない」といった具体的な負担が指摘されています。

「制度の説明が不足している」「選択肢が限られている」といった意見もあり、利用者にとってのわかりやすさが課題です。

12　防災・安全・権利擁護に関する意見（6件）

件数は少ないものの、「虐待防止のための見守り体制」「防犯カメラ設置」「災害時の対応」など、安全・安心に関する意見もみられます。

3　支援プラン（18歳未満）アンケート

1　教育・学校対応・インクルーシブ教育に関する意見（46件）

「支援学級の教員数が不足しており、一人ひとりに十分な対応ができていない」「学校長や教員によって対応の質が大きく異なる」「療育や障がい特性に関する専門知識が不足している」といった、教育現場での支援体制に対する意見がありました。

また、「普通級に在籍しながら補助的な支援を受けたい」「通級や支援級の制度が実態に合っていない」といった制度面に対する意見もありました。

2　福祉サービスの量・質に関する意見（33件）

「放課後等デイサービスの空きが少なく希望日に利用できない」「市内に施設が不足しており他市を利用している」「送迎がないため通えない」「専門性の高い支援が受けられる施設が少ない」といったサービス利用に関する意見がありました。

3　保護者負担・就労との両立に関する意見（29件）

「療育時間が短く仕事を短縮せざるを得ない」「小学校以降は職場の理解が得られにくくなる」「送迎や付き添いの負担が大きい」といった、子育てと就労の両立に関する意見がありました。

4　相談支援・情報提供に関する意見（27件）

「どこに相談すればよいかわからない」「相談窓口が分散しており同じ説明を何度もする必要がある」「制度の存在自体を知らなかった」といった情報発信や情報提供に関する意見がありました。

5　医療・療育・専門支援体制に関する意見（23件）

「専門医療機関との連携が重要」「早期に適切な医療につながる仕組みが必要」「医療的ケア児の受け入れ体制が限られている」「医療機関間の情報共有が不十分」といった意見がありました。

6　施設整備（教育・療育・居場所）に関する意見（21件）

「公立幼稚園の廃園により受け皿が減る」「地域で通える施設が少ない」「難聴児など特定ニーズに対応する施設が市内にない」といった意見がありました。

7　進路・将来などライフステージ移行に関する意見（18件）

「高校卒業後の進路が不安」「将来どのような支援が必要になるか見通せない」「ライフステージが変わるたびに支援が途切れる」といった意見がありました。

8　経済的負担に関する意見（14件）

「所得に応じた負担額に納得できない」「療育や塾代などの負担が大きい」「所得制限を見直してほしい」といった意見がありました。

9　理解促進・地域社会の理解促進に関する意見（13件）

「発達障がいへの理解が不足している」「地域や学校での理解促進が必要」「インクルーシブの理念を正しく理解してほしい」といった意見がありました。

10　移動・通学・安全環境に関する意見（12件）

「支援学校が遠く通学負担が大きい」「歩道がなく通学が危険」「公共交通が使いにくい」といった意見がありました。

11　その他（19件）

「吹田市は支援が手厚い」「安心して子育てできる」「相談支援や療育に感謝している」「医療連携や発達支援センターの支援が充実している」といった意見がありました。

調査結果の総括

1　調査対象者及び回答者の属性

障がい者計画アンケートの対象者である手帳所持者には身体障がいのある人が多いですが、支援プラン調査の対象者である障がい福祉サービス利用者では知的障がい、精神障がい、発達障がいのある人の割合が高くなっており、障がい福祉施策の対象者像が大きく多様化しています。

回答者では、特に発達障がいのある人や精神障がいのある人は若年層を中心に多くみられました。

また、知的障がいや重度障がいのある人は家族等による代筆回答の割合が高いです。このことは、本人が希望する暮らしや将来像を実現していくためには、支援者が代弁するだけではなく、本人の意思表出や意思決定を支援していく視点が重要ということを示していると考えられます。

障がい種別、属性別での回答に差が見られたことから、障がい特性に加え、年齢や生活状況、家族構成なども含めた多面的な視点から支援を構築していく必要があります。

2　医療に関する状況

継続的な医療機関の受診や服薬管理を必要とする人が多く、障がい福祉サービスと医療サービスが密接に関係しながら生活を支えていると考えられます。特に精神障がいのある人では自立支援医療の利用割合が高く、地域生活を継続するうえで精神科医療が重要な役割を担っていると考えられます。

また、難病患者や医療的ケアを必要とする人の生活を支える医療・福祉の連携体制もより重要になっています。

今後は、医療的ケア児・者や重度障がいのある人が地域で安心して暮らし続けられるよう、保健・医療・福祉が連携した包括的な支援体制を構築していく必要があります。

3　支援の状況

日常生活で支援を必要とする人の多くは、家族からの支援を受けています。特に知的障がいのある人や重度障がいのある人は家族が支援の中心的役割を担っており、家族介護への依存度の高さがうかがえます。

一方で、支援を担う親世代の高齢化も進んでおり、「親なきあと」への不安は今後さらに大きな課題になると考えられます。家族が支援できなくなった場合でも地域で暮らし続けられる体制づくりが急務です。

また、障がい特性が多様化する中で、支援ニーズも個別化・複雑化しており、そういったニーズに対応できる、地域全体で支える仕組みへの転換が必要です。

4　現在と将来の暮らし

多くの人が現在の住まいや地域での生活を希望しており、施設ではなく地域で暮らし続けたいという意向が強くみられました。これは障害者権利条約や地域共生社会の理念とも一致する結果であり、地域生活支援の重要性を示しています。

しかしその一方で、将来の住まい、介護者の高齢化、経済的な問題、緊急時の支援体制などについて不安を抱える人も多くみられます。特に知的障がいのある人や重度障がいのある人では、現在の支援の多くを担っている家族がいなくなった後の生活への不安が大きくなっています。

地域で暮らしたいという希望を実現するためには、相談支援、居住支援、日中活動、就労支援などを一体的に整備していく必要があります。

5　日中活動の状況

日中活動の場は単なるサービス利用の場ではなく、社会とのつながりや生きがいを支える重要な役割を担っています。調査結果からは、日中は障がい福祉サービスを利用している人が多い一方で、希望する日や時間に利用できない、身近な場所で利用したい、本人の障がい特性に合った活動の場が必要といった課題がみられます。

障がいの状況や年齢によって、日中活動の内容や活動機会には違いがみられます。活動の場や社会参加の機会に関するニーズも高く、一人ひとりの状況や希望に応じた多様な活動の場を確保していくことが必要です。

6　就労や交流の状況と意向

障がいのある人の多くが働くことに意欲を持っている一方、就職や就労継続には様々な課題が存在しています。職場での障がい理解の不足、人間関係への不安、体調管理の難しさなどが就労継続を妨げる要因となっています。

また、地域との交流についても、参加したいという意向はあるものの、参加機会や支援体制の不足によって十分な交流が実現できていない状況がみられます。

今後は就労支援だけではなく、地域活動や文化活動、スポーツ活動などを含めた幅広い社会参加への支援が必要です。

7　療育・発達支援に関する意識

発達障がいの診断を受けている、あるいは発達上の特性がみられる子供のうち、障がい等が判明した時期は幼児期が多くを占めており、早期発見・早期支援の取組が一定程度進んでいることがうかがえます。

一方で、保護者からは、成長段階に応じた継続的な支援や専門的な相談体制、学校生活への支援などを求める声がみられます。

また、療育や発達支援は子供本人への支援だけではなく、保護者の不安軽減や子育て支援としての役割も担っており、児童発達支援センターを中心とした支援の強化が重要です。

8　情報に関する状況

行政サービスや福祉制度に関する情報を十分に得られていないと感じている人や、自分に必要な情報を探しにくいと感じている人がいます。障がいのある人にとっても情報は生活を支える基盤であり、必要な情報を適切な方法で得られることは、社会参加や権利保障の前提となります。

特に視覚障がいや聴覚障がい、知的障がい、発達障がいのある人では、それぞれ必要とする情報提供の方法が異なります。音声、文字、手話、点字、わかりやすい表現など、多様な手段による情報提供が求められており、一律の情報発信では十分に対応できない状況です。

また、近年は行政手続や情報発信のデジタル化が進んでいますが、障がい特性によってはデジタル機器の利用が困難な人もいます。そのため、ＩＣＴ活用による利便性向上を図りながらも、誰もが必要な情報にアクセスできる環境を確保していくことが重要です。障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法の理念を踏まえ、情報保障と意思疎通支援を一体的に推進していく必要があります。

9　相談に関する状況

相談先としては家族や親族、身近な支援者が中心となっている一方で、専門機関への相談につながっていない人もみられます。また、制度やサービスが複雑化する中で、「どこに相談すればよいかわからない」「適切な支援につながらない」といった課題もみられます。

障がいのある人を取り巻く課題は、福祉だけではなく、医療、教育、就労、住まい、権利擁護など多岐にわたっています。そのため、一つの機関だけで解決できるものではなく、関係機関が連携した総合的な相談支援体制が求められています。

また、障がいのある人の高齢化や親なきあとの課題への対応、精神障がいや発達障がいに関する相談の増加など、相談内容も年々複雑化しています。今後は子育て支援センターや基幹相談支援センターを中心とした相談支援体制を強化するとともに、ライフステージに応じた継続的な相談支援のあり方について検討を進める必要があります。

10　障がい者の人権や障がい者理解

障害者差別解消法の施行や合理的配慮の普及などにより、障がい理解は以前と比べて着実に進んでいると考えられます。しかし、調査結果からは、障がいに対する偏見や差別を経験した人や、周囲の理解不足によって困難を感じた人も見受けられました。

特に精神障がい、発達障がい、高次脳機能障がいなど外見からはわかりにくい障がいでは、周囲から障がい特性が理解されにくく、適切な配慮につながりにくい状況がみられます。また、障がい理解が進んでいると言われる一方で、就労や地域活動、日常生活の様々

な場面において、依然として生きづらさを感じている人も少なくありません。

今後は、市民や事業者への啓発活動を継続するとともに、障がいのある人とない人が自然に交流できる機会を増やしていくことが重要です。また、合理的配慮の一層の普及や権利擁護の取組を進め、誰もが互いに尊重し合える地域づくりを推進する必要があります。

11　災害時の対応

災害発生時の避難や安否確認、必要な支援の確保について不安を抱えている人が多くみられました。特に重度障がいのある人や医療的ケアが必要な人では、避難そのものが困難であり、避難先で必要な支援を受けられるかどうかに大きな不安を抱えています。

また、障がい特性によって必要な支援内容は大きく異なります。情報取得が困難な人、移動に支援が必要な人、医療機器や薬剤を必要とする人など、それぞれに応じた支援が必要です。

近年は自然災害が頻発しており、障がいのある人の防災対策の重要性はますます高まっています。今後は個別避難計画の作成を進めるとともに、福祉避難所の充実や地域住民との連携強化、平常時からのつながりづくりを進めていくことが必要です。

12　障がい福祉サービス

障がい福祉サービスは、障がいのある人が地域で生活を継続するための重要な基盤となっていますが、利用したいサービスを十分に利用できていない人もみられます。

グループホームや移動支援などは今後の利用希望が比較的高く、地域生活を支えるサービスとして充実が求められています。また、短期入所は、全体として突出した利用希望ではないものの、知的障がい、重度障がい、強度行動障がいのある人などで利用希望が高く、利用したい日・時間に利用しにくいという課題もみられることから、必要なときに利用できる体制づくりが重要です。さらに、障がいの重度化や高齢化、医療的ケア児・者への対応など、サービスに求められる専門性も高まっています。

一方で、人材不足や事業所不足を課題として挙げる声もみられます。今後はサービス量の確保だけではなく、支援の質の向上や人材確保・育成を進めながら、持続可能なサービス提供体制を構築していく必要があります。

13　障がい児通所サービス等

児童発達支援や放課後等デイサービスなどの障がい児通所サービスは、子供の発達を支える重要な役割を果たしています。利用希望者の増加に伴い、サービスの質や専門性に対する期待も高まっており、専門的な療育や学校との連携強化を求める声がみられました。

14　保護者の社会参加の状況

障がい児の保護者は、日常的な介護や送迎、通院対応などを担うことが多く、自身の就労や社会参加に制約を受ける場合があります。保護者の負担の大きさから、レスパイト支援や相談支援の充実を図り、就労や社会参加を望む声がみられました。

15　障がい者施策全般

調査結果全体を通じて、障がいのある人やその家族が求めているのは、単独のサービスではなく、暮らし全体を支える総合的な支援であることがうかがえます。住まい、就労、相談、医療、移動、情報保障など、それぞれの施策が連携しながら機能することが求められています。

また、障がいのある人の高齢化や発達障がい・精神障がいの増加など、社会環境の変化に伴って新たな課題も生じています。従来の制度ごとの支援だけでは対応が難しくなっており、分野横断的な支援体制の構築が必要です。

次期計画では、地域共生社会の実現を基本理念としながら、本人中心の支援や意思決定支援を重視し、多様な主体が連携して支える仕組みづくりを進めていくことが重要です。

16　自由回答意見のまとめ

自由回答には、調査票の選択式設問だけでは把握しきれない当事者や家族の率直な思いが数多く寄せられています。特に将来の暮らしへの不安、親なきあとの課題、サービス不足、人材不足、相談体制への要望などが繰り返し挙げられており、障がいのある人やその家族が日常的に抱える課題の大きさがうかがえます。

また、制度そのものへの要望だけではなく、「地域で暮らしたい」「安心して暮らしたい」「自分らしく生活したい」といった声も多くみられました。

自由回答に寄せられた意見は、統計データでは見えにくい課題や潜在的なニーズを示していることから、次期計画の策定にあたってはこれらの声を丁寧に受け止め、施策へ反映していくことが必要です。また、今後も当事者や家族の意見を継続的に把握しながら、実効性の高い施策を展開していくことが求められています。

調査結果の総括

今回の調査からは、吹田市において障がいのある人や障がい児、その家族が地域で暮らし続けるための基盤は着実に整備されている一方で、障がいの重度化・高齢化への対応、発達障がいや精神障がいへの支援、親なきあとを見据えた地域生活支援、人材確保、情報アクセシビリティの向上など、より具体的な課題への対応が求められていることが明らかになりました。

次期計画では、「地域で暮らすこと」を中心に据えながら、施策を展開していくことが重要です。

また、障がいのある人一人ひとりが希望する暮らしを実現できるよう、市民をはじめ、関係機関・団体、行政など多様な主体が連携していくことが求められています。

参考：調査に用いた調査票

障がい福祉の取組に関するアンケート
（第５期障がい者計画の策定に向けて）

－ ご協力のお願い －

日ごろから市の取組に対しご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本市では、「住み慣れた地域で安心して、育ち、学び、働き、暮らせるまち吹田」をめざして、障がい福祉に関するさまざまな取組を進めています。

市では、障がい福祉の取組を進めるため、「障がい者計画」で将来のあるべきまちの姿を定めています。

このアンケート調査は、令和９年度から始まる「第５期障がい者計画」を策定するにあたって、市内にお住まいの障がいのある方を対象に行います。みなさまの生活や吹田市の福祉施策に対するお考えなどを率直にお聞かせください。よろしくお願い申しあげます。

なお、お答えいただいた内容は、調査の目的にのみ活用し、個人のプライバシーが公表されることはありませんので、安心してご記入ください。

令和７年（2025年）12月

吹田市 障がい福祉室

1

＜ご記入にあたって＞

《アンケートにお答えいただく方》

○障がい者手帳をお持ちの方等の中から無作為に選んだ2,000人の方です。
（令和７年(2025年)12月１日時点で吹田市民の方）

○できるだけあて名のご本人がお答えください。
障がいや病気の状況、年齢などによってご本人が記入できないときは、あて名のご本人を介助・支援されている方、ご家族の方などがご本人のお考えを聞き取ってお答えください。

《回答方法は２つ・① インターネットによる回答（調査票の返送は不要です）》

○次のアドレスまたは二次元バーコードをスマートフォンで読み取って、インターネットでご回答ください。
https://enquete.cc/q/suita_25 （よみがななし）
https://enquete.cc/q/suita_25r （よみがなあり）

障がい福祉 よみがななし

障がい福祉 よみがなあり

《回答方法は２つ・② 紙の調査票を返送》

○記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご投函ください。封筒やアンケート用紙にお名前は書かないでください。

《回答期限》 **令和８年（2026年）１月23日(金)まで**

《アンケートに答えるときの注意点》

○各質問には、令和７年(2025年)12月１日現在の状況でお答えください。

○質問への回答は、あてはまる番号に○をつけたり、記入欄に直接お書きいただくものなどがあります。また、質問によって選んでいただく数を「１つ」「３つまで」「すべて」などと指定しています。

○「その他」を選ばれたときは、（　　）内にその内容を具体的にお書きください。

○調査票の電子データでの送付を希望される方、その他配慮が必要な方は、お手数ですが、下記担当までご連絡ください。

（問い合わせ可能時間　土日祝及び12/29から1/2を除く午前９時から午後５時30分まで）

吹田市 障がい福祉室 計画担当

電話：06-6384-1349（直通） FAX：06-6385-1031

メール：keikaku-shogai@city.suita.osaka.jp

2

《はじめに読んでください（お願い）》

調査にご協力していただき、ありがとうございます。

アンケート調査票の内容がよくわからないときは、ご家族の人などとよく相談しながら、答えられる範囲で答えてください。

ご本人以外の人が回答する場合は、ご本人の意向を十分に尊重するなど、ご本人の立場にたって回答してください。よろしくお願いいたします。

あなたについて

問1　この調査票に答えるのはどなたですか。（あてはまるもの１つに○）

1	あて名のご本人
2	家族、介助者または施設・介護職員など（ご本人に聞いて代わりに記入）
3	家族、介助者または施設・介護職員など（ご本人の思いを汲んで記入）

※以後の質問で「あなた」とは、障がいのあるご本人のことです。

問2　あなた（ご本人）の性別を教えてください。（あてはまるもの１つに○）

1	男性	3	その他
2	女性	4	答えたくない

問3　あなた（ご本人）の年齢を教えてください。（あてはまるもの１つに○）

1	0歳～17歳	4	40歳～64歳
2	18歳～29歳	5	65歳以上
3	30歳～39歳		

問4　障がいがある、またはその疑いがあるとわかったのはいつ頃ですか。（あてはまるもの１つに○）

1	出生前・出生時	5	30歳～39歳
2	0歳～3歳	6	40歳～64歳
3	4歳～17歳	7	65歳以上
4	18歳～29歳	8	わからない

3

問5　あなたは障がい者手帳を持っていますか。（あてはまるもの１つに○）

1	持っている	2	持っていない

問5-1　障がい者手帳の等級を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

身体障がい者手帳	1	1級	3	3級	5	5級
	2	2級	4	4級	6	6級
療育手帳	7	A	8	B1	9	B2
精神障がい者保健福祉手帳	10	1級	11	2級	12	3級

問5-2　身体障がい者手帳をお持ちの人は、障がいの種類を答えてください。（あてはまるものすべてに○）

1	視覚障がい
2	聴覚障がい・平衡機能障がい
3	音声・言語・そしゃく機能障がい
4	肢体不自由
5	内部障がい（心臓、腎臓、呼吸器、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫）

問6　医療制度の利用や指定難病、発達障がい、高次脳機能障がいなどの診断について、教えてください。（あてはまるものすべてに○）

1	自立支援医療（精神通院）の制度を利用している
2	医療費助成の対象となる指定難病と医師から診断された
3	医療費助成の対象となる小児慢性特定疾病と医師から診断された
4	発達障がいと医師から診断された （自閉スペクトラム症（ＡＳＤ）：アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、注意欠如・多動症（ＡＤＨＤ）、限局性学習症（ＡＬＤ）：学習障がい（ＬＤ）、発達にアンバランスがある等）
5	高次脳機能障がいと医師から診断された
6	強度行動障がいがある （自傷・他傷自傷・粗暴・破壊・非協生的行動・異食・難発な固執行動など）
7	特にあてはまるものはない

4

問7　生活費（食費・家賃・こづかいなど）をどのように得ていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1	自分で働いたお金（工賃を含む）	5	生活保護
2	自分の年金・手当など	6	その他
3	自分の貯金		（　　）
4	家族のお金	7	わからない

問8　あなたのお住まいの地域はどこですか。（あてはまるもの１つに○）

1	ＪＲ以南地域	寿　町・中の島町・西個旅町・東個旅町・内本町・元町・朝日町・川岸町・清和園町・園清和園町・園清町・園嶽町・鎧町町・嶽町町・末広町・白の出町・川園町・吹黄町・幸　町・南　正雀・平松町・冒依町
2	片山・岸部地域	片山町・原町・出口町・西の庄　町・藤が丘町・朝日が丘町・山手町・上山手町・天道町・岸部北・岸部南・岸部中・岸部新町・芝田町
3	豊津・江坂・南吹田地域	泉　町・穂波町・南吹田・金田町・園金田・垂水町・豊津町・江の木町・芳野町・広芝町・江坂町１～４丁目
4	千里山・佐井寺地域	佐井寺・佐井寺南が丘・竹谷町・千里山霧が丘・千里山星が丘・千里山紅が丘・千里山月が丘・千里山松が丘・千里山高塚・千里山西・千里山東・春日・千里山竹園・円山町・江坂町５丁目
5	山田・千里丘地域	山田東・山田西・山田南・山田北・山田市場・穂積山・芝谷・清水・青葉丘北・青葉丘南・五月が丘東・五月が丘西・五月が丘南・五月が丘北・長野東・長野西・千里丘上・千里丘中・千里丘下・千里丘西・千里丘北・新芦屋上・新芦屋下
6	千里ニュータウン・万博・阪大地域	津雲台・桃山台・竹見台・佐竹台・高野台・古江台・青山台・藤白台・上山田・千里万博公園・山田丘
お住まいの地域がわからない場合は住所をお書きください。		〔吹田市　　〕〔　　〕丁目

医療について

問9　現在、病院に通っていますか。（あてはまるものすべてに○）

1	障がいに関わることで通院をしている	3	通院していない
2	その他の病気で通院している		

問9-1　医療のことで、困っていることは何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

1	医療に関する情報が少ない・情報が得にくい
2	専門的な医療・リハビリの場がない・少ない
3	継続的に相談できる所がない・少ない
4	通院・通学等の送迎や付き添いなど支援者の確保がむずかしい
5	経済的負担が大きい
6	障がいを理由に治療を断られる
7	医師・看護師等とのコミュニケーションが取りにくい
8	その他（　　）
9	特に困っていることはない

問10　日常的に医療的ケアを受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

1	呼吸に関するケア（喀痰吸引、人工呼吸器の管理、気管切開部の管理、酸素療法、吸入、鼻咽頭エアウェイ）
2	栄養に関するケア（経管栄養、中心静脈カテーテルの管理）
3	排泄に関するケア（導尿、下剤内服・浣腸・摘便などの排便管理、ストマ管理、透析）
4	その他（血糖測定、皮下注射、痙攣時の処置、褥瘡の処置などのスキンケアなど）
5	医療的ケアを受けていない

※次のページの問10-1へお進みください

問10-1　医療的ケアに関して困っていることは何ですか。（あてはまるもの５つまでに○）

1	移動手段が不足している
2	外出先で安心して使えるスペースが少ない
3	ショートステイや夜間対応の訪問看護が足りない
4	医療的ケアに対応できる専門スタッフが足りない
5	医療保険と福祉サービスに分かれており、手続きや費用負担が複雑である
6	保険適用外の衛生品や電気代など自己負担が大きい
7	こども園、幼稚園、保育所（園）の受け入れ体制が整わず、希望する就学前施設に通えない
8	学校での受け入れ体制が整わず、学びたい学校に通えない
9	医療を続けながら働ける柔軟な職場環境が限られる
10	医療的ケアに対する家族や周りの人の理解が乏しい
11	停電時の対応や避難所への受け入れなど災害が起きたときに不安がある
12	その他（　　）
13	特に困っていることはない

暮らしについて

問11　あなたの現在の生活で、必要な支援は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1	食事	10	意思疎通
2	トイレなどでの排泄介助	11	服薬
3	入浴	12	家事
4	身だしなみを整える	13	お金の管理
5	服の着脱	14	読み書き
6	寝返りや起き上がり	15	生活に関する相談
7	家の中の移動	16	その他
8	買い物		（　　）
9	外出	17	特にない

問12　あなたは、現在、どなたと暮らしていますか。（あてはまるものすべてに○）

1	父	5	祖母	9	友人等
2	母	6	きょうだい	10	自分ひとり
3	配偶者（夫や妻）	7	子	11	その他
4	祖父	8	他の家族・親戚		（　　）

問13　あなたを主に支援しているのはどなたですか。（あてはまるもの３つまでに○）

1	父	8	後見人
2	母	9	相談支援等専門員
3	配偶者（夫や妻）	10	社会福祉協議会の職員
4	祖父	11	ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員
5	祖母	12	その他
6	きょうだい		（　　）
7	子	13	支援を必要としていない

問14　現在一緒に暮らしている人と、暮らせなくなったときや一緒に暮らしている人の支援が受けられなくなったときに、不安なことはありますか。
（あてはまるもの５つまでに○）

1	今までの住まいで暮らしたり、望む住まいを選べない
2	食事、入浴、排せつなどを介助してもらえなくなる
2	買い物、洗濯、炊事など家事を自分自身ですることがむずかしい
4	常に見守りが必要など、ひとりで過ごすことがむずかしい
5	病院の受診、服薬など自分自身で健康管理をするのがむずかしい
6	お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい
7	困ったときに相談するところがわからない
8	自分の障がい特性や思いを正確に伝えることがむずかしい
9	人とコミュニケーションをとることがむずかしい
10	取る人が足りない
11	周囲の人や生活環境が変わることでストレスがかかる
12	災害時の避難や避難所での生活が不安
13	何となく不安だが、どんなことに困るのかがわからない
14	その他（　　）
15	支援を受けられなくなることが考えられない
16	特に不安に思っていることはない

問15　あなたは、現在、どこでどのように暮らしていますか。
（あてはまるもの１つに○）

1	ひとり暮らし	5	障がい児の入所施設
2	家族などと同居	6	高齢者用の入所施設
3	障がい者用グループホーム	7	病院に入院中
4	障がい者の入所施設	8	その他（　　）

問16　あなたは、将来、どこでどのように暮らしたいですか。
《第１希望》（あてはまるもの１つに○）

1	ひとり暮らし	5	障がい児の入所施設
2	家族などと同居	6	高齢者用の入所施設
3	障がい者用グループホーム	7	その他（　　）
4	障がい者の入所施設	8	わからない

《第２希望》（第１希望で選んだものを除いて、あてはまるもの１つに○）

1	ひとり暮らし	5	障がい児の入所施設
2	家族などと同居	6	高齢者用の入所施設
3	障がい者用グループホーム	7	その他（　　）
4	障がい者の入所施設	8	わからない

《第３希望》（第１・第２希望で選んだものを除いて、あてはまるもの１つに○）

1	ひとり暮らし	5	障がい児の入所施設
2	家族などと同居	6	高齢者用の入所施設
3	障がい者用グループホーム	7	その他（　　）
4	障がい者の入所施設	8	わからない

問17　あなたが、希望する暮らし方を実現するために、必要なことは何ですか。
（あてはまるもの５つまでに○）

1	どんな支援が受けられるか情報が得られること
2	緊急時や困ったときに相談できる場所があること
3	自分の障がい特性を理解し診てもらえる病院が近くにあること
4	同じ障がいや病気のある人と交流や相談できる場所があること（ピアサポート、ピアカウンセラーなど）
5	コミュニケーションの支援や意思疎通の支援があること
6	お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実）
7	一人でも住まいを探しやすく生活を支えるサポートがあること
8	入居できる障がい者グループホームが多くあること
9	日中に通う場所があること
10	日常生活の介護への支援が充実していること
11	周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること
12	自分の障がい特性の理解や配慮があこども園、幼稚園、保育所（園）が近くにあること
13	自分の障がい特性の理解や配慮がある学校が近くにあること
14	働きはじめることや、働き続けることへの支援があること
15	障がい年金や特別障がい者手当など、生活にかかるお金への支援が充実していること
16	タクシーなど外出する際に必要なお金への支援があること
17	日常生活を便利にするための福祉用具を購入するときの支援があること （具体的な品目があれば記入してください：　　）
18	その他（　　）

日中活動やお仕事について

問18　あなたは、平日の昼間の時間帯は、どのように過ごしていますか。
（時間が長いもの３つまでに○）

1	自宅やグループホーム、入院している病院で過ごしている
2	児童発達支援センター（杉の子学園・わかたけ園など）または児童発達支援事業所、放課後等デイサービスに通っている
3	親子教室に通っている
4	こども園・保育所（園）・幼稚園に通っている
5	学校に通っている
6	障がい福祉サービスの日中活動系サービスに通っている （生活介護、就労移行支援、就労継続支援A型又はB型、自立訓練）
7	病院に行っている（診察、リハビリ等）
8	働いている（正規職員）
9	働いている（パート、アルバイト、契約社員等）
10	自営業をしている
11	在宅就労（テレワーク）をしている
12	その他（　　）

問19　今後、働くことについて、どのように考えていますか。現在すでに働いている人も望ましいと思う働き方を選んでください。（あてはまるもの２つまでに○）

1	一般の職場で働きたい
2	パートやアルバイトなど短時間の仕事をしたい
3	オンラインやテレワークなど在宅で働きたい
4	障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい
5	重度の障がいや病気などで働くことができない
6	高齢のため働くことができない
7	働きたくない、働くつもりはない
8	わからない、まだ考えたことがない
9	その他（　　）

※次のページの問19-1へお進みください

問19-1　どのような環境があれば働きやすいと思いますか。
（あてはまるもの３つまでに○）

1	職場での障がい特性に対する理解
2	職場や作業の環境のバリアフリー化
3	職場へ通う交通手段の確保
4	作業内容についてのわかりやすい説明
5	いろいろな働き方（短時間勤務、フレックス勤務、テレワーク等）ができること
6	休日や休暇を取りやすい環境
7	仕事や人間関係を相談できる環境
8	職場で介助者の支援を受けることができる仕組み
9	その他（　　）
10	特にない

問20　あなたは、どれくらい外出しますか。（あてはまるもの１つに○）

1	ほとんど毎日（週６～７日）
2	週３～５日
3	週１～２日
4	月２～３回
5	月１回
6	ほとんど外出しない
7	その他（　　）

問21　あなたは、外出するとき、どのようなことに困っていますか。
（あてはまるもの5つまでに○）

1　介助者が確保できない
2　一人で外出できるようにする練習の機会がない
3　外出にお金がかかる
4　発作など突然の体調の変化が心配
5　外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど）
6　電車やバスなどへの乗り方がわからない
7　点字や音声案内がない
8　案内表示がわかりにくい
9　外出先のバリアフリー情報がない
10　困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない
11　困ったときに周囲の人の手助けがない
12　その他（　　）
13　困っていることはない
14　外出しないのでわからない

問22　あなたは、日ごろどのような人と交流がありますか。（あてはまる人すべてに○）

1　同居していない家族
2　親戚
3　隣近所の人
4　友人・知人
5　自治会や町内会の人
6　民生委員・児童委員
7　地区福祉委員会の人
8　お店や事業所の人
9　職場の同僚
10　サークル活動の仲間
11　学校・こども園・保育所（園）などの先生
12　福祉サービス事業所の人
13　病院の先生や看護師など
14　ネットでつながった仲間
15　その他
（　　）
16　特に交流がある人はいない

問23　あなたは、どんなことがあれば、行事や活動などで人との交流ができますか。
（あてはまるもの3つまでに○）

1　参加できる行事や活動がたくさんある
2　会場までの移動・交通手段が利用しやすい
3　移動やコミュニケーションの支援を行う人が身近にいる
4　行事や活動の内容や会場が、障がいのある人の参加に配慮されている
5　家族の理解がある（参加することに賛成）
6　一緒に参加する仲間がいる
7　どんな行事や活動があるかの情報が豊富にある
8　その他（　　）
9　特に交流したいと思わない
10　わからない

情報について

問24　あなたは、保健や福祉サービスに関する情報をどのように入手していますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　パソコンやスマートフォンなど
2　市役所などが発行している広報誌
3　市役所などの窓口
4　障がい者相談支援センター*
5　障がい福祉サービス事業所や放課後等デイサービス事業所等の職員（支援員やヘルパー、相談支援専門員）
6　病院や診療所
7　保健所
8　保健センターやこども発達支援センター
9　こども園、幼稚園、保育所（園）
10　学校
11　障がい福祉団体やサークル
12　同じ障がいのある人
13　民生委員・児童委員
14　家族や親せき
15　友人、知人や近所の人
16　テレビ
17　ラジオ
18　新聞・雑誌・書籍
19　情報を得ることができない
20　その他
（　　）

＊障がい者相談支援センター
地域での身近な相談窓口として、市内に6か所設置しています。（内本町、片山・岸部、豊津・江坂・南吹田、千里山・佐井寺、亥の子谷、千里ニュータウン）
保健・医療・福祉の相談、障がい福祉サービス等の利用支援、権利擁護の援助、障がい者手帳や給付サービスの申請受付等を行っています。

問25　あなたがコミュニケーションをとるうえで、どのような配慮があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1　音声、テキストデータ、点字、DAISY CD（録音図書）などによる情報提供
2　どこに情報があるのかのわかりやすい周知
3　読みやすい文字などを使用
4　パンフレットやホームページなどの色の使い方の配慮
5　問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せる
6　SNSでの発信
7　手話、筆談での対応
8　わかりやすい言葉・表現・絵文字（ピクトグラム）の使用
9　動画などでわかる資料の作成
10　パソコンやスマートフォン、タッチパネルなどを使えない人への配慮
11　その他（　　）
12　特に配慮を必要としない
13　わからない

相談について

問26　あなたが、日ごろの生活の中で相談したいことは何ですか。（あてはまるもの5つまでに○）

1　身の回りの世話を頼める人の紹介
2　親しい友人がいないこと
3　地域の人などとうまくつきあえないこと
4　同じ障がいのある相談相手の紹介（ピアサポーター*など）
5　生活していくのに必要な収入について
6　必要な医療を受けること
7　恋愛や結婚について
8　出産や子育てについて
9　障がいがあることで差別や必要以上の配慮などをされることの心配
10　親や身内の病気・介護について
11　自分に合った（必要な）教育を受ける場所
12　こども園、幼稚園、保育所（園）などの集団生活について
13　校区の小・中学校に通い学ぶこと
14　自分に合った生活訓練や就労に向けた訓練を受けるところについて
15　自分の病状が急変したり、再発したときのことの心配
16　自分自身が高齢になり、体力の低下や障がいの重度化することの心配
17　親亡き後の生活と住まい
18　その他（　　）
19　特にない

＊ピアサポーター：障がいのある人自身が、自らの体験に基づいて、他の障がいのある人の相談相手となったり、同じ仲間として社会参加や地域での交流、問題の解決等を支援したりする活動のことを「ピアサポート」、ピアサポートを行う人たちのことを「ピアサポーター」といいます。ピアサポーターは、専門の研修を受け、都道府県などに認定されます。

問27　あなたは、相談したいことがあるときに、どこ（誰）に相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　家族や親せき
2　市役所（障がい福祉室など）
3　障がい者相談支援センター
4　社会福祉協議会（コミュニティソーシャルワーカーなど）
5　保健所
6　保健センターの保健師やこども発達支援センターの専門員
7　障がい福祉サービス事業所や放課後等デイサービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）
8　相談支援事業所の職員
9　病院などの医師や看護師
10　職場や学校の人
11　障がい福祉団体やサークル
12　同じ障がいがあり相談にのってくれる人（ピアサポーターなど）
13　民生委員・児童委員
14　友人、知人や近所の人
15　相談したくても、誰もいない
16　誰にも相談しない
17　相談したいと思ったことがない
18　その他（　　）

問28　どんなことがあれば今よりも気軽に相談できますか。（あてはまるものすべてに○）

1　身近なところに相談できる人がいること
2　専門的な知識や技術のある人に相談できること
3　相談機関までの移動の支援があること
4　家などに訪問してくれること
5　同じ障がいのある人や関係団体の人などに相談できること
6　夜間や休日にも相談できること
7　問題を解決するまで支援してくれること
8　オンラインで相談できること
9　匿名で相談できること
10　その他（　　）
11　わからない、思いつかない

障がい者の人権や障がい者理解について

問29　あなたは、「成年後見制度*」を知っていますか。（あてはまるもの１つに○）

1　知らない
2　聞いたことはあるが、詳しくは知らない
3　知っている
4　知っており利用もしている

＊成年後見制度：判断能力が不十分な人を不利益から守る制度。例えば、契約の締結等を代わりに行う代理人などを選任したり、本人が誤った判断に基づいて契約を締結した場合、それを取り消すことができるようになります。

問29-1　あなたは、支援が必要になったときに、成年後見制度を利用したいと思いますか。
（あてはまるもの１つに○）

1　将来利用することに備えて援助者（後見人）を選んでおきたい
2　必要になれば利用したい
3　利用したいとは思わない
4　わからない
5　その他（　　）

問29-2　利用したいと思わない理由は何ですか。（最もあてはまるもの１つに○）

1　制度がわかりにくいから
2　費用負担があるから
3　誰が援助者（後見人）になるか不安だから
4　他人に財産や生活状況を知られたくないから
5　手続が面倒だから
6　その他（　　）

問30　最近３年以内に、正当な理由なく、障がいを理由として拒否されたり、場所や時間等などを制限されたり、障がいのない人にはつけない条件をつけられたりするなどの差別を受けたり、偏見を感じたことはありますか。（あてはまるもの１つに○）

1　ある　　2　ない　　3　わからない

問30-1　どのようなときに差別を受けたり、偏見を感じましたか。
（あてはまるものすべてに○）

1　こども園、幼稚園、保育所（園）に入園するとき
2　児童館などのこどもの遊び場
3　育児教室に参加するとき
4　就学・進学するとき
5　学校生活において
6　就職するとき
7　職場生活において
8　近所付き合いにおいて
9　地域の行事や集まりにおいて
10　お店で買い物や食事をするとき
11　栄を借りるとき
12　医療を受けるとき
13　公共交通機関を利用するとき
14　まちを歩いているとき
15　市役所で手続きをするとき
16　家族や親戚とのつきあいにおいて
17　その他
（　　）

問31　今よりも、障がいのある人もない人も分け隔てなく一緒に暮らせる社会になるには、何が必要だと思いますか。（あてはまるもの３つまでに○）

1　障がいや障がい者問題に関する広報・啓発の充実
2　障がいのある人との交流を通じての理解と参加の促進
3　学校におけるこどもたち一人ひとりに合った合理的配慮
4　学校における人権教育の充実
5　障がいに関する講演会や学習会の開催
6　障がい者が意思表示できる手段の確保（オンライン、SNSなど）
7　福祉施設の地域への開放や地域住民との交流
8　障がいのある人の積極的な社会への進出
9　障がいのある人の地域のまちづくりや行事への参加
10　理解を深めるために活動する市民団体への支援
11　障がいのある人に関わるボランティア活動の推進
12　その他（　　）
13　特にない

災害時について

問32　あなたにとって、地震などの災害時に、必要な支援は何ですか。
（あてはまるもの３つまでに○）

1　障がい特性に合った情報提供
2　支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫や仕組み
3　災害時の避難が必要な場合の声かけ
4　避難所でのコミュニケーション支援（手話通訳者や筆談ボードの設置など）
5　避難所での食事介助等のソフト面の支援
6　避難所の段差等ハード面の課題を解消するための支援
7　本人の気持ちを落ち着かせるための配慮
8　避難所や自宅への医師、看護師等の派遣
9　災害時も継続したヘルパー等による支援
10　障がい者用の相談窓口の設置
11　常用薬や医療用消耗品等の確保
12　呼吸器や吸引器等の設備や電源の確保
13　その他（　　）
14　特にない

障がい者施策全般について

問33　あなたは、吹田市が住みやすいまちだと思いますか。（あてはまるものに１つに○）

1　住みやすい
2　まあ住みやすい
3　普通
4　あまり住みやすいとは思わない
5　住みにくい
6　わからない

問33-1　吹田市が住みにくい、住みやすいとは思わないとお考えになる理由は何ですか。
自由にお書きください。

問34　あなたは、障がいのある人が校区の小・中学校へ通うためにどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの３つまでに○）

1	就学に関する相談を充実する
2	教育相談を充実する
3	進路指導を充実する
4	障がいの程度や特性に応じた指導や支援を充実する
5	施設、設備、教材等を充実する
6	交流および共同学習の機会を増やす
7	教職員を増やす
8	教職員の専門性を高める
9	医療・福祉との連携を図る
10	教職員の医療的ケアについての知識や理解を高める
11	その他（　　）
12	特にない
13	わからない

問35　吹田市やあなたが住んでいる地域は、障がいのある人が生活するうえで、どの程度環境が整っていると思いますか。（①から⑮までのそれぞれについて、あてはまるもの１つに○）

	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	わからない
①広報紙やインターネット、まちや建物の案内板などを通じて自分に必要な情報を得やすいこと	1	2	3	4	5
②障がい特性に応じて、いろいろな人とのコミュニケーションがとりやすいこと	1	2	3	4	5
③困りごとや悩みを安心して相談できるところが身近にあること	1	2	3	4	5
④障がいがあるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたりしないこと	1	2	3	4	5

	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	わからない
⑤生活のさまざまな場面で障がいのある人への配慮が行き届いていること	1	2	3	4	5
⑥家の中や外出時の介助、家事を助けてくれるサービスがいつでも受けられること	1	2	3	4	5
⑦費用の心配をせずに、必要な医療を受けられること	1	2	3	4	5
⑧自分にあったリハビリテーションの機会が身近にあること	1	2	3	4	5
⑨障がいに配慮した保育や教育が受けられること	1	2	3	4	5
⑩障がいのある人に適したさまざまな職場があり、自分にあった職場を選べること	1	2	3	4	5
⑪生産活動をしたり、趣味を楽しんだりしながら、障がいのある仲間と過ごす場所が身近にあること	1	2	3	4	5
⑫安心して暮らし続けられる住まいがあること	1	2	3	4	5
⑬道路や建物、公共交通機関が障がいのある人に配慮されており、利用しやすいこと	1	2	3	4	5
⑭日ごろから災害に備えた情報が行き届き、災害が発生しても、安全に避難できること	1	2	3	4	5
⑮困ったときに、周囲の人が手助けしてくれること	1	2	3	4	5

問36　最後に、「住み慣れた地域で安心して、育ち、学び、働き、暮らせるまち吹田」に向けて、ご意見やご提案、日ごろ感じていることなどがあれば、自由に記入してください。

調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに

1月23日(金)までに郵便ポストに投函してください。

インターネットで回答していただいた場合、郵送での返信は不要です。

障がい福祉の取組に関するアンケート
（第８期障がい福祉計画の策定に向けて）

－ ご協力のお願い －

日ごろから市の取組に対しご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本市では、「住み慣れた地域で安心して、育ち、学び、働き、暮らせるまち吹田」をめざして、障がい福祉に関するさまざまな取組を進めています。

市では、障がい福祉サービスの充実を進めるため、「障がい福祉計画」で具体的な数値目標を定めています。

このアンケート調査は、令和９年度から始まる「第８期障がい福祉計画」を策定するにあたって、市内にお住まいの障がいのある方を対象に行います。みなさまの生活やサービス利用状況、吹田市の福祉施策に対するお考えなどを率直にお聞かせください。よろしくお願い申しあげます。

なお、お答えいただいた内容は、計画の策定にのみ活用し、個人のプライバシーが公表されることはありませんので、ご安心ください。

令和７年（2025年）12月

吹田市 障がい福祉室

＜ご記入にあたって＞

《アンケートにお答えいただく方》

○障がい福祉サービス利用者等の中から無作為に選んだ2,000人の方です。
（令和７年(2025年)12月１日時点で吹田市民の方）

○できるだけあて名のご本人がお答えください。
障がいや病気の状況、年齢などによってご本人が記入できないときは、あて名のご本人を介助・支援されている方、ご家族の方などがご本人のお考えを聞き取ってお答えください。

《回答方法は２つ・① インターネットによる回答（調査票の返送は不要です）》

○次のアドレスまたは二次元バーコードをスマートフォンで読み取って、インターネットでご回答ください。

https://enquete.cc/q/suita_25a （よみがなし）
https://enquete.cc/q/suita_25ar （よみがなあり）

障がい福祉計画 よみがなし　障がい福祉計画 よみがなあり

《回答方法は２つ・② 紙の調査票を返送》

○記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご投函ください。封筒やアンケート用紙にお名前は書かないでください。

《回答期限》 **令和８年（2026年）１月23日(金)まで**

《アンケートに答えるときの注意点》

○各質問には、令和７年(2025年)12月１日現在の状況でお答えください。

○質問への回答は、あてはまる番号に○をつけたり、記入欄に直接お書きいただくものなどがあります。また、質問によって選んでいただく数を「１つ」「３つまで」「すべて」などと指定しています。

○「その他」を選ばれたときは、（　　）内にその内容を具体的にお書きください。

○調査票の電子データでの送付を希望される方、その他配慮が必要な方は、お手数ですが、下記担当までご連絡ください。

（問い合わせ可能時間　土日祝及び12/29から1/2を除く午前９時から午後５時30分まで）

吹田市 障がい福祉室 計画担当

電話：06-6384-1349（直通）　FAX：06-6385-1031
メール：keikaku-shogai@city.suita.osaka.jp

《はじめに読んでください（お願い）》

調査に協力していただき、ありがとうございます。

アンケート調査票の内容がよくわからないときは、ご家族の人などとよく相談しながら、答えられる範囲で答えてください。

ご本人以外の人が回答する場合は、ご本人の意向を十分に尊重するなど、ご本人の立場にたって回答してください。よろしくお願いいたします。

あなたについて

問1　この調査票に答えるのはどなたですか。（あてはまるもの１つに○）

1　あて名のご本人
2　家族、介助者または施設・介護職員など（ご本人に働いて代わりに記入）
3　家族、介助者または施設・介護職員など（ご本人の思いを汲んで記入）

※以後の質問で「あなた」とは、障がいのあるご本人のことです。

問2　あなた（ご本人）の性別を教えてください。（あてはまるもの１つに○）

1　男性　　3　その他
2　女性　　4　答えたくない

問3　あなた（ご本人）の年齢を教えてください。（あてはまるもの１つに○）

1　18歳～29歳　　3　40歳～64歳
2　30歳～39歳　　4　65歳以上

問4　障がいがある、またはその疑いがあるとわかったのはいつ頃ですか。（あてはまるもの１つに○）

1　出生前・出生時　　5　30歳～39歳
2　０歳～３歳　　6　40歳～64歳
3　４歳～17歳　　7　65歳以上
4　18歳～29歳　　8　わからない

問5　あなたは障がい者手帳を持っていますか。（あてはまるもの１つに○）

1　持っている　　2　持っていない

問5-1　障がい者手帳の等級を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

身体障がい者手帳	1　1級	3　3級	5　5級
	2　2級	4　4級	6　6級
療育手帳	7　A	8　B1	9　B2
精神障がい者保健福祉手帳	10　1級	11　2級	12　3級

問5-2　身体障がい者手帳をお持ちの人は、障がいの種類を答えてください。（あてはまるものすべてに○）

1　視覚障がい
2　聴覚障がい・平衡機能障がい
3　音声・言語・そしゃく機能障がい
4　肢体不自由
5　内部障がい（心臓、腎臓、呼吸器、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫）

問6　医療制度の利用や指定難病、発達障がい、高次脳機能障がいなどの診断について、教えてください。（あてはまるものすべてに○）

1　自立支援医療（精神通院）の制度を利用している
2　医療費助成の対象となる指定難病と医師から診断された
3　発達障がいと医師から診断された
（自閉スペクトラム症（ＡＳＤ）：アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、注意欠如・多動症（ＡＤＨＤ）、限局性学習症（ＬＤ）：学習障がい（ＬＤ）、発達にアンバランスがある等）
4　高次脳機能障がいと医師から診断された
5　強度行動障がいがある
（自傷・他傷自傷・他害・破壊・非常住的行動・異食・極端な固執行動など）
6　日常的に医療的ケアを受けている
7　特にあてはまるものはない

※医療的ケアとは、気管切開、人工呼吸器（レスピレーター）、吸入、吸引、胃ろう・腸ろう、鼻腔経管栄養、中心静脈栄養（ＩＶＨ）、透析、カテーテル留置、ストマ（人工肛門・人工膀胱）などのことをいいます。

問7　障がい支援区分の認定を受けていますか。また、受けた人は、どの区分で認定を受けていますか。（あてはまるものや区分に○）

1	認定を受けた→（区分1・区分2・区分3・区分4・区分5・区分6・非該当）
2	認定を受けていない
3	わからない

問8　あなたのお住まいの地域はどこですか。（あてはまるもの1つに○）

1	ＪＲ以南地域	寿町・中の島町・西御旅町・東御旅町・内本町・元町・朝日町・川岸町・清和園町・南清和園町・築浜町・南築浜町・昭和町・高城向・末広町・白の出町・川園町・吹奏町・幸町・南正雀・早松町・首振町
2	片山・岸部地域	片山町・原町・出口町・西の庄町・藤が丘町・菊白が丘町・山手町・上山手町・笑道町・岸部北・岸部南・岸部中・岸部新町・芝田町
3	豊津・江坂・南吹田地域	泉町・穂波町・南吹田・金田町・南金田・垂水町・豊津町・江の木町・芳野町・広芝町・江坂町１～４丁目
4	千里山・佐井寺地域	佐井寺・佐井寺南が丘・竹谷町・千里山霧が丘・千里山星が丘・千里山虹が丘・千里山月が丘・千里山松が丘・千里山高線・千里山西・千里山東・春日・千里山竹園・円山町・江坂町５丁目
5	山田・千里丘地域	山田東・山田西・山田南・山田北・山田市場・樫切山・垂谷・清水・青葉丘北・青葉丘南・五月が丘東・五月が丘西・五月が丘南・五月が丘北・長野東・長野西・千里丘上・千里丘中・千里丘下・千里丘西・千里丘北・新芦屋上・新芦屋下
6	千里ニュータウン・万博・殿大地域	津雲台・桃山台・竹見台・佐竹台・高野台・古江台・青山台・藤白台・上山田・千里万博公園・山田丘
お住まいの地域がわからない場合は住所をお書きください。		（吹田市　　）（　　）丁目

暮らしについて

問9　あなたの現在の生活で、必要な支援は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1	食事	10	意思疎通
2	トイレなどでの排泄介助	11	服薬
3	入浴	12	家事
4	身だしなみを整える	13	お金の管理
5	服の着脱	14	読み書き
6	寝返りや起き上がり	15	生活に関する相談
7	家の中の移動	16	その他
8	買い物		（　　）
9	外出	17	特にない

問10　あなたは、現在、どなたと暮らしていますか。（あてはまるものすべてに○）

1	父	5	祖母	9	友人等
2	母	6	きょうだい	10	自分ひとり
3	配偶者（夫や妻）	7	子	11	その他
4	祖父	8	他の家族・親戚		（　　）

問11　あなたを主に支援しているのはどなたですか。（あてはまるもの３つまでに○）

1	父	8	後見人
2	母	9	相談支援専門員
3	配偶者（夫や妻）	10	社会福祉協議会の職員
4	祖父	11	ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員
5	祖母	12	その他
6	きょうだい		（　　）
7	子	13	支援を必要としていない

問12　現在一緒に暮らしている人と、暮らせなくなったときや一緒に暮らしている人の支援が受けられなくなったときに、不安なことはありますか。
（あてはまるもの５つまでに○）

1	今までの住まいで暮らしたり、望む住まいを選べない
2	食事、入浴、排せつなどを介助してもらえなくなる
3	買い物、洗濯、炊事など家事を自分自身ですることがむずかしい
4	常に見守りが必要など、ひとりで過ごすことがむずかしい
5	病院の受診、服薬など自分自身で健康管理をするのがむずかしい
6	お金の管理、契約や、市役所での手続きをするのがむずかしい
7	困ったときに相談するところがわからない
8	自分の障がい特性や思いを正確に伝えることがむずかしい
9	人とコミュニケーションをとることがむずかしい
10	収入が足りない
11	周囲の人や生活環境が変わることでストレスがかかる
12	災害時の避難や避難所での生活が不安
13	何となく不安だが、どんなことに困るのかがわからない
14	その他（　　）
15	支援を受けられなくなることが考えられない
16	特に不安に思っていることはない

問13　あなたは、現在、どこでどのように暮らしていますか。
（あてはまるもの１つに○）

1	ひとり暮らし	5	高齢者用の入所施設
2	家族などと同居	6	病院に入院中
3	障がい者用グループホーム	7	その他
4	障がい者の入所施設		（　　）

問14　あなたは、将来、どこでどのように暮らしたいですか。

《第１希望》（あてはまるもの１つに○）

1	ひとり暮らし	5	障がい児の入所施設
2	家族などと同居	6	高齢者用の入所施設
3	障がい者用グループホーム	7	その他（　　）
4	障がい者の入所施設	8	わからない

《第２希望》（第１希望で選んだものを除いて、あてはまるもの１つに○）

1	ひとり暮らし	5	障がい児の入所施設
2	家族などと同居	6	高齢者用の入所施設
3	障がい者用グループホーム	7	その他（　　）
4	障がい者の入所施設	8	わからない

《第３希望》（第１・第２希望で選んだものを除いて、あてはまるもの１つに○）

1	ひとり暮らし	5	障がい児の入所施設
2	家族などと同居	6	高齢者用の入所施設
3	障がい者用グループホーム	7	その他（　　）
4	障がい者の入所施設	8	わからない

※問14の将来暮らしたい場所で「３　障がい者用グループホーム」と答えた方にお伺いします。

問14-1　いつからグループホームを利用したいですか。（あてはまるもの１つに○）

1	利用中	2	今すぐ	3	3年後までに	4	3年後よりも後で

問15　あなたが、希望する暮らし方を実現するために、必要なことは何ですか。
（あてはまるもの３つまでに○）

1　どんな支援が受けられるか情報が得られること
2　緊急時や困ったときに相談できる場所があること
3　自分の障がい特性を理解し診てもらえる病院が近くにあること
4　同じ障がいや病気のある人と交流や相談できる場所があること（ピアサポート、ピアカウンセラーなど）
5　コミュニケーションの支援や意思疎通の支援があること
6　お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実）
7　一人でも住まいを探しやすく生活を支えるサポートがあること
8　入居できる障がい者グループホームが多くあること
9　日中に通う場所があること
10　日常生活の介護への支援が充実していること
11　周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること
12　自分の障がい特性の理解や配慮がある学校が近くにあること
13　働きはじめることや、働き続けることへの支援があること
14　障がい年金や特別障がい者手当など、生活にかかるお金への支援が充実していること
15　タクシーなど外出する際に必要なお金への支援があること
16　日常生活を便利にするための福祉用具を購入するときの支援があること
（具体的な品目があれば記入してください：　　）
17　その他（　　）

日中活動やお仕事について

問16　あなたは、平日の昼間の時間帯は、どのように過ごしていますか。
（時間が長いもの３つまでに○）

1　自宅やグループホーム、入院している病院で過ごしている
2　学校に通っている
3　障がい福祉サービスの日中活動系サービスに通っている
（生活介護、就労移行支援、就労継続支援A型又はB型、自立訓練）
4　病院に行っている（診察、リハビリ等）
5　働いている（正規職員）
6　働いている（パート、アルバイト、契約社員等）
7　自営業をしている
8　在宅就労（テレワーク）をしている
9　その他（　　）

問17　今後、働くことについて、どのように考えていますか。現在すでに働いている人も望ましいと思う働き方を選んでください。（あてはまるもの２つまでに○）

1　一般の職場で働きたい
2　パートやアルバイトなど短時間の仕事をしたい
3　オンラインやテレワークなど在宅で働きたい
4　障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい
5　重度の障がいや病気などで働くことができない
6　高齢のため働くことができない
7　働きたくない、働くつもりはない
8　わからない、まだ考えたことがない
9　その他（　　）

※次のページの問17-1へお進みください

問17-1　どのような環境があれば働きやすいと思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）

1　職場での障がい特性に対する理解
2　職場や作業の環境のバリアフリー化
3　職場へ通う交通手段の確保
4　作業内容についてのわかりやすい説明
5　いろいろな働き方（短時間勤務、フレックス勤務、テレワーク等）ができること
6　休みを取りやすい環境
7　仕事や人間関係を相談できる環境
8　職場で介助者の支援を受けることができる仕組み
9　その他（　　）
10　特にない

問18　あなたは、どれくらい外出しますか。（あてはまるもの１つに○）

1　ほとんど毎日（週６～７日）
2　週３～５日
3　週１～２日
4　月２～３回
5　月１回
6　ほとんど外出しない
7　その他（　　）

問19　あなたは、外出するとき、どのようなことに困っていますか。
（あてはまるもの５つまでに○）

1　介助者が確保できない
2　一人で外出できるようにする練習の機会がない
3　外出にお金がかかる
4　発作など突然の体調の変化が心配
5　外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど）
6　電車やバスなどへの乗り方がわからない
7　点字や音声案内がない
8　案内表示がわかりにくい
9　外出先のバリアフリー情報がない
10　困ったときに周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない
11　困ったときに周囲の人の手助けがない
12　その他（　　）
13　困っていることはない
14　外出しないのでわからない

情報について

問20　あなたは、保健や福祉サービスに関する情報をどのように入手していますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　パソコンやスマートフォンなど
2　市役所などが発行している広報誌
3　市役所などの窓口
4　障がい者相談支援センター*
5　障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー、相談支援専門員）
6　病院や診療所
7　保健所
8　学校
9　障がい福祉団体やサークル
10　同じ障がいのある人
11　民生委員・児童委員
12　家族や親せき
13　友人、知人や近所の人
14　テレビ
15　ラジオ
16　新聞・雑誌・書籍
17　情報を得ることができない
18　その他（　　）

＊障がい者相談支援センター
地域での身近な相談窓口として、市内に６か所設置しています。（内本町、片山・岸部、豊津・江坂・南吹田、千里山・佐井寺、亥の子谷、千里ニュータウン）
保健・医療・福祉の相談、障がい福祉サービス等の利用支援、権利擁護の援助、障がい者手帳や給付サービスの申請受付等を行っています。

問21　あなたが、コミュニケーションを取るとき、必要な支援は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

1	文字（筆談や意思伝達装置など）	6	触手話や指点字
2	絵やイラスト	7	大きな声でゆっくり話す
3	身ぶりや仕草など	8	わかりやすい言葉で話す
4	手話	9	その他（　　）
5	点字	10	必要な支援はない

相談について

問22　あなたは、相談したいことがあるときに、どこ（誰）に相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）

1	家族や親せき
2	市役所（障がい福祉室など）
3	障がい者相談支援センター
4	社会福祉協議会（コミュニティソーシャルワーカーなど）
5	保健所
6	障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）
7	相談支援事業所の職員
8	病院などの医師や看護師
9	職場や学校の人
10	障がい福祉団体やサークル
11	同じ障がいがあり相談にのってくれる人（ピアサポーター*など）
12	民生委員・児童委員
13	友人、知人や近所の人
14	相談したくても、誰もいない
15	誰にも相談しない
16	相談したいと思ったことがない
17	その他（　　）

＊ピアサポーター：障がいのある人自身が、自らの体験に基づいて、他の障がいのある人の相談相手となったり、同じ仲間として社会参加や地域での交流、問題の解決等を支援したりする活動のことを「ピアサポート」、ピアサポートを行う人たちのことを「ピアサポーター」といいます。ピアサポーターは、専門の研修を受け、都道府県などに認定されます。

問23　どんなことがあれば今よりも気軽に相談できますか。（あてはまるものすべてに○）

1	身近なところに相談できる人がいること
2	専門的な知識や技術のある人に相談できること
3	相談機関までの移動の支援があること
4	家などに訪問してくれること
5	同じ障がいのある人や関係団体の人などに相談できること
6	夜間や休日にも相談できること
7	問題を解決するまで支援してくれること
8	オンラインで相談できること
9	匿名で相談できること
10	その他（　　）
11	わからない、思いつかない

問24　あなたは、市内6か所に設置されている障がい者相談支援センターを知っていますか。利用したことがありますか。（あてはまるもの1つに○）

1	知っており、利用したことがある
2	知っているが利用したことはない
3	知らない

障がい者の人権や障がい者理解について

問25　あなたは、「成年後見制度*」を知っていますか。（あてはまるもの1つに○）

1	知らない
2	聞いたことはあるが、詳しくは知らない
3	知っている
4	知っており利用もしている

＊成年後見制度：判断能力が不十分な人を不利益から守る制度。例えば、契約の締結等を代わりに行う代理人などを選任したり、本人が誤った判断に基づいて契約を締結した場合、それを取り消すことができるようになります。

※次のページの問25-1へお進みください

問25-1　あなたは、支援が必要になったときに、成年後見制度を利用したいと思いますか。
（あてはまるもの1つに○）

1	将来利用することに備えて援助者（後見人）を選んでおきたい
2	必要になれば利用したい
3	利用したいとは思わない
4	わからない
5	その他（　　）

問25-2　利用したいと思わない理由は何ですか。（最もあてはまるもの1つに○）

1	制度がわかりにくいから
2	費用負担があるから
3	誰が援助者（後見人）になるか不安だから
4	他人に財産や生活状況を知られたくないから
5	手続が面倒だから
6	その他（　　）

問26　最近3年以内に、正当な理由なく、障がいを理由として拒否されたり、場所や時間帯などを制限されたり、障がいのない人にはつけない条件をつけられたりするなどの差別を受けたり、偏見を感じたことはありますか。（あてはまるもの1つに○）

1	ある	
2	ない	
3	わからない	

問26-1　どのようなときに差別を受けたり、偏見を感じましたか。
（あてはまるものすべてに○）

1	就学・進学するとき	9	医療を受けるとき
2	学校生活において	10	公共交通機関を利用するとき
3	就職するとき	11	まちを歩いているとき
4	職場生活において	12	市役所で手続きをするとき
5	近所付き合いにおいて	13	家族や親戚とのつきあいにおいて
6	地域の行事や集まりにおいて	14	その他（　　）
7	お店で買い物や食事をするとき		
8	家を借りるとき		

災害時について

問27　あなたにとって、地震などの災害時に、必要な支援は何ですか。
（あてはまるもの3つまでに○）

1	障がい特性に合った情報提供
2	支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫や仕組み
3	災害時の避難が必要な場合の声かけ
4	避難所でのコミュニケーション支援（手話通訳者や筆談ボードの設置など）
5	避難所での食事介助等のソフト面の支援
6	避難所の段差等ハード面の課題を解消するための支援
7	本人の気持ちを落ち着かせるための配慮
8	避難所や自宅への医師、看護師等の派遣
9	災害時も継続したヘルパー等による支援
10	障がい者用の相談窓口の設置
11	常用薬や医療用消耗品等の確保
12	呼吸器や吸引器等の設備や電源の確保
13	その他（　　）
14	特にない

福祉サービスについて

問28　この1年間に利用したことがある福祉サービスは何ですか。また、今後3年以内に利用したいと思うサービスは何ですか。（(1)利用したことがある、(2)利用したいと思うのそれぞれについて、あてはまるものすべてに○）

	(1)利用したことがある	(2)利用したいと思う
①障がいのある人に配慮した住まい・生活の場（グループホームなど）	1	1
②自宅にヘルパーなどが来て行う生活の介助や家事の援助（居宅介護）	2	2

	(1)利用したことがある	(2)利用したいと思う
③重度の障がいにより常時介護が必要な人の生活の支援や介助（重度訪問介護）	3	3
④外出するときの介助や付き添い（同行援護や行動援護、移動支援など）	4	4
⑤昼間の時間に施設へ通って受けられる生活の介助や支援（生活介護など）	5	5
⑥自分に合った働き方、就労支援サービスを選びやすくするための情報提供や状況把握（アセスメント）等の支援（就労選択支援：令和7(2025)年10月から開始）	6	6
⑦自立した生活を送ったり、働くために必要な知識や能力を身に付ける訓練（自立訓練、就労移行支援など）	7	7
⑧施設等へ通って仲間と一緒に就労や生産活動をして過ごせる場（就労継続支援A型、B型など）	8	8
⑨自立した生活を送れるよう、施設等で創作的活動や生産活動をしたり、日常の困りごとの相談ができる場所（地域活動支援センター）	9	9
⑩介助をしている人の状況等により介助が受けられないときに短期間施設等で受けられる生活の介助（短期入所）	10	10
⑪自分の考えていることを相手に伝えるための支援（点字、メール、手話、要約筆記など）	11	11
⑫車いす・補聴器などの補装具や日常生活用具の利用	12	12
⑬サービスを利用するための相談支援（計画相談など）	13	13
⑭その他（　　）	14	14
⑮利用したことがあるサービス・利用したいサービス	特になし	特になし

問28 1　福祉サービスを利用するにあたって何か困っていることがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1 サービス内容が障がい特性にあっていない
2 身近なところでサービスを利用できない
3 利用したい日・時間に利用できない
4 利用回数・時間などに制限がある
5 利用料などを払えない
6 急な変更に応じてもらえない
7 ヘルパーや施設職員などの知識や経験が不足している
8 在宅や施設での障がい福祉サービスにおいて、不適切な言動や支援を受けたことがある
9 本人や家族の意向を尊重してもらえない
10 建物や設備が障がい特性に配慮されていない
11 サービス内容に関する情報が少ない
12 相談や手続きに時間がかかる
13 相談や手続きが面倒くさい
14 その他（　　）
15 特に困っていることはない

※問28(1)利用したことがあるサービスで「1」から「14」のいずれかに○をつけた方にお伺いします。

問28 2　福祉サービスを利用して良かったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 自立して暮らせるようになった
2 自分の能力を活かしたり、伸ばすことのできる機会が得られた
3 友だちができた
4 人とのつながりが増えた
5 いろいろな経験ができた
6 社会参加の機会が増えた
7 健康になった（生活リズムが整った、体力がついたなども含む）
8 困ったときに相談できる所ができた
9 その他（　　）
10 特にない

障がい者施策全般について

問29　最後に、「住み慣れた地域で安心して、育ち、学び、働き、暮らせるまち改革」に向けて、ご意見やご提案、日ごろ感じていることなどがあれば、自由に記入してください。

調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに
1月23日(金)までに郵便ポストに投函してください。
インターネットで回答していただいた場合、郵送での返信は不要です。

障がい福祉の取組に関するアンケート
（第４期障がい児福祉計画の策定に向けて）

－ ご協力のお願い －

市民のみなさまには、日ごろから市政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本市では、「住み慣れた地域で安心して、育ち、学び、働き、暮らせるまち吹田」をめざして、さまざまな取組を進めています。

このアンケート調査は、令和９年度から始まる「第４期障がい児福祉計画」を策定するにあたって、市内にお住まいの障がい児通所受給者証や障がい者手帳（身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳、療育手帳）をお持ちの方を対象に、生活やサービス利用状況、吹田市の福祉施策に対するお考えなどをお伺いするために実施するものです。

なお、お答えいただいた内容は、調査の目的にのみ活用し、個人のプライバシーが公表されることはありませんので、安心してご記入ください。

令和８年（2026年）１月

吹田市 すこやか親子室

＜ご記入にあたって＞

《アンケートにお答えいただく方》

○障がい児通所受給者証や障がい者手帳をお持ちの方の中から無作為に選んだ400人の方です（令和７年(2025年)12月１日時点で吹田市民の方）

○アンケートの回答は、原則としてご本人（あて名の方）の保護者さまがお書きください。また、可能な場合は、お子さんの思いもお聞きいただきながらご回答をお願いいたします。

《回答方法は２つ・① インターネットによる回答（調査票の返送は不要です）》

○次のアドレスまたは二次元バーコードをスマートフォンで読み取って、インターネットでご回答ください。

https://enquete.cc/q/suita_26a （よみがなし）

https://enquete.cc/q/suita_26ar（よみがなあり）

障がい児福祉計画 よみがなし　障がい児福祉計画 よみがなあり

《回答方法は２つ・② 紙の調査票を返送》

○記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご投函ください。封筒やアンケート用紙にお名前は書かないでください。

《アンケートに答えるときの注意点》

○各質問には、令和８年(2026年)１月１日現在の状況でお答えください。

○質問への回答は、あてはまる番号に○をつけたり、記入欄に直接お書きいただくものなどがあります。また、質問によって選んでいただく数を「１つ」「３つまで」「すべて」などと指定しています。

○「その他」を選ばれたときは、（　　）内にその内容を具体的にお書きください。

《お問い合わせ先》

○調査票の電子データでの送付を希望される方、その他配慮が必要な方は、お手数ですが、下記担当までご連絡ください。

（問い合わせ可能時間　土日祝を除く午前９時から午後５時30分まで）

吹田市 すこやか親子室（障がい児通所受給者証担当）

電話：06-6170-7224（直通）　FAX：06-6384-1175

メール：jidoushien@city.suita.osaka.jp

お子さん（ご本人）のことについて

問1　この調査票を記入した人はお子さんからみてどなたですか。（あてはまるもの１つに○）

1 母	3 祖母	5 その他	
2 父	4 祖父	（　　）	

問2　お子さん（ご本人）の学年（年齢）を教えてください。（あてはまるもの１つに○）

1　０～２歳児（今年度の誕生日で１～３歳になるお子さんです）
2　３～５歳児（今年度の誕生日で４～６歳になるお子さんです）
3　小学１～３年生
4　小学４～６年生
5　中学生
6　高校生（専門学校等を含む）
7　その他（　　）

問3　お子さん（ご本人）は障がい者手帳を持っていますか。（あてはまるもの１つに○）

1 持っている	2 持っていない

問3-1　問3で「1　持っている」と答えた方は、障がい者手帳の等級を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

身体障がい者手帳	1 1級	3 3級	5 5級
	2 2級	4 4級	6 6級
療育手帳	7 A	8 B1	9 B2
精神障がい者保健福祉手帳	10 1級	11 2級	12 3級

問3-2　身体障がい者手帳をお持ちの人は、障がいの種類を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

1　視覚障がい
2　聴覚・言語障がい・平衡機能障がい
3　音声・言語・そしゃく機能障がい
4　肢体不自由
5　内部障がい（心臓、腎臓、呼吸器、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫）

問4　医療制度の利用や指定難病、知的障がい、発達障がい、高次脳機能障がいなどの診断について、教えてください。（あてはまるものすべてに○）

1　自立支援医療（育成医療）の制度を利用している
2　医療費助成の対象となる指定難病と医師から診断された
3　小児慢性特定疾病と医師から診断された
4　知的障がいと医師または検査で診断された
5　発達障がいと医師または検査で診断された
（自閉スペクトラム症（ＡＳＤ）：アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、注意欠如・多動症（ＡＤＨＤ）、限局性学習症（ＳＬＤ）：学習障がい（ＬＤ）、発達にアンバランスがある等）
6　高次脳機能障がいと医師から診断された
7　強度行動障がいがある
（自傷・他傷自傷・他傷・破壊・非病理的行動・異食・極端な固執行動など）
8　特にあてはまるものはない

問5　お子さん（ご本人）が所属されている通園先、通学先を答えてください。（あてはまるもの１つに○）

1 公立保育所（園）	8 中学校
2 私立保育所（園）	9 高等学校
3 公立幼稚園	10 支援学校（小学部）
4 私立幼稚園	11 支援学校（中学部）
5 公立認定こども園	12 支援学校（高等部）
6 私立認定こども園	13 その他（　　）
7 小学校	

問5-1　通園先、通学先で発達支援や支援学級を利用していますか。（あてはまるもの１つに○）

1 発達支援保育	4 通級による支援
2 巡回通保育	5 その他（　　）
3 支援学級	6 利用していない

問6　お子さん（ご本人）の発達や障がいの関係で、通院していますか。（あてはまるもの１つに○）

1 通院している	2 通院していない	3 過去に通院していた

問7　お子さん（ご本人）はどのような医療的ケアを受けていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　呼吸に関するケア（喀痰吸引、人工呼吸器の管理、気管切開部の管理、酸素療法、吸入、鼻咽頭エアウェイ）
2　栄養に関するケア（経管栄養、中心静脈カテーテルの管理）
3　排泄に関するケア（導尿、下剤内服・浣腸・摘便などの排便管理、ストマ管理、透析）
4　その他（血糖測定、皮下注射、緊急時の処置、褥瘡の処置などのスキンケアなど）
5　医療的ケアを受けていない

生活環境について

問8　お子さん（ご本人）を主に養育しているのはどなたですか。
（あてはまるもの1つに○）

1　母
2　父
3　きょうだい
4　祖母
5　祖父
6　ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員
7　その他（　　）

問9　お子さん（ご本人）のことで、気にかかっていることはどのようなことですか。
（あてはまるものすべてに○）

1　発達や障がいに関すること
2　利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法
3　家族からの自立
4　親がなくなった後などの家族がいなくなったときの生活
5　生活費（給料・年金など）に関すること
6　金銭の管理に関すること
7　進学や就職などの進路のこと
8　職場や仕事のこと
9　災害など緊急時の対応
10　家族との人間関係
11　家族以外との人間関係
12　成年後見制度に関すること
13　その他（　　）
14　気にかかっていることはない

平日の日中活動について

問10　お子さん（ご本人）は、同伴者（保護者や介助者）と一緒の場合も含めてどれくらい外出しますか。（あてはまるもの1つに○）

1　ほとんど毎日（週6～7日）
2　週3～5日
3　週1～2日
4　月2～3回
5　月1回
6　ほとんど外出しない
7　その他
（　　）

問11　お子さん（ご本人）は、外出するとき、どのようなことに困っていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　介助者が確保できない
2　一人で外出できるようにする練習の機会がない
3　外出にお金がかかる
4　発作など突然の体調の変化が心配
5　外出先の道路や建物、乗り物が不便（歩道、トイレ、エレベーターなど）
6　電車やバスなどへの乗り方がわからない
7　点字や音声案内がない
8　案内表示がわかりにくい
9　外出先のバリアフリー情報がない
10　困った時に周囲の人とうまくコミュニケーションがとれない
11　困った時に周囲の人の手助けがない
12　その他（　　）
13　困っていることはない
14　外出しないのでわからない

問12　お子さん（ご本人）は、平日の昼間の時間帯は、どのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　児童発達支援センター（杉の子学園・わかたけ園など）または児童発達支援事業所に通っている
2　親子教室に通っている
3　こども園・保育所（園）・幼稚園に通っている
4　学校に通っている
5　働いている
6　病院に行っている（診察、リハビリ、練習、トレーニング、体験学習など）
7　その他（　　）

問13　平日の夕方（通園施設、学校が終わった後）やお休みの日に、お子さん（ご本人）はどのように過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

1　友だちや知人と会う
2　買い物や散歩に行く
3　公園で過ごす
4　家の中で過ごす
5　祖父母の家で過ごす
6　個人家庭児童育成室で過ごす
7　児童センターや図書館で過ごす
8　部活やサークル活動に参加する
9　塾や習い事、趣味の活動をする
10　児童発達支援や放課後等デイサービス、日中一時支援で過ごす
11　その他（　　）

問14　あなたは、障がいのある児童がこども園、保育所（園）、幼稚園へ通うためにどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）

1　入園に関する相談を充実する
2　通園相談を充実する
3　要配慮、発達支援保育を充実する
4　施設、設備、職員等を充実する
5　保育士（教職員）の専門性を高める
6　保育士（教職員）の医療的ケアについての知識と理解を高める
7　看護師の配置を増やす
8　保健、医療、福祉、教育と連携を図る
9　その他（　　）
10　特にない
11　わからない

問15　あなたは、障がいのある人が校区の小・中学校へ通うためにどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）

1　就学に関する相談を充実する
2　教育相談を充実する
3　進路指導を充実する
4　障がいの程度や特性に応じた指導や支援を充実する
5　施設、設備、教材等を充実する
6　交流および共同学習の機会を増やす
7　教職員を増やす
8　教職員の専門性を高める
9　教職員の医療的ケアについての知識や理解を高める
10　医療・福祉との連携を図る
11　その他（　　）
12　特にない
13　わからない

問16　お子さん（ご本人）が、将来成人した後の充実した暮らし方を実現するために、必要なことは何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

1　どんな支援が受けられるか情報が得られること
2　緊急時や困ったときに相談できる場所があること
3　自分の障がい特性を理解し診てもらえる病院が近くにあること
4　同じ障がいや病気のある人と交流や相談できる場所があること（ピアサポート、ピアカウンセラーなど）
5　コミュニケーションの支援や意思疎通の支援があること
6　お金の管理や生活上の法的手続きなどの支援があること（成年後見制度の充実）
7　一人でも住まいを探しやすく生活を支えるサポートがあること
8　入居できる障がい者グループホームが多くあること
9　日中に通う場所があること
10　日常生活の介護への支援が充実していること
11　周囲に障がいや病気に対する理解や配慮があること
12　地域の学校やこども園、幼稚園、保育所（園）などを利用する際に自分の障がい特性への理解や配慮があること
13　働きはじめることや、働き続けることへの支援があること
14　障がい年金や特別障がい者手当など、生活にかかるお金への支援が充実していること
15　タクシーなど外出する際に必要なお金への支援があること
16　日常生活を便利にするための福祉用具を購入するときの支援があること
（具体的な品目があれば記入してください：　　）
17　その他（　　）

療育※・発達支援について

※「療育」：発達支援が必要なお子さんに、医療・保育・教育・福祉などの多様な観点から支援することです。

問17　市内の療育に関する相談について望むことがありますか。（あてはまるもの３つまでに○）

1　相談機関の情報を提供してほしい
2　困ったときにすぐ相談できるような体制を整えてほしい
3　１か所で相談できるようにしてほしい
4　専門的な相談機関を充実してほしい
5　具体的な子供の特性に合わせた対応の仕方をわかりやすく教えてほしい
6　その他（　　）

問18　乳幼児期の健診や療育に関してどのようなことを望みますか。（あてはまるもの３つまでに○）

1　困ったときにすぐ相談できるような体制を整えてほしい
2　１歳６か月児健診や３歳児健診、すこやか健診※の結果を正確に伝えてほしい
3　健診結果をもとにした具体的な手立てがわかる説明をしてほしい
4　障がい特性の診断が受けられる医療体制を整えてほしい
5　訪問指導を充実してほしい
6　保護者自身や家族の相談、支援体制を充実してほしい
7　福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をしてほしい
8　通園での療育などを充実してほしい
9　療育機関と保護者が作成した「個別の支援計画」が就学先に確実に引き継がれるための支援がほしい
10　こども発達支援センターの発達相談を充実してほしい
11　その他（　　）

※「すこやか健診」：発育、運動発達、ことばの発達などで経過観察が必要なお子さんを対象に、医師、心理士による健診を実施しています。

問19　現在、児童発達支援や放課後等デイサービスなどの通所で受けている療育の内容に満足していますか。（あてはまるもの１つに○）

1　はい
2　いいえ
3　どちらともいえない
4　わからない

問20　どのような療育やサービスを受けることを希望しますか。（あてはまるもの３つまでに○）

1　専門的な相談・指導
2　こども園・保育所（園）・幼稚園での障がい児教育・保育の充実
3　療育や発達のための支援・指導（訓練）
4　集団に適応するための支援・指導
5　身の回りの自立に向けた支援・指導
6　友だちづくりやいろんな人との交流
7　安心して遊ぶことができる場
8　入浴や食事などのサービス
9　保護者が介助や支援ができないときの一時的な見守りや介助
10　その他（　　）
11　特に希望するものはない

問21　障がいや発達に特性のある子供のための施策やサービスなどで、特に充実が必要と思うものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1　１歳６か月児健診や３歳児健診、すこやか健診の充実
2　発育・発達上の特性の早期発見や医療による診断
3　市役所での相談体制
4　家庭訪問による相談や指導
5　視覚障がいや聴覚障がいを専門とする療育機関
6　地域における療育やリハビリテーションの体制
7　障がい児通所施設の整備や拡充
8　障がい児相談支援事業所の整備や拡充
9　民間事業所を含む療育の質の向上
10　こども園・保育所（園）・幼稚園での受け入れ
11　小・中学校、高等学校におけるインクルーシブ教育※の充実
12　障がいのある子供のための学校の整備
13　自立に向けた専門的な教育の充実
14　通学・通園時の介助・付き添い
15　学童保育や休日などの居場所づくり
16　安心して遊べる機会・場の確保
17　地域社会と関わる機会や環境づくり
18　ペアレントメンター※など、保護者の関わりの場
19　ピアサポート※など、当事者の関わりの場
20　ホームページ・各種ＳＮＳでの情報提供や当事者の情報交換の場
21　ペアレントトレーニング※など、保護者への学習支援
22　保護者が介助や支援ができないときの一時的な見守りや介助
23　こども発達支援センターの発達相談の充実
24　その他（　　）

※「インクルーシブ教育」：吹田市では「多様な子供たちがいることが前提であること」「多様な子供たちの教育を受ける権利が保障されていること」「上記を満たす教育システムを常に模索していること」という３つの条件を満たす教育をインクルーシブ教育と定義しています。
※「ペアレントメンター」：発達障がい児者の子育て経験があり、研修等を受けた人
※「ピアサポート」：同じような立場や境遇、経験等を共にする人同士の支え合い（お互いの経験を伝えあったり、わかちあうことなど。）を表す言葉です。
※「ペアレントトレーニング」：保護者が子供の行動を観察して特徴を理解したり、発達障がいの特性をふまえたほめ方やしかり方等を学ぶことにより子供の問題行動を減少させることを目標とするものです。

情報や相談について

問22　あなたは、保健や福祉サービスに関する情報をどのように入手していますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　パソコンやスマートフォンなど
2　市役所などが発行している広報誌
3　市役所などの窓口
4　障がい者相談支援センター*
5　障がい児通所サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）
6　病院や診療所
7　保健所
8　すこやか親子室
9　こども発達支援センター
10　教育センター
11　学校やこども園・保育所（園）・幼稚園
12　障がい福祉団体やサークル
13　同じ障がいや発達に特性のある当事者やその保護者
14　民生委員・児童委員
15　家族や親せき
16　友人、知人や近所の人
17　テレビ
18　ラジオ
19　新聞・雑誌・書籍
20　情報を得ることができない
21　その他（　　）

＊障がい者相談支援センター
地域での身近な相談窓口として、市内に６か所設置しています。（内本町、片山・岸部、豊津・江坂・南吹田、千里山・佐井寺、吹の子谷、千里ニュータウン）
保健・医療・福祉の相談、障がい福祉サービス等の利用支援、権利擁護の援助、障がい者手帳や給付サービスの申請受付等を行っています。

問23　あなたは、困ったときや相談したいとき、どこ（誰）に相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　家族や親せき
2　友だち、知人や近所の人
3　保健所
4　すこやか親子室
5　こども発達支援センター（わかたけ園・杉の子学園・地域支援センター（親子教室を含む））
6　のびのび子育てプラザ
7　こども園・保育所（園）・幼稚園
8　学校
9　教育委員会・教育センター
10　市役所の窓口
11　子ども家庭センター
12　病院などの医師や看護師
13　指定障がい児相談支援事業所（相談支援専門員）
14　障がい者相談支援センター
15　社会福祉協議会（コミュニティソーシャルワーカーなど）
16　障がい児通所サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）
17　障がい福祉団体やサークル
18　ペアレントメンター（発達障がい児者の子育て経験があり、研修等を受けた人）
19　民生委員・児童委員
20　どこ（誰）にも相談しない
21　その他（　　）

問23-1　（問23で「どこ（誰）にも相談しない」と答えた人）
相談したことがない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1　困っておらず、相談したいことがない
2　どこに相談したらいいかわからない
3　専門的に相談したり、助言を受けられたりする場所がない
4　近くに相談できる場所がない
5　子供の養育などのため、相談窓口に出向けない
6　相談したいが、窓口に行く勇気がない
7　過去に相談したが、よい結果にならなかった
8　その他（　　）
9　特に理由はない

問24　あなたが、相談支援体制について、希望することは何ですか。
（あてはまるもの３つまでに○）

1　医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的な相談支援体制
2　発達特性の診断やケアなどの医療的な相談窓口を設置すること
3　学校での授業の理解や友だちなどとの人間関係についての相談体制
4　将来の自立生活に向けた指導や相談
5　家族の悩みを受け止める家族相談
6　ペアレントメンター（発達障がい児者の子育て経験があり、研修等を受けた人）に相談できる体制を整備すること
7　福祉の専門職を相談窓口に配置すること
8　自分の身近な地域で相談できる窓口を設置すること
9　休日や夜間の電話相談
10　休日などに楽しめる過ごし方を相談できる窓口を配置すること
11　その他（　　）
12　特にない

障がい児通所サービス等について

問25　障がい児通所サービス等について、①から③にお答えください。
①気になるところ（あてはまるもの３つまで番号を記入）
②現在の利用の有無（利用しているサービスの種類ごとに○）
③今後３年以内の利用について（今後３年以内に利用を希望するサービスに○）
※サービスの内容については18ページで説明しています。

1　子供の発達状況や障がい特性に対応したサービスがない
2　利用したい日や時間に利用できない
3　サービスの量（時間や日数）が足りない
4　利用するための費用が高い
5　事業所の設備が配慮されていない
6　利用したいサービスに空きがない
7　利用するための手続きが面倒である
8　近くでサービスを利用できない
9　サービス内容に関する情報が少ない
10　支援者の知識・経験が不足している
11　その他（　　）

サービスの種類	①気になるところ（上の表から番号を3つまで記入）			②現在利用しているサービス	③今後３年以内に利用を希望するサービス
(1)児童発達支援				1	1
(2)居宅訪問型児童発達支援				2	2
(3)放課後等デイサービス				3	3
(4)保育所等訪問支援				4	4
(5)障がい児相談支援				5	5
(6)居宅介護（ホームヘルプ）				6	6
(7)重度訪問介護				7	7
(8)同行援護				8	8
(9)行動援護				9	9
(10)短期入所（ショートステイ）				10	10
(11)計画相談支援				11	11
(12)自立生活援助				12	12
(13)補装具				13	13
(14)移動支援（ガイドヘルプ）				14	14

サービスの種類	①気になるところ（上の表から番号を3つまで記入）	②現在利用しているサービス	③今後３年以内に利用を希望するサービス
(15)通学支援		15	15
(16)日中一時支援		16	16
(17)その他（　　）		17	17

問25-1　（問25の②現在利用しているサービスに１つも○がない人）障がい児通所サービス等を利用しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1 必要性を感じない
2 制度やサービスのことを知らない
3 どのようなサービスが必要なのかがわからない
4 利用の仕方がわからない
5 サービス水準がニーズと合っていない
6 地域にサービス提供事業所がない
7 費用がかかる
8 人の世話になりたくない
9 人の目が気になる
10 家族が反対する
11 その他（　　）

問26　障がい児通所受給者証を取得するための手続きを行うにあたって望むことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1 手続きを早くしてほしい
2 手続きをわかりやすくしてほしい
3 手続きを手軽にしてほしい
4 手続きするときに支援をしてほしい
5 その他（　　）
6 特にない

※障がい児通所サービス・障がい福祉サービスについての説明

	サービスの種類	主な内容
1	児童発達支援	知的発達に障がいのある児童や発達に特性のある児童に、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与等の支援を提供します。
2	居宅訪問型児童発達支援	外出困難な重度の障がいのある児童に、居宅を訪問し、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与等の支援を提供します。
3	放課後等デイサービス	学齢期の障がいのある児童や発達に特性のある児童に、放課後や休み等において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供します。
4	保育所等訪問支援	保育所（園）、幼稚園、認定こども園、小学校等に通う障がいのある児童や発達に特性のある児童に、保育所等における集団生活の適応のための専門的支援を提供します。
5	障がい児相談支援	障がい児通所サービスの利用者に、サービス利用計画書を作成し、一定期間ごとにモニタリング等の支援を行います。
6	居宅介護	自宅で、入浴、排せつ、食事の介護等を行います。
7	重度訪問介護	重度の肢体不自由者で常に介護を必要とする人に、自宅で、入浴、排せつ、食事の介護、外出時における移動支援などを総合的に行います。
8	同行援護	視覚障がいにより、移動が著しく困難な人に、移動に必要な情報を提供するなど、外出時の支援を行います。
9	行動援護	知的障がいまたは精神障がいにより自己判断能力が制限されている人が行動するときに、危険を回避するために必要な支援や外出時の支援を行います。
10	短期入所（ショートステイ）	自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で、入浴、排せつ、食事の介護等を行います。
12	日常生活用具	障がいのある人の日常生活がより円滑に行われるために、障がいの内容に応じて日常生活用具を給付します。
13	補装具	身体上の障がいを補い、日常生活または職業生活を容易にするため、身体障がいの種類に応じて義肢等の購入・修理・併用にかかる費用を助成します。
14	移動支援（ガイドヘルプ）	屋外での移動が困難な障がい者及び障がい児に対し、社会生活上必要不可欠な外出及び余暇活動等の社会参加のための外出の際の支援をします。
15	通学支援	一人で外出することが難しい障がい児の登校の際に、移動の介助や身の回りの支援を行います。
16	日中一時支援事業	日中において障がいのある人を監護する人がいない場合に活動の場を提供し、一時的に見守り等の支援を行います。

将来の暮らしについて

問27　お子さん（ご本人）は卒業後（義務教育期間の終了後）の進路をどのように考えていますか。（最もあてはまるもの１つに○）

1 高校や専門学校、大学などに通いたい
2 一般の会社やお店などで働きたい
3 職業訓練学校に通いたい
4 就労移行支援事業所や就労継続支援事業所を利用したい
5 通所施設や作業所などに通いたい
6 家の仕事を手伝いたい
7 入所施設を利用したい
8 その他（　　）
9 まだどうするか考えていない

※「職業訓練学校」：求職中の人に、職業に必要な知識や技能を身につけ、就職につなげるためのスキルを身につける支援・指導を行います。
※「就労移行支援事業所」：一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な支援・指導を行います。
※「就労継続支援事業所」：一般企業等への就労が困難な人を対象として、働く場を提供するとともに、必要な知識及び能力の向上のために必要な支援・指導等を行います。

問28　お子さん（ご本人）は、将来、働くことについて、どのように考えていますか。（最もあてはまるもの１つに○）

1 一般の就労（テレワーク・オンラインを含む）
2 障がい者雇用で働く
3 一般の就労ではなく、障がいや発達に特性のある人のための施設で働く
4 自宅でできる仕事（テレワーク・オンラインを含む）
5 障がいや発達の特性、病気などが理由で働くことの見通しが立たない
6 わからない、まだ考えたことがない
7 その他（　　）

問29　障がいや発達に特性がある人が一般の就労で働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの３つまでに○）

1 障がいの特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し
2 いろいろな仕事を経験できる実習や職場体験
3 テレワーク・オンライン等での職域の拡大
4 経営者や職場での障がいへの理解
5 生活リズムを整えたり、体力づくりを行うための支援・指導（訓練）
6 コミュニケーションなどの社会生活を送るための支援・指導（訓練）
7 仕事に慣れるまでの指導や相談にのる支援者
8 仕事の悩みを相談したり、仲間と語りあうなど息抜きできる場
9 一般の就労が続かなかった人を受け入れてくれる施設
10 職場や作業の環境のバリアフリー化
11 職場へ通う交通の手段
12 その他（　　）

問30　お子さん（ご本人）の将来の暮らしのために、必要なことは何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

1 身近な相談体制
2 制度やサービスの情報提供
3 就労支援の充実
4 訪問系サービスの充実
5 通所施設の充実
6 グループホームの充実
7 入所施設の充実
8 年金や手当などの充実
9 医療体制の充実
10 成年後見制度
11 障がいへの理解促進・普及
12 当事者同士が交流できる機会
13 その他（　　）

保護者の社会参加の状況について

問31　あなた（保護者）は現在、働いていますか。（○は１つ）

1　働いている	2　働いていない　→問32へ

問31　（問31で「1　働いている」と回答した人）
どのような勤務形態ですか。（○は１つ）

1　正規職員	3　自営業
2　パート、アルバイト、派遣社員、契約社員	4　その他（　　）

問31-2　（問31で「2　働いていない」と回答した人）
あなたは、働くことを希望しますか。（○は１つ）

1　希望する	2　希望しない　→問32へ

問31-3　（問31-2で「1　希望する」と回答した人）
あなたは、どのような勤務形態を希望しますか。（○は１つ）

1　正規職員	3　自営業
2　パート、アルバイト、派遣社員、契約社員	4　その他（　　）

問32　保護者の就労に関して、必要な支援とは何ですか。
（あてはまるもの３つまでに○）

1　子供の養育と保護者の就労を両立させる支援があること
2　子供の養育や相談、通院等で休みが取りやすいこと
3　保護者の職場で子供の養育に対する理解があること
4　保護者の短時間労働が認められていること
5　自宅でできる仕事があること
6　自宅近くで就労できる支援があること
7　その他（　　）

問33　あなたは、お休みの日などにどのような場に行ってみたいですか。
（あてはまるもの３つまでに○）

1　地域の子供の友だちの保護者と交流できる場
2　同じ特性のある子供の保護者と交流できる場
3　勉強や習い事ができる場
4　趣味の活動ができる場
5　生活の悩みなどを聞いてもらえる場
6　ボランティアなど役に立てる活動ができる場
7　ひとりで過ごせる場
8　その他（　　）

障がい児・者の人権や障がい児・者理解について

問34　お子さん（ご本人）に障がいや発達に特性があることで、嫌な思いをしたことがありますか。（あてはまるものに１つに○）

1　ある	2　ない　→問35へ	3　わからない　→問35へ

問34-1　（問34で「1　ある」と回答した人）
嫌な思いをしたのは、どのようなときですか。（あてはまるものすべてに○）

1　乳幼児健診のとき	9　近所付き合い
2　こども園・保育所（園）・幼稚園に入園（所）するとき	10　地域行事や集まり
3　児童館などの子供の遊び場を利用するとき	11　入店を断られたときや店員の対応
4　育児教室に参加するとき	12　入居を断られたとき
5　就学・進学するとき	13　診療や入院を断られたとき
6　学校生活	14　乗車を断られたとき
7　就職のとき	15　交通機関や建築物での配慮のなさ
8　職場生活	16　まちでの人の視線
	17　市役所等の施設で職員の応対や態度
	18　その他（　　）

※次のページの問34-2へお進みください

問34-2　（問34で「1　ある」と回答した人）
差し支えなければ、あなたが経験されたことを具体的に記入してください。

問35　お子さん（ご本人）に障がいや発達に特性があるために、①お子さん（ご本人）や②あなたが、あきらめたり、仕方なくがまんしたりしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

	①お子さん（ご本人）	②あなた
(1)進学	1	1
(2)就労	2	2
(3)泊りがけの旅行	3	3
(4)ひとりでの外出	4	4
(5)友だちとのつきあい	5	5
(6)スポーツ、文化活動	6	6
(7)その他（　　）	7	7
(8)特になし	8	8
(9)わからない	9	9

災害時について

問36　あなた、お子さん（ご本人）は、地震などの災害時の、最寄りの避難所を知っていますか。（あてはまるものに１つに○）

1　知っている	2　知らない　→問37へ

問36-1　（問36で「1　知っている」と回答した人）
災害が発生した時、あなたは避難所に避難しますか。（あてはまるものに１つに○）

1　する　→問37へ	2　しない	3　わからない

問36-2　（問36-1で「2　しない」または「3　わからない」と回答した人）
避難所に避難しない理由は何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

1　急患診療の支援がないから
2　介助がないと自宅から出られないから
3　避難所がバリアフリーでないから
4　必要な医療や支援が受けられないから
5　周囲の目が気になるから
6　避難所では本人が落ち着けないから
7　その他（　　）

問37　あなた、お子さん（ご本人）にとって、地震などの災害時に必要な支援は何ですか。
（あてはまるもの３つまでに○）

1　障がい特性に合った情報提供
2　支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫や仕組み
3　災害時の避難が必要な場合の声かけ
4　避難所でのコミュニケーション支援（手話通訳者や筆談ボードの設置など）
5　避難所での食事介助、お子さんの見守り等のソフト面の支援
6　避難所の段差等ハード面の課題を解消するための支援
7　本人の気持ちを落ち着かせるための配慮
8　避難所や自宅への医師、看護師等の派遣
9　災害時も継続したヘルパー等による支援
10　障がい児・者用の相談窓口の設置
11　常備薬や医療用消耗品等の確保
12　呼吸器や吸引器等の設備や電源の確保
13　平時からの避難訓練への参加
14　その他（　　）
15　特にない

障がい児施策全般について

問38　最後に、「住み慣れた地域で安心して、育ち、学び、働き、暮らせるまち吹田」に向けて、ご意見やご提案、日ごろ感じていることなどがあれば、自由に記入してください。

調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに
1月30日(金)までに郵便ポストに投函してください。

障がい福祉の取組に関するアンケート　調査結果報告書

（第５期障がい者計画・第８期障がい福祉計画・第４期障がい児福祉計画
の策定に向けて）

令和８年(2026年)７月

発行　吹田市福祉部障がい福祉室
〒564-8550　吹田市泉町1-3-40
電話 06-6384-1349　　FAX 06-6385-1031
吹田市児童部すこやか親子室
〒564-0072　吹田市出口町19-2
電話 06-6170-7224　　FAX 06-6384-1175